

日本海ニ瀕セル丘陵地ニ存在シ特種ノ歴史ヲ有スルモノニシテ傳ヘ曰フ天和二年津輕藩侯耕地ヲ開拓セムト欲セシモ潮風ト岩木風ノ被害甚シカリシヲ以テ丘陵地ニ森林ヲ仕立テ以テ耕地ノ保護トセラレシニ濫觸シ追年其ノ繁茂ニ從ヒテ保護ノ完全ヲ得村落ノ増加ト共ニ開墾ノ區域モ擴大セラルルニ至リ今日ニ於テハ一ノ廣大ナル防風林ヲ形成セリ而シテ其ノ立木所有者ハ箇人ナルアリ團體ナルアリテ一様ナラスト雖要スルニ元藩廳ノ保護ヲ受ケ人民ノ自費植栽セルモノニシテ是等ハ全ク特殊ノ貸付ニ屬スルモノナリトス

八、境内編入其他

明治三年十二月太政官達ヲ以テ社寺領現境内ヲ除ク外一般ニ上地ヲ命シ翌明治四年正月府藩縣ニ達シテ社寺領上地ヲ管轄セシメ次テ同年五月社寺境内外ノ區別ニ付左記達ヲ發シテ調査ヲ命シタリ

太政官達 (明治四年五月)

社寺境内外區別一定セス不都合ニ付從前ノ坪數ニ拘ラス更ニ相當境内外ヲ區別シ其他田畑山林及不毛地共墾域ヲ除ク外悉皆上知セシムヘシ但已ニ進達ノ分區別調理此達ニ抵觸スルモノハ再調スヘシ

同年七月更ニ「神社祿制々定ニ付境内地ニ拘ラス本社及屬社等現在ノ地景ニ從ヒ敷地若干ヲ除キ其ノ他ハ都テ之ヲ上地セシメ社家居宅地ハ拜借地トシ祭典社用社家社祿ノ區別及山林等ハ雜形ニ倣ヒ調査シ往復日數ノ外三旬ヲ限リ進達スヘシ但朱黒印除地ニ非ル寄附田地供米等ハ此限リニアラス」ト達シ上地スヘキ土地ト社寺有ニ歸セシムヘキ土地トノ區分ヲ爲サシメタルモ百事忽々ノ際ナリシヲ以テ其ノ事務容易ニ進捗セサリシハ明治六年及七年ニ互リ屢次該事務ノ竣功ニ付督促セシニ見ルモ明ナリ

明治六年八月第二九一號太政官達

社寺境内ノ件去四年七月申布達セシモノ于今其處分ナサス或ハ墾ニ伐木賣却等ノ事アリト聞ケ自今速ニ前達ニ據リ境内外ノ區別ヲ定メ境内ハ

田畑ヲ除クノ外平地山林トモ凡テ官有地ト爲シ伐木ヲ禁スヘシ最モ既往處置済ノ分ト雖モ境内狹隘祭祀等ニ支障アル分ハ更ニ區畫ヲ改正シ其反別等詳細調査シ大藏省ヘ稟議スヘシ

明治七年五月内務省乙第三四號達

社寺境内外區分ノ調査四年五月同七月公布ノ如ク速ニ竣功スヘシ且境内樹木伐採ハ六年二百三十五號及二百九十一號公布ヲ以テ禁止セシモ尙往々堂宇修繕等ニ託シ禁ヲ侵スモノアリト聞ケ以後右公布ニ照シ嚴重處分スヘシ

然ルニ境内外區別ノ實查ニ從事スル官吏ノ事務ニ習熟セサル結果社寺ニ於テ開墾シタル田畑又ハ買得ノ地所等當然其ノ社寺或ハ舊神官僧侶ニ屬スヘキ種類ヲモ併セテ上地セシメ爲ニ私有ノ財産ヲ失フモノ有リシニ依リ七年十一月社寺領上地跡處分規則ヲ定メ從前ノ處分ニシテ同規則ニ抵觸スルモノハ改正ノ積ニテ再調セシムルコトトセリ

社寺領上地跡處分規則 (明治七年十一月二十九日 内務省乙第七二號達)

第一條

一、社寺ノ資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ田畑宅地ニ開墾種藝セシ確證アルモノハ其社寺ノ所有地トナスヘシ

第二條

一、舊神官僧侶等自己ノ資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ田畑宅地ニ開墾種藝セシ確證アル者ハ其舊神官僧侶ノ所有地トナスヘシ

第三條

一、舊神官僧侶自己ノ資金ニテ買得ノ地所舊實ニ泥ミ神社寺院ノ名請ニ相成居候分ト雖トモ氏子檀中一同ヨリ舊神官僧侶自實買得相違ナキ旨保證ニ相立候分ハ其舊神官僧侶ノ所有地トナスヘシ

第四條

一、舊神官之祖先寺院之先住職自己之資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ開拓シ或ハ出金買得ノ田畑宅地共其社寺ヘ寄附ノ姿ヲ成セシ分ハ從來舊神官僧侶ニ於テ所有セシト雖モ其社寺ノ所有地トナスヘシ

第五條

一、舊神官ノ祖先寺院ノ先住職自己ノ資金ニテ買得田畑宅地世々遺物トナシ子孫或ハ後住相續人一身ニ讓渡ノ確證アル者ハ其讓受シ者ノ所有

地トナスヘシ

右規則ニ依ル實地ノ調査未タ進捗セサルニ際シ地租改正事務局ノ設置セララルアリ其ノ事務整理ニ關聯シテ社寺境内外ノ區域ヲ明確ナラシムル必要アリシニ付明治八年六月社寺境内外區畫取調規則ヲ定メ地租改正事務局總裁ヨリ同規則ニ照準シテ至急取調可差出旨府縣ニ達セラレタリ今其ノ規則ヲ舉クレハ左ノ如シ

社寺境内外區畫取調規則

(明治八年六月二十九日)  
(地租改正事務局達乙第四號)

- 第一條 社寺境内之儀ハ祭典法用ニ必需ノ場所ヲ區畫シ更ニ新境内ト定メ其餘悉皆土地ノ積取調ヘキ事  
但民有地之社寺ハ從前之通心得ヘキ事
- 第二條 新ニ經界ニ定ムルニハ講聖壇墳墓又ハ道路等ノ地形ニ據リ判然區域取調標示テ置クヘキ事
- 第三條 從前境内ニ多少未社法堂等星散シ實地難引離分ハ本社一收ニ取調飛地ノ分及ヒ區域ナナシタル子院等ハ一ヶ所限リ並埋墓地者夫々別廉ニ取調フヘキ事
- 但現境内トスヘキ地内ニ瓊々タル墓地散在シ區域引分カタキ分ハ現境内ニ據置クヘキ事
- 第四條 社堂燒失之後假設ノ分再建ノ見込アルモノハ舊建物吟味ノ上相當ノ敷地ヲ現境内ト定其餘土地之積尤モ假設ノ儘据置クヘキ分ハ現在建物ノ景況ニ依リ處分可致事
- 第五條 事故アリテ無稅地ヨリ有稅地ニ移轉セシ分現今ノ敷地直租上納致シ從前ノ敷地無稅ノ儘所有致來ル分ハ土地セシメ拂下之積リ心得ヘキ事
- 第六條 左ノ雜形之通現境内ヲ始地植悉皆記載ノ帳簿差出スヘキ事  
(雜形省略)
- 第七條 社寺境内舊社人居屋敷等處分ノ儀ハ本年內務省乙第四十九號達之通心得ヘキ事
- 第八條 境内外區別取調ノ上ハ繪圖面相添伺ヒ出ツヘキ事  
以上

七年制定ノ處分規則ハ社寺有又ハ神官僧侶ノ私有ニ歸セシムヘキモノノ標準ヲ示シタルニ止マリシモ本規則

ハ社寺境内ヲ定ムル方針ヲ示シ祭典法用ニ必需ノ場所ト限リ尙經界ノ標示其ノ他取調上起ルヘキ各種ノ事項ニ付規定セルヲ以テ前者ト相俟チ始メテ稍統一セル調査ヲ進ムルコトヲ得タリ而シテ始メ內務省ヨリ官吏ヲ派遣シ府縣ニテ蒐集セシ材料ニ依リ調査ヲ進ムル方針ナリシモ本規則ノ制定ト同時ニ凡テ府縣ノ吏員ヲシテ八年十二月二十五日ヲ限リ詳悉調査セシムルコトトナレリ

斯ノ如ク期限ヲ附シ一意調査ノ完了ヲ急キシト雖或ハ朱墨印除地ノ上地セルモノノ中内實ハ賣買又ハ質地トナリ居ルカ如キモノアリ其ノ他事務錯綜セルト吏員ノ少數ナルトニ依リ容易ニ之カ整理ヲ完成スルコトヲ得ス明治九年五月地租改正事務局ヨリ明治七年十一月內務省乙第七十二號社寺領上地跡處分規則中第一條第二條ヲ左ノ如ク改正スル旨府縣ニ達スルニ至レリ

第一條

一、社寺之資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ田畑宅地ニ開墾セシ確證アルモノ止更正達以前ニ係リ民有地トナシ差支ナキモノハ其社寺ヘ無代價ニテ下渡シ以後ニ係ルハ律ニ照シ處分スヘキモノトス

第二條

一、舊神官僧侶其他ノ人民ニテモ自己ノ資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ田畑宅地ニ開墾セシ確證アルモノ此更正達以前ニ係リ民有地トナシ差支ナキモノハ其者ヘ無代下渡シ以後ニ係ルハ律ニ照シ處分スヘキモノトス  
爾後地租改正事務ノ進捗ト共ニ上地處分モ亦漸ク其ノ大體ヲ終了スルニ至リシモ殘務ハ十七八年ノ頃迄盡キサリキ而シテ土地ノ官民有區別ニ幾多ノ缺陷アリシカ如ク上地處分ニ關シテモ其ノ當ヲ得サリシモノ少ナカラサリシカ爲一旦官有ト確定セル上地林中ヨリ再ヒ境内ニ組換ヲ要スルモノアルニ至レリ明治二十四年四月社寺上地官林委託規則ヲ定メラレタルハ保護管理ノ利便ヲ計ルニアリシコト勿論ナリシモ一面ヨリ觀察スレ

ハ前記處分ノ缺點ヲ緩和スルノ目的ヲモ加味セルモノト云フヲ得ヘシ明治三十二年國有林野法ノ制定セララルルヤ實地ノ狀況ニ鑑ミ其ノ第三條ニ「社寺土地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得」ト規定シ法令上境内編入ヲ認ムルニ至レリ境内編入ノ事務ハ實ニ此ノ際ヨリ増加セルモノト云フヲ得ヘシ爾後林野法施行規則ニ於テ其ノ出願手續等ヲ定メ更ニ明治三十九年二月林發第三號内訓ヲ發シテ社寺境内編入處分事務ニ關シ地方長官ニ委任スヘキ事項ヲ定メ以テ今日ニ及ヘリ

林發第三號内訓(明治三十)

府縣(沖繩ヲ除ク)

- 國有林野法第三條第三項ニ依ル社寺境内編入ノ出願ニ付テハ國有林野法施行規則ニ依ルノ外左記條項ニ準據シ之ヲ取扱フヘシ
- 第一條 地方長官社寺境内編入願ヲ受理シタルトキハ第一號書式ニ依リ直ニ大林區署長ニ通知スヘシ
- 第二條 社寺境内ニ編入シ得ヘキ箇所ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ其ノ社寺ニ相當スル區域ニ限ル
- 一、社寺ノ風致ニ必要ナル箇所
- 二、祭典法要又ハ參詣道ニ必要ナル箇所
- 三、歴史若ハ古記社傳等ニ於テ社寺ト密接ノ緣故アル箇所
- 四、社寺ノ建物建築ニ要スル箇所
- 五、特ニ社寺ノミノ災害防止(溢リニ防風ト稱スル類ヲ除ク)ノ爲ニ必要ナル箇所
- 無格社、佛堂等ニシテ格別ノ由緒ナク其ノ建物矮小ナルモノノ出願ハ特種ノ事由アルニ非サレハ之ヲ許可セサルモノトス
- 第三條 編入面積ニ付大林區署長ト協議調ヒタルモノ又ハ編入ヲ要セスト認メタルモノハ地方長官限リ之ヲ處分スヘシ
- 第四條 地方長官前條ニ依リ編入許可ノ處分ヲ爲サムトキハ豫メ大林區署長ニ協議シ實地調査ヲ行フヘシ
- 前項ノ處分ヲ了シタルトキハ地所引渡方大林區署長ニ請求スヘシ
- 第五條 地方長官第三條ニ依リ編入不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ大林區署長ニ通知スヘシ
- 第六條 第三條ノ處分ハ每一箇月分取纏メ第二號様式ニ依リ報告書ニ通テ翌月十日迄ニ内務、農商務兩省ヘ各一通テ進達スヘシ(書式省略)

管理事務ニ屬スヘキ主要ナル事項中以上序述セル以外ニ部分林、市町村委託林、社寺保管林等ニ關スル事務ヲ存スルモ國有林野ノ特別管理保護トシテ已ニ述ヘタル所ナレハ之ヲ省略シ尙其ノ他地目變換、地種組換耕、地整理地區編入等ニ關スル事務ナキニアラサルモ其ノ件數極メテ少量ニシテ所謂管理事務ノ一小部分ヲ爲スニ過キサレハ是亦敢テ此所ニ説カサルコトトセリ

第三節 森林會計

國有林野ニ關スル收入事務ハ維新以來明治六年迄ハ會計官又ハ大藏省ニ於テ他ノ稅外收入ト等シク之ヲ管理シ明治七年内務省ヲ設置セララルルニ及ヒ官有地ノ貸下其ノ他拂下ニ係ル收入金ハ同省ノ主管ニ移リ地理寮ニ於テ之ヲ取扱ヒ同十年ヨリ會計局ノ取扱トナレリ翌十一年後ヨリ山林繁殖ノ爲營業資本十萬圓ノ交付ヲ受ケ(經常森林收入及經費定額ハ從前ノ通)地理局ニ於テ官林作業ノ法ニ依リ官林ノ老樹ヲ洗伐シ其ノ收入ヲ以テ監守及巡視ヲ配置シテ盜伐火災ノ防備ヲ爲シ壯樹ヲ保護シ新樹ノ植栽ヲ施行シ伐木、網場官民材取扱、貯木所、賣材及貯材入札又ハ相當拂等ニ關スル諸規則ヲ定メ又帆船ヲ買入レ運材ノ用ニ供セリ

明治十一年七月青森秋田岐阜長野四縣ノ官林ヲ内務省ノ直轄ト爲シ地理局出張所ヲ置キ其ノ管内ノ收入ヲ徵收セシメ翌十二年五月地理局ヲ分割シテ山林局ヲ設置セラレ地理局出張所ヲ山林局出張所ニ改メ爾後未直轄府縣ノ官林ヲ直轄ト爲ス毎ニ山林局出張所ヲ置ケリ同年皇城建築御用掛ヲ置カレ木曾官林伐木事業ヲ起シ又未直轄府縣ノ官林保護ノ爲山林局員ヲ派シ作業費ヲ以テ手入伐木事業ヲ施行セリ

明治十三年六月限リ官林作業ヲ廢止シ十三年度ヨリ山林局出張所ノ處分ニ係ル收入金ハ府縣ニ於テ之ヲ徵收

シテ本省ニ納付セシムル爲森林收入金取扱順序ヲ定メ又未直轄府縣ニ官林監守人及植樹苗圃等ヲ依託シ官林保護費ヲ配付セリ

明治十四年四月農商務省ヲ設置セラレ内務省ヨリ山林局ヲ移シ山林局出張所ヲ山林事務所ニ改メ會計ニ關スル一切ノ事務ヲ會計局ノ所管ト爲シ同局員ヲ山林事務所ニ在勤セシメ之ヲ取扱ハシメ又官林作業ノ殘務ハ山林局統計課ニ於テ之ヲ取扱ハシメタリ

明治十六年二月山林別途事業ヲ起シ盜伐木及枯損木ヲ拂下ケ其收入ヲ十七年度以降ノ山林局經費定額ニ増加シ尙同年度ヨリ大藏省ニ納入シタル森林諸收入金ヲ本省ノ主管ト爲シ會計局ニ於テ之ヲ取扱フコトナレリ  
明治十八年九月官有地諸收入金徵收規程ヲ定メ明治十九年後ヨリ森林ノ收支ニ關スル一切ノ事務ヲ山林局ノ主管ニ移サレ山林事務所ヲ廢シ二十一年大林區署ヲ設置シ山林局ニ會計主務官ヲ各大林區署ニ會計支部長ヲ置キ森林收支ニ關スル諸規則ヲ改定シ官林產物公賣規則ヲ定メタリ明治二十年後ヨリ森林資金特別會計ヲ立テ森林收入ヲ以テ森林經費ニ充ツルコトトシ翌二十一年四月大林區署ヲ増設シ會計支部長ヲ配置セリ

明治二十三年度ヨリ森林資金會計ヲ廢シテ經常部ニ改メ又山林原野調査(林野實況調査、官林境界踏査及實測)ノ爲本年度ヨリ三十七年度迄十五ケ年度ノ繼續費ヲ以テ事業ヲ起シ後三十四年度ニ至リ繼續費ヲ廢シテ國有林野經營費ノ支辨ト爲セリ尙同年官有森林原野及產物特別處分規則ヲ定メラレ林產物公賣規程ヲ告示セリ

明治二十四年三月官有土地森林原野收入金徵收規程ヲ改定シ官有森林原野及產物特賣規程ヲ告示シ十二月ヨリ森林收入ノ内官有山林原野ニ屬スルモノヲ大藏省ノ所管ニ移シ明治三十年十二月從來府縣ニ於テ管理シタ

ル官有山林原野ヲ大林區署ノ管轄ニ移スニ及ヒ再ヒ其ノ收入ヲ大藏省ヨリ本省ノ所管ト爲セリ森林收入未納金整理手續ヲ定メタルモ亦同年度ニ屬シ尙同年度ヨリ三十二年度マテ足尾銅山官林復舊費ヲ要求シ砂防植栽工事ヲ施行セリ

明治三十二年度ヨリ森林資金特別會計法ノ制定ニ伴ヒ本省内ニ林野整理局ヲ設ケ各大林區署ニ林野整理支局ヲ併置シ存置ヲ要セサル林野ヲ賣拂ヒ之カ代金ヲ資源トシテ國有林野ノ特別經營事業ヲ創起シ之ヲ十六ケ年度間ニ完成スヘキ計畫ヲ定メラル又林野下戻法ノ施行ニ從ヒ之カ調査ニ關スル經費ヲ要求シ山林局ニ於テ之ヲ取扱フ(三十五年度ニ至リ國有林野經營費ノ支辨ニ移ス)

同年中國有林野法、國有林野產物隨意契約ニ依ル賣拂ノ件、造林及伐木事業ニ要スル人夫雇傭並種苗供給ニ關スル隨意契約ノ件、國有林野法施行規則、國有林野產物賣拂規則、不要存置國有林野賣拂規則、國有林野產物賣拂代金延納規則等ヲ定メ次テ翌三十三年從來森林收入及經費等ニ關シ發布セラレタル數十種ノ規定ヲ廢シ更ニ大林區署會計事務章程ヲ定メラル

明治三十五年十一月林產物品會計規程ヲ定メ三十八年度ニ於テ國有林作業費ヲ要求シ斫伐作業ヲ擴張シ且製材所作業ヲ起セリ(同年度青森、四十年代野、馬路、四十一年度増川、杉ノ瀬、一勝地、下赤、大鰐、相内、四十二年度日原、山野、萬膳、明科、鍛冶谷澤ノ十四製材所ヲ開設ス但鍛冶谷澤製材所ハ後ニ木工所ニ改ム)

同年林產物ノ販路ヲ外國ニ開拓スルノ趣旨ヲ以テ之ヲ問屋營業者ニ委託シ隨意契約ニ依ル賣拂ヲ爲スノ件ヲ定メラレ國有林野及產物賣拂ニ關スル諸規則ヲ改定セリ

明治三十九年度ヨリ四十六年度迄八ヶ年度ノ繼續費ヲ以テ足尾國有林復舊事業ヲ再起シ（大正三年度ニ至リ繼續費ヲ廢止ス）又沖繩縣山處分調査ノ爲山處分調査費ヲ要求シ之ヲ沖繩縣ニ交付シ該事業ヲ施行セシメタリ（四十一年度ヨリ本事業ヲ鹿兒島大林區署ニ於テ取扱フトコロトナリタル爲本費ヲ廢止ス）同年林區署ノ伐木造材運材又ハ製材ニ從事スル判任官以下ニ對スル勤勉手当給與ノ件、沖繩縣國有林野隨意契約賣拂ノ件ヲ定メラル

明治四十年度ヨリ大正四年度マテ重要樹種造林獎勵ノ爲植樹獎勵費ヲ要求シ之ヲ府縣ニ交付シテ該事業ヲ施行セシメ尙同年林野產物加工製作ニ關スル隨意契約ノ件ヲ定メラル

明治四十一年交通至難ノ島嶼在勤者ニ月手當支給ノ件及國有製材所貸付ニ關スル隨意契約ノ件ヲ定メ四十二年足尾國有林復舊費ハ八ヶ年度ノ繼續費ナリシヲ三十九年度ヨリ五十一年度迄十三ヶ年度ニ繰延ノコトニ變更シ四十二年七月林區署給與規程ヲ定メタリ

明治四十四年度ヨリ向フ十七ヶ年間治水事業ノ爲繼續費ト豫算外國庫負擔ノ契約締結ノ件ヲ要求シ森林測候所ヲ設ケ又公有林造成、荒廢地復舊並ニ森林組合設立等ノ調査ヲ遂ケ補助金ヲ交付ス（大正五年度ニ至リ豫定ノ金額ヲ減シ一ヶ年度延長ノ計畫ニ改ム）ルコトトナレリ尙同年森林主事ニ對スル被服費補給制ヲ定メ翌大正元年十月ヨリ山林局直接ノ取扱ニ係ル收入及仕拂ノ事務ヲ官房會計課ニ移セリ

大正三年十一月林區署會計事務規程ヲ定メ翌四年七月國有林野產物賣拂規則、不要存置國有林野整理處分規則等ヲ改定シテ以テ今ニ至レリ

附言

森林會計ノ事務ハ一般會計法規ニ據ルノ外林區署會計事務ノ爲制定セラレタル特別規定ニ據ルヘキモノ亦頗ル多ク其ノ沿革ヲ知悉セムトモハ勢ヒ前記兩者ノ變遷ヲ序述スルノ要アリ然ルニ是等會計事務ニ關スル法規ハ頗ル混淆ニシテ單ニ本事項ノミチ編纂スルモ優ニ大ナル冊子トナルヘク却テ林業本體ノ記事ト調和ヲ失スルノ虞アリシト產物處分等ニ關スル主要ナル法規ハ當該章下ニ之ヲ序述シタルトニ鑑ミ本節ニ於テハ唯其ノ沿革ノ大要ヲ記スルニ止メタリ

## 第二章 施業

### 第一節 整理處分

一 山林原野調査事業開始以前ニ於ケル整理處分（自明治元年至同二十三年三月）

維新後國有ニ歸屬シタル森林原野ハ大小ノ圍地錯綜シ境界モ亦參差トシテ之ヲ合理的ニ管理經營スルニハ不便不利甚シキモノアルト共ニ一面營林以外ノ用途ニ充ツルヲ國家經濟上一層有利トスルモノ亦少ナカラサレハ國有トシテ存置スヘキモノト民間ニ拂下クヘキモノトヲ區別シ其ノ處分ヲ決行スルハ國有林野ノ整理上喫緊ノ要務ナルコトハ夙ニ當局者ノ考慮セシ所ニシテ明治五年二月太政官布告第五十號ヲ以テ地所永代賣買ノ儀ヲ差許スコトトナリ同年六月國有林野モ亦大ニ拂下ノ方針ヲ取リシモ翌六年九月大藏省達第百三十四號（第二節參照）ヲ以テ直ニ存廢區別ノ調査ヲ命シ極端ナル拂下ヲ制限スルニ至レリ今五年六月拂下ニ關シテ發布セル大藏省達ヲ掲クレハ左ノ如シ

大藏省達第七十六號（明治五年六月十五日）

是迄官林ト唱伐木差留有之候山林都テ御拂下ニ可取計尤買下之者餘人へ賣渡候儀ハ勿論山林ノ儘所持致シ又伐木候トモ可爲勝手譯ニテ全ク公物ナ私物ニ相改候趣意ニ付於府縣馬下取調差支無之場所ハ別紙雜形之通華士族卒平民並他ノ管内ノ者ト雖モ廣ク入札ノ上三番札迄相添當省

へ可何出委細ノ儀ハ左ノ規則ニ照準可致事

- 一、落札ノ者立木代ハ即金上納地代ハ五ヶ年賦上納ノ積リ前廣入札人へ相達置可申事
- 一、入札ノ内同札ノ者有之節ハ立木代即金上納高札ノ方落札ト相心得可申事
- 一、山林稅ノ儀追テ御改正相成候迄近方從來ノ山林へ比較致シ相當ノ稅額當省へ可何出事
- 一、是迄官林請山或ハ立銀山等ノ唱ヲ以テ年々下草水等上納致シ來候場所ハ其年ヨリ相廢シ落札本人ヨリ山林稅爲差出可申事
- 一、伐木ノ上開墾致度旨願出候節ハ地味ニ應シ相當ノ嶽下年季相極當省へ可何出事
- 但水源ヲ涵養シ或ハ土砂ヲ扞止スル等ノ山林可注意事
- 一、是迄官林ト唱來候トモ其實立木等無之場所ハ先般相達候荒蕪不毛地御拂下規則ニ照準可致事

右之通候事

(別紙省略)

六年九月第百三十四號大藏省達ニ依リ存置官林ト拂下官林トニ區別セルモ右ハ元ヨリ調査上ノ見込ニシテ其ノ儘實行スヘキモノニアラサレハ其ノ名稱ニ依リ誤解ヲ生スルノ虞アリシヲ以テ明治八年四月内務省ヨリ左記達ヲ發シ存置見込ノ官林ヲ一等官林ト見込ノ官林ヲ三等官林ト稱スルコトトセリ

内務省乙第四十七號達 (明治八年四月十八日)

明治六年大藏省第百三十四號達官林ニ存置拂下ノ目下シ候ハ全ク調査上一時ノ見込迄ニテ山林ノ名稱ニハ無之候條以來何出ノ砌存置スヘキ見込ノ官林ハ總テ一等官林ト稱シ拂下ケ不苦見込ノ官林ハ總テ三等官林ト稱シ可申尤二等官林ノ儀ハ詮議ノ筋有之追テ可及何分ノ沙汰此旨相達候事

翌明治九年三月官林調査假條例ヲ定メラルルヤ其ノ第九條第十條及第十一條ニ於テ一二三等官林ニ編入スヘキ標準ヲ示シタリ是即チ當時ニ於ケル存廢區別ノ方針ニシテ維新後ニ於ケル最初ノモノト稱スルヲ得ヘシ即チ左ノ如シ

第九條 松、赤松、落葉松、杉、檜、榎、樺、樺、樟、櫻、櫻、桂、栗、鹽地、檜、榎等凡ソ良材トナルヘキ木種ノ森列スル林ハ一等官林ニ編入スヘ

シ尤現今格別ノ良材無之トモ土地膏腴運至便ニシテ將來良材ノ生スヘキ土地ハ一官官林ニ編入スヘシ

第十條 良材大樹アリト雖町步狹少ノ土地或ハ運輸不便ニシテ生長稍劣ルモノ並堤防橋樑備林ハ二等官林ニ編入スヘシ

第十一條 薪炭用材林並礦山備林其他從來村民ニ於テ資用セシ雜木葦竹等ノ叢生スルモノハ三等官林ニ編入スヘシ

斯ノ如ク存廢ニ關シテ相當考慮ヲ費サレタルモ當時尙官民有ノ區別境界ノ確定等幾多ノ先決問題ヲ存セシカ爲存廢ノ調査ハ何レモ極メテ概略ノモノニ過キサリシニ依リ元ヨリ是等ノ調査ヲ基礎トシテ處分ヲ實施スルコト能ハサリシナルヘク爾後明治二十三年山林原野調査事業ノ開始セララルル迄殆ント見ルヘキノ事蹟ナクシテ經過セリ

### 二、山林原野調査事業實施時代ニ於ケル整理處分 (自明治二十三年四月至同三十二年三月)

山林原野調査事業ノ開始セララルルヤ國有林野ノ存廢ヲ甄別スルカ爲官有林野實況調査ヲ實施スルコトトナリシヲ以テ存廢ニ關シ具體的ノ準繩ヲ要スルニ至リ官有林野實況調査内規ヲ制定セララル

#### 官有林野實況調査内規 (明治二十三年四月丙林第一三六號達)

##### 第一條 目的

官有林野實況調査ノ目的ハ永遠國有トスヘキ林野ト將來存置ヲ要セサル林野トヲ區別スルニアリ

##### 第二條 區別ノ方法

官林ノ經濟ニ基キ林區ノ區別ヲ査定シ之ニ由リテ永遠存置ノモノト將來存置ヲ要セサルモノノ區別ヲ立ツヘシ但國土保安ニ關スル林野並御陵墓等ニ疑ヒアルモノハ存置ノ見込ヲ以テ取調フヘシ

第三條 左ノ各項ニ該當セル官林ニシテ一小林區若クハ獨立保護區ヲ設置シ之レカ經濟ヲ維持スヘキモノヲ以テ永遠存置ノ官林トス選擇ノ標準ハ概ネ左ノ如シ

- 第一 反別五十町歩以上ノ官林ニシテ一箇地トナリ又ハ數林地一町村内若クハ二里以内ニ點在シ連年特立ノ林業ヲ施スニ足ルヘキモノ
- 第二 反別五十町歩未滿ニシテ本部内右クハ郡郡ニ於テ尙ホ數千百町歩ノ官林アリテ之レト併轄スルニ支障ナキ官林

##### 第三編 國有林野ノ經營

第三 反別十町歩未満或ハ林産利用少シト雖道路、運材、貯材或ハ官舎設置等官林事業ニ必要ナル官林  
 第四條 官有山野ニシテ他日林産ノ増殖ニ適當スル地ハ之ヲ官林ニ編入スルノ見込ヲ以テ取調フヘシ  
 第五條 前各條ニ該當セサル林野ハ永遠存置ノ見込ナキモノトス  
 第六條 存置ノ見込ナキ林野ハ其ノ價格ヲ取調フヘシ

第三款 調査ノ順序

第七條 調査區域ハ一大林區ヲ一調査區トス  
 第八條 山野調査ハ地方官立會ノ上之ヲ行フヘシ  
 第九條 調査完結ノ上ハ大林區署長ヨリ調査ヲ以テ農商務大臣ニ報告スヘシ  
 第十條 調査種類ハ左ノ如シ  
 其一 林區設計内ノ官有林野一箇所限リ實況調査書  
 但シ圖面ヲ要セス  
 其二 存置ノ見込ナキ林野ノ一箇所限リ實況調査書並圖面  
 但シ既製ノ圖面ナキモノハ見取圖ヲ添フヘシ  
 其三 林區設計案一區限リノ書類並圖面  
 其四 一調査區官有林野位置圖

但一縣ヲ一圖トシ設計林區ノ區別並存置ヲ要セサル林野ノ位置等ヲ色分ニテ示スヘシ  
 右内規ハ今日ニ於テモ尙遵守セラルル所ニシテ即チ既往ニ於ケル存廢區別調査ノ基礎ヲ爲セルモノトス而シ  
 テ其ノ運用上多少ノ疑義アリシニ依リ明治二十六年更ニ内訓ヲ發シ實況調査方針ヲ示シテ内規ト相俟テ實行  
 上遺憾ナキヲ期シタリ

官有森林原野實況調査方針ノ件 (明治二十六年七月内訓)

官有森林原野實況調査ハ左ノ方針ニ依リ調査スルモノトス  
 一、官林及官有林野ニシテ固有農地ノ範圍内ニアルモノハ存置ヲ要セサルモノトス

二、官有林野ニシテ農業上肥料採取、牧畜等ノ爲メ必要ナルモノハ存置ヲ要セサルモノトス  
 三、官林及官有林野ニシテ官林經濟上政府ノ自營ニ適セサルモノハ存置ヲ要セサルモノトス  
 但シ其標準ハ林野實況調査内規第三條各項ニ據ル

四、官有林野ニシテ固有農地ノ範圍内ニアルモノハ官林ニ編入スルモノトス

實況調査ハ二十三年度ヨリ開始シ二十六年ノ交ニ至リテ終了シ要存置林野七百三十五萬四千三百四十三町  
 步不要存置林野七十四萬一千五百七十六町步ヲ得タリ而シテ本調査ノ結果ハ特別經營事業計畫ノ基礎ヲ爲セ  
 ルモノニシテ該資金トシテ計算セラレタル二千三百二萬二千圓餘ノ總額ハ専ラ此ノ成績ニ依リタルモノナリ  
 トス

實況調査成績

府縣	要存置林野面積		不要存置林野面積		土地產物		見積價格ノ一反步當リ
	面積	積	面積	積	土地	產物	
青森	九、五三三町	五九、〇七三町	七、四七〇町	七九、三〇〇町	八七、〇〇〇円	一、二七	〇、一三
岩手	四、〇九四町	四六、六三四町	五、八七〇町	一八六、九〇〇町	七五、一五〇	一、二八	〇、四〇
宮城	二、五三三町	一九、一三三町	三、四三三町	一五、三三三町	四九、六八七	一、八〇	〇、八〇
秋田	一、〇八四町	二二、一八一町	二、九〇五町	三三、〇八一町	五〇、一〇一	一、三三	一、〇一
山形	四、三三三町	五五、三三三町	五、三三三町	六六、三三三町	七七、三三三	一、二二	一、〇三
福島	五、〇一〇町	六六、三三三町	六、三三三町	七七、三三三町	八八、三三三	一、一三	一、〇四
栃木	三、三三三町	四四、三三三町	四、三三三町	五五、三三三町	六六、三三三	一、〇四	〇、一〇
東京	一、三三三町	二四、三三三町	三、三三三町	四四、三三三町	五五、三三三	一、〇四	一、一〇
埼玉	一、三三三町	二四、三三三町	三、三三三町	四四、三三三町	五五、三三三	一、〇四	一、一〇
群馬	一、三三三町	二四、三三三町	三、三三三町	四四、三三三町	五五、三三三	一、〇四	一、一〇
馬場	一、三三三町	二四、三三三町	三、三三三町	四四、三三三町	五五、三三三	一、〇四	一、一〇
計	四〇、〇〇〇町	四八〇、〇〇〇町	四〇、〇〇〇町	四八〇、〇〇〇町	四八〇、〇〇〇	一、〇四	一、一〇

府縣	要存置林野積		不要存置林野積		土地產物		計	見積價格ノ一反步當リ	
	面積	積	面積	積	面積	積		面積	積
千葉	一、四七、七〇	一、七、三三、二〇	一、七、三三、二〇	一、七、三三、二〇	五、八、一、〇〇	五、七、三、八〇	一、三、三、四八	三、三九	一、九八
茨城	四、五、九三	一、五、七、九〇	一、五、七、九〇	一、五、七、九〇	五、〇、六、一〇	五、〇、五、四〇	一、〇、一、五、六〇	三、三三	一、九一
長野	五、六、一八三	二、八、一、八〇	二、八、一、八〇	二、八、一、八〇	三、五、三、一〇〇	一、七、七、八〇	六、三〇、九九〇	一、二五	〇、九九
新潟	三、五、一、九六	九、三、四、九	九、三、四、九	九、三、四、九	一、八、八、九〇	二、〇、四、八〇	五、九、一、八四〇	二、〇〇	〇、九九
富山	九、八、〇、五七	四、〇、〇	四、〇、〇	四、〇、〇	五、六、六〇	三、一、八〇	八、九、〇、〇	一、三〇	〇、七六
石川	四、七、三、〇〇	一、〇、五〇	一、〇、五〇	一、〇、五〇	三、一、三、〇〇	七、一、二、八〇	一〇、四、六、八〇	三、〇〇	〇、七六
岐阜	三、五、〇、一、一九	七、六、六	七、六、六	七、六、六	一、五、三、〇	一〇、一、八七〇	一、二、七、一、八八	三、〇〇	〇、七六
福井	三、一、一〇	一、一、六〇	一、一、六〇	一、一、六〇	二、一、九、〇	四、二、九、〇	六、四、八、〇〇	一、八〇	〇、七六
大坂	一、五、八三	七、六、三	七、六、三	七、六、三	一、四、八、九〇	一、三、三、六〇	二、八、二、五〇	一、九、〇〇	一、六、〇〇
京都	四、五、三、八	一、六、三	一、六、三	一、六、三	一、四、一、〇〇	一、四、一、〇〇	四、〇、六、二、五〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇
奈良	三、九、九、四	一、六、三	一、六、三	一、六、三	五、一、一、五〇	一、五、八、六〇	二、〇、八、〇、一〇	九、〇〇	一〇、〇〇
和歌山	九、五、五、七	二、〇、一、七	二、〇、一、七	二、〇、一、七	一、〇、〇、〇	三、六、七、九、〇	四、八、八、九、〇	六、〇〇	一、八、〇〇
滋賀	三、一、八、三六	九、五、五	九、五、五	九、五、五	五、三、三、〇	一、四、一、一〇	一、八、七、四、二〇	五、五、九	一、四、〇〇
三重	一〇、〇、一一	四、〇、五、七	四、〇、五、七	四、〇、五、七	三、〇、〇、〇	七、六、八、〇	一、〇、七、九、三〇	七、六、三	一、八、〇〇
兵庫	二、九、四、三	三、〇、五、一	三、〇、五、一	三、〇、五、一	一、〇、〇、〇	三、九、九、〇	三、九、九、〇	五、五、八	七、五
岡山	三、九、三、三	二、八、〇、九	二、八、〇、九	二、八、〇、九	四、一、〇、〇	一、五、一、六〇	二、九、八、六、〇	一、一、七	八、九六
鳥取	三、七、二、四八	五、〇、〇	五、〇、〇	五、〇、〇	四、四、七、〇	三、〇、〇、〇	七、四、七、〇	一、一、一	〇、七六
廣島	九、〇、七、五七	一、〇、九、八	一、〇、九、八	一、〇、九、八	四、三、九、〇	九、七、六、〇	一、四、一、五、六〇	四、〇〇	八、八九
山口	四、一、九、三	四、七、〇、〇	四、七、〇、〇	四、七、〇、〇	三、三、九、〇	七、三、〇、〇	九、六、九、〇	二、〇〇	〇、一六
山根	五、三、二、七	一、二、五、五	一、二、五、五	一、二、五、五	一、九、四、〇	七、三、〇、〇	九、二、五、〇	一、五、五	〇、一六
愛媛	二、三、九、八七	四、三、四、九	四、三、四、九	四、三、四、九	一〇、九、一、〇	三、〇、六、八〇	一三、九、七、八〇	二、五、二	七、四〇

府縣	要存置林野積		不要存置林野積		土地產物		計	見積價格ノ一反步當リ	
	面積	積	面積	積	面積	積		面積	積
香川	一、四、一、二三	三、三、八、八	三、三、八、八	三、三、八、八	六、六、九、〇〇	二、八、〇、一、八	三、四、七、〇、八〇	一、九八	八、二七
徳島	五、四、七、七一	一、〇、一、五	一、〇、一、五	一、〇、一、五	一、四、五、〇〇	七、七、七、〇	八、八、三、七〇	一、四三	七、二〇
高知	一、九、二、九一八	三、〇、七、五	三、〇、七、五	三、〇、七、五	六、一、五、〇〇	六、〇、五、六	一、三、三、〇、六	二、〇〇	一、九七
福岡	四、五、五、四九	一、五、三、五〇	一、五、三、五〇	一、五、三、五〇	三、五、七、五〇	五、四、二、六	九、二、七、七、六	三、三三	三、六七
佐賀	一、九、九、八一	三、一、〇、三	三、一、〇、三	三、一、〇、三	一、八、八、五〇	一、五、〇、六、八	四、三、九、一、四八	一、二二	〇、六五
長崎	二、二、八、三、八	七、二、八、三	七、二、八、三	七、二、八、三	一、一、三、九、〇	三、八、三、二、四〇	五、〇、六、一、五〇	一、六九	五、二六
大分	六、〇、一、六九	一、八、四、四八	一、八、四、四八	一、八、四、四八	三、五、一、〇、〇	三、五、七、九、五〇	七、〇、八、六、三	一、九〇	一、九四
熊本	一〇、六、九、七〇	四、五、七、七六	四、五、七、七六	四、五、七、七六	九、九、二、〇、〇	七、五、一、四、八	一、七、四、三、六、八	二、一七	一、六四
鹿兒島	二〇、六、七、八	四、八、三、五〇	四、八、三、五〇	四、八、三、五〇	四、八、三、五〇	三、〇、一、五、〇	七、八、五、〇、〇	一、〇〇	〇、六二
宮崎	一、八、二、四、八七	四、〇、〇、五二	四、〇、〇、五二	四、〇、〇、五二	四、〇、〇、五二	三、八、八、〇、〇	七、九、三、八、〇	一、〇〇	〇、六二
合計	七、五、五、四、三三	七、四、一、五、七六	七、四、一、五、七六	七、四、一、五、七六	一、三、三、三、三、三三	一〇、一、九、八、六、八	一、三、〇、三、一、五、五	一、七、一	一、三九

備考  
各府縣ノ面積ハ町以下切捨タルヲ以テ計ト一致セサルモノアリ

三、特別經營事業開始以後ニ於ケル整理處分 (明治三十二年四月以降)

明治三十二年四月特別經營事業ヲ創始セラルルヤ存廢ノ區別及不要存置林野ノ處分ニ關スル業務ハ其ノ初頭ニ加ヘラレ三十二年度乃至四十一年度ノ十ヶ年ヲ期シ五十萬六千五百三十五箇所面積七十四萬千五百七十六町歩ノ處分ヲ了スル豫定ヲ以テ著手セラレタルコト已ニ第二編第四章ニ述ヘタルカ如クニシテ今本事業ノ經過ヲ主ナル事項ニ區別シ序述スレハ左ノ如シ

(イ) 林野整理審査會

特別經營事業ノ閣裁ニ當リ不要存置林野ノ選定ニ付テハ他日國用ニ供スル目的上遺算ナキヲ期スルカ爲各省



トノ間協議ヲ盡シ更ニ閣議ニ提出スヘキヲ命セラレ尙此ノ趣旨ヲ貫徹スルカ爲同月勅令第百七十九號ヲ以テ  
林野整理審査規則ヲ左ノ如ク制定セラレタリ

林野整理審査會規則

(明治三十二年四月  
勅令第百七十九號)

- 第一條 林野整理審査會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ國有林野ノ特別經營ニ關スル重要ノ事項ニ就キ農商務大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス
- 第二條 林野整理審査會ハ會長一人委員十一人ヲ以テ組織ス委員ハ農商務省高等官四人、内務省高等官二人、陸軍省海軍省大藏省文部省及逓信省高等官各一人ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外五人以内ノ臨時委員ヲ命スルコトヲ得
- 第四條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 會長委員及臨時委員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第六條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス
- 第七條 會長事故アルトキハ委員中上席ノ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
- 第八條 林野整理審査會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第九條 林野整理局判任官ヲ以テ之ニ充ツ

本會ハ明治三十二年六月六日ヲ以テ其ノ第一回ヲ開會セリ當時會福農商務大臣ノ説示ニ曰ク國有林野特別經營ノ事業實施セラレテ林政界多年ノ希望ヲ實行スルノ時運ニ到達セルハ慶賀ニ堪ヘス然レトモ之カ大成ヲ告クルハ亦容易ノ事ニアラスシテ特ニ不要存置林野ノ處分ノ如キ苟モ正鵠ヲ失セハ或ハ人民ノ利害ニ關シ或ハ國家永遠ノ大計ニ影響ヲ及ホスハ論ヲ俟タス之カ實行ノ責ニ任スル者ハ固ヨリ鄭重慎重ノ處分ヲ爲スヲ要スルモ尙其ノ及ハサランコトヲ恐ル是特ニ本會ヲ設ケラレタル所以ナレハ諸君宜シク此ノ意ヲ了セラレ諮詢ノ

事項ニ對シ廣ク諸般ノ關係ヲ察シ周密公正ノ注意ヲ以テ審議ヲ盡サンコトヲ欲スト而シテ第一回ニ諮詢セラレタルハ不要存置國有林野賣拂規則(省令)及不要存置林野ノ處分ニ關スル内訓案(林野整理支局長)ナリキ第二回ハ三十二年七月十日開催セラレタルモ時尙特別經營事業草創ノ際ニシテ百事未タ整頓セズ從テ處分調査規程ニ據リ調査シタル箇所ヲ諮詢スルノ違ナク不得已民間ニ存在セル小面積ノモノニシテ而モ實況調査ノ成績カ不要存置ニ屬シ且再調ヲナスモ當然不要存置タルヘキコトノ明カナルモノノミヲ選正シテ之ヲ諮詢シ賣拂ノ際更ニ處分調査規程ニ依リ調査ヲ施シ處分スルコトトセリ第三回ハ同年九月十五日ニシテ此ノ際ヨリ始テ同規程ニ據リテ調査シタルモノヲ諮詢セラレ回ヲ重ヌルコト五十九ニ及ヒ大正二年六月勅令第百六號ヲ以テ林野整理審査會規則ノ廢止セララルニ至ルマテ存續セシモノナリトス而シテ存廢區別ノ調査モ大部分既ニ決定シ今後調査ヲ要スヘキモノハ僅ニ從來ノ臺帳脫落地若ハ大團地中ノ農耕適地等ニシテ極メテ消極的ノモノトナレルカ故殆ント各省トノ間協議ヲ盡スノ必要ナキニ至リタルモ尙國防上遺憾ナキヲ期スルカ爲將來不要存置トナスモノハ特ニ陸海軍兩省ニ協議ノ上閣議ヲ得テ處理セントシコノ意味ヲ以テ大正二年七月閣議ヲ請ヒタルモ當時法制局ノ意見トシテ林野整理審査會ハ廢止セラレタルモ各省トノ間協議ヲ盡スヘキ精神ハ依然存續セルモノナレハ陸海軍兩省以外ニモ尙打合ヲナスノ必要アラントノ注意アリ又該閣議ノ請議ハ大正三年四月内閣ノ交迭ト共ニ其ノ儘返戻セラレタルニ付更ニ今後ノ不要存置選定箇所ハ陸海軍ノ外内務、文部ノ兩省ニ協議ノ上閣議ニ提出スルコトノ取扱ヲナスコトニ決定セリ

(ロ) 整理處分ニ關スル法規

存廢區別ノ基礎法規タル官有林野實況調査内規及官有森林原野實況調査方針ハ今日ニ至ル迄毫モ更改セラル

ルコトナク又特別經營事業開始當時ニ定メラレタル國有林野整理方針(第四節參照)モ敢テ變更セラレルコトナカリシモ之カ運用ニ關スル實行上ノ細目ニ至リテハ屢々改正セラレテ今日ニ及ハリ即チ存廢區別及不要存置林野ノ調査ニ關シテハ特別經營事業ノ開始ト同時ニ國有林野處分調査規程ヲ左ノ如ク定メタリ

國有林野處分調査規程 (明治三十二年四月 訓令第三十二號)

第一章 總則

- 第一條 國有林野處分ノ爲テ調査スヘキ事項左ノ如シ
  - 一、明治二十三年四月農商務省丙林第一三六號達官有林野實況調査内規(以下略シテ單ニ實況調査内規ト稱ス)及明治二十六年七月農商務大臣訓令官有森林原野實況調査方針(以下略シテ單ニ實況調査方針ト稱ス)ニ基キ調査シタル要存置不要存置林野ノ區別ノ通否
  - 二、實況調査ノ際ニ廢區別未定若ハ調査脱落ノ林野ニ在リテハ要存置不要存置ノ區別
  - 三、不要存置林野ノ面積、價格及其產物ノ材積、數量並ニ價格
  - 四、其他不要存置林野ノ實地處分ニ付準備上必要ナル事項
- 第二條 調査員ハ林野整理支局在勤判任官ヲ以テ之ニ充テ林野整理支局長之ヲ指揮監督スヘシ
- 第三條 林野整理支局長ハ調査員ヲ數組ニ分テ各調査區ニ派遣スヘシ
  - 一、組ハ判任官一名若ハ二名ヲ以テ組織シ之ニ判任官又ハ人夫ヲ附屬セシムルコトヲ得
- 第四條 調査ハ經濟上優位ニシテ不要存置タルヘキ林野ノ多數ナル調査區ヨリ先ニスヘシ一調査區内ノ調査ニ付テモ亦同シ
- 第五條 調査ノ順序ハ存廢區別ノ調査ヲ先ニシ順次第三章乃至第七章ノ調査ヲ爲スヘシ但存廢區別ノ調査必要ナキ場合其他第三章乃至第七章ノ順序ニ依ルノ必要ナキ場合ニハ此限ニアラス
- 第六條 調査員ハ調査著手前ニ簿書ニ付受命調査區内ノ林野ニ對シ年期貸付、主副產物ノ年期實地、副產物ノ年期無料採收、部分林、保約賣拂其他總テ林野ニ附帶スル義務ノ有無ヲ調査シ其調査書ヲ携帶スヘシ
- 第七條 保約賣拂林野ニシテ成功年限中ニ係ルモノハ第三章乃至第六章ノ調査ヲ爲スコトヲ要セス
- 第八條 保約賣拂林野ニシテ事業不成功其他ノ原因ニ依リ返地セシメタルモノハ本規程ノ調査ヲ爲スヘシ

第九條 開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲メ貸付シタル林野ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス  
第十條 調査ハ小林區署職員ノ立會ヲ求メ之ヲ施行スヘシ但林野整理支局長ニ於テ立會ノ必要ナシト認ムル場合ハ此限ニアラス  
第十一條 義務ノ附帶スル林野ノ境界査定、產物ノ材積及數量ノ調査ニハ可成其權利者ヲ立會ハシムヘシ

第二章 調査書類

- 第十二條 調査員ハ林野整理局長ノ定ムル様式ニ從ヒ要存置不要存置林野區別表(以下略シテ單ニ區別表ト稱ス)不要存置林野調査書(以下略シテ單ニ調査書ト稱ス)及不要存置林野實地圖(以下略シテ單ニ實地圖ト稱ス)ヲ調製スヘシ  
前項ノ書類ハ之ヲ市町村別ニ編綴シ毎月二回林野整理支局長ニ差出スヘシ(明治三十二年九月訓令第四十四號改正)
  - 第十三條 區別表ニハ要存置不要存置林野ノ區別面積價格及其事由ヲ記載スヘシ
  - 第十四條 調査書ニハ不要存置林野ニ關スル一切ノ調査事項ヲ記載スヘシ
  - 第十五條 調査書ハ一箇所毎ニ用紙一葉ヲ充ツヘシ用紙ニ欄行ナキ事項アル場合又ハ欄行不足セル場合ニハ第二項ニ之ヲ記載スヘシ
  - 第十六條 實地圖ハ鑿水引美濃紙半片一枚又ハ二枚以上ヲ綴キタル用紙ヲ用ヒ第四章ノ規定ニ從ヒ之ヲ調製スヘシ  
實地圖ハ一箇所毎ニ用紙一葉ヲ充ツヘシ
  - 第十七條 實地圖ハ當該箇所調査書ノ第二頁ニ貼付シ又ハ次葉ニ編綴スヘシ
  - 第十八條 林野整理支局長一調査區全部ノ調査報告書類ヲ受取りタルトキハ十五日以内ニ林野整理局長ノ定ムル様式ニ從ヒ各調査區ニ分テ必要置林野調査總括表ヲ調製シ農商務大臣ニ進達スヘシ(同上改正)
  - 第十九條 文字ハ楷書體ニテ明記シ訂正、挿入、削除等ヲ爲ス場合ニハ之ヲ朱記シ其箇所ニ檢印スヘシ
- 第三章 存廢區別ノ調査
- 第十九條 存廢區別ノ再調査ハ實況調査内規及實況調査方針ニ準據シ實地ニ就キ踏査スヘシ  
實況調査ノ際ニ存廢區別未定及調査脱落箇所ノ調査ニ付テモ亦同シ
  - 第二十條 存廢區別ハ前條ノ外左ノ各號ヲ參照シテ定ムヘシ
    - 一、面積ヲ以テ存廢ノ標準ト爲スヘキ場合ニハ實際ノ見込面積ニ據ルヘシ
    - 二、實況調査方針第二號ニ依リ存廢ヲ區別スヘキ場合ニハ左ノ事項ヲ參照スヘシ
      - (イ)地元及關係町村ノ耕地面積並ニ牛馬ノ頭數

第三編 國有林野ノ經營

(ロ)耕地ノ肥料及秣草ニ需要スル芝草ノ數量

(ハ)民有林野放牧ノ慣行アル國有林野ヨリ供給スル芝草ノ數量

三、平坦地又ハ丘阜地等ニシテ容易ニ田畑ニ開墾シ得ヘキモノ及桑、柑類、漆、楮其他農業ニ屬スル果樹ノ植栽ニ適スルモノハ實況調査方針

第一號ニ依リ固有農地ト認ムヘキモノトス

四、保安林ト雖利害ノ關係極メテ小ナルモノハ存置ヲ要セサルモノトス但調査書ニハ其保安林タルコトヲ記載スヘシ

五、無立木地若ハ岩石地等ニシテ收入ノ見込ナキ林野又ハ交通極メテ不便ナル位置ニ在ル林野等ニシテ民有ニ適セサルモノハ存置スヘキモノトス

第二十一條 河川法ニ依ル河川ノ區域、砂防法ニ依ル砂防設備又ハ航路標識其他國防上必要ナリト認ムヘキ林野ハ林野整理支局長ノ指揮ヲ受

ケ存廢區別ヲ定ムヘシ

第二十二條 存廢區別再調査ノ結果力實況調査ノ成績ト異ナルトキハ林野整理支局長ノ指揮ヲ受ケ存廢區別ヲ定ムヘシ

第二十三條 境界ノ明瞭ナラサル林野ハ査定ヲ施行シタル上實測ヲ爲スヘシ但從前實測法ノ林野ニ付テハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十四條 民地官木ノ森林ニ付テハ境界査定及實測ヲ爲スコトヲ要セス但產物ノ材積及數量ノ調査ノ爲必要ナリト認ムルモノニ在リテハ適

宜ノ方法ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二十五條 實測ハ有鏡簡測器以上ノ精良ナル測器並ニ測繩、布卷尺、竹繩若ハ間繩ヲ使用シ之ヲ爲スヘシ但シ土地ノ面積狹少ナル場合、又ハ

價格低廉ナル場合ニ在リテハ適宜ノ測器ヲ使用スルコトヲ得(同上改正)

第二十六條 實測圖調製ニ使用スル縮尺ハ可成左ノ區別ニ依ルヘシ

面積 一町歩未満六百分ノ一 面積 一町歩以上千二百百分ノ一

面積 十町歩以上二千五百百分ノ一 面積 五十町歩以上五千百分ノ一

從前實測法ノ林野ニ付テハ前項ニ依リ圖面ヲ調製スヘシ(同上改正)

第二十七條 市町村ノ附近ニ在ル林野其他經濟上特別ノ價值アル林野ニ付テハ實測ハ可成精良ナル器械ヲ用ヒ製圖ハ可成大ナル縮尺ヲ用フヘシ

第二十八條 林野内ニ左ニ掲グル箇所アルトキハ實測圖面ニ其位置ヲ表示スヘシ

一、溫泉數地、礦泉數地、鹽田又ハ貯木場其他經濟上特殊ノ目的ニ供用シ得ヘキ土地

二、年期貸地、部分林、豫約賣拂地其他義務ノ附帶スル土地

前項第一號ノ土地ニ付テハ別ニ其部分ヲ實測シ六十分ノ一ノ縮尺ヲ用ヒ別圖ヲ調製シ之ヲ全圖ニ添付スヘシ

第二十九條 實測圖ノ調製終リタルトキハ從前實測法ノモノヲ除クノ外圖面上ニテ面積ヲ計算スヘシ

面積及面積計算法ハ其ノ圖面上ニ記載スヘシ(同上改正)

第五章 產物ノ材積及數量ノ調査

第三十條 貴重樹種ノ森林ニ在リテハ全林ノ樹木ニ付材積ヲ計算シ薪炭林及未成樹林ニ在リテハ標準地ヲ選定シ標準地内ノ材積ヲ計算シテ全

林ノ總材積ヲ算出スヘシ但林相混淆複雜又ハ立木群生點生等ノ爲標準地ヲ選定シ難キモノハ此限ニアラス

標準地ノ面積ハ全面積ノ百分ノ五以上トシ其ノ最小面積ハ一反歩トス

第三十一條 官地民木ノ森林ハ產物ノ材積及數量ヲ調査スルコトヲ要セス

第三十二條 林野内ニ主產物年期賣拂ニ係ルモノアルトキハ其賣拂フヘキ樹木ヲ控除シ殘餘ノモノニ付材積ヲ計算スヘシ

第三十三條 部分林ノ主產物ハ全林ノ材積調査ヲ爲シ分收ノ都合ニ依リ國有ニ屬スヘキモノヲ算出スヘシ土地ノ區域ニ依リ分收スル場合ニ在

リテハ國有ニ屬スル區域ノ材積ヲ調査スヘシ

第三十四條 (同上削除)

第三十五條 (同上削除)

第三十六條 人工植栽ノ幼樹ニ在リテハ植栽苗數年度、補植苗數年度等ヲ調査スヘシ

幼樹ト稱スルハ針葉樹林ニ在リテハ十五年以下、雜木林ニ在リテハ五年以下トス但樹種又ハ地方ノ狀況ニ依リ之ヲ伸縮スルモ妨ナシ

第三十七條 價值ヲ有セサル榲樹及下芝等ハ材積又ハ數量ノ調査ヲ爲スヲ要セス

第三十八條 竹林ハ其種類品質ノ良否ヲ參酌シ總面積ノ百分ノ一以上ノ標準地ニ據リ全數量ヲ算出スヘシ

第三十九條 副產物ハ其ノ方法ニ依リ數量ヲ調査スヘシ

一、(同上削除)

二、果樹、茶、桑、楮、三椏又ハ漆等林業ニ屬セサルモノハ各適宜ノ方法ニ依リ數量(本數、株數、大小等)ヲ調査スヘシ

三、建築材料其他經濟上特殊ノ目的ニ供セラルヘキ土石類ハ適宜ノ方法ニ依リ現存ノ總數量ヲ調査スヘシ

菌茸、筍、下草又ハ茸等連年生產アルモノニ付テハ數量ノ調査ヲ省キ直チニ第四十四條第一號ノ調査ヲナスコトヲ得(同上改正)

第四十條 樹皮、樹液、籜又ハ落枝葉等主產物ノ一部ヲ爲スモノ又ハ價值ヲ有セサル副產物ハ其數量ヲ調査スルヲ要セス

第三編 國有林野ノ經營

五九九

第六章 價格ノ調査

第四十一條 林野ノ素地ニ付テハ比隣地ノ時價、比隣地ノ時價ヲ知り難キトキハ附近地ノ時價ヲ標準トシ地質地形及交通ノ便否ヲ參酌シテ其價格ヲ定ムヘシ比隣若ハ附近ノ類地ノ時價ハ登記所ニ登記セラレタル賣買價格其他實際ノ賣買相場ヲ標準トスヘシ土地ノ價格ヲ定ムルニ當リ同一狀況ノ類地ノ時價ヲ標準トスル場合ニ於テハ第三十九條第二項ニ定メタル副産物ノ價格ハ地價ニ包含スルモノト見做ス(同上改正)

第四十二條 主産物ニ付テハ其地方ノ時價ヲ標準トシ既往賣拂代價ヲ參酌シテ山元時價ヲ定ムヘシ

第四十三條 人工植栽ニ係ル幼樹ニ付テハ費用價(植栽實費及其利子ヲ合算シタルモノ)ヲ以テ其價格トス費用價計算ニ用フヘキ利率ハ年五分トス

第四十四條 副産物ニ付テハ左ノ方法ニ依リ其價格ヲ定ムヘシ

一、菌蕈、筍、下草又ハ葎等連年收利アルモノハ第四十一條第三項ノ場合ヲ除クノ外其ノ毎年ノ收入ヲ調査シテ相當價格ヲ算出スヘシ  
二、第三十九條第一項第二號及第三號ニ該當スルモノハ適宜ノ方法ニ依リ單價ヲ求メ其價格ヲ算出スヘシ(以上改正)

第四十五條 第二十八條第一項第一號ニ掲ケタル土地及第三十九條第一項第二號ニ掲ケタル果樹ノ價格ヲ調査スル場合其他必要アリト認ムルトキハ評價人ヲシテ評價セシムルコトヲ得

前項ノ評價人ハ林野整理支局長之ヲ選定ス

第七章 賣拂處分ノ參考トナルヘキ事項ノ調査

第四十六條 調査員ハ左ノ事項ヲ調査シ之ヲ調査書當該欄内ニ記載スヘシ

- 一、社寺委託林ニ付テハ受託社寺、委託許可年月、委託年限其他必要ト認ムル事項
- 二、部分林ニ對スル部分林仕付主及官地民木ノ森林ニ對スル民木所有者
- 三、道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ニ付テハ其借地人、實況其他必要ト認ムル事項
- 四、前號以外ノ年期貸付地ニ付テハ其借地人貸付ノ年月、貸付年限、借地ノ目的、借地ノ目的タル事業ノ實況及契約解除ニ依リテ受ケヘキ借地人ノ損害其他必要ト認ムル事項
- 五、主副産物年期賣拂或ニ副産物無料採收ヲ許可シタル林野ニ付テハ其權利者、許可ノ年月、許可年限其他必要ト認ムル事項

第八章 監督

第四十七條 調査員ハ林野整理支局長ヨリ交付スル森林手簿ヲ携帶シ日々左ノ事項ヲ記入スヘシ

一、執務ノ種類

二、外業ナルトキハ延里程

三、調査セシ林野ノ字名及面積

四、立會者ノ官氏名又ハ住所氏名

五、上官ノ監督檢閲ヲ受ケタルトキハ其要領

六、其他必要ト認ムル事項

第四十八條 明治二十四年二月戊辰第一〇號達森林手簿携帶心得ハ其第二條ヲ除クノ外調査員ニ之ヲ準用ス

第四十九條 調査員ハ林野整理支局長ノ定ムル様式ニ從ヒ調査功程表ヲ調製シ毎月一回林野整理支局長ニ差出スヘシ(同上改正)

第五十條 林野整理支局長ハ毎月一回總組ノ調査功程一覽表ヲ調製シ翌月十日迄ニ農商務大臣ニ進達スヘシ調査功程一覽表ノ様式ハ調査功程表ノ様式ニ準據スヘシ

第五十一條 林野整理支局長ハ部下ノ官吏ヲシテ少ナクとも毎月一回各調査區ヲ巡回セシメ調査員ノ監督ヲ爲スヘシ

前項監督ニ關スル規定ハ林野整理支局長之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第五十二條 林野整理支局長ハ第十二條第一項ノ書類ヲ檢閲シ調査不備ト認ムル事項アルトキハ其再調査ヲ爲スヘシ但直ニ決定シ得ヘキモノハ此限ニアラス

前項ノ再調査ハ前調査ニ干與セサル部下ノ官吏ニ命スヘシ

第五十三條 林野整理支局長ハ處分調査ノ終了シタルモノニ就テハ毎月一回要存置不要存置區別總括表ヲ調製シ農商務大臣ニ進達シテ存廢區別及見積價格ノ認可ヲ受ケヘシ

要存置不要存置區別總括表ノ様式ハ第十二條ノ要存置不要存置林野區別表ヲ準用スヘシ(同上改正)

第九章 雜則

第五十四條 調査員ハ境界査定、實測及産物ノ材積、數量調査ノ爲メ必要ナル場合ニ限り國有林野ノ産物ヲ斫伐又ハ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ斫伐又ハ採取シタル産物ハ直ニ當該小林區署長ニ引渡スヘシ

第五十五條 調査員ハ境界査定又ハ實測ノ爲メ國有ニ屬セサル支障木竹ヲ斫伐スルノ必要アルトキハ豫メ其旨ヲ所有者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ所有者ヨリ補償ヲ求ムルトキハ其事件ヲ當該小林區署長ニ移スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第五十六條 調査員大林區署職員ノ立會ヲ必要ト認ムルトキハ其事由ヲ記シ林野整理支局長ニ請求スヘシ  
 第五十七條 調査員ハ野帳ヲ携帶シ境界査定、實測及產物ノ材積、數量調査等實地ニ於テ調査シタル事項ヲ記入スヘシ  
 野帳ノ様式ハ林野整理支局長適宜之ヲ定ムヘシ  
 第五十八條 調査員ハ一調査區ノ調査終了後野帳ヲ取纏メ之ヲ林野整理支局長ニ差出スヘシ  
 前項ノ野帳ハ其處分完結迄之ヲ林野整理支局長ニ保存スヘシ

本規程ハ事業ノ進捗ニ伴ヒ三十二年九月訓令第四四號三十五年四月訓令第一〇號三十六年九月訓令第一〇號三十八年四月訓令第八號等屢次ノ改正ヲ加ヘ大正四年林野法規ノ整理改廢ヲ爲スニ當リ左記ノ如ク不要存置國有林野整理處分規則及不要存置國有林野整理處分手續ヲ制定セラルルヤ關係事項ヲ右手續ノ内ニ包含セシメ前記處分調査規程ヲ廢止セリ

不要存置國有林野整理處分規則 (大正四年七月二十四日 省令第十四號)

第一章 賣 拂

第一條 國有林野ヲ國有林野法第八條ノ規定ニ依リ隨意契約ヲ以テ賣拂ハムトスルトキハ當該林區署長ハ其ノ旨ヲ官報並林野ノ屬スル大小林區署、郡市役所、町村役場ニ揭示ス但シ當該林區署長ニ於テ其ノ必要ナシト認メタル時ハ小林區署、市役所、町村役場ノ揭示ニ止ムルコトヲ得  
 第三條 第一項第一ノ順位ニ該當スル者ニ賣拂ハムトスルトキハ直接ニ之通告シテ前項ノ揭示ヲ省略スルコトヲ得  
 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ國有林野法第八條第四號ノ緣故者トス  
 一、部分林ニ在リテハ其ノ分收ノ權利ヲ有スル者  
 二、官地民木ノ森林ニ在リテハ其ノ樹木ノ所有者  
 三、獻地又ハ獻植ノ林野ニ在リテハ其ノ獻納者  
 四、產物ノ採取又ハ土地使用ノ慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ採取者又ハ使用者  
 五、城趾ニ在リテハ其ノ舊藩主  
 六、神祠、佛堂、墓碑其ノ他ノ遺跡ノ存スル林野ニ在リテハ其ノ遺跡ニ緣故アル者  
 七、古記社傳又ハ歴史ノ證スル所ニ依リ社寺ニ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ社寺

八、礦業法第五十六條ニ掲タル目的ノ爲使用セシメタル林野ニ在リテハ其ノ採掘權者  
 九、保安林ニ在リテハ其ノ直接利害關係者又ハ其ノ地籍ノ屬スル市町村

十、耕地整理施行地區ニ編入シ又ハ耕地整理地區外工事ヲ施スヘキ林野ニ在リテハ耕地整理組合又ハ耕地整理施行者  
 前項第一號乃至第四號及第九號ノ緣故者市町村内ノ部落ニ係ルトキハ其ノ市町村ヲ以テ緣故者トス若シ市町村ニ於テ買受ケサルトキハ當該林區署長ハ其ノ緣故部落ノ住民共同ヲ以テ緣故者ト認ムルコトヲ得

第三條 隨意契約ニ依リ林野ヲ賣拂フ場合ニ於ケル先買者ノ順位左ノ如シ

- 第一
- (イ) 公用又ハ公益事業ノ爲ニスル者
  - (ロ) 社寺上地ノ森林ニ在リテハ其ノ社寺
  - (ハ) 前條ニ掲ケル緣故者
  - (ニ) 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ借地人
  - (ホ) 國有林野法施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ事業ヲ成功シタル者

第二 林野ノ屬スル市町村又ハ其ノ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル者

第三 (イ) 林野ノ屬セサル市町村又ハ其ノ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル者

(ロ) 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ニ對スル出願者ニシテ前各號ニ該當セサル者  
 第一順位ノ出願競合シタルトキハ事由ノ輕重ニ依リ順位ヲ定メ其ノ他ノ同一順位ノ出願競合シタルトキハ出願代金ノ額及事由ノ輕重ニ依リ順位ヲ定ム

第四條 國有林野產物賣拂規則第二條乃至第七條ノ規定ハ林野ノ賣拂ニ之ヲ準用ス

第五條 賣拂願書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外第一條ノ揭示又ハ通告ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ受理セス

- 一、公用又ハ公益事業ノ爲ニスルモノ
- 二、賣拂換約ニ基ク事業成功ニ依ルモノ
- 三、明治二十三年勅令第九十三號ノ規定ニ依ルモノ

第三編 國有林野ノ經營

第六條 隨意契約ニ依ル賣拂ヲ出願スル者ハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ證據書類アルトキハ之ヲ添付スヘシ其ノ公用又ハ公益事業ノ爲ニスル場  
合ニ在リテハ尙事業設計書ヲ添付スヘシ

第七條 明治二十三年勅令第九十三號ノ規定ニ依リ賣拂ヲ爲ス場合ニ於テハ願書ヲ省略シテ直ニ賣買ノ契約ヲ爲スコトヲ得

第八條 賣拂ノ許可アリタルトキハ出願者ハ當該林區署長ノ指定シタル期間内ニ契約保證金ヲ納付シ賣買契約書ヲ作り契約者雙方各一通ヲ領  
收シ置クヘシ但シ賣拂代金千圓ニ滿タサル場合ハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

國有林野產物賣拂規則第二十八條第一項ノ規定ハ出願者ニ於テ前項ノ指定期間ヲ徒過シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ賣拂豫約ニ基ク賣拂ノ場  
合ニ在リテハ違約金ヲ徴收セス

前項但書ノ場合ニ於テハ開墾ニ關スル一切ノ費用ハ之ヲ償還セス

第九條 國有林野產物賣拂規則第三十九條ノ規定ハ契約保證金ヲ代金又ハ延納擔保ニ充當スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 代金ノ納付期限ハ物件引渡以前ニ於テ當該林區署長ノ指定ス

第十一條 公共團體又ハ社寺カ明治四十二年勅令第三百十八號ノ規定ニ依リ造林ヲ條件トシテ代金延納ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ延納願書  
ニ毎年ノ植栽又ハ播種ノ面積、樹種及數量ヲ附記スヘシ

第十二條 前條ノ代金返納ノ許可ヲ受ケタル者毎年ノ植栽ヲ終リタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ當該林區署長ニ報告スヘシ

第十三條 第十一條ノ許可アリタル場合ニ於テ當該林區署長必要ト認ムルトキハ造林事業ノ検査ヲ爲シ植栽又ハ手入ヲ命スルコトヲ得

第十四條 延納ノ許可ヲ受ケタル後ハ當該林區署長ノ許可ヲ受ケルニ非サレバ第十一條ノ附記事項ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 延納ノ許可ヲ受ケタル者前條ノ規定ニ違反シ又ハ第十三條ノ検査ヲ拒ミ若ハ其ノ命令ニ從ハサルトキハ當該林區署長ハ延納ニ係ル  
代金ヲ三十日以内ニ完納セシムルコトヲ得

第十六條 國有林野產物賣拂規則第三十一條第一項、第三十二條乃至第三十四條第三十五條第一項、第三項、第四項、第三十六條乃至第三十八  
條ノ規定ハ代金延納ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 國有林野產物賣拂規則第十一條及第四十條第一項ノ規定ハ林野ノ引渡前ノ處分及引渡ノ時期ニ之ヲ準用ス

第十八條 林野ノ引渡ニ付買受人立會ヒタルトキハ領收證ヲ徴收ス否ヲサルトキハ引渡ノ通告ヲ發スルニ依リテ引渡ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 林野ノ附帶義務ハ買受人ノ之ヲ承繼ス

第二十條 國有林野產物賣拂規則第九條ノ規定ハ賣拂物件ノ面積、數量若ハ品質ノ錯誤又ハ隱レタル瑕疵ニ關シ之ヲ準用ス

第二十一條 國有林野產物賣拂規則第五十三條第一號及第二號ノ規定ハ賣買契約ノ解除ニ之ヲ準用ス

第二十二條 國有林野產物賣拂規則第五十五條第一項ノ規定ハ前條ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ賣拂豫約ニ基ク賣拂ノ場合  
ニ在リテハ第八條第二項但書及第三項ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 特定ノ目的ヲ以テ賣拂ヲ受ケタル者ハ引渡ヲ受ケタル後十箇年間ハ當該林區署長ノ許可ヲ受ケルニ非サレバ林野ヲ其ノ目的以外  
ニ使用シ又ハ之ヲ讓渡シ若ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ賣拂ヒタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

買受人前項ノ規定ニ違反シタルトキハ違約金トシ賣拂代金ノ半額以内ニ相當スル金額ヲ徴收スルコトヲ得

第二十四條 隨意契約ニ依リ賣拂ヲ了セサル林野ハ競争入札ノ方法ニ依リ賣拂ヲ爲スヘシ

第二十五條 第九條、第十條第十六條乃至第二十二條及國有林野產物賣拂規則第十二條乃至第十八條ノ規定ハ競争入札ノ方法ニ依リ林野ヲ賣  
拂ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二章 開墾ヲ條件トスル賣拂豫約及即時賣拂

第二十六條 國有林野法第九條ノ規定ニ依リ賣拂ノ豫約ヲ爲サムトスルトキ又ハ第三條第一項ニ掲グル者ニ開墾ノ條件ヲ附シテ即時賣拂ヲ爲  
サムトスルトキハ其ノ旨ヲ林野ノ屬スル小林區署、市役所、町村役場ニ揭示ス必要ト認ムルトキハ尙別ニ適宜ノ公告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ條件附賣拂ハ一箇所面積十町歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ實地ノ形狀又ハ開墾ノ計畫ニ關スル特別ノ事由ニ依リ此ノ制限ニ從ヒ難キト  
キハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 賣拂豫約又ハ條件附賣拂ノ願書ハ前條ノ揭示ヲ爲シタル後ニ非サレバ之ヲ受理セス

第二十八條 出願地ト共ニ其ノ產物ヲ買受ケムトスルトキハ賣拂豫約ニ在リテハ別ニ產物賣拂願書ヲ添付シ條件附賣拂ニ在リテハ土地及產物  
ノ價額ヲ願書ニ區分記載スヘシ

第二十九條 願書ニハ事業方法書及收支豫算書ヲ添付スヘシ

第三十條 第四條ノ規定ハ本章ノ規定ニ依リ出願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 事業方法書ハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

一、開墾ノ方法及順序

二、開墾計畫圖

三、毎年開墾スヘキ豫定面積

四、成功期限

第三十二條 出願地ニ於テ宅地又ハ防風林若ハ薪炭林ヲ設クルノ必要アルトキハ其ノ面積ハ出願地總面積ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ

第三編 國有林野ノ經營

實地ノ狀況ニ依リ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス  
第三十三條 開墾成功期間ハ十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ期限ニ至リ已ムヲ得サル事由アリト認ムルトキハ相當期間ノ延長ヲ許スコトヲ得  
第三十四條 出願競合スルトキハ左ノ順位ニ依リ許可スヘキモノヲ定ム但シ面積十町歩ヲ超ユル場合ニ於テハ開墾方法ノ良否ヲ斟酌シテ順位  
ヲ變更スルコトアルヘシ

- 第一、第三條第一項第一ニ掲グル者ノ出願
- 第二、林野ノ屬スル市町村ノ出願
- 第三、林野ノ屬スル部落住民共同ノ出願
- 第四、其ノ他ノ出願

第三條第二項ノ規定ハ同一順位ノ出願競合スル場合ニ之ヲ準用ス  
前二項ノ規定ハ條件附賣拂ノ出願ト競合シタル場合ヲ包含ス  
第三十五條 第八條ノ規定ハ出願ニ對シ許可アリタル場合ニ之ヲ準用ス但シ賣拂豫約ニ在リテハ賣拂代金ノ額ニ拘ラス請書ヲ以テ契約書ニ代  
用スルコトヲ得

第三十六條 第十八條ノ規定ハ本章ニ依ル林野ノ引渡ニ之ヲ準用ス

林野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ境界標ヲ建設スヘシ

第三十七條 開墾者ハ當該林區署長ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ第三十一條ノ事業方法ヲ變更シ又ハ其ノ林野ヲ他人ニ貸付シ他ノ目的ニ使用シ  
若ハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス

第三十八條 當該林區署長必要ト認ムルトキハ開墾事業ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 開墾者ハ成功期限後三十日以内ニ賣拂ヲ出願スヘシ  
成功期限内ト雖開墾成功シタル區域ハ漸次分割賣拂ヲ爲スコトヲ得

第四十條 開墾者前條第一項ノ期間内ニ賣拂ヲ出願セサルトキハ當該林區署長ハ相當ノ期間ヲ定メテ其ノ出願ヲ催告スヘシ

第四十一條 國有林野產物賣拂規則第五十七條ノ規定ハ賣拂豫約ニ之ヲ準用ス但シ公用又ハ公益事業ニ供スル爲ナルトキハ當該林區署長ハ起  
業者ヲシテ直接ノ開墾費用ヲ補償セシムヘシ

第四十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當該林區署長ハ賣拂豫約ヲ解除スルコトヲ得  
一、開墾者第三十七條ノ規定ニ違反シ又ハ第三十八條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミタルトキ

二、當該林區署長ニ於テ開墾事業成功ノ見込ナシト認メタルトキ

三、第四十條ノ規定ニ依リ催告ヲ受ケタル者其ノ期間内ニ出願セザルトキ

成功期限ニ至リ一部不成功地アルトキハ當該林區署長ハ其ノ部分ニ對シ契約ヲ解除スルコトヲ得

國有林野產物賣拂規則第五十五條ノ規定ハ第一項第一號、第二號及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ前項ニ依リ一部解除ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ  
面積ノ事業方法ニ定メタル總面積ノ三分ノ一未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ賣拂豫約ヲ解除シタルトキハ開墾者ハ開墾ニ關スル一切ノ費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 開墾者賣拂豫約地上ノ產物ヲ買受ケタル場合ニ於テ國有林野產物賣拂規則第五十三條ノ規定ニ依リ其ノ產物賣拂契約ヲ解除セ  
タルトキハ賣拂豫約モ共ニ解除セラレタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ國有林野產物賣拂規則第五十五條第一項ノ規定ニ準用ス

第四十五條 條件附賣拂ニ關シテハ本章ノ規定ノ外第一章中代金、代金延納、引渡ノ時期、引渡以前ノ處分、林野ノ附帶義務ノ承継、目的物  
ノ錯誤又ハ瑕疵及契約ノ解除ニ關スル規定ニ從フ但シ第二十二條但書ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 條件附賣拂ヲ受ケタル開墾者第三十七條ノ規定ニ違反シ又ハ成功期限ニ至リ不成功地ヲ存スルトキハ違約金トシテ不成功地ノ面  
積ニ比例シタル土地代金ノ半額以内ノ金額ヲ徵收スルコトヲ得

第四十七條 第二十六條第二十七條第三十二條及第三十四條ノ規定ハ沖繩縣ノ林野ニ之ヲ適用セ

第三章 沖繩縣國有林野ノ特別處分

第四十八條 明治三十九年勅令第九十一號第一條ノ規定ニ依リ林野ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキハ當該林區署長ハ其ノ旨ヲ通告ス同一ノ林野  
ニ付同條各號ニ掲グル者アルトキハ第二號ニ掲グル者ヲ先ニス

林野ノ賣拂ト共ニ其ノ產物ノ讓與ヲ爲サムトスル場合ハ前項ノ通告ト同時ニ其ノ旨ヲ通告ス此ノ場合ニ於テ讓與ヲ受ケムトスル者ハ賣拂願  
書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

林野賣拂ノ願書ハ通告ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ受理セ

第二項ノ產物讓與ハ林野賣拂ノ契約成立セス又ハ其ノ契約ヲ解除シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第四十九條 第四條第六條第八條乃至第十條及第十七條乃至第二十二條ノ規定ハ前條ノ賣拂ニ之ヲ準用ス

第五十條 第十六條ノ規定ハ明治三十九年勅令第九十一號又ハ明治四十二年勅令第三百十八號ノ規定ニ依リ代金延納ヲ許可スル場合ニ之ヲ  
準用ス

第五十一條 第四十八條ノ通告ヲ爲スモ賣拂ヲ了セザルトキハ第一章ノ規定ヲ適用ス

第三編 國有林野ノ經營

第五十二條 本令ハ大正四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 第五十三條 本令施行前締結シタル契約ニ付テハ仍從前ノ規定ヲ適用ス  
 第五十四條 小笠原島及伊豆七島ノ國有林野ニ付テハ從前ノ例ニ依ル  
 第五十五條 不要存置國有林野賣拂規則、沖繩縣國有林野整理處分規則及國有林野法施行規則第三章第四章ノ規定ハ之ヲ廢止ス

不要存置國有林野整理處分手續 (大正四年七月二十九日 林第三七七四號內訓)

第一章 處分 調査

第一條 國有林野ノ要存置不要存置ノ區別ニ付テハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケシ  
 一、地籍及面積  
 二、區別ノ事由及國有林野經營上ノ關係  
 三、位置圖(特ニ其ノ必要ナシト認ムルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得)  
 四、其ノ他必要ト認メタル事項  
 第二條 不要存置國有林野ニ付テハ左ノ事項ヲ調査スヘシ  
 一、面積、價額並其ノ產物ノ材積又ハ數量及價額  
 二、國有林野法第八條第三號、第四號、第六號若ハ第七號又ハ明治三十九年勅令第九十一號第一條第一項ニ該當スル事項  
 三、附帶義務ノ有無  
 四、國土保安又ハ治水上ノ關係  
 五、其ノ他處分ニ付必要ト認メタル事項  
 第三條 前條ノ調査ハ境界ニ關シ紛議ヲ生スルノ虞アルモノニ付テハ國有林野法ノ規定ニ依ル查定ヲ施行シタル上之ヲ爲スヘシ  
 第四條 面積ノ調査ハ實測ニ依ルヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ實測ヲ省略スルコトヲ得  
 一、一町歩以下ノ林野ト認メタルトキ  
 二、三町歩以下ト認メタル林野ニシテ改租地押調査圖社寺境内外區別圖、貸付又ハ使用許可ノ際作製シタル圖面其ノ他ノ公圖力實地ト大差ナシト認メタルトキ

前項第一號ノ林野ト認メタル價格優位ナルモノト認メタルトキハ實測ヲ爲スヘシ

第五條 材積ノ算定ハ用材ニ在リテハ毎木調査ニ依リ薪炭材ニ在リテハ林相ニ應ジテ標準地調査又ハ毎木調査ニ依ルヘシ  
 部分林ノ官收分ノ材積ハ全林ノ材積ヲ調査シテ之ヲ算定スヘシ  
 竹又ハ幼樹ニ在リテハ本數ニ依リ數量ヲ算定シ材積ノ算定ヲ省略スルコトヲ得、果樹、茶、橘、三椏、漆等林業ニ屬セサル樹種又ハ建築材料其ノ他特殊ノ目的ニ供セラルヘキ土石類ニ在リテハ適宜ノ方法ニ依リ數量ヲ算定スヘシ  
 第六條 林野ノ價格ハ其ノ地方ニ於ケル既往ノ賣拂價格、民間ノ賣買價格、交通運搬ノ便否、希望ノ厚薄及土地ニ在リテハ地質、地形、產物ニ在リテハ品質、市場價格等ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ但シ人工植栽ノ幼樹林ニシテ其立木未タ利用價格ヲ生セサルモノニ在リテハ費用價ヲ計算シ現況ヲ參酌シテ立木ノ價格ト爲スヘシ費用價ノ計算ニ用ウヘキ利率ハ年四分トス  
 第七條 藁草、芻、下草又ハ葦等連年生產ノ副產物アル土地ハ前條ノ外同一狀況ノ類地ノ時價ヲ標準トシ又ハ連年ノ收利ヲ參酌シテ其ノ價格ヲ定ムヘシ  
 第八條 保安林ノ價格ハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リ定メタル價格ニ對シ施業方法ヲ參酌シテ相當ノ割引ヲ爲シ之ヲ定ムヘシ  
 第九條 開墾地又ハ植樹地ノ價格ノ算定ハ素地價格及現地價格ヲ區別シテ之ヲ爲スヘシ但シ植樹地ニシテ著シク地價ノ變動ヲ生セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 第十條 境界、面積、材積、數量其ノ他實地ニ於テ調査シタル事項ハ野帳ニ之ヲ記載スヘシ  
 野帳ハ處分調査書ト共ニ之ヲ保存スヘシ  
 第十一條 處分調査ヲ爲シタルトキハ林野一箇所毎ニ處分調査書及實測圖又ハ見取圖ヲ調製スヘシ  
 第十二條 第一項第二號ノ規定ニ依リ實測ヲ省略シタル場合ニ於テハ其ノ公圖ヲ實測圖ニ代用スヘシ  
 第十三條 處分調査書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
 一、林野ノ地籍  
 二、面積面積、實測面積又ハ見込面積及土地ノ價額  
 三、產物ノ種類、材積又ハ數量及其ノ價額  
 四、地質、地形、產物ノ品質、交通運搬ノ便否及希望ノ厚薄  
 五、保安關係(保安林ニ付テハ其ノ種類、價格割引ノ歩合、伐採方法並使用收益ノ制限又ハ禁止及造林指定ニ關スル事項)  
 六、治水關係

第三編 國有林、野ノ經營



- 七、委託林野ニ付テハ受託者及委託年限
- 八、保管林ニ付テハ保管社寺及保管年限
- 九、產物年期賣拂中ノ林野ニ付テハ其ノ期間及權利者
- 十、國有林野法第八條第三號乃至第七號ノ一ニ該當スルモノナルトキハ其ノ該當ノ事項
- 十一、貸付又ハ使用中ノ林野ニ付テハ借地者及其ノ貸借關係又ハ使用者及其ノ使用關係ノ要領
- 十二、類地既往ノ賣拂價格及民間ノ賣買價格
- 十三、價額算定ノ理由
- 十四、其ノ他賣拂上必要ト認メタル事項
- 第十三條 處分調査ニ依リ決定シタル價額ヲ以テ賣拂ノ豫定價額ト爲スヘシ  
實測面積十町步(沖繩縣ノ國有林野ニ付テハ五十町步)又ハ價額千圓ヲ超ユルモノノ價額ノ決定ニ付テハ前條第一號乃至第五號第十二號及第十三號ニ掲ケル事項(臺帳面積ヲ除ク)ノ要領ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
前項ノ場合ニ於テ面積五十町步以上ニシテ原野狀ヲ爲セル林野ニ付テハ別件トシテ進達スヘシ
- 第十四條 處分調査ヲ爲シタル林野ニシテ保安ニ關係ナク有スト認メタルモノニ付テハ府縣知事ニ協議シ保安林ニ編入ノ後其ノ價額ヲ決定スヘシ
- 第十五條 府縣知事ニ於テ保安林調査ヲ了セサル保安林ニ付テハ其ノ調査施行ノ後ニ非サレハ賣拂ヲ爲スコトヲ得ス  
賣拂處分ノ必要ニ依リ府縣知事ノ調査ヲ待ツノ暇ナキトキハ大林區署長ニ於テ調査ヲ爲シ調査書ヲ府縣知事ニ送付シテ其ノ調査ニ便スヘシ
- 第十六條 豫定價額決定後其ノ三割ヲ超ユル減額ヲ爲サムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ大林區署長限リ決定シタル價額若ハ競爭入札ノ方法ニ依ルモ賣拂ヲ了セサル林野ノ價額ノ減額ヲ爲シ又ハ單價ニ異動ナクシテ面積又ハ產物ノ減少ニ伴ヒ減額ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第二章 賣拂及賣拂豫約

第一節 總 則

- 第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル林野ヲ處分セムトスルトキハ內務省直轄ノ河川改修區域ニ屬スルモノニ在リテハ內務省土木局長ニ其ノ他ノモノニ在リテハ府縣知事ニ支障ノ有無ヲ照合スヘシ
- 一、河岸ニ存在スルモノ

- 二、河川敷又ハ護岸敷ニ組替ヲ要スト認メタルモノ
- 第十八條 名勝舊跡ノ保存ニ關係アル林野ヲ處分セムトスルトキハ府縣知事ニ、御獵場内ニ存在スル林野ヲ處分セムトスルトキハ宮内省主權局長ニ支障ノ有無ヲ照合スヘシ
- 第十九條 揭示又ハ通告ノ後訴訟紛議又ハ境内編入其ノ他ノ處分ヲ要スル事由發生シタルトキハ其ノ決定迄本章ノ處分ヲ見合ハスヘシ
- 第二十條 願書差出ノ期間ハ揭示ニ依ルモノハ三十日以内、通告ニ依ルモノハ二十日以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ必要ト認メタルトキハ適宜ニ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第二十一條 期間經過後ニ到達シタル願書ト雖其ノ期間内ニ發送シタルモノハ支障ナキ限リ之ヲ受理スヘシ
- 第二十二條 賣拂價額ハ豫定價額ヲ下ルコトヲ得ス
- 開墾地又ハ植樹地ヲ其ノ事業成功者ニ賣拂フトキハ素地價額ニ依リ其ノ他ノ者ニ賣拂フトキハ現地價額ニ依ル
- 第二十三條 通告シタル林野ニシテ賣拂ヲ了セサルトキハ更ニ賣拂ノ揭示ヲ爲スヘシ  
揭示シタル林野ニシテ處分ヲ了セサル場合ニ於テ希望者アリト認メタルトキハ更ニ揭示ヲ爲スコトヲ得
- 豫定價額ヲ低減シタルトキハ更ニ揭示又ハ通告ヲ爲スコトヲ得
- 第二十四條 出願價額豫定價額ニ達セサルトキハ増價セシムヘシ  
出願價額豫定價額以上ナルトキト雖他ニ高價ノ競願アルトキハ其ノ價額迄増價セシムヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ相當ノ増價ニ止ムヘシ
- 一、林野ニ對スル緣故又ハ關係特ニ重大ニシテ競願價額迄増價セシムルチ妥當ナラスト認メタルトキ
- 二、競願價額不相當ノ高價ナリト認メタルトキ
- 出願者増價セサルトキハ不許可ノ處分ヲ爲スヘシ
- 第二十五條 一旦受理シタル願書ノ價額ハ前條ノ規定ニ依リ増價セシムル場合ノ外之ヲ増減セシムルコトヲ得ス
- 第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ必要ニ應ジ賣拂價額ノ最小限ヲ指示スルコトヲ得
- 一、出願價額ヲ増價セシムルトキ
- 二、明治二十三年勅令第九十三號ノ規定ニ依リ賣拂ヲ爲ストキ
- 第二十七條 隨意契約ニ依ル處分ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ契約保證金ヲ徵收セサルコトヲ得
- 一、官衙又ハ公共團體ニ對シ處分ヲ爲ストキ

第三編 國有林野ノ經營

二、代金三百圓ヲ超エス又ハ即時ニ代金ヲ納付スルトキ

三、賣拂豫約ニ基キ賣拂フトキ

第二十八條 賣拂ヲ爲シタル林野ニ附帶義務アルトキハ賣拂後直ニ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ

第二十九條 林野ノ賣拂ヲ爲シタルトキハ之ヲ稅務署ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ林野ノ實測圖アルトキハ之ヲ其ノ通知書ニ添附スヘシ

第三十條 國有林野產物賣拂手續第三十三條、第三十四條及第四十五條第一號ノ規定ハ林野ノ處分ニ之ヲ準用ス

第二節 賣 拂

第三十一條 林野賣拂ノ揭示又ハ通告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

一、地籍及面積

二、產物アルトキハ其ノ種類及材積又ハ數量

三、部分林ナルトキハ其ノ存續期間及官收部合

四、保安林ナルトキハ其ノ種類、伐採方法並使用收益ノ制限又ハ禁止及造林指定ニ關スル事項

五、附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領

六、願書差出ノ期限及場所

七、其ノ他必要ト認メタル事項

第三十二條 民有地、道路、河川等ニ介在スル不要存置國有林野ニシテ其ノ一小部ヲ要存置國有林野ニ接續スルモノニ付テハ國有林野法第八條第五號ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第三十三條 保安關係若無又ハ僅微ナル保安林ハ府縣知事ノ協議ヲ爲シ解除ノ上之ヲ賣拂フヘシ

保安關係狭少ニシテ國有ト爲シ置クノ必要ナク利害關係者ニ於テ經營能力十分ナリト認ムル保安林ハ其ノ利害關係者ニ之ヲ賣拂フヘシ但シ

一箇所トシテハ保安關係狭少ナリトスルモ海岸林ノ如キ斷續的ニ點在スルモノニ付テハ全體ヲ通シテ保安關係ノ範圍ヲ稽查スヘシ

前項ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキハ保安林ノ解否ニ關スル府縣知事ノ意見ヲ添ヘ山林局長ニ協議スヘシ

第一項及第二項ノ規定ニ該當セザル保安林ハ面積小ニシテ管理上不便ナルモノト雖モ存置ニ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ意見ヲ具シ農商大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一、公用又ハ公益事業ノ爲ニスル出願ヲ許セムトスルトキ但シ公署、公立學校、公立病院、鐵道若ハ軌道ノ敷地ニ充テラレ爲ニスル出願

又ハ市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、堤塘、溝渠、溜池、火葬場若ハ墓地ノ用ニ供スル爲ニスル出願ヲ許スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二、不要存置國有林野整理處分規則第三條第一項第一ニ掲グル出願競合セル場合ニ於テ之ヲ許セムトスルトキ

三、社寺上地林野其ノ社寺以外ニ賣拂フナ不穩當ト認メタル場合ニ於テ之ヲ處分セムトスルトキ

四、第二十四條第二項但書ノ規定ヲ適用セムトスルトキ

第三十五條 第三十一條及國有林野產物賣拂手續第二章ノ規定ハ林野ノ競争入札ニ之ヲ準用ス

第三十六條 競争入札ノ公告後其ノ林野ニ對シ社寺境内編入ノ出願アリト雖モ入札ノ之ヲ遂行スヘシ

第三十七條 保安林ヲ賣拂ヒタルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第三節 開墾條件トスル賣拂豫約及即時賣拂

第三十八條 一箇地ノ大部分開墾ニ適スル場合ニ於テ殘地ヲ分割シテ處分スルヲ不利ト認メタルトキハ其ノ全地ヲ開墾豫定地ト爲スヘシ

第三十九條 開墾豫定地ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ分割シ各一箇所トシテ揭示スルコトヲ得

一、面積廣濶ニシテ分割スルニ非サレハ事業ノ企畫ニ適當ナラズト認メタルトキ

二、行政區劃又ハ線故關係ニ依リ分割ヲ必要ト認メタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ一箇所面積十町歩以下ニ下ルコトヲ得

第四十條 開墾豫定地ノ揭示ニハ第三十一條第一號、第二號第五號及第六號ニ掲グル事項ノ外必要ト認メタル事項ヲ示スヘシ

開墾豫定地ノ立木ヲ別途ニ處分スルノ必要アリト認メタルトキハ其ノ伐採時期ヲ前條ノ揭示中ニ示スヘシ

第四十一條 立木ノ利用期數年後ニ到來スルモノニ在リテハ其ノ伐採時期ト開墾時期トヲ考量シテ適當ニ土地處分ノ時期ヲ定ムヘシ

一箇地中區劃ヲ分チ數次ニ伐採スル豫定ナルトキハ其ノ伐採ニ從ヒ順次開墾セシムル方法ヲ採ルコトヲ得

立木ヲ別途ニ處分スルノ必要ナキモノ又ハ開墾者ノ事業ニ附帶シテ必要ナルモノハ可成開墾者ニ之ヲ賣拂フヘシ

第四十二條 賣拂豫約ノ契約保證金ハ賣拂代金ノ百分ノ十トシ圓位未滿ハ圓位ニ切上クヘシ

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ意見ヲ具シ農商大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一、不要存置國有林野整理處分規則第三十四條第一項第一ニ該當スル出願競合セル場合ニ於テ之ヲ許セムトスルトキ

二、開墾計畫ニ關スル特別ノ事由ニ依リ不要存置國有林野整理處分規則第二十六條第二項但書ノ規定ヲ適用セムトスルトキ又ハ一箇所面積五十町歩ヲ超ユル賣拂豫約ノ出願ヲ許シ若ハ其ノ契約ヲ解除セムトスルトキ

第三、第二十四條第二項但書ノ規定ヲ適用セムトスルトキ

第四十四條 揭示ヲ爲シタル林野ニシテ處分ヲ了セズ相當期間ヲ經過スルモ仍開墾希望者ナシト認ムルモノハ林地トシテ存置スルヲ利便トス

第三編 國有林野ノ經營

レモノノ外第二節ニ規定シタル賣拂手續ヲ爲スヘシ

第四十五條 本節ノ規定ハ第四十二條ノ外沖繩縣ノ國有林野ニ之ヲ適用セス

第三章 雜 則

第四十六條 處分調査書、豫定價額又ハ出願價額ヲ記載シタル書類及願書ハ秘密ノ取扱ヲ爲スヘシ

第四十七條 左ノ事項ノ成績ハ一箇年度分ヲ取覽メ翌年度七月末日迄ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

一、處分調査

二、賣拂處分

三、開墾ノ條件トスル賣拂豫約及即時賣拂

報告様式ハ林務報告例ニ依ルヘシ

第四十八條 處分調査及處分ニ付テハ毎年四月末日迄ニ翌年度ニ施行スヘキ事業ノ分量ヲ豫定シ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

一、當該年度ノ始ニ於ケル不要存置國有林野現在見込ノ箇所、面積及價額(普通林野ト開墾豫定地トヲ區別シ尙處分調査ノ済未済ヲ區別スヘシ)

二、當該年度内ニ處分調査ヲ爲スヘキ箇所及面積(新規調査ト再調査トヲ區別スヘシ)

三、當該年度内ニ賣拂ヲ爲スヘキ箇所、面積及收入金額(收入金額ニ付テハ延納ニ依リ後年度ノ收入ニ屬スヘキ見込ノ分ヲ減シ前年度以前ノ延納ニ依リ當該年度ノ收入ニ屬スヘキ分ヲ加フヘシ)

四、所要判任官及雇ノ人員(處分調査ト賣拂處分トヲ區別スヘシ)

第四十九條 不要存置國有林野ノ產物ヲ土地ト分離シテ賣拂フ場合ニ於テ其ノ產物ノ代金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外之ヲ森林資金ノ歳入ニ測定スヘシ

一、毎年適當ノ材積ヲ伐採スルニ非サレハ林相ヲ荒廢スルノ虞アル場合ニ於テ之ヲ防止スル爲メ伐採スル立木竹ノ賣拂代金

二、手入間伐ノ爲メ伐採スル立木竹ノ賣拂代金

三、林野ノ賣買ヲ爲サス且其ノ價格ニ著シキ變動ヲ生セサル副產物ノ賣拂代金

第五十條 國有林野法第二條但書ノ規定ニ依リ要存置國有林野ヲ賣拂フ場合ニ於テハ不要存置國有林野整理處分規則第五條第一號ニ掲グルモノニ適用スル規定ニ準ジ之ヲ取扱フヘシ

前項ノ規定ニ依リ賣拂ノ出願ヲ許否セムトスルトキハ意見ヲ具シ農務商大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

第五十一條 本手續ハ大正四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條 左ノ規定ハ之ヲ廢止ス

一、國有林野處分調査規程

一、沖繩縣國有林野整理處分調査規程

一、不要存置國有林野賣拂取扱手續

一、國有林野部分林規則、社寺保管林規則、國有林野委託規則及國有林野法施行規則ニ依ル事務取扱手續中國有林野ノ賣拂又ハ賣拂豫約ニ關スル規定

一、明治三十八年四月林發第百二十五號内訓

一、明治三十八年六月林發第百八十五號達

一、明治三十九年十一月林發第百三十二號内訓

一、明治三十九年十一月林發第百三十三號内訓

不要存置林野ニ決定シ處分調査ヲ終了シタルモノノ賣拂處分ニ關シテハ專ラ國有林野法第八條第九條ニ基キ同法施行規則ニ依リ施行セルモ尙細目ニ互リテ規定スルノ必要ヲ認メ三十二年八月不要存置國有林野賣拂規則ヲ左ノ如ク定メタリ

不要存置國有林野賣拂規則 (明治三十二年八月 省令第二十七號)

第一條 不要存置國有林野ノ賣拂ニハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外明治三十二年八月農商務省令第二十六號國有林野及產物賣拂規則ヲ適用ス

第二條 不要存置林野ヲ賣拂ハントスルトキハ左ノ事項ヲ其ノ林野ノ屬スル大小林區署、林野整理支局並其ノ出張所、郡市役所及町村役場ニ揭示スヘシ

一、林野ノ所在、字及面積

第三編 國有林野ノ經營

- 二、産物ノ種類及材積又ハ數量
  - 三、特賣願書差出ノ期間及場所
  - 四、林野ニ附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領
  - 五、保安林ナルトキハ其ノ種類
  - 六、其ノ他必要ト認ムル事項
- 第三條 特賣願書ノ差出期間ハ三十日以上六十日以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第四條 林野ヲ買受ケタル者ハ其ノ林野ノ附帶義務ヲ承繼スルモノトス
- 第五條 國有林野法第八條ニ掲ケタル事由ニ因リ特賣ヲ出願セントスル者ハ必ラス書留郵便ヲ以テ願書ヲ差出スヘシ
- 第六條 願書ニハ特賣ヲ受ケル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但シ實測圖ハ之ヲ添附スルヲ要セス
- 第七條 國有林野法第八條第三號及第三號ニ掲ケタル事由ニ因リ特賣ヲ出願セントスル者ハ其ノ願書ニ林野ノ保護及施業ノ方法書ヲ添附スヘシ
- 第八條 林野整理支局長必要ト認ムルトキハ出願者ニ質問シ又ハ其ノ出願ヲ命スヘシ
- 第九條 林野整理支局長特賣ノ事由ナシト認ムルトキ又ハ出願者正當ノ理由ナクシテ前條ノ命令ニ應セザルトキハ其願書ヲ却下スヘシ
- 第十條 左ニ掲ケタル者ニハ他ノ出願者ニ先チテ調査價格以上ニテ特賣ヲ爲スコトヲ得
- 一、公用又ハ公益事業ノ爲出願スル者
  - 二、社寺上地ノ森林ニ在リテハ其ノ社寺
  - 三、部分林ニ在リテハ其ノ分收ノ權利ヲ有スル者
  - 四、官地民木ノ森林ニ在リテハ其ノ樹木ノ所有者
  - 五、道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ニ在リテハ其ノ借地人
  - 六、國有林野法施行以前ニ開墾牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ事業ヲ成功シタル者
- 前項ニ掲ケタル者同一ノ林野ニ對シテ特賣ヲ出願シタルトキハ農商務大臣各出願者ニ對スル特賣ノ順位及區域ヲ定ム
- 第十一條 賣拂ハントスル林野ニ付前條第一項ニ掲ケタル者出願セス又ハ其ノ者ニ特賣ヲ許可セザル場合ニ於テ其ノ林野ニ對スル出願競合ス

ルトキハ調査價格以上ニ於ケル出願代金ノ額ニ依リテ特賣ノ順位ヲ定ム

第十二條 左ノ場合ニ於テハ公賣ナ行フヘシ

一、願書ノ差出期間内ニ特賣ヲ出願スル者ナキトキ

二、特賣ノ出願ヲ許可セザルトキ

三、契約ノ解除ヲ爲シタルトキ

四、契約其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

第十三條 公賣ノ公告ニハ國有林野及産物賣拂規則第十二條ニ掲ケタル事項ノ外第二條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第十四條 賣拂物件ノ引渡ハ小林區署長又ハ小林區署長ノ命シタル小林區署員之ヲ爲スヘシ

同月更ニ實施上ニ關スル注意ヲ左ノ通り内訓セリ

三十二年八月整第二八四號内訓

- 第一條 下展申請中ニ係ル林野ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
- 第二條 林野ノ交換ハ當分ニ見合ハスヘシ但シ既ニ經何ノ上交換調査中ニ係ルモノ竝公用又ハ公益事業ノ爲ニスルモノハ此ノ限ニアラス
- 第三條 林野ノ賣拂豫約ハ當分ニ見合ハスヘシ但シ年來ノ出願ニ係ルモノニシテ已ムコトヲ得サル事情アルモノハ此ノ限ニアラス
- 第四條 林野ニ附帶義務アルトキハ賣拂ノ前可成之ヲ解除スヘシ
- 第五條 附帶義務アル林野ヲ賣拂フトキハ買受人ニ其ノ義務ヲ承繼セシムヘキ旨及其ノ買受人ノ氏名、住所ヲ權利者ニ通知スヘシ
- 第六條 一箇所ノ林野ハ分割シテ之ヲ賣拂フヘカラス但シ林野ノ一部ニ對シテノミ特賣ノ出願者アルヘシト認メ又ハ特賣ノ出願競合スヘシト認ムル場合ニ於テ僅メ林野ヲ分割シテ之ヲ賣拂フコトヲ便トスルトキハ此ノ限ニアラス
- 第七條 左ノ場合ニ於テハ林野整理支局長ハ必要ナル調査ヲ爲シ意見ヲ詳具シテ經伺スヘシ
- 一、公用又ハ公益事業ノ爲出願スル者アリタルトキ
  - 二、不要存置林野賣拂規則第十條ニ掲ケタル先買者ノ出願競合スルトキ
  - 三、特賣出願者ノ資格又ハ特賣ノ事由明瞭ナラサルトキ
- 第八條 處分調査後産物ノ材積又ハ數量減少シタルトキハ林野整理支局長ハ調査價格ノ標準ニ依リ更ニ調査價格ヲ定ムルコトヲ得

第九條 不要存置國有林野賣拂規則第十條ニ掲ケタル先買者ノ出願代金調査價格以下ナルモノハ林野整理支局長ハ增價ヲ命スヘシ  
出願者增價ヲ承諾セザルトキハ其ノ願書ヲ却下スヘシ

第十條 林野整理支局長ハ調査價格以上ニ於テ公賣ノ預定價格ヲ定ムヘシ但シ處分調査後土地又ハ產物ノ價格著シク低落シタルトキハ調査價格ノ一割以内ノ低價ニ預定價格ヲ定ムルコトヲ得  
豫定價格ハ林野整理支局長之ヲ封書トシ契約擔任官吏ニ交付スヘシ

第十一條 要存置不要存置林野區別表、其ノ區別總括表、不要存置林野調査書、其ノ總括表、調査價格又ハ出願價格ヲ記載セル書類及特賣書類ハ特ニ秘密ノ取扱ヲ爲スヘシ

賣拂規程ハ三十三年六月一日省令第十號同月十一日省令第十三號三十五年十二月省令第二五號三十六年十月省令第九號等ヲ以テ改正セラレ三十八年十二月終ニ其ノ全部ニ互リテ大改正ヲ爲シ別ニ不要存置國有林野賣拂取扱手續ヲ定メ從來ノ賣拂規則及不要存置林野ノ處分ニ關スル三十二年八月整第二八四號內訓ヲ廢止(第二條及第三條ヲ除ク)セリ

不要存置國有林野賣拂規則 (明治三十八年十二月 省令第三十三號)

第一條 不要存置國有林野賣拂ハムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一、地籍及面積
- 二、願書差出ノ期間及場所
- 三、產物アルトキハ其ノ種類、及數量
- 四、部分林ナルトキハ其ノ存置期間及分收割合
- 五、保安林ナルトキハ其ノ種類
- 六、附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領
- 七、其ノ他必要ト認ムル事項

公告ハ官報ニ掲載シ並林野ノ屬スル大小林區署、郡市役所、町村役場ニ揭示スルコトニ依リテ之ヲ爲ス

第二條 國有林野法第八條第一號、第三號、第四號、第六號及第七號ノ場合ニ於テ不要存置國有林野賣拂ハムトスルトキ又ハ同條第五號

場合ニ於テ不要存置國有林野賣拂ハムトスルトキハ各當事者ニ前條各號ニ掲ケタル事項ヲ通告シテ公告ニ代フレコトヲ得

第三條 前二條ノ規定ハ賣拂後約ニ基キ又ハ公用若クハ公益事業ノ爲メ不要存置國有林野賣拂ハムトスル場合ニハ之ヲ適用セザルコトヲ得

第四條 第二條ニ依リ通告ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ國有林野法第八條第二條ニ依リ賣拂ノ出願ヲ爲サシムル爲メ其ノ林野ノ屬スル市町村長ニ通告ヲ爲スコトヲ得

- 一、願書ノ差出期間内ニ願書ヲ差出サザルトキ
- 二、賣拂ノ許可ヲ得ザルトキ
- 三、賣拂許可ノ取消ヲ受ケタルトキ
- 四、賣買契約ノ解除アリタルトキ

第五條 不要存置國有林野ノ賣拂願書ハ別紙書式ニ準シテ之ヲ作ルヘシ

第六條 左ニ掲ケタル者ニハ他ノ出願者ニ先チ賣拂ヲ爲スコトヲ得

- 一、公用又ハ公益事業ノ爲メ出願スル者
- 二、社寺土地ノ森林ニ在リテハ其ノ社寺
- 三、國有林野法施行規則第七條ノ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ緣故者
- 四、道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ借地人
- 五、國有林野法施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲メ貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ事業ヲ成功シタル者
- 六、市町村ノ基本財産ニ充ツル爲ニスルモノハ其ノ林野ノ屬スル市町村、公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲ニスルモノハ其ノ林野ノ屬スル市町村、町村學校組合若クハ其ノ區
- 七、民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ニ在リテハ其ノ接續地ノ所有者

第七條 同一ノ林野ニ對シ二人以上ノ出願者アルトキハ農商務大臣ハ各出願者ニ對スル賣拂ノ順位及區域ヲ定ム

第八條 不要存置國有林野賣拂ノ方法ニ依リ賣拂ヒタル場合ニ於テハ落札者ハ當該官廳ノ指定シタル期間内ニ賣買契約ヲ締結スヘシ  
前項賣買契約ニ關シテハ國有林野法施行規則第七條ノ五乃至第七條ノ八ノ規定ヲ適用ス

第九條 本則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(書式省略)

不要存置國有林野賣拂取扱手續

(明治三十八年十二月 林發第三五九號內訓)

- 第一條 不要存置國有林野ニシテ訴訟下展申請又ハ社寺境内編入出願申ニ係ルモノハ賣拂ヲ爲スヘカラス
- 第二條 國地ヲ爲ス不要存置國有林野ハ左ノ場合ノ一ニ該當スルニ非サレハ分割シテ賣拂ヲ爲スヘカラス
  - 一、分割シテ賣拂フナ利益ナリト認メタルトキ
  - 二、林野ノ一ニ對シテ不要存置國有林野賣拂規則第六條第一號乃至第五號ノ先買資格者アルカ爲分割シテ賣拂ヲ爲スノ必要アルトキ
- 前項各號ニ依リ分割シテ賣拂フ場合ニ在リテハ林野ノ利用ヲ害セサル様注意スヘシ
- 第三條 賣拂上利益アリ又ハ已ムヲ得サルノ事由アルニ非サレハ土地下其ノ產物トナ區別シテ賣拂ヲ爲スヘカラス
- 第四條 附帶義務アルトキハ可成賣拂前ニ於テ之ヲ解除スヘシ
- 第五條 賣拂豫約ニ基テ事業成功地ノ賣拂出願ハ何時ニテモ之ヲ受理シ直ニ處分スヘシ
- 公用又ハ公益事業ノ爲ニスル賣拂出願モ亦之ヲ受理シ直ニ處分スヘシ
- 又ハ通告ノ後本手續第二十一條第一號第一號ニ依リ直ニ之ヲ處分スヘシ
- 第六條 不要存置國有林野賣拂規則第一條ニ因ル願書差出ノ期間ハ三十日以内、同規則第二條ニ因ル願書ノ期間ハ二十日以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第七條 公告ニハ林野及產物ノ狀況、交通ノ便否、利用ノ適否等拂受ノ希望ヲ惹起スルニ資スヘキ事項竝本手續第九條ノ施行上必要ナル事項ヲ便宜添加スヘシ
- 第八條 公告ヲ爲シタル林野ニ付不要存置國有林野賣拂規則第六條第一號乃至第五號ニ掲グル先買資格者アルコト明カナルトキハ可成其ノ資格者ニ公告ヲ爲シタル旨ヲ通知シ出願ノ誘導ヲ計ルヘシ
- 第九條 不要存置國有林野賣拂規則第一條ニ因ル賣拂願書ヲ受ケタルトキハ其ノ封皮ニ到達ノ月日、受付簿ニ到達ノ月日及差出人ノ氏名ヲ記載シ封ノ儘嚴密ニ保管シ差出期間ヲ經過シタル後一時ニ之ヲ開披スヘシ
- 第十條 公告ニ因ル願書ノ差出期間ニ到達セサル願書ト雖其ノ期間内ニ發送シタルモノハ之ヲ受理スルコトヲ得
- 第十一條 賣拂ノ順位ハ不要存置國有林野賣拂規則第六條第一號乃至第五號ニ掲グル者ハ同規則第六號及第七號ニ掲グル者ニ先シ第七號ニ掲グル者ハ一町步(實測)見込共以下之ニ同シ)未滿ノ林野ニ係ルトキニ限リ第六號ニ掲グル者ニ先シ其ノ他ノ林野ニ係ルトキハ第六號ニ掲グル者ニ後ルモノトス

第十二條 同順位ノ出願競合シタルトキハ出願代金ノ額ニ依リテ賣拂ノ順位ヲ定ムヘシ

但不要存置國有林野賣拂規則第六條第一號乃至第五號ニ掲グル者ノ出願競合ニ付テハ本手續第二十一條ニ據ルヘシ

第十三條 不要存置國有林野賣拂規則第六條第一號乃至第五號ニ掲グル先買資格者明確ニシテ且競争ナシト認ムルトキハ可成其ノ資格者ニ通告ヲ爲スヘシ

前項資格者ナキトキ又ハ其ノ資格者アルモ出願ヲ爲サス若ハ其ノ資格者ニ賣拂ヲ爲ササルトキハ一町步未滿ノ林野ニ限リ不要存置國有林野賣拂規則第六條第七號ニ掲グル先買資格者ニ通告ヲ爲スコトヲ得

第十四條 通告ニ因ル願書ノ差出期間ヲ經過シタル後ト雖競争契約ニ依リ賣拂ノ公告ヲ爲ササル前ニ到達シタル願書ハ之ヲ受理スヘシ

第十五條 出願者正買ニ賣買契約ヲ遂行スヘシト認メ難キトキハ其ノ願書ヲ却下スルコトヲ得

第十六條 不要存置國有林野ハ調査價格以上ニ非サレハ之カ賣拂ヲ爲スヘカラス

出願代金調査價格ニ達セサルトキハ本手續第十一條ニ據ル賣拂ノ順位又ハ出願代金額ノ順序ニ從ヒ增價ヲ命スルコトヲ得(第三項略掲載)

第十七條 不要存置國有林野ノ處分調査ヲ爲シタル後面積又ハ產物ノ數量減少シタルトキハ調査價格ノ標準ニ依リ更ニ調査價格ヲ定ムヘシ

調査價格決定ノ後時價ニ變動ヲ生シタルトキハ經何ヲ要セス其ノ價格ヲ増減スルコトヲ得但減額三割ヲ超スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 前條ニ依リ處分調査價格ヲ低減シタルトキハ更ニ通告又ハ揭示ノ手續ニ依リ賣拂ヲ爲スコトヲ得

第十九條 隨意契約ニ依リ賣拂ヲ了セサル林野ハ競争入札ノ方法ニ依リ之ヲ賣拂フヘシ

前項賣拂ニ關スル豫定價格ハ調査價格ヲ下ラサル額ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

本手續第七條ノ規定ハ第一項賣拂競争ノ公告ニ之ヲ準用スヘシ

第二十條 賣拂ヲ了シタル林野ニ附帶義務アルトキハ賣拂後直ニ權利者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ必要ナル調査ヲ爲シ意見ヲ具シ經何スヘシ

- 一、公用又ハ公益事業ノ爲ニスル出願ヲ許否セムトスルトキ
- 二、本手續第十二條但書ノ競合セル出願ヲ許否セムトスルトキ
- 三、社寺上地林ナリ其社寺以外ニ賣拂フチ不穩當ナリト認メタルトキ
- 四、賣拂處分上疑義アルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル調査書ヲ差出スヘシ

- 一、社格、寺格(本山末寺ノ區別等)

第三編 國有林野ノ經營

- 二、氏子、檀徒、信徒ノ概數
- 三、由緒アル社寺ニ在リテハ其ノ由緒ノ概略
- 四、上地林ト社寺風致トノ關係ノ概要
- 五、社寺及上地林ノ位置
- 六、社寺境内ノ廣狹
- 七、社寺ニ於テ拂受ヲ爲サザリシ事由
- 八、社寺ノ財産狀態
- 九、其ノ他必要ト認ムル事由

第二十二條 第十七條ニ依リ調査價格ヲ更訂變更シタルトキハ山林局長ノ定ムル様式ニ從ヒ毎月一週報告スヘシ

第二十三條 不要存置國有林野ノ處分調査書其ノ總括表、調査價格又ハ出願價格ヲ記載シタル書及賣拂願書ハ特ニ秘密ノ取扱ヲ爲スヘシ

附 則

第二十四條 明治三十二年八月整第二八四號不要存置林野ノ處分ニ關スル内訓ハ第二條及第三條ヲ除クノ外之ヲ廢止ス

右兩規程ハ爾後再三小改正ヲナシ大正四年七月整理處分規則及同手續ノ制定ト同時ニ之ヲ廢止セラレタリ  
 不要存置保安林ノ賣拂ニ就テハ一般ノ規程ニ依ル能ハサルヲ以テ明治三十二年十二月整第九六九號内訓ヲ發シ左記標準ニ依リ施業禁止又ハ施業制限ノ程度ヲ參酌シテ其ノ調査價格ヲ定メシムルコトトセリ

- 一、伐木ヲ禁止スヘキ林及高度ノ制限ヲナスヘキ林（凡普通ノ伐採量ニ對シ二割以内ノ伐採ヲ爲シ得ヘキモノ）ハ
  - 普通林價格ノ五割引
- 二、中度ノ制限ヲナスヘキ林（凡普通伐採量ニ對シ五割以内ノ伐採ヲ爲シ得ヘキモノ）ハ
  - 普通林價格ノ四割引
- 三、低度ノ制限ヲナスヘキ林（凡普通伐採量ニ對シ八割以内ノ伐採ヲ爲シ得ヘキモノ）ハ

普通林價格ノ三割引

然ルニ此ノ標準ヲ一律ニ適用スルハ却テ實際ニ適セサルコト多キヲ認メ三十八年四月林第百二十五號ヲ以テ之ヲ廢止シ單ニ施業禁止又ハ施業制限ノ程度ヲ參酌シテ調査價格ヲ定ムルコトニ改メ大正四年七月整理處分手續ヲ定ムルニ及ヒ更ニ之ヲ同手續ニ統一セリ

林野ノ賣拂豫約ハ林野法ノ認ムル所ナルモ三十二年八月整第二八四號内訓ニ依リ一時停止方針ヲ取り來リタリ然ルニ桑園開墾ノ獎勵ニ基キ從來ノ方針ヲ緩和スルノ必要ヲ認メ三十九年十一月林發第三百三十二號ヲ以テ左記内訓ヲ發シ主トシテ桑園開墾ノ爲メ賣拂豫約ノ途ヲ開キ同時ニ林區署事務ノ制限ニ關シ林發第三百三十三號内訓ヲ發シテ三十二年八月整第二八四號ノ内訓ヲ廢止セリ

明治三十九年十一月林發第三百三十二號内訓

國有林野ノ賣拂豫約ハ左記ノ條項ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

- 第一條 不要存置國有林野ニシテ左記ノ各號ノ一ニ該當セサルモノハ賣拂豫約ヲ許可スルコトヲ得
  - 一、開墾カ國土保安ニ關係ヲ及ホスノ虞アルモノ
  - 二、現ニ生長ノ見込アル未成樹林ニシテ之ヲ開墾スルハ經濟上不利ト認ムルモノ
  - 三、價格優位ノ產物アル林野ニシテ其ノ產物處分前ニ係ルモノ
  - 四、社寺上地林又ハ部分林ニ屬スルモノ但シ其ノ社寺又ハ分收權利者ニ於テ拂受ヲ希望セス又ハ賣拂豫約ヲ承諾シタルモノヲ除ク
  - 五、其ノ他地元ノ關係又ハ特別ノ事由ニ依リ賣拂豫約ヲ不穩當ト認ムルモノ
- 第二條 一園地ノ林野ハ實地ノ狀況上止ムヲ得サル場合又ハ開墾事業上必要アル場合ニ於テ分割シテ賣拂豫約ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 賣拂豫約ハ其ノ事業ノ成功確實ナリト認ムル者ニ之ヲ許可スヘシ
- 第四條 開墾成功ノ期限ハ明治四十六年迄ニ滿了スルノ期間ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第五條 開墾成功ノ期限ハ其ノ延期ヲ許ササルモノトス

前項ノ事項ハ豫約書ニ之ヲ記載スヘシ  
第六條 開墾地ノ面積大ナル場合ニ於テ防風林又ハ薪炭林ヲ設クルノ必要アルトキト雖其ノ林地ノ面積ハ豫約地總面積ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

實地ノ狀況ニ依リ前項ノ制限ニ依リ難キトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ  
第七條 二個以上ノ出願競合スルトキハ特別ノ事情アルモノヲ除クノ外出願代金ノ額ニ依リテ賣拂豫約ノ順位ヲ定ムヘシ

明治三十九年十一月林發第三百三十三號內訓

林區事務中左ニ掲グル事項ハ之ヲ見合ハスヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ見合ハセ難キモノアルトキハ事由ヲ具シ稟議スヘシ

- 一、林野交換ノコト但シ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除ク
- 二、既ニ經何ノ上交換調査中ニ係ルモノ
- 三、公用又ハ公益事業ノ爲ニスルモノ
- 四、林道、苗圃、製材場、貯木場等森林附屬地ノ設定ニ關シ交換ニ依ルニ非サレハ其ノ目的ヲ達シ難キモノ
- 五、國有林野ニ介在シ之ヲ國有林野ニ併合スルニアラサレハ作業ヲ爲シ難キ民有地ニシテ交換ニ依ルニ非サレハ其ノ目的ヲ達シ難キモノ
- 六、林道、製材場、貯木場又ハ土場貸付ノコト
- 七、不要存置林野ノ年期貸付、年期使用又ハ其ノ年期繼ノコト但シ該林野賣拂處分ノ際政府ニ於テ契約ヲ解除シ得ヘキ條件ヲ附シタルモノヲ除ク
- 八、不要存置林野ノ主產物年期賣拂ノコト
- 九、不要存置林野ノ副產物年期賣拂ノコト但シ該林野賣拂處分ノ際政府ニ於テ契約ヲ解除シ得ヘキ條件ヲ附シタルモノヲ除ク

明治三十二年四月林發第四四號特別經營事業實施ニ付國有林野ニ關スル事務取扱心得及明治三十二年八月整發第二八四號不要存置林野ノ處分ニ關スル內訓ハ之ヲ廢止ス

備考 大正四年七月不要存置國有林野整理處分手續制定ト同時ニ前記兩內訓ヲ廢止シ關係事項ヲ同手續ニ統一セリ

四十年十月林發第三百二十二號ヲ以テ漆畑ノ爲メニスル開墾ニ付テモ桑園同權賣拂豫約ヲ許可シ差支ナキ旨通牒セリ然ルニ此ノ開放ニ依リ徒ニ之カ出願ヲ増加シ整理處分上ノ障礙ヲ爲スノミナラス弊害モ尠ナカラサ

ルヲ認メ四十二年五月通牒ヲ發シテ之ニ關スル取扱方ヲ指示セリ沖繩縣下ノ林野ハ之カ整理ニ著手セラレタ  
ル年月内地ニ比シ著シク後年ニ屬シ明治三十二年三月法律第五十九號ヲ以テ沖繩縣土地整理法ヲ公布セル以  
後ニ始マレリ即チ同法第十八條ニ於テ「**柚山、川床、堤防敷、道路敷及其ノ餘地其ノ他民有ト認ムヘキ事實**  
**ナキモノハ總テ官有トス、柚山ノ保護管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ規定スルモノノ外從來ノ慣行ニ依ルト規定**  
**セルヲ以テ柚山ハ全部國有ニ歸屬セリ然レトモ其ノ沿革内地ノ國有林野ト甚シク相違セルヲ以テ内地ニ於ケ**  
**ル整理處分ニ關スル諸規程ヲ直チニ適用シテ之カ整理ヲ爲スコト困難ナル事情アリシニ依リ明治三十九年七**  
**月勅令第九十一號省令第二十二號訓令第三十一號林發第二百二十四號內訓等ヲ發シテ其ノ整理並ニ處分ヲ**  
**實施スルコトトセリ**

沖繩縣國有林野ヲ隨意契約ニテ賣拂ヲ爲スノ件 (明治三十九年七月勅令第九十一號)

- 第一條 沖繩縣下ノ國有林野ニシテ國土保安上又ハ其ノ經營上國有トシテ保存スルノ必要ナキモノハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ賣拂ヲ爲スコトヲ得
  - 一、國有林野ヲ其ノ造林保護ヲ爲シタル區、間切、島又ハ村ニ賣拂フトキ
  - 二、土地整理以前ニ開墾又ハ牧畜ノ爲貸付シタル國有林野ヲ其ノ事業ヲ成效シタル者ニ賣拂フトキ
- 前項ニ依リ區、間切、島又ハ村ニ賣拂ヒタル國有林野ノ代金ニ付テハ十五箇年以内年賦延納ヲ許可スルコトヲ得
- 第二條 國有林野ノ產物ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ造林保護ヲ爲シタル區、間切、島又ハ村ニ之ヲ讓與スルコトヲ得

沖繩縣國有林野整理處分規則 (明治三十九年七月省令第二十二號)

- 第一章 總則
- 第一條 明治三十九年勅令第九十一號ニ依リ沖繩縣不要存置國有林野ノ賣拂及國有林野產物ノ讓與ハ本規則ニ依リ沖繩縣知事之ヲ專決處分スルコトヲ得

第三編 國有林野ノ經營



第二條 賣拂ヒタル林野又ハ譲與シタル產物ニ付國ノ負擔スル義務ハ買受人又ハ讓受人之ヲ承繼スルモノトス  
 第三條 本則ノ規定ニ依リ差出又ハ作製スヘキ書類ニシテ書式ノ定アルモノハ其ノ書式ニ依ルヘシ  
 第四條 區、間切又ハ島ノ出願ニ付テハ願書ニ區會、間切會又ハ島會ノ決議書ノ謄本ヲ添附スヘシ  
 第五條 出願人又ハ契約當事者ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ  
 前項ノ出願人又ハ契約當事者二人以上ナルトキハ總代ヲ選定シ書類ニハ總代署名捺印シテ之ニ委任狀ヲ添附スヘシ

第二章 賣 拂

第六條 不要存置國有林野ヲ賣拂ハントスルトキハ沖繩縣知事ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一、地籍及面積
- 二、願書差出ノ期間
- 三、附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領
- 四、其ノ他必要ト認ムル事項

第七條 前條ノ公告ニ依リ賣拂ヲ出願セントスル者ハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ證據書類アルモノハ之ヲ添附シテ沖繩縣知事ニ差出スヘシ

第八條 不要存置國有林野ハ調査價格以上ニ非サレハ之ヲ賣拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 同一ノ不要存置國有林野ニ付賣拂ノ出願競合シタルトキハ明治三十九年勅令第九十一號第一條第一號ニ掲グル出願者ニ先チ同條第

二號ニ掲グル出願者ニ賣拂ヲ爲スヘシ

第十條 賣拂ノ許可アリタルトキハ買受人ハ沖繩縣知事ノ指定シタル期間内ニ契約ヲ締結スヘシ

買受人前項ノ指定期間内ニ契約ヲ締結セサルトキハ沖繩縣知事ハ賣拂ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ取消シタル場合ニ於テハ違約金トシテ出願代金百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ

第十一條 前條ノ契約ニ付テハ契約保證金ハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第十二條 林野ノ引渡ハ代金ノ延納ヲ許可シタル場合ヲ除クノ外代金完納ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

買受人ハ林野引渡前ニ在リテハ沖繩縣知事ノ認可ヲ得ルニ非サレハ林野ニ關シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

買受人林野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ領收證ヲ作り之ヲ沖繩縣知事ニ差出スヘシ

第十三條 賣拂ヒタル林野ノ面積ニ錯誤アルモ買受人ハ異議ヲ述ブルコトヲ得ス

第十四條 買受人第二條ニ因ル義務ノ履行ヲ怠リ第十二條第二項、第十五條ノ規定若ハ第十六條ノ命令ニ違背シ又ハ納付期限内ニ代金ヲ納付

セサルトキハ沖繩縣知事ハ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ違約金トシテ賣拂代金ノ百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ

第十五條 不要存置國有林野ノ賣拂ヲ受ケタル者ハ一箇年以内ニ其ノ森林トシテ經營スヘキモノト否トヲ定メ沖繩縣知事ノ認可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十六條 沖繩縣知事必要ト認ムルトキハ前條ニ依リ施業方法ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三章 讓 與

第十七條 國有林野ノ產物ヲ讓與セムトスルトキハ沖繩縣知事ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一、產物所在地ノ地籍及面積
- 二、產物ノ種類及數量ノ概數
- 三、願書差出ノ期間
- 四、附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領
- 五、其ノ他必要ト認ムル事項

第十八條 前條ノ公告ニ因リ讓與ヲ出願セムトスル者ハ願書ヲ作り之ヲ沖繩縣知事ニ差出スヘシ

第十九條 讓與ノ許可アリタルトキハ讓受人ハ沖繩縣知事ノ指定シタル期間内ニ願書ヲ差出スヘシ

第二十條 讓受人前條ノ指定期間内ニ請書ヲ差出ササルトキハ沖繩縣知事ハ讓與ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十一條 存置國有林野又ハ之ニ隣接スル地ニ存在スル產物ノ讓與ヲ受ケタルトキハ讓受人ハ產物ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ境界標ヲ建設スヘシ

第二十二條 讓與ヲ受ケタル產物ニシテ存置國有林野ニ存在スルモノノ採取期間ハ讓與許可ノ年ヨリ三十箇年以内トス

第二十三條 沖繩縣知事必要ト認ムルトキハ存置國有林野ニ存在スル產物ノ讓與ヲ受ケタル者ニ對シテ其ノ讓與ヲ受ケタル產物ノ採取ヲ制限

シ又ハ採取ノ方法若ハ期間又ハ搬出期間ヲ指定スルコトヲ得第十五條ニ依リ施業方法ノ認可ヲ受ケルニ至ル迄不要存置國有林野ニ於ケル產物ニ付テモ亦同シ

第二十四條 讓受人前條ノ制限又ハ指定ニ違反シテ產物ヲ採取シタルトキハ沖繩縣知事ハ其ノ採取シタル產物ヲ返還セシメ又ハ違約金トシテ

其ノ產物ノ代價ニ相當スル金額ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條 讓受人第二條ニ因ル義務ノ履行ヲ怠リタルトキハ沖繩縣知事ハ其ノ讓與シタル產物ヲ返還セシメ又ハ違約金トシテ其ノ產物ノ代

第三編 國有林野ノ經營

價ニ相當スル金額ヲ徵收スルコトヲ得

第二十六條 第二十二條及第二十三條ニ定ムル採取期間内ニ採取セス又ハ第二十三條ノ搬出期間内ニ搬出ヲ終ラサル產物ハ國ノ所有ニ屬セルモノトス

第二十七條 謄受人カ柚山ニ關スル從業ノ慣例ニ反シ存置國有林野ニ存在スル主產物ヲ採取セントスルトキハ其ノ種類、採取區域ノ面積ヲ沖繩縣知事ニ届出スヘシ

(書式書略)

沖繩縣國有林野整理處分調査規程 (明治三十九年七月 訓令第三十一號)

第一章 總則

第一條 沖繩縣知事ハ沖繩縣ニ於ケル國有林野整理處分ノ爲存置區別調査員及處分調査員ヲ設ケ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一、將來國有トシテ存置スヘキ林野ト存置ヲ要セサル林野トノ區別(存置區別調査)

二、存置ヲ要セサル林野ノ面積及價格(處分調査)

三、存置ヲ要セサル林野ノ賣拂處分ニ付準備上必要ナル事項(處分調査)

第二條 前條ノ調査ハ第一號ニ規定シタル事項ノ調査ヲ終リタル後第二號及第三號ノ調査ヲ爲スヘシ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル林野ハ國有トシテ存置ヲ要セサルモノトス

一、開墾若ハ牧畜ノ爲ニ貸付シタル林野ニシテ其ノ事業成功シタル箇所

二、平坦地、丘阜地等ニシテ農業上ノ利用ニ適スル箇所

三、牧畜ニ適スル箇所

四、牧草若ハ糞肥採取等ノ爲沖繩縣民ノ農業上必要ナル箇所

五、自木材又ハ樺用材採取ノ爲沖繩縣民ニ必要ナル箇所

六、第四條ニ該當セサル箇所

前項第五號ノ箇所ハ地元ノ區、間切、島又ハ村ノ地籍ニ屬スル國有林野ノ全面積ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ地方ノ狀況ニ依リ此ノ標準ニ依リ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル林野ハ國有トシテ存置スヘキモノトス

一、森林法第八號各號ノ一ニ該當スル箇所

二、前條第一號乃至第五號ニ依リ國有トシテ存置ヲ要セサル區域ヲ除キタル林野ニシテ左ノ一ニ該當シ國ニ於テ林業ヲ經營スルニ適スル箇所

イ、一團地ノ面積一千町歩以上ナルモノ

ロ、一團地ノ面積二百町歩以上ニシテ團地相互ノ交通不便ナラス其合計面積一千町歩以上ナルモノ

ハ、一團地ノ面積二百町歩以上ニシテ一千町歩以上ノ存置箇所ト併セテ作業ヲ爲シ得ヘキモノ

三、國ノ林業經營上必要ナル箇所

四、地元ノ間切、島又ハ村ニ於テ現在利用ノ見込ナク民有ニ適セサル箇所

第五條 國有林野ニシテ境界整齊ナラサル區域ハ之ヲ整理スル爲適宜分割シテ存置ヲ要セサル區域ト爲スヘキモノトス

第六條 第三條第二號乃至第五號及第四條第一號第二號及第四號ノ箇所ハ嶺又ハ谷等可成天然ノ地勢ニ依リ且其ノ產物利用上障礙ナキ區域トシテ定ムヘシ

第七條 存置區別調査員及處分調査員國ニ於テ負擔スル義務ノ附帶スル林野ニ付實地調査ヲ爲ス場合ニ於テハ可成其ノ權利者ヲ立會ハシムヘシ

第八條 沖繩縣知事ハ部下ノ吏員ヲシテ隨時存置區別調査及處分調査ノ實況ヲ監督セシムヘシ

第二章 存置區別調査

第九條 存置區別調査員ハ實地ニ就キ第三條乃至第六條ノ規定ニ依リ國有林野ノ存置不要存置ノ區別ヲ調査スヘシ

前項ノ場合ニ於テ存置スヘキ國有林野ニ付テハ尙左ノ事項ヲ調査シ第五號ノ事項ニ付テハ區域圖ヲ調製スヘシ

一、存置ヲ要スヘキ林野相互ノ關係

二、林況ノ概要

三、利用未利用部分ノ區別及現今利用ノ狀況

四、將來ニ於ケル造林、利用及收支ノ概要

五、產物ノ讓與不讓與部分ノ區別及其ノ區域

第十條 存置區別調査員前條ノ調査ヲ終リタルトキハ沖繩縣知事ノ定ムル様式ニ從ヒ國有林野存置不要存置區別表、存置國有林野調査、主產物讓與不讓與區域圖及存置不要存置國有林野ノ位置ヲ見ルニ足ルヘキ圖面ヲ調製シテ沖繩縣知事ニ差出スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

六二九

第十一條 沖繩縣知事ハ存廢區別ノ調査ヲ終リタルモノニ付第二號様式ニ依リ國有林野存置不要存置區別表ヲ作り其ノ圖面並ニ存置國有林野調査及主産物讓與不讓與部分區域圖ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出シ存廢區別ノ認可ヲ受クヘシ  
前項存置國有林野調査書ニハ第九條第二項各號ノ事項ヲ記載スヘシ

第十二條 處分調査員ハ調査ノ命ヲ受ケタル存置ヲ要セサル林野ノ面積ヲ實測シ其ノ圖面ヲ調製スヘシ但從前實測濟ノ箇所ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ場合ニ於テ境界明瞭ナラサルトキハ隣接地所有者ヲ立會ハシメ境界ヲ決定シタル上實測ヲ爲スヘシ

第十三條 處分調査員ハ國有林野ノ貸付産物採取ノ許可其ノ他林野ニツキ國有負擔スル義務ノ有無ヲ調査シ實地調査ノ際其ノ調査ヲ携帶スヘシ  
第十四條 實測ハ携帶圖板、平面板測器其ノ他適宜ノ測器ヲ使用シテ之ヲ爲シ距離ノ測定ハ繩測又ハ步測ノ方法ニ依ルヘシ

第十五條 林野内ニ貸付、産物採取ノ許可其ノ他國有負擔スル義務ノ附帶スル箇所アルトキハ實測圖ニ其ノ位置及面積ヲ表示スヘシ  
第十六條 面積ノ算定ハ實測圖ニ依リ「ブライニメ」トシテ用ヒ二回ノ計算ヲ平均シテ之ヲ爲スヘシ

第十七條 林野ノ價格ハ其ノ地方ニ於ケル賣買代價ヲ調査シ地味、地形、交通ノ便否、需用者ノ多少等ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ  
第十八條 年期貸付ニ依ル林野ニ付テハ其ノ借地人、貸付ノ年月、貸付年限、借地ノ目的及借地目的タル事業成功ノ區域面積及事業ノ實況ヲ調査スヘシ

第十九條 處分調査員實地調査ノ際存廢區別調査ニ記載セサル國有林野ニシテ存置ヲ要セサルモノアルコトヲ發見シタルトキハ別ニ其ノ調査ヲ爲シ調査書差出ノ際其ノ旨ヲ沖繩縣知事ニ具申スヘシ

第二十條 處分調査員ハ沖繩縣知事ノ定ムル様式ニ從ヒ調査功程表ヲ調製シ毎月一回沖繩縣知事ニ差出スヘシ  
第二十一條 處分調査員ハ其ノ調査ヲ終リタル國有林野ニ付沖繩縣知事ノ定ムル様式ニ從ヒ不要存置國有林野處分調査書及實測圖ヲ調製シ之ヲ開切、島毎ニ編綴シ毎月一回沖繩縣知事ニ差出スヘシ

第二十二條 處分調査書ニハ測量ノ方法及調査ノ年月日ヲ記載シ處分調査員之ニ署名捺印スヘシ  
第二十三條 實測圖ハ面積ヲ算定スルコトヲ得ル程度ニ於テ適宜ノ縮尺ヲ用ヒ一箇所毎ニ別ニ之ヲ調製スヘシ  
實測圖及見取圖ニハ方位及調査番號ヲ記載スヘシ

第二十四條 沖繩縣知事ハ第一號様式ニ依リ毎年三月、六月、九月及十二月ノ末日現在處分調査功程報告書ヲ作り翌月中ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ  
第二十九條 沖繩縣知事ハ處分調査ヲ終リタルモノニ付第三號様式ニ依リ毎月一回不要存置國有林野處分調査總括表ヲ調製シ農商務大臣ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

(様式省略)

沖繩縣國有林野整理處分手續(明治三十九年七月林發第二百二十四號内訓)

第一條 國地ヲ爲ス不要存置國有林野ハ分割シテ賣拂ヲ爲スヘカラス但シ隨意契約ナリテ賣拂フコトヲ得ヘキ資格者ニ以上アルカ爲分割シテ賣拂ヲ爲スノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 國有負擔スル義務ノ附帶スル林野ニ付テハ賣拂前ニ可成其義務ヲ解除スヘシ  
第三條 村落ヲ距ル存置國有林野ニ存在スル産物ハ讓與ヲ爲スヘカラス

第四條 不要存置國有林野ノ産物讓與ノ處分ハ其土地ノ賣拂ヲ了シタル後之ヲ行フヘシ  
第五條 沖繩縣國有林野整理處分規則第六條及第十七條ニ依リ願書差出ノ期間ハ交通ノ便否ヲ斟酌シ二十日以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第六條 願書差送ノ日明ナルモノハ其發送ノ日ニ於テ差出アリタルモノト看做ス  
第七條 出願代金調査價格ニ達セサルトキハ増價ヲ命スヘシ

第八條 不要存置國有林野ニシテ隨意契約ニ依リ賣拂ヲ了シ難キモノアルトキハ之カ處分ニ關スル意見ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ其ノ存置國有林野ニ接續スルモノニ在リテハ其ノ接續ノ關係ノ見ルヘキ見取圖ヲ添附スヘシ

第九條 賣拂ヲ了シタル國有林野又ハ讓與ヲ許可シタル國有林野ノ産物ニ國有負擔スル義務ノ附帶スルモノアルトキハ賣拂又ハ讓與ノ後直ニ權利者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
第十條 沖繩縣知事不要存置國有林野ノ賣拂處分ヲ爲シタルトキハ第一號様式ニ依リ國有林野ノ産物ノ讓與ヲ許可シタルトキハ第二號様式ニ依リ毎月一回之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十一條 不要存置國有林野ノ調査書其ノ總括表及調査價格ヲ記載シタル書類ハ特ニ秘密ノ取扱ヲ爲スヘシ  
(様式省略)

右沖繩縣ノ整理處分ニ關スル諸規程モ又大正四年七月不要存置國有林野整理處分規則及同手續ノ制定ト同時ニ廢止セラレ凡テ右兩規程ニ統一セラレタリ  
 以上ノ外機ニ臨ミ變ニ應シテ發セラレタル通牒等ニ至リテハ殆ト枚舉ニ遑ナク整理處分事業ハ常ニ各種ノ事業中例規ノ最紛糾セルモノノ一ト目セラレタル狀態ナリシモ上記整理處分規則及同手續ノ制定ニヨリ大ニ從來ノ面目ヲ改ムルニ至レリ

(ハ) 存廢區別調査上ノ變遷

明治三十二年國有林野特別經營事業ノ開始セラレルルヤ森林資金ノ充實ヲ必要トセシカ爲處分調査規程ニハ經濟上優位ニシテ不要存置タルヘキ林野ノ多數ナル調査區ヨリ先ニスヘキコトヲ命シタリ如此選擇調査ハ蓋シ當時ニ在リテハ極メテ必要ナリシト雖整理ノ大主眼ヨリ視レハ素ヨリ適當ノ措置ニアラサリシヲ以テ明治三十五年四月處分調査規程ノ一部改正ヲ行ヘリ即チ從前ニ於テハ存廢區別ト處分調査ト同時併行セシモノヲ此ノ際ヨリ兩者別箇ニ進行スルコトトシ存廢區別調査員ハ高等官又ハ特ニ選拔シタル判任官ヲ以テ之ニ充テ其ノ不要存置ト決定シタルモノニ對シ更ニ判任官ノ處分調査員ヲシテ賣拂處分ニ必要ナル事項ヲ調査セシムルコトトシ而シテ存廢區別調査ハ三十七年度迄ニ完了セシムルノ見込ヲ以テ大ニ整理ノ進捗ヲ圖レリ左ニ年次ヲ逐フテ存廢區別調査上特ニ關係ノ大ナリト認ムルモノヲ掲ケテ以テ之カ變遷ノ概略ヲ窺知スルニ資セントス

一 自明治三十二年至三十四年

處分調査規程改正以前ニ屬シ存廢區別ト處分調査トヲ併行セシ時代ニ係リ專ラ經濟上優位ノ箇所ヲ選擇調査

セシヲ以テ多クハ交通便利ノ位置ニアル小面積ノモノニ止マリ疑問ヲ付スヘキモノ極メテ少カリキコノ未開ニ於テ秋田大林區署ヨリ上申セル羽後國平鹿郡横手町朝倉村字城付五百五十九町步(部分林)ノ如キヲ廢棄シタルモ特ニ本局ヨリ實地調査ヲナサシメタル等慎重ナル調査ヲ施サレタル時期ナリトス

二 明治三十五年

四月處分調査規程ヲ改正セラレ存廢區別調査ノ事務ハ處分調査ト各別ニ進行スルコトトナリタリト雖多クハ小面積ノモノニ止マリ未タ一市町村内所在ノ箇所ハ順次盡ク調査ヲ了スルノ運ニ至ラサリキ又從前林野整理審査會ニ於テ決議延期ノ要求アリタルハ陸海軍兩省ヨリ國防上ニ於ケル要否ノ調査及内務省ニ於ケル社寺上地、名勝舊蹟等ノ關係ヲ調査スルモノ若ハ遞信省ノ燈臺敷地等ノ調査ニアリタルモ九月第二十五回ノ審査會ニ於テ本省水産局ヨリ多數ノ箇所ニ對シ決議延期ノ申出アリ右ハ漁業上ノ用地トシテ關係者ヨリ往々故障ヲ唱フルモノアリシカ爲ニシテ存廢區別上利害關係者カ漸ク一般ニ注目シ來リタルノ跡ヲ見ルニ足レリ

一 明治三十六年

客年處分調査規定ノ改正ト共ニ存廢區別ハ來三十七年度迄ニ完了セシムヘキ豫定ヲ以テ調査スヘシトノ通牒ヲ發セラレ調査ノ分量激増ト共ニ往々大面積ノ箇所モ亦廢棄セラレントスルモノアルニ至レリ而シテ一氣呵成ニ調査ヲ完了セントシタルノ結果ハ自然調査ニ慎重ヲ缺キタルノ弊ナシトセス而シテ處分調査規程ニ於テハ高等官又ハ選拔シタル判任官ヲ以テ之ニ當ラシメ盡ク實地調査ヲナサシムルノ主意タルコトハ明カナル所ナリト雖一部分ヲ除キテハ大抵不完全ナル臺帳若ハ圖面等ニヨリテ離續ノ關係、面積ノ大小等ヲ查察シタルモノ多ク且境界査定及施業案事務トノ聯絡不統一ナリシカ如キ或ハ處分調査員ニシテ毫モ存廢ノ關係ヲ顧慮

セサリシカ如キ今日之ヲ例證スルヲ得スト雖當時ニ於テ往々其ノ片影ヲ認メラレシカハ大林區署長會議ニ於テ別ニ表面上ノ問題トハナササリシモ向後ノ注意ヲ求メラレタルコトアリテ之カ矯正ヲ計ラレタルモノナリトス又存廢ノ審査モ客年四月以前ニ在リテハ上申箇所ト實況調査圖ト一々對照ヲナシ來リシト雖上申分量ノ増加ハ如此慎重ナル對照ヲナスノ餘裕ヲ與ヘス概ネ存廢區別表記載ノ事由ヲ基礎トシテ決定スルノ外ナカリシカ故倍々其ノ事由ヲ詳細ナラシムルノ必要ヲ感シ本年一月山發第五十七號及十月山發六百三十四號通牒ヲ發セラレタリ

又前記第六百三十四號通牒ニ於テ一團地一町步未滿ノモノニシテ林野整理審査會ノ異議ナキモノハ直ニ本省大臣ニ於テ決定スヘキ内議モ有之云々ト云ヘルカ如ク當時存廢上申ノ分量非常ニ多ク殊ニ一町步未滿即チ小面積ニシテ廢棄スルノ當然ナルモノ甚多數ニシテ如此モノマテ一々之ヲ列記シテ閣議ニ提出スルハ徒ラニ煩雜ヲ累スルニ過キササルヲ以テ自今一團地一町步未滿ノモノニ限リ審査會諮詢後直ニ農商務大臣ニ於テ決定スルノ主意ニヨリ法制局ト内議ヲ盡シタルモ途ニ同局ノ容ルル所トナラスシテ實行ノ運ニ至ラス漸ク一團地一町步未滿ノ箇所ハ之ヲ列記スルコトヲ止メ一町村毎ニ積算シテ何箇所何町步トシテ審査會ニ諮詢シ同様ノ形式ヲ以テ閣議ニ提出スルコトノ法制局ノ内諾ヲ得幾分ノ手數ヲ省略スルコトトナレリ

一明治三十七年

客年以來存廢上申ノ分量次第ニ増加シテ總括表ノ調製不完備ノ點多ク之ヲ匡正セントシタルハ本年六月山發第三百九號通牒ノ如シ

露國トノ國交斷絶シテ所謂三十七八年戰役起ルト共ニ各方面ノ民業次第ニ銷沈セントスルニ至リ記念殖林ヲ

計畫スルモノ不尠當局亦之ヲ獎勵スル所アリテ八月各府縣ニ對シ市町村又ハ公立小學校ニ於テ記念林トナスモノハ其ノ箇所ヲ取纏メ主管大林區署へ通報スヘク大林區署ニ於テハ速ニ存廢區別ノ調査ヲ遂ケ可成便宜ノ措置ヲ執ルヘキコトヲ通牒セリ從來存廢區別ニ付テハ外部ノ要求若ハ希望ナルモノ未タ出現セサリシモ本通牒ハ先ツ町村ノ希望ヲ聽キ妨ケナキモノハ可成速ニ之ヲ容レントシタルモノニシテ無理ナル存廢ヲ避クルコトヲ得タリト雖進ンテ外部ノ要求若ハ希望ノ發生ヲ促シタルコトヲ免レサリキ

保安林ノ存廢ニ就テハ縣ト大林區署ノ見ル所各異ナリテ物議ヲ醸シタルモノ偶之ナシトセス是ニ於テ保安林及保安的取扱ヲ要スル林地ノ存廢ハ特ニ留意スヘキ旨六月山發第三百二十四號及三十八年一月林發第四號ヲ以テ通牒ヲ發セラレタリ

一明治三十八年

存廢區別ハ最初三十七年度(本年三月)中ニ完了セシムヘキ見込ナリシヲ以テ客年以來大面積ノ廢棄箇所頗ル多ク一月第三十五回林野整理審査會ノ開催ニ際シ諮詢セラレタルモノハ當時鑛毒問題トシテ論議セラレタル栃木縣各中村ノ住民ヲ移住セシムルノ目的ヲ以テ那須地方ニ之レカ目的地ヲ選定シ豫約開墾ノ方法ヲ以テ拂下クルコトニ内務省ヨリ内議アリタル箇所ニ係レリ

九月第三十八回林野整理審査會ニ對スル諮詢箇所中長野縣ヨリ希望シ來レル縣有模範林地アリ又十二月ニ開催セラレタル審査會諮詢箇所中ニハ群馬縣希望ノ模範林地アリ其ノ他開墾適地トシテ越後國北魚沼郡字赤川表一千町步ノ如キ何レモ地方ノ希望ヲ斟酌セラレタルノ感ナシトセス

平坦地又ハ丘阜地等ニシテ容易ニ田畑ニ開墾シ得ヘキモノ及桑、楮、果樹等ノ植栽ニ適スル調査方針ノ所謂

固有農地下認ムヘキモノハ現在要存置ノモノト雖不要存置ニ變更スヘキ旨八月林發第二百五十一號ヲ以テ通牒セラル後日開墾適地問題ノ起レル既ニ此ノ際ニ於テ其ノ端ヲ發セルヲ見ルヘキナリ

一明治三十九年

三月第四十一回林野整理審査會ヲ開カル諮詢箇所中千七百八十町歩ノ福島縣模範林候補地アリ其ノ他熊本大林區署管内ニ於ケル大矢原野三千五百町歩ノ如キ大面積ノ廢棄箇所尠カラス

存廢ノ調査ニ三四年間ニ於テ著シク進行シタルモ多少拙速ノ痕ナキニアラサリシヲ以テ之カ更正ヲナスヘキ旨七月林發第二百十二號ヲ以テ通牒セラル

從來停止セラレタル國有林野ノ賣拂豫約ハ産業獎勵ノ目的ヲ以テ十一月林發第三百三十二號内訓ニヨリ之ヲ許可スルヨリ得ルニ至レリ

一明治四十年

各府縣ニ於ケル樟樹繁殖ノ舉アリ一團地面積三十町歩以上ノ不要存置箇所ニシテ樟樹造林ノ好適地ニ係ルモノハ縣ノ事情ニヨリ要存置ニ組替ノ上貸付スヘキ旨十月林發第三百三十五號ヲ以テ通牒セラル(四十四年八月林發第四〇五四號通牒ニヨリ消滅)

廣島大林區署ヨリ要存置トシテ上申セル攝津國西ノ宮驛附近ニ於ケル字矢元外七(二九〇町歩)及字劍谷外六(四四三町歩)ハ實地調査ノ上不要存置トシテ指定セラルコノ内一部ハ豫約開墾ニヨリ賣拂ノ處分ヲナシタルモノアリ

十月第四十六回林野整理審査會ヲ開カル此ノ際諮詢セラレタルモノノ内青森縣中津輕郡ニ於テ字寺澤外十二

(岩木山)六千四百八十六町歩ノ不要存置箇所アリ本地ハ後日要存置ニ變更セラレタルモ從來不要存置ニ調査シタルモノノ内最大面積ノ箇所ナリトス

十二月第四十七回林野整理審査會ヲ開カル諮詢箇所中約二千町歩ノ宮城縣模範林候補地アリ其ノ他ニ羽前國東田川郡字羽黒山外四(二五三町歩)アリ賣拂ノ際多少地方ノ注意ヲ惹キシモノナリトス

本年ニ於テ面積五十町歩以下ノモノハ如何ニ大團地ノ附近ニアルモノナリト雖總テ之ヲ廢棄シ一大整理ヲ遂クヘシトノ議論ヲ唱フルモノアリタルハ注意スヘキ事柄ナルヘシ此議論ハ一箇ノ成案トナリタルニモアラス遂ニ終熄シタルモ當時ノ照會往復等ニハコノ暗流ノ往々存在セルヲ認ムルニ足レリ

一明治四十一年以降

本年度以降ハ從前ノ餘勢ヲ享ケテ多少大面積ノ廢棄箇所ナキニアラサリシモ存廢區別ハ殆ト結了ニ近ツキ年ヲ經ルニ從ヒ多クハ脱落地ノ發見ニ係ルモノ若ハ從前ノ更正ニ係ルモノニ屬シ特ニ掲ケテ後日ノ參考ニ資スヘキモノナキモ此間相當注目ニ値スル事項ハ大正二年ヨリ實施セラレタル開墾適地調査ナリトス從來此ノ種ノ箇所ハ不要存置トシテ夫々處理シ來リタルモ尙現在ノ要存置林野中耕地ト爲スヲ有利トスル區域少カラサルヲ以テ各大林區署ニ命シ關係地方廳職員ヲモ參加セシメ協同ノ調査ヲ爲スコトトシ最長期限ヲ大正三年度末迄トシテ之カ調査ヲ施シ他日更ニ精査ヲ加ヘテ要存置ノ儘貸付シテ開墾セシムルモノト不要存置ニ更訂ノ上開墾セシムルモノトヲ區別シ後者ニ付テハ一般不要存置林野ノ決定ト同一ノ手續ヲ採用セルヲ以テ大正六七年頃ヨリ一箇所面積四五町歩ノ分ヲ不要存置ニ編入スルモノアルニ至レリ從テ開墾適地ニ關スル目的ヲ達成センカ爲ニハ特別ノ規定ヲ設クルノ必要ヲ感シ大正四年七月不要存置林野整理處分規則ヲ改正シ特ニ其

ノ取扱ニ關スル一章ヲ設ケタリ

(二) 保安林ノ存廢

處分調査規程中「保安林ト雖利害ノ關係極メテ小ナルモノハ存置ヲ要セサルモノトス」ト規定セルモ其ノ範圍ノ明カナラサルカ爲メ時ニヨリ人ニヨリ所見ノ異ナルヲ免レサリキ從テ其ノ存廢ニ就テハ多少區々ニ涉レルノ弊ヲ生シタレハ三十七年六月山發第三百二十四號ヲ以テ國土保安若ハ風致衛生等ニ關シ地方ノ利害ニ關係ヲ有スルコト稍深厚ナリト認ムヘキ林野ヲ不要存置ト爲サントスルモノニ對シテハ其ノ保安林タルト否トヲ問ハス林野ノ種類、位置及狀況、利害關係ノ狀況及區域其ノ他必要ト認ムル點ヲ調査シテ存廢區別總括表ト共ニ差出スヘキ様通牒ヲ發シ翌三十八年一月更ニ國土保安殊ニ沿海防潮防風林土砂扞止林及風致林等ニシテ其ノ地方ニ利害ノ關係不尠モノト認ムヘキモノニ付テハ一層慎重ノ調査ヲ遂ケ且不要存置ト爲サントスルモノニシテ地方ノ利害ニ關係ヲ有シ延テ縣治上ニモ影響ヲ及ホサントスルノ虞アルモノニ付テハ當該府縣知事ノ意見ヲ徵シ前記通牒ニヨリ調査事項ト共ニ具申スヘキ旨通牒ヲ發シタリ然レトモ是等ノ通牒ハ何レモ抽象的ニシテ且其ノ範圍多少茫漠ヲ免レサリシト當時恰モ一氣呵成ニ功程ノ進捗ヲ計リシ時代ナリシトニヨリ該通牒ノ主意ハ十分徹底セズ小面積ノ海岸保安林等ハ多ク不要存置林トシテ調査セラルルニ至レリ依テ四十二年九月農商務省ニ於テハ特ニ山林局員ヲ出張セシメ千葉茨城ノ海岸林ヲ視察セシメタル結果以上二縣及福島縣ノ海岸林ニシテ不要存置トナレルモノハ凡テ要存置林ニ變更シ大正元年八月ニ至リ國有保安林ニシテ不要存置ニ係ルモノハ當分賣拂方ヲ見合ハセ保安林タルノ事由消滅シタルモノ又ハ其ノ利害關係上當然解除スヘキモノニ屬スト認メタルモノハ從來ノ例ニヨリ解除ノ上處理スヘキ旨ヲ通牒シテ一時保安林ノ賣拂ヲ停止シ

一面之カ處分ニ關スル攻究ヲ重ネ大正三年三月左記通牒ヲ發シ始メテ其ノ方針ヲ明ホスルニ至レリ

林第一〇九〇號山林局長通牒(大正三年三月)

不要存置國有保安林ノ賣拂處分ニ付テハ大正元年八月林第二三四號ヲ以テ當分見合ノ儀通牒致置タル處自今左記ノ通丁知相成度依命此段及通牒候也

- 一 利害關係狭少ニシテ國有ト爲シ置クノ必要ナク利害關係者ニ於テ經營能力十分ナリト認メタル分ハ以前ノ通其ノ利害關係者ニ賣拂フコト但シ一箇所トシテハ利害關係狭少ナリトスルモ例セハ海岸林ノ如キ斷續的ニ點在スルモノハ大體ヲ通シテ利害關係ノ範圍ヲ稽查スヘキコト
- 二 利害關係皆無又ハ僅微ニシテ敢テ保安林ト爲シ置クノ必要ナキ分ハ地方長官ト協商ヲ途ケ解除ノ上賣拂フコト
- 三 前二項ニ該當セサルモノハ面積少畝歩ニシテ管理上不便ナルモノト雖要存置ニ變更ノ手續ヲ爲スコト
- 四 保安林ノ儘賣拂ハムトスル場合ハ其ノ解否ニ付地方長官ノ意見ヲ確メタル上當分ノ内本官ヘ打合其手續ヲ爲スコト

大正四年七月整理處分規則及同手續ヲ制定セラルルニ及ヒテモ前記通牒ノ方針ハ敢テ變更セラルルコトナクシテ今日ニ及ヘリ

(ホ) 沖繩縣國有林ノ整理處分

沖繩縣ノ柚山ハ明治三十二年法律第五十九號沖繩縣土地整理法第十八條ノ規定ニ依リ官有ニ歸シタリト雖舊藩來數百年ノ久シキ地元ノ區、間切、島又ハ村ヲシテ造林保護ノ義務ヲ負擔セシメ其ノ產物ハ自用タルト稼業用タルトヲ問ハス無代價採取ヲ許シ藩廳カ用木トシテ特定シタルモノニ在リテモ藩廳ニ於テ之ヲ徵收セシトキハ相當ノ代價ヲ支拂ルモノニシテ柚山ノ使用收益ハ全ク地元ノ區、間切、島又ハ村ニ屬シ來リシモノナレハ純然タル國有ト爲シ處分ヲ了シ得ヘキモノニアラス故ニ土地整理處分後ト雖沖繩縣知事ハ依然舊慣ニ依リ柚山ノ產物ヲ無代價ニテ地元ノ區、間切、島、村ニ採取ヲ許シ來リシモ古來柚山ヲ以テ所有地ノ如ク思惟シ來レル地方人民ハ柚山カ官有ニ歸セシ爲大ニ恐慌ヲ來シ頻リニ濫伐ヲ企テ之カ荒廢ヲ顧ミサルノ狀況ヲ呈シ數

年ナラスシテ木材、薪炭ノ需用ヲ供給スル能ハサルノ悲境ニ陥ルヘキ虞アリシヲ以テ將來國有トシテ保存ヲ要スル林野ト否ラサルモノトヲ調査シ其ノ保存ヲ要セサル山ノ山地ハ從來造林保護ヲ爲シタル區、間切、島又ハ村若ハ開墾牧畜ノ爲貨渡ヲ受ケ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂ヒ樹木ハ從來造林保護ヲ爲シタル區、間切、島又ハ村ニ讓與シ以テ地元人民ヲシテ安ンシテ事業ノ經營ヲ爲サシムルヲ得策ナリト認メ同縣知事ノ稟申ニ基キ之カ整理ノ計畫ヲ立テタリ茲ニ其ノ要點ヲ舉クレハ左ノ如シ

十萬二百八十九町步

國有林野全面積

内

三萬三千四百二十九町步

六萬六千八百四十七町步

存置見込

不要存置賣拂見込價格

十一萬四千四百七十四圓

前掲存置、不要存置ノ調査及ヒ賣拂處分ハ三十九年度及ヒ四十年年度ノ二箇年度内ニ之レヲ完了スルノ豫定トシ先ツ三十九年度ニ於テハ金二千四百四十圓ノ整理處分費ヲ該縣ニ下付シ同年七月勅令第一九一號及ヒ同縣ノ整理處分ニ關シ制定セラレタル諸規則ニ依リ其ノ調査及ヒ處分ノ實行ニ著手シ四十年年度ニ於テ更ニ一萬六

百二十九圓ヲ同縣ニ下付シ右兩年度ニ於テ存廢區別及ヒ處分調査ハ之レヲ完了シ悉ク本省へ稟申シ來リ夫々認可ヲ與ヘラレタルモ八重山郡西表島所在林野ノ存廢區別ニ付テハ更ニ詮議ヲ要スル點アリテ其ノ認可ヲ見合サレタリ

四十一年七月一日沖繩縣ノ國有林野ヲ鹿兒島大林區署ノ管轄ニ移シ又同日ヨリ國有林野法ヲ同縣ニ施行セラ

レ大林區署長ハ縣知事ノ處分權限ヲ繼承シ爾後三十九年七月勅令第一九一號ノ下ニ不要存置林野ノ賣拂未済ニ屬スルモノヲ處分シツツアリ今其ノ整理處分ノ成績ヲ舉クレハ次ノ如シ

沖繩縣國有林野整理處分成績 (大正六年度現在)

賣拂濟不要存置林野	五九、六八四町一五〇一
殘存不要存置林野	四、二〇六・四一二三
小計	六三、八九〇・五六二四
存廢未定(西表)	二三、七五六・〇〇〇〇

西表島ハ由來瘴癘ノ地ニシテ之ヲ開發スルハ容易ノ業ニアラス四十二年一月山林局長ヨリ鹿兒島大林區署長ニ對シ曩ニ稟申セル存廢區別ノ更正ヲ要スルモノアラハ取調更ニ稟申スヘキ旨ヲ通牒シ同署ハ調査費千八百七圓餘ノ配付ヲ受ケ存廢ノ再調、要存置林野中施業地ト施業制限地トノ區別、該島東西兩海岸ヲ連絡スル道路ノ開墾ニ關スル調査等ヲ施行シ四十四年五月其ノ結果ヲ報告セリ然ルニ同年沖繩縣ヨリ林區署ノ存廢區別調査ハ地元ノ慣行緣故ヲ無視セルカ爲人民ノ苦情甚シキ旨ヲ申出テ山林局長ヨリ同伴ニ關シテ鹿兒島大林區署ニ照會シ大林區署ハ將來ノ林業經營上ヨリ打算シ一面民情ヲ參酌シ且古來緣故ノ有無等ヲ調査シ適切ノ措置ヲ爲スヘク目下取調中ナル旨同年八月ヲ以テ回答シ爾來西表島以外ノ整理處分事業ハ著々進行シ其成績前ニ述タルカ如クナルモ西表島ニ就テハ未タ利用開發ノ機運熟セサルモノアリ從テ其ノ存廢ヲ決定シ難キ事情アルヲ以テ其ノ儘今日ニ及ヘリ

(一) 整理處分ノ成績

實況調査ノ成績ニ於テハ七百三十五萬四千町步ヲ要存置トシ七十四萬一千餘町步ヲ不要存置トシテ處分スル



ニ在リタルモ山林原野調査時代ニ於ケル面積ハ多ク臺帳面積ヲ踏襲セルモノナルカ故ニ實地ト大差ヲ生スルモノ少ナカラサリシハ又已ムヲ得サル所ナリトス此ノ外存廢ノ成績ニ大ナル影響ヲ及ホセルハ(一)民有下戻(二)境内編入(三)他官應用地ニ組替等ノ事項ニシテ之レカ爲要存置並不要存置ノ面積ヲ著シク減少セリ尙離權ヲ爲ササルモ畜産ノ爲使用セシムヘキ土地又ハ開墾適地中將來貸付地トナスヘキ土地ノ控除ニ依リ多少ノ影響アリト云フヲ得ヘク又大正二年開墾適地ヲ大舉調査セシメタルハ敢テ從來ノ内規若クハ方針ヲ變更シタルモノニアラサルモ其ノ實施上ノ結果ニ至リテハ要存置ヲ減少シ不要存置ヲ増加シ山林原野調査時代ニ於ケル調査振リニ比シ積極的ニ適農地ヲ不要存置ニ編入セシ趣アリシハ勿論特別經營時代ニ於ケル從來ノ調査振リニ比スルモ亦大ニ其加減ヲ變更セラレタレハ豫定ニ對シテ相違ヲ來セル一原因ト見ルヲ得ヘシ

今明治三十二年度以降ニ於ケル整理處分ニ關スル各種事業ノ成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

要存置林野決定面積(大正六年三月末日現在)

大林區署名	森		原		野		森林附屬地		合	
	個	所	個	所	個	所	個	所	個	所
青森	二,一九〇	九六七,六七〇	四〇	六〇	三,五三六	五八六	六,六六六	九六八,八九五	六,六六六	九六八,八九五
秋田	六七〇	七〇九,三七七	九	一三六	五,八一	一六九	六,四九三	七〇九,六八四	六,四九三	七〇九,六八四
東京	三,八七九	一,三五〇,七〇〇	二,九〇〇	九	四,七九	六六	七,六九八	一,三五〇,四〇五	七,六九八	一,三五〇,四〇五
大阪	二,一五二	一,七〇〇,〇〇〇	一七	一	一,〇〇八	八七六	三,一〇八	三,一〇八	三,一〇八	三,一〇八
高知	六九	一七六,〇〇〇			三,五八八	一〇八	三,五八八	一〇八	三,五八八	一〇八
熊本	一,〇三九	一,〇三九			一,一七五	三	一,一七五	三	一,一七五	三
計	一三,五五一	四,一四一,五七七	四六	七〇	一六,七三〇	一,〇〇九	一六,七三〇	一,〇〇九	一六,七三〇	一,〇〇九

鹿兒島	計
二,八九一	三,九七七,七〇〇
一三,五五一	四,一四一,五七七
七三三	七,三三三
二,一五八	七,七四八
四六	一六,七三〇
七〇	一,〇〇九
三,七〇〇	三,九七七,七〇〇
四,一四一,五七七	四,一四一,五七七

備考  
現在面積ノ外要存置ニ決定後先ニ述ヘタル如キ各種ノ事由ニ依リ離權セルモノ又ハ不要存置ニ編入セルモノアルヲ以テ調査面積ハ本表ノ面積四百十五萬一千三百八十四町歩以上ニ達スヘキモ今之ヲ明示スルコト能ハス

不要存置林野決定總面積ハ九十一萬四千六百一町步餘ニシテ内七十一萬一千六百六十五町步餘ハ賣拂處分濟ニ掛リ二十萬二千九百三十六町步ハ處分未濟ニ屬セリ而シテ不要存置林野モ亦要存置林野ト等シク一旦調査決定シタル後ニ於テ下戻、組換、讓與等ニ依リ離權シ又ハ存廢ノ變更ヲ爲シタルモノアルカ故ニ事務取扱上決定セル面積ノ總計ハ前記九十一萬餘町步ヨリ遙ニ大ナルコト勿論ナリ今整理處分業務ノ成績及經費及不要存置林野賣拂處分濟並同未濟面積等ヲ舉クレハ次ノ如シ

整理處分事業成績

年	種	別	面積	積	經費	一町步平均經費
明治三十二	調	査	一七,五六一	一,一四四	七,八六三	四,〇〇一
三十三	同	同	三〇,七九九	一,〇〇六	八,三九八	二,七二一
三十四	同	同	三三,五八八	六七一	八,四一九	二,五〇三
三十五	同	同	三三,三九九	一,七三六	一〇,八五〇	三,二〇九
三十六	同	同	三六,九九七	四九八	八,六〇三	二,三〇〇
三十七	同	同	七六,四〇二	八八七	一三,八七一	一,四九〇
三十八	同	同	七四,二七八	五九三	五,五五六	〇,七七五



第二節 境界ノ查定

我邦ノ土地ニ關スル制度ハ往古ニアリテハ普天ノ下率土ノ濱王土ニ非サルナシトノ主義ニ依リ人民ニハ土地ノ所有ヲ許ササリシモ占有使用ノ因襲久シキニ互リ遂ニ所有權ヲ認ムルニ至レリ然レトモ土地兼併ノ弊ヲ防カム爲之カ賣買ヲ禁止セルヲ以テ其ノ所有權ハ制限的タルヲ免レサリシモ明治維新ニ及ヒ藩籍奉還社寺土地處分ニ由リ諸侯及社寺ノ領地總テ國ノ所有ニ歸スルヤ地所永代賣買ノ禁ヲ解キ全ク從來ノ制限ヲ撤去スルニ至レリ而シテ國有ト民有トノ區別ハ舊藩當時ノ圖簿ヲ基トセルコト勿論ニシテ明治二年十月民部省第一〇一九號達ヲ以テ府縣並預所アル諸藩ヲシテ郷帳、村鑑帳、御林帳、高國郡村名帳、高反別取米永一村限帳等ノ寫ヲ進達セシメ以テ徵稅ノ資料ト爲セシカ如キハ即其ノ一例ナリ

民部省達第一〇一九號(明治二年十月二十九日)

府 縣 預所アル 諸 藩

- 一 郷 帳
- 一 村 鑑 帳
- 一 御 林 帳
- 一 高國郡村名帳 但假名附
- 是ハ御帳其外トモ差出方兼テ相逢置候處于今不差出向モ有之候ニ付早々差出候様可致事
- 一 高反別取米永一村限帳
- 是ハ別紙案ノ通取調可成丈早々差出候様可致事
- 一 各府縣内去長年ヨリ前二十ヶ年分厘附帳一村限郡譯ニイマシ村毎餘紙二枚ツツ差入美濃紙堅帳ニ寫取國限ニ取調何レモ一縣一册ニ綴上

(別紙) 部分國限ノ處青紙見出シテ付取調出來次第早々差出候様可致事

- 村 高 何 程
- 內 高 何 程
- 此 反 別 何 程
- 此 譯
- 上 田 高 何 程
- 此 反 別 何 程
- 此 取 米 何 程
- 荒地有之候ハハ内書ニ荒地高反別ヲ記シ殘高反別へ取米ヲ記シ可申候若段免等有之候得者殘高反別ノ内書ニ記シ分ケ可申餘準之
- 中 田 高 何 程
- 此 反 別 何 程
- 此 取 米 何 程
- 下 田 高 何 程
- 此 反 別 何 程
- 此 取 米 何 程
- 此 他 幾 廉 有 之 候 ト モ 石 盛 限 書 記 シ 可 申 候
- 小 以 田 高 何 程
- 此 反 別 何 程
- 此 取 米 何 程
- 檢見村ノ分ハ此取米ノ下へ平均反米ヲ記シ位限ニハ不及候事
- 上 如 高 何 程
- 幾ッ 反 永 何 程
- 何 國 何 郡 何 村
- 無 地 成 高
- 小 物 成 高
- 石 盛 幾ッ 反 米 何 程
- 幾ッ 反 米 何 程

第三編 國有林野ノ經營

此反別何程  
此取永何程

幾ツ 反永何程

中畑高何程

幾ツ 反永何程

下畑高何程

幾ツ 反永何程

屋敷高何程

幾ツ 反永何程

小以畑高何程  
此反別何程

右ハ當府(縣)管轄所高反別取米永一村限書面ノ通御座候  
以上

年 號 月 日  
民部省

各府縣

明治五年大藏省達ヲ以テ國有林ノ内存置ヲ要スルモノト漸次拂下故障ナキモノトヲ區分調査ノ上之ヲ申達セシメタリシカ本調書ニハ字毎ニ東西南北ノ境界ヲ記載セシヲ以テ維新後國有林ノ存廢區別ニ關スル最初ノ調査タリシト同時ニ官民有林野ノ境界ニ關スル調査トシテモ亦最初ノモノナリシカ如シ

大藏省達第一三四號 (明治五年九月二十日)

府 縣

昨壬申年中官林拂下之儀相達往々著手候處中ニ者開墾ヲ名トシ一時立木伐盡シ跡地不毛ニ相成候向不詳悉元來山林ノ普通築ノ用材ニ供スル而已ニ無之風雨寒暑ヲ調和シ水旱潤澁ヲ節スルノ功不少然ルチ一時伐盡候而者不都合ニ有之ヨリ本年第二五十七號公布之趣モ有之當時官林拂下禁止有之候得共向來官林之内水源ヲ涵養シ土砂ヲ拵止シ又者有名ノ材木有之存置不致候テ故障有之個所竝右之外漸次拂下故障無之個所共別紙雜形ニ做ヒ管下不洩様取調本年十二月十五日限當省へ可申上此旨相達候事

(別紙)

用紙美濃紙

存置官林個所取調帳

何府縣

字 何

官 林

何々或ハ何社寺新舊境内外

一凡反別何町何反歩餘

但 嶮 平地

何國何郡 何 村

東 何川

西 何山

南 何村耕地

北 何原

立木良材雜木有無

廢城陣屋敷地等ニシテ建物アル歟諸省察立木留山歟其他聲譽ノ名所古蹟アラハ詳記スヘシ  
從前下草稅等取立有之分其額モ記載可致事

字 何  
一何山反別不詳

東 何々

東西凡何里

何國何郡 何 村

數ヶ村ニ跨ルモノハ

何村外何ヶ村

第三編 國有林野ノ經營

明治林業史要

西 何々  
南 何々  
北 南北凡何町  
何々

但他の管轄及國郡ニ跨ルモノハ其詳記スヘシ  
立木其他云々前ニ同シ

公有地ハ總テ前條ニ徴ヒ從來莫加永等納來候分ハ稅額ヲ記載シ無稅ノ地ハ其旨ヲ記スヘシ  
右者當府(縣)管下官林之内將來存置候見込之場所取調候處書面之通候也

明治何年幾月日

何 縣府  
長官苗字名印

宛

用紙美濃紙

拂下官林個所取調帳

何 縣府

以上前同斷但シ最後ノ「在置候見込云々」ハ「拂下候見込云々」トナスヲ要ス

明治六年七月二十八日太政官布告第二百七十二號ヲ以テ地租改正條例ヲ頒布シ同七年十一月地所名稱區別ノ  
改定ヲ布告シ同時ニ官民有ノ區分ヲ精査シ所謂改租圖ヲ調製セシメタリ

太政官布告第一二〇號(明治七年十一月)

明年六年三月第百十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事

官有地

第一種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年九月一日第三十四號布告ニテ官有地第一種中「區入費」ヲ「地方稅」ト  
改正ス)

一 皇宮地 皇居離宮チ云フ

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地チ云フ

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス帳簿ニ記入ス

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ(八年七月二日第百十四號布告ニテ官有地第二種中本項ノ如ク改正ス其後十二年九  
月一日第三十四號布告ニテ「區入費」ヲ賦スル「七字」ヲ「地方稅」ヲ賦セサルト改正ス

一 皇族賜邸

一 官用地 官院省使察司府藩縣本支廳裁判所警視廳陸海軍本分營其他政府ノ許可ヲ得タル所ノ地チ云フ

一 公衆ノ用ニ供スル道路

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ(十三年十月五日第四十三號布告ニテ第二種中へ本項ノ如ク追加ス)

第三種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシム(十二年九月一日第三十四號布告ニテ官有地第三種中「區入費」ノ三字ヲ  
「地方稅」ト改メ「借地料」以下「十三字」借地料ヲ納メシムト改正ス)

一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサルモノ

一 鐵道線路敷地

一 電信架線柱敷地

一 燈明臺敷地

一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

一 人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

一 民有地ニアラサル堂宇敷地及墳墓地

一 行刑場

第四種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年九月一日第三十四號布告ニテ官有地第四種中「區入費」ヲ賦スル「七  
字」ヲ「地方稅」ヲ賦セサルト改正ス)

一 寺院大中小學校説教場病院醫院等民有地ニアラサルモノ

民有地

第三編 國有林野ノ經營

第一種 地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス(十二年九月一日第三十四號布告ニテ民有地第一種中「區入費」ノ三字ヲ「地方稅」ト改正ス)

一人民各自所有ノ確證アル耕地地山山林等ヲ云フ

但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖トモ潰シ地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス  
第二種 (九年六月十三日第八十八號布告ニテ民有地第二種ヲ第一種ニ合ス)

一人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場林場神社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云フ  
但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖トモ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第三種 地券ヲ發シテ地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(八年七月二日第四百十四號布告ニテ第三種ヲ本項ノ如ク改正ス)

一官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云フ(九年六月十三日第八十八號布告ニテ民有地中第三種ヲ第二種ト改正ス)

一民有ノ用惡水路溜池數堤數及ヒ井濇數地(八年十月九日第五百五十四號布告ニテ民有地第三種中第二項ヲ本項ノ如ク追加ス)

一公衆ノ用ニ供スル道路

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ(十三年十月五日第四十三號布告ヲ以テ民有地第二種中第三項ヲ追加ス)

太政官達第四百三十三號(明治七年十一月)

今般地所名稱改定候ニ付テハ從前私有地ハ民有地第一種ニ編入シ村請<sub>ノ</sub>内所有ノ確證有之モノハ民有地第二種ニ編入可致尤公有ト稱シ候内ニハ各種ノ地所有之候間取調ノ都合ニヨリ人民ノ幸不幸ヲ生シ候テハ都合ニ付從來ノ景況萬ト檢査ヲ加ヘ官ニ可屬モノハ官有地ニ編入シ民ニ可屬モノハ民有地ニ編入シ官民ノ所有ヲ難分モノハ別紙難形ニ照準取調内務省ヘ可伺出此旨相達候事  
(別紙)

從來公有地ノ中改テ所有可差定土地取調難形  
國郡村市字

地	種	耕地地山山林原野林場湖沼池澤等ノ區別
段	別	若 干
何	稅	山年貢野手米池沼役賃野錢等ノ有無
樹竹	栽培	植付培養變伐手續代價分割ノ區別

樹竹種類及數  
由

何種類若干及長短細大ノ概略  
何年何月何村何某又ハ何村一何何代官所又ハ何領ヘ拜借ノ上何木植立方顯立何々ノ許可ヲ受ケ爾來樹木ハ官許ヲ得

テ伐拂代價ノ内幾分ハ上納シ幾分ハ下方ニテ領收候旨村方何帳ニ有之舊何藩又ハ何縣帳簿ニ記載有之確證明瞭云々等ノ手續  
又ハ從前ノ原因不相分村方帳簿ニ記載無之候ヘトモ其實樹木栽伐及賣買トモ村方ニテ勝手ニ致來候趣ニ付舊藩縣官員取立候處云々等ノ手續又ハ從前ノ原因不相分何方帳簿ニ記載無之其上樹木變伐ノ砌ハ官ノ許可ヲ受ケ代價上納云々等ノ手續

所有定方見込

前件ノ次第二付何々ノ確證有之上ハ官有地ニ御定相成可然  
又ハ前件ノ次第二付何々ノ確證有之又ハ前件ノ次第二付何々ノ確證レハ官有地トナスヘキカ如クニ候ヘトモ何々ノ確證レハ民有地トナスヘキカ如ク到底區別難致尤官民ノ便宜ヲ酌酌致候得ハ之ヲ折半シ官地民地ト御定相成可然候

明治八年三月地租改正事務局ヲ内務大藏兩省間ニ設置シ改正ニ關スル一切ノ事務ヲ專管セシムルニ方リテヤ同九年ヲ以テ大體整頓ノ時期ト定メ幾多ノ盤錯ヲ折キ以テ督勵其ノ事ニ當ルト雖事國家ノ經綸民生ノ休戚ニ關スル至大至重ノ事業ナルヲ以テ百事所期ノ如クナラス耕宅地ノ整理ノ如キハ僅ニ整頓ノ緒ニ就キシモ山林原野等ニ至リテハ確的ナル明證ナク幾ニ舊慣古例ヲ參酌シテ其ノ所有ヲ認定スルノ外ナク加之舊藩以來檢地ニ依リ其ノ地域ヲ釐正シタルコトナク單ニ口碑又ハ天然ノ地形ニ依リ漠然其ノ區域ヲ指定スルカ如キ狀態ナリシヲ以テ假令所有事實ノ徵スヘキモノアリトスルモ其ノ境界查定ノ如キ容易ニ確定シ得サル狀態ナリキ故ニ明治八年六月同局乙第三號達及同年十二月乙地十一號達ヲ以テ特ニ山林原野池沼等官民有區分ニ關スル查定ノ標準ヲ定メ苟モ隣保ノ保證アルニ於テハ假令簿冊ニ明記ナキモ其ノ慣行成績ノ上ヨリ民有ノ確證ト認定シ得ヘキコトヲ規定シ次テ同七月同局議定地所處分假規則ナルモノヲ制定スルニ至レリ

地租改正事務局乙第三號達(明治八年六月)

府 縣

山林原野地等官民所有ノ區別スルニ當リ簿冊ノ徵證アルモノハ素ヨリ判然ナリト雖モ從來數村入會又ハ一村數人共有等ノ慣行存在シ比隣部  
村ニ於テモ其自由進退シ來ルヲ保證スルモノハ假令簿冊ニ明記ナキモ其慣行ヲ以テ民有ノ確證ト認メ民有地ヘ編入スヘシ若シ其疑似ニ涉ルモ  
ノハ其事由ヲ詳記シ稟議スヘシ

地租改正事務局乙第十一號達 (明治八年十二月)

府 縣

本年當局乙第三號ヲ以テ山林原野地沼等官民有査定ノ件達示セリ然ルニ右達以前改租既濟ノ地ト雖モ右ニ低額ノ分ハ明治九年十二月ヲ限リ更  
ニ調査シ内務省ヘ稟議スヘシ但一旦官地ニ定リ還祿士族其ノ他ノ人民ハ拂下處分濟ノ分ハ此限ニアラス乙第三號達ノ旨趣ハ從來ノ成蹟上ニ於  
テ所有スヘキ道理アルモノヲ民有ト定ムヘキトノ主義ニシテ單ニ伐薪刈林或ハ從前林水山永下草冥加永等納メ來レル習慣アルモノヲ概シテ民  
有ノ證トハ視認シ難キニ付如新類ハ原由慣行等精査シ稟議ノ後處分スヘシ

地所假處分假規則ノ内 (明治八年七月地租改正事務局議定)

- 第一章第一條 道路堤塘河川ノ兩國郡村市ノ中間ニアルモノハ各村市ニ就テ其證跡ヲ糺シ其景況ニ由リ中央或ハ左右一方ノ傍側ヲ以テ經界ト  
爲スヘキヤ否ヲ精査シ舊慣ニ依リ難キモノハ地方官協議ヲ逐々稟議スヘシ
- 第二條 神社ノ兩國境上ニ跨リ經界ヲ標目トナシ來ルモノモ第一條ト同ク區域ヲ明瞭ニスルハシ
- 第三條 一人ノ所有地ト雖モ道路等ヲ隔テシ地ハ各別ニ調査シ之ヲ一筆トスヘカラス
- 第四條 從前公有地ノ内檢地帳水帳名寄帳ニ人民名受及買得ノ證アルモノハ民有地ト定ムヘシ若シ人民名受及買得ノ證ナ  
キモ他ニ人民所有地ト視認スヘキ處跡アルモノハ其實質ニ據リ民有地ニ定ムヘシ
- 第五條 郡地所處分ハ下章ノ條例ニ照シ證跡分明ナルモノト其名稱ノ著明ナルモノトノ處分ハ地方官ヘ協議シ其處分ニ任スヘシ
- 第六條 郡地所處分ハ下章ノ條例ニ照シ證跡分明ナルモノト其名稱ノ著明ナルモノトノ處分ハ地方官ヘ協議シ其處分ニ任スヘシ
- 第七條 渾テ官有地ト決定セル地所拂下又ハ貸渡等ハ内務省ノ處分ニ歸シ本局ノ權限外トス
- 第八條 渾テ官有地ト定ムル地所ハ地引繪圖中著色スヘシ
- 第三章第一條 山林原野等簿冊ニ明記アルモノハ勿論從來甲乙村入會等ノ證跡アルモノハ民有地トシ其證跡ナキモノハ官有地第三種ト定メ内  
務省ノ處分ニ歸スヘシ
- 但證跡ハ本局乙第三號達ニ準據スヘシ
- 第四章第三條 道路堤塘ハ各地從來制度ノ區別アルヘシ若シ耕地ヨリ其職員ヲ現シ切開キシカ又ハ宅地ニ取圍ヒシモノアルトキハ其步數ハ前

道敷地數ニ復シ耕地地ノ方ハ差除キ調査スヘシ

- 第七章第一節第一條 社寺境内外ハ本年本局乙第四號達ニ準據檢査シ官民有ノ區分ヲ確定スヘシ
- 第二條 境内外ノ區別地方官ヨリ進達セシ繪圖面ニ照シ檢分ノ上伸縮不適當及既ニ舊境內引裂キ一應上地處分濟タリトモ取調規則ニ依テ分  
ハ引直方協議スヘシ但舊境內公園地ノ裁可ヲ經シモノモ亦本文ニ準據スヘシ
- 第三條 大社等ノ外ハ一區內兩三ヶ所ヲ檢査シ不適當ナケレハ其區內ハ渾テ適當ヲ得シモノト見做シ悉皆檢査ニ及ハサルヘシ
- 第三節第一條 總テ民有地ノ證ナキモノ及民有地ノ政府ヘ買上ケシ神社敷地ハ官有地第一種ヘ寺院敷地ハ同第四種ヘ編入スヘシ但シ從前檢地  
帳ニ何社寺ト名請アル高内引ノ分ハ其社寺ノ所有ト爲スヘシ
- 第二條 社寺名請ニシテ從前買租ヲ納メ來リ及人民名請ノ社寺敷地氏子禮中ナク且人民一己ノ名請ノモノハ民有地第二種ニ編入スヘシ但民  
有ノ證アル郷村社以上ハ同第三種ヘ編入スヘシ
- 第三條 一區ニシテ官有民有兩種ノ地所ヲ合セシ社寺ハ其經界ヲ糺シ官民兩種部分ヘ編入シ官有地帳簿ニハ民有地ノ反別ヲ外書ニ記シ民有地  
帳簿ニハ官有地反別ヲ外書ニ記載スヘシ
- 第四條 事故アリテ官有地ヨリ民有地ヘ移轉セシ社寺ノ跡地ハ上地セシメ官有地ヘ編入スヘシ
- 第五條 社寺朱黑印地除地ノ内三年十二月上地發令以前賣却又ハ買入セシ分ハ其金主ヲ持主トシ三年以後賣却ハ其代金ヲ償ハセ買入ハ爲受戻  
上地セシムヘシ若シ不服ノモノハ其筋ノ裁判ニ任スヘシ
- 第三節第一條 從前社寺其地ヲ有シテ買租作德トモ一切社寺ヘ收入セシモノ其地朱黑印地ナレハ上地セシメ官有地第三種ト定メ内務省ノ處分  
ニ歸ス但其處分ハ昨七年内務省乙第四十三號達ニ照準スヘシ
- 第二條 從前買租作德トモ一切社寺ヘ收入スト雖モ社寺名受又ハ人民所有地ヲ社寺ニテ出金買得セシ確證アルカ或ハ人民ヨリ寄附セシモノハ  
直ニ其社寺ノ所有地ト定ムヘシ
- 第三條 從前人民其地ヲ有シテ其買租社寺ヘ收入セシモノハ直チニ人民ノ所有地ト定ムヘシ
- 第四條 上地ノ内從前山林荒蕪地ヲ自費ニテ田畑宅地ニ開墾セシモノ社寺ノ費用ヲ以テセシハ其社寺ヘ舊神官僧侶及他人民ノ私費ヲ以テセシ  
ハ其者ヘ無代價ニテ下與スヘシ其他處分方法決シ難キモノハ總テ裁決ヲ乞フヘシ但從前境內ニシテ今般調査ノ際境外ニ屬セシ内田畑ニ開墾  
セシモノモ本條ニ準シ處分スヘシ
- 第四節第一條 舊領主地頭其買租ヲ寄附シ其土地人民ノ所有タルモノハ其買租ヲ舊ニ復シ其地ハ人民ノ所有トスヘシ
- 第二條 人民所有地ヲ寄附シ社寺ヨリ其買租ヲ納メ來レルモノハ社寺ノ所有トナスヘシ

第三條 人民所有地ヲ寄附スト雖モ自カラ其貢租ヲ辨納シ來レルモノハ其作徳ノミチ寄附セシモノナレハ寄附主ノ所有地トナスヘシ  
 第五節第一條 社寺廢合跡地官有地ハ之ヲ上地セシメ民有地ハ社寺名受ニシテ從來該社寺所有地及氏子檀中寄附地ニシテ別段ノ契約ナキモノハ廢社寺ナレハ上地セシメ合社寺ナレハ其合ハス所ノ社寺ヘ附スヘシ氏子檀中又ハ人民一己名受ノモノハ廢合トモ其名受者ノ處分ニ任スヘシ(十年二月更正ノモノヲ掲ク)  
 第二條 人民寄附地ノ内證據分明ナラス及寄附人若シクハ子孫無キモノ合社寺ナレハ其合ハス處ノ社寺ニ付シ廢社寺ナレハ上地セシメ内務省ノ處分ニ歸スヘシ

然レ公有地ニ對スル査定區分ニ至リテハ尙未タ悉ササル所アルヲ以テ更ニ明治九年一月同局議定山林原野等官民所有區分ニ關スル處分方法ヲ定メ之ヲ以テ山林原野ノ査定標準トナシ土地官民有區別ノ調査ヲ遂行セリ是即一般土地區分ニ關スル沿革ノ大要ニシテ所謂地租改正ノ處分ト稱スルハ此査定處分ヲ指シタル者ナリ

山林原野等官民所有區分處分方法(明治九年一月地租改正事務局議定)

第一條 舊領主地頭ニ於テ既ニ某村持ト定メ官簿又ハ村簿ノ内公證トスヘキ書類ニ記載アル分ハ勿論口碑ト雖モ樹木草茅等其村ニテ自由ニシ何村持ト唱來リシコトヲ比隣郡村ニ於テモ瞭知シ證據ニ代ツテ保證スルカ如キ山野ノ類ハ舊慣ニ仍リ其村持ト定メ民有地第二種ヘ編入スヘシ但一旦官林帳ヘ編入セシ分ハ此限ニアラス  
 第二條 從來村山林ト唱ヘ樹木植付或ハ燒拂等其村所有地ノ如ク進退シ他ノ普通其地ヲ所用シテ天生ノ草木等伐刈シ來ルモノト異ナル類ハ從前租稅ノ有無ト簿冊ノ記否トニ拘ラス前項ノ成跡ヲ視認シ民有地ト定ムヘシ但一隅ヲ以テ全山ヲ併有スルコトヲ得ス  
 第三條 從前林永山水下草錢冥加水等ヲ納ムルモ曾テ珍養ノ勞費ナク全ク自然生ノ草木ヲ採伐シ來リタルノミナルモノハ其地盤ヲ所有セシモノニ非ス故ニ右等ハ官有地ト定ムヘシ但其伐採止ムルトキハ忽チ支吾ヲ生ス可キ分ヲ拂下或ハ拜借地等ニナスハ内務省ノ管掌ニ付地方官ノ意見ニ任スヘシ  
 第四條 往年甲乙ノ爭論ヲ生スルニ當リテ領主或ハ幕府ノ裁判ニ係リ原野ハ甲村ノ地盤ト裁許シ了リ而シテ乙丙之ニ入會採薪刈草等ヲ爲シ來ルモノト雖モ第三條ノ如キ地ニシテ外ニ民有ノ證トスヘキモノナキハ第三條ニ準シ處分スヘシ但裁許狀ニ甲村ノ地ニシテ甲乙丙入會ニケ村進退或ハ三ヶ村持ト明文アル類ハ其證據顯然タルニ由リ稅納ノ有無ニ拘ハラス之ヲ村持入會地ト定メ民有地第二種ヘ編入スヘシ但裁許狀

ニ入會トノミアルモ實際第一第二條ノ如キ地ハ勿論舊來入會村外ノモノヨリ公然山手野手等ノ名ヲ以テ多少ノ米穀ヲ收メ薪材等ノ伐採ヲ許セシ慣習アリ其成跡入會村所有ニ歸シ相當ノ分モ亦民有地第二種ニ定ムヘシ  
 第五條 遠山深澤ニ入り薪材等ヲ伐採シ之ヲ河川ニ流漕シテ賣買ヲ職トスルモノアリ是等ハ永年多少ノ山役永納來ルモノト雖モ第三條ニ準シ官有地ト定ムヘシ  
 第六條 前條ニ掲ケル地種ハ從來ノ成跡遺理ニ由リテ其所有ヲ判定シ其他ノ分ハ證據左ノ有無ニ拘ハラス總テ經何ノ後處分スヘシ

改租圖ハ概ネ明治八年ニ調製ヲ了シタルトモ地方ニ依リテハ數年後ヲ經テ完成シタルモノナキニアラス而シテ本圖ハ實地ニ當リ官民有ノ區別ヲ調査セル最初ノモノナレハ後年境界ノ査定ヲ爲スニ付テハ最重要ナル證據トナルニ至レリ元來地租改正ノ事業ハ地租徵收ノ基礎ヲ確立スルヲ目的トシ國有ノ森林原野其ノ他ノ土地ヲ調査スルハ全然其ノ目的外ナリシヲ以テ更ニ國有林野調査ノ必要ヲ認メ明治九年三月官林調查假條例ヲ決議シ當時ノ所管廳タル内務省ヨリ官員ヲ派遣シ國有林ノ所在面積及立木等ヲ調査シテ官林臺帳ヲ作製シタリ然レトモ當時ノ調査ハ出張ノ官吏ニ於テ適宜ノ方法ヲ用ヒタルヲ以テ實際ト合致セサルモノ多ク後ニ至リ官民所有ノ境界明瞭ナラスシテ屢紛爭ヲ生シ國有林野ノ管理經營上ニ及ホセル障害鮮少ナラサリシカハ明治十四年二月以來各地ニ於ケル官林境界線ノ實測ニ著手セシメタリ四月農商務省ノ設置セララルニ及ヒ其ノ事務ノ統一改善ヲ計ルノ必要ヲ認メ翌十五年官林境界線實測及製圖順序並官林境界調查心得ヲ定メ關係ノ各府縣ニ達シテ是ニ依ラシムルコトトセリ

官林境界線實測及製圖順序(明治十五年三月七日農商務卿決議)

第一條 測量器械ハ「ブレンターブル」經緯儀ト測尺測竿トヲ用ユルモノトス  
 第二條 測量ハ第一圖ノ如ク基點(堤塘大石橋梁大樹神社等)ノ可成移シ得ヘカラサル著明物ニ據ルヘシ)ヲ定メ起點ニ於テ之ヲ測量シ每標番號ヲ記シタル小杭ヲ立ツヘシ若シ起點近傍ニ基點トナスヘキ著明物ナキトキハ何號標ニテモ其著明物アルニ當リ測定シテ豫備點トナスハシ

第三編 國有林野ノ經營



- 但基點ノ有無ニ係豫備點ノ數多キヲ可トス
- 第一項 本條ノ事業著手以前ニ測器ニ據テ測尺ヲ製造スヘシ
- 第二項 本條ノ業ヲ施スニハ當初起點ニ於テ羅針ヲ測机上ニ設置シ南北線ヲ机上ノ圖紙ニ確引シテ後ニ基點又第一號標ヲ測量スヘシ
- 第三項 前項ノ測量ヲナスニ當テハ必ス高低ノ度ヲ測量シ五度以上ナルトキハ餘弦表ヲ以テ測距離ヲ改正シ平面距離トナシ圖面ヘ測點ヲ印スヘシ
- 第四項 本條ノ如ク號ヲ追テ測量ナシカタクキ(境界斷崖絕壁或ハ山勢峻峻ニシテ高低甚シク測量用ニ適セサル場所トキ或ハ境界一直線ナルモ溪谷ヲ隔テ遠距離ニシテ測尺用ヲナス能ハサル(溪谷ニ下リ測量ヲナストキハ數十點ノ測標ヲ設ケサルヲ得ス若シ甲所ヨリ溪谷ヲ越ヘ乙所ヲ測量スレハ一測標ニシテ得ル場所)トキ等ハ虛點(番號ヲ附セス測量ノ便ニヨリテ一時測線ヲ連接セシムルノ標)ヲ設ケ測量ナスヘシ但虛點ト雖高低ノ度ハ必測スヘシ)
- 第五項 本條ノ業ヲ施スニハ實地ニ於テ野帳ヲ記セサルヲ得ス此野帳ヲ原野帳トナス
- 第六項 前項ノ原野帳記載方ハ第三號書式ノ如クスヘシ(西洋數字ト符合トナ用エルハ實地ニ於テ記シ易キカ爲メナリ)
- 第七項 原野帳ハ人民ヲシテ調印セシムヘキ野帳ノ本ニシテ又他日斜而距離ノ算出スル用ニ供スヘキモノナレハ厚ク注意シテ保存スルヲ要ス
- 第三條 野帳ハ第二條中第五項ニ記スル所ノ原野帳本ヨリ第四號書式ニ照準謄寫シテ個所毎ニ三冊ツツナ製シ調査官立會人ト共ニ署名捺印スヘシ
- 第四條 官林ノ境界數村ニ跨ルトキハ其村界毎ニ第七號書式ノ標木ヲ立ツヘシ
- 第五條 製圖用紙ハ成ルヘク堅牢ニシテ久シキニ堪ユヘキ紙質(西洋紙外)ヲ撰フヘシ
- 第六條 製圖ノ大小ハ官林ノ廣狹ニ據リ適宜之ヲ定ムヘシト雖モ凡左ノ割合ニ照準シテ製スヘシ
  - 百町歩以下 眞形千分ノ一
  - 五百町歩以下 眞形二千分ノ一
  - 千町歩以下 眞形四千分ノ一
  - 五千町歩以下 眞形五千分ノ一
  - 一萬町歩以下 眞形一萬分ノ一
  - 一萬町歩以上 眞形二萬分ノ一

製圖ヲ區分シテ下圖精圖ノ二種トス

第八條 下圖ハ第一號圖ノ如ク左項ノ順序ヲ以テ箇所毎ニ一枚ヲ製スヘシ

但シ下圖ハ精圖求積等ノ起原ナルヲ以テ厚ク注意シテ保存スルヲ要ス

- 第一項 經圖(測机上ノ圖面枚數ニ從ヒ之ヲ一紙上ニマトムルヲ云フ)但測點ノ號ヲ記入シ南北線ヲ確引スヘシ
  - 第二項 黑線ヲ畫ス但基點及豫備點ヘハ點線ヲ用ユ
  - 第三項 隣地境界(點線ヲ用ユ)道路川脈及地名ヲ記入
  - 第四項 求積線及符合
  - 第五項 方位線
  - 第九條 精圖ハ第八條中第三項ノ業ヲ了スレハ直謄寫シ必ス正北ヲ上トナシ第二圖ノ如ク色分シ箇所毎ニ三枚ヲ製シ調査官ハ立會人ト共ニ署名捺印スヘシ
  - 但製圖ノ大小ニヨリ第六號書式ノ如ク比例尺ヲ記入スヘシ
  - 第十條 繼目アル用紙ニ製シタルトキハ其裏面ノ繼目毎ニ調査官ハ立會人ト共ニ捺印スヘシ
  - 第十一條 圖面及書類等書損改削ナシタルトキハ其裏面ニ改削或ハ書損何箇所ト記シ其書損或ハ改削箇所毎及其裏面ニ記スル所ヘ調査官ハ立會人ト共ニ捺印スヘシ
  - 第十二條 第八條中第四項ノ求積線ニヨリ符號ニ從ヒ第五號書式ノ如ク求積帳一冊ヲ製シ精圖ニ算出シ保存スルヲ要ス
  - 第十三條 測机上ノ圖ハ精圖ノ起原ナルヲ以テ厚ク注意シテ保存スルヲ要ス
- 官林境界調査心得(明治十七年十月十四日付外第三四〇號達)
- 第一章 總 則
- 第一條 官林境界調査ハ官林ト官有地又ハ民有地トノ境界ヲ實測判別シ之ヲ劃定スルモノトス
  - 第二條 境界調査ハ調査官地方官ト協議シ地元戸長及其官林ニ接續スル隣村戸長隣接地所有主又ハ其代理人又ハ總代人立會ノ上之ヲ行フヘシ但數人又ハ町村ノ共有地ハ二名以上ノ總代人ヲシテ立會ヲ爲サシム可シ
  - (參考說明)官林境界地ノ府縣管轄ニ接スル時ハ其府縣官ト協議ス可シ
  - 代理人又ハ總代人ノ立會ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ徴ス可シ
- 第三編 國有林野ノ經營

第三條 官林境界ニ接續シタル道路幅二間以下河川溝渠幅五間以下ナル時ハ其道路河川溝渠ヲ隔テタル隣地所有主ヲシテ立會チ爲サシム可シ

第四條 數箇所ノ官林地盤接續シタルモノハ總テ合測ス可シ

但接續ノ官林他ノ府縣管轄ニ跨リ又ハ調査事業上合測シ難キ場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第五條 官林數箇所ヲ合測スル時ハ各官林ノ境界ニ第一號雜形ノ標木ヲ建設ス可シ

第六條 官林内ニ在ル道路及溝渠溜池墳墓地等雜地目ノ異ナルモノアル時ハ其境界ヲ調査シ官林内ヨリ其反別ヲ除却シ其他ハ總テ官林ニ合測ス可シ但道路ノ境界ハ實測ヲ要セス

(參考說明)官林内道路ノ境界實測ヲ要セサルモノハ將來境界雜形ノ恐レナク且急務ナラサルニ因ル

第七條 官林ノ境界雜形ヲ將來紛議ヲ生ス可キノ恐アル場所ハ土壘又ハ第二號雜形ノ境界標ヲ建設ス可シ

第八條 調査官ハ精敷ニ境界ヲ調査シ野帳及地圖ヲ作ル可シ若シ其境界不判明ニシテ劃定シ難キ場合ニ於テハ其事由ヲ具シ意見ヲ附シテ本局ニ稟議ス可シ

第九條 境界調査ヲ終リタル時ハ隣接地所有主又ハ代理人又ハ總代人ヨリ第三號書式ニ照準シタル請書ヲ取置ク可シ

第二章 測 量

第十條 測量器ハ平面卓經緯儀及ヒ測尺測竿ヲ用ユ可シ

第十一條 測量ハ第一基點ヲ定メテ順次ニ測量ヲ爲シ及ヒ豫備點ヲ測定ス可シ

(參考說明)基點及豫備點ハ堤塘岩石橋梁神社大樹等ノ容易ニ其位置ヲ變移ス可ナサル最著明ニシテ目標トナル可キ者ヲ擇定ス可シ若シ基點又ハ豫備點トナスニ適當ナル者ナキ時ハ土壘又ハ石標等ヲ設ク可シ但豫備點ハ基點ノ有無ニ拘ハラズ數多測定シ置クヘシ

測量著手前ニ測器ヲ改正シ且著手後時々試驗ヲ行フ可シ若シ測器ニ差異アルトキハ其測量モ亦精確ナラサルニ因ル

測器ヲ改正シタル時ハ測器ノ望遠鏡ニ裝置セル上下兩條ノ蜘蛛線ニ由リ測尺ヲ製造ス可シ測量著手ノ初ニ當リ起點ニ於テ羅針ヲ測机上ニ

設置シ南北線ヲ圖紙ニ規引シタル後基點及境界測點及境界測點標ノ番號ヲ逐ヒ順次ニ測量スルモノトス

測量ヲ爲スニ當リテハ每號高低ノ度ヲ測量シ五度以上ナル時ハ餘弦略表ニ據リ測距離ヲ改正シ平面距離トナシ机上ノ圖ニ測點ヲ印ス可シ

境界ノ山勢峻峭斷崖絶壁ニシテ高低最モ甚ク測器用ニ適セス順次號ヲ逐ヒ測量シカダキ時又ハ境界一直線ナルモ溪谷ヲ隔テ遠距離ニシテ

測尺用ナナス能ハス假令ハ溪谷ニ昇降シテ測量ヲナス時ハ數十點ノ測標ヲ設ケサルヲ得サルモ若シ甲所ヨリ溪谷ヲ越ヘ乙所ヲ測量スレハ

一測標ニシテ全測スルコトヲ得ル時又ハ測量上ノ便宜ニ由リ一時測線ヲ連接セシムル爲メニ虛點標ヲ設ケルモ妨ケナシトス

但虛點標ハ番號ヲ附セスト雖モ必ス高低度ノ測量ヲ爲スヘシ

第三章 野 帳

第十二條 野帳ヲ別テ原野帳及ヒ清野帳ノ二種ト爲ス

第十三條 原野帳ハ第四號書式ニ照準一冊ヲ調製ス可シ

(參考說明)原野帳トハ第十一條ノ測量ヲ爲スニ當リ實地ニ於テ記ス所ノ野帳ヲ云フ

第十四條 書式中西洋數字ト符號トヲ用ユルハ實地ニ於テ記シ易キカ爲ナリ又高低度ノ五度以上ナルモノヲ記スルハ斜距離及高低ヲ算出スルノ用ニ供スルカ爲ナリ

第十四條 清野帳ハ第五號書式ニ照準一通ヲ作り調査官地方官及地元戶長官林ニ接續スル隣村戶長隣接地所有主又ハ代理人ハ總代人共ニ署名捺印ス可シ

(參考說明)清野帳トハ境界調査終リタル後第十三條ノ原野帳ニヨリ贈記スルモノヲ云フ

第十五條 書式中測標ノ下ニ記スル摘要中ノ小字ハ隣接地ノ小字ヲ記載ス可シ某寺住職誰ト記スルモノハ民有地第一種ニシテ地券面單ニ其寺ト記シ檀中信徒講中總代等ナキモノヲ云フ代理人ニ於テ署名捺印シタル時ハ其事由ヲ記載ス可シ

第四章 製 圖

第十五條 製圖ヲ別テ下圖及清圖ノ二種ト爲ス

第十六條 下圖ハ第六號圖式ニ照準一葉ヲ調製ス可シ

(參考說明)下圖ハ左ニ記載スル順序ニ依リ調製ス可シ

第一 經圖ハ測机上ノ圖面其葉數ノ多少ニ拘ハラズ之ヲ一紙上ニ纏ムルモノヲ云フ

測點ノ番號ヲ記載シ次ニ方位線ヲ引キ次ニ墨線ヲ画ス

但基點豫備點ニハ點線ヲ用ユ可シ

第二 官林ニ隣接シタル隣地ト隣地トノ境界ハ點線ヲ用ヒ道路川脈及地名ヲ記載ス可シ道路河川ヲ以テ國郡界ヲナスモノモ點線ヲ用ユ可シト雖モ其道路河川ノ地盤何レノ國郡村ニ屬スルヤヲ査定シ正確ニ境界點線ヲ記入ス可シ

第三 求積線ハ三斜方ヲ用ヒ可成の筆數ヲ減シ符號ハ眞草假字又ハ數字ヲ用ユ可シ

第四 第一項ノ方位線ニ照準シ適宜ニ縱橫墨線ヲ劃シ測線ヲ延長シテ縱橫線ニ至ラシム其線ハ細線ノ鉛筆線ヲ用ユ可シ

第十七條 清圖ハ第七號圖式ニ照準三通ヲ作り調査官地方官及地元戶長官林ニ接續スル隣村戶長隣接地所有主又ハ代理人又ハ總代人ト共ニ署名捺印ス可シ

第三編 國有林野ノ經營

但製圖大小ノ割合ニ依リ第八號書式ニ照準比例尺ヲ記載ス可シ

(參考說明)第七號圖式中某寺住職誰ト記スルモノハ第十四號清野帳ノ例ニ同シ

第十八條 清圖ハ正北上トシ隣接地地種地目ノ異ナルモノハ第七號圖式ニ照準分色ス可シ

第十九條 製圖用紙ハ紙質ハ堅牢ニシテ久シキニ堪ユ可キモノヲ用ユ可シ

第二十條 製圖ノ大小ハ官林ノ廣狹ニ依リ凡ソ左ニ記載スル割合ヲ以テ調製ス可シ

十町歩以下 眞形五百分ノ一

百町歩以下 眞形千分ノ一

五百町歩以下 眞形二千分ノ一

千町歩以下 眞形四十分ノ一

五千町歩以下 眞形五千分ノ一

一萬町歩以下 眞形一萬分ノ一

一萬町歩以上 眞形二萬分ノ一

第二十一條 清圖中官林境界ニ沿ヒタル道路及河川溝渠等ノ著明ナルモノハ其官林ニ接シタル部分ヲ著色ス可シ

但道路河川溝渠等ノ官林ニ出入スルモノハ其境界内外ノ小部分ヲ著色スヘシ

(參考說明)道路河川溝渠其他ノ徑路細流ハ總テ見取ヲ以テ記入ス可シ

第二十二條 製圖用紙ニ繼目アル時ハ其裏面ノ每葉ニ調査官地方官及地元戸長ト共ニ契印ス可シ

第二十三條 野帳及圖面ニハ官林ノ名稱及字林位ヲ記載ス可シ但名稱ナキモノハ其事由ヲ附記ス可シ

(參考說明)數箇所ノ官林ヲ合測シタル時ハ每官林ノ名稱及字林位ヲ列記ス可シ一官林ノ名稱及ヒ字ヲ記シ其他ヲ略シテ外何箇所等ト記ス可ラス

第二十四條 清野帳及清圖ヲ作ルニ付文字ヲ改竄シ及挿入削除シタル調査官地方官及ヒ改竄挿入削除ノ箇所ニ關スル所有主ト共ニ之ヲ認印ス可シ

文字ヲ改竄及挿入削除シタル箇所官有地ナル時ハ調査官及地方官地方戸長之ニ認印ス可シ

但原野帳及下圖求積帳中文字ヲ改竄シ及挿入削除シタル時ハ調査官之ニ認印ス可シ

(參考說明)文字ヲ改竄及挿入削除シタル時ハ圖面ハ裏面野帳ハ表紙ノ内部ニ其改竄及挿入削除シタル數ヲ記載シ調査官地方官及地元戸長

ト共ニ認印ス可シ

第二十五條 求積帳ハ第九號書式ニ照準一冊ヲ調製シ正確ニ算出ス可シ

但坪ハ合ニ止メ間ハ分ニ止メ反別ハ歩ニ止メ總テ四拾五入法ヲ用ユヘシ

(參考說明)求積帳ハ第十六條參考說明第三項ノ求積線ニ由リ算出スルモノトス

第二十六條 野帳及圖面其他ノ書類ニ書ス可キ數字ハ明治八年大政官第七十七號達ニ照準ス可シ

(參考說明)

大政官第七十七號達

金穀貸借證書面金員數等ヲ改作塗抹シ又ハ一二十等ノ數字ヨリ往々紛雜ヲ醸シ不都合ノ儀不尠候間凡ソ他日ノ證據ヲ要スル書類ハ自

今一二十ノ數字ハ壹貳拾ノ字體ヲ用ヒ無餘儀改作塗抹スルトキハ其處ニ押印シ且物品數等一紙ニ書盡シ難ク又ハ帳簿ヲ爲スモノハ其繼

目及ヒ綴目ニ押印シ總テ他日紛雜ノ基ヲ生セサル様深ク注意可致旨各管下ヘ可曉諭此旨相違候事

第二十七條 野帳及圖面ハ實著ニシテ正確ナルヲ旨トシ體裁ヲ修飾シ實地ノ形狀ヲ失フ可カラス

第二十八條 調査官一區一郡ノ官林境界調査ヲ終リタル時ハ清野帳及下圖清圖求積帳ヲ副ヘ本局ニ稟議ス可シ

但郡區ノ大小ニ依リ其大ナルモノハ之ヲ數次ニ分チ小ナルモノハ數區數郡ヲ合セ稟議スルモ妨ケナシトス

第二十九條 前條稟議書裁可ノ指令ヲ受ケタル時ハ山林事務所及郡區役所ハ清圖各一通ヲ保存ス可シ

(參考說明)本局指令書ハ清圖ト共ニ事務所ニ保存ス可シ

郡區役所ニ保存ス可キ清圖ハ府縣廳ヲ經由シテ之ヲ下渡ス可キモノトス

第三十條 境界調査ヲ終リタル後官林牽帳ニ記載シタル境界其他ニ差違アル時ハ成規ニ依リ官林簿ノ更正ヲ上申ス可シ

(參考說明)合測シタル官林ハ官林簿ニ某官林外何箇所合測反別何程ノ内ト明記ス可シ

第三十一條 境界調査ノ際從前ノ林位實地不適當ナリト認定シタル時ハ其旨ヲ具狀シ林位ノ更正ヲ上申ス可シ

第三十二條 野帳及圖面求積帳其他書類ノ捺印ハ調査官及地方官戸長ハ官印ヲ用ヒ戸長代理者其他ノ立會人ハ總テ實印ヲ用ユ可シ

第一號



第三編 國有林野ノ經營

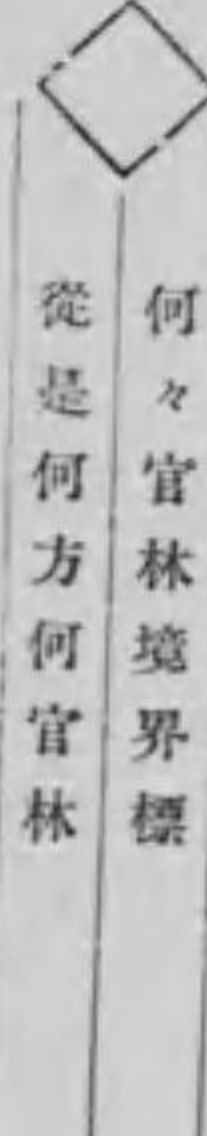
曲尺貳寸角地上ニ出ル凡三尺 裏面ニ建設ノ年月日ヲ記ス



第二號



曲尺八寸角 地上ニ出ル四尺五寸



然レトモ經費不充分ナリシカ爲境界ノ紛亂甚シキ地方ノミヲ限リテ施行セシニ過キス尋テ明治十七年二月太政官布告第七號ヲ以テ地租條例ヲ制定セラレ更ニ同年四月大藏省達號外ヲ以テ地租條例取扱心得書ヲ定メ地主ヲシテ段別及野取繪圖ヲ提出セシメ官吏ヲ派シテ所謂地押調査ヲ爲サシメタリ然レトモ山林原野ノ如キ面積廣大ニシテ徵稅ニ影響少ナキモノノ調査ハ粗略ヲ免レス未タ官民有ノ境界ヲ明確ナラシムルニ至ラザリキ明治二十年以降ニ及ヒ林學專攻者ノ實務ニ從事スルモノ漸ク多キヲ加ヘ林區制度モ亦普及シテ國有林野ノ經營其ノ緒ニ就キシヲ以テ政府ハ二十三年度ヨリ同三十七年度ニ至ル十五箇年間ノ繼續費八十五萬五千餘圓ヲ支出シ林野ノ永遠國有トシテ存置スヘキモノト存置ヲ要セサルモノトヲ調査スル官有林野實況調査官民有林野境界ノ確定ヲ目的トスル官林境界調査及森林經濟ノ基礎タルヘキ面積ノ測定ヲ目的トスル境界實測ノ三事業ヲ開始シ尙之ニ附帶シテ部分林ノ造林者確定ニ關スル調査ヲモ施行スルノ計畫ヲ立ツルニ至レリ是レ所謂

山林原野調査事業ニシテ今其ノ豫定計畫ヲ掲クレハ左ノ如シ

種類	箇所	面積	延長	經費	備考
實況調査	一九八、七〇〇	四	六九、七九、〇〇〇		
部分林調査	五、六六六	四	一六、六四、〇〇〇		
境界踏査	九三、三〇三	一	一九、六六、七〇〇		
境界實測	一	一	六、九七、五〇〇		
計	三七七、七〇六	一〇	一〇八、〇七、二〇〇		

本事業ハ明治二十三年四月ヲ以テ著手セラレ各大林區署ヲシテ之カ實行ニ任セシメタリ而シテ境界ノ調査ニ關シテハ官有林野境界調査心得ニ依リ先ツ境界ヲ踏査シテ之ヲ判別確定シ主要ノ界點ニ境界標ヲ設置シ測量ノ方法ハ之ヲ一定セスシテ便宜支障ナシト認ムル程度迄省略スルヲ許シタルモ同年十月右心得ヲ廢シ農商務省訓令丙林第三七一號ヲ以テ官林境界踏査内規ヲ定メ同年十二月更ニ訓令丙林第五〇九號ヲ以テ官林境界測量内規ヲ定メ踏査ハ境界ノ判明ナラサルモノ紛議アルモノ若ハ紛議ヲ生スルノ虞アル場所ニ限リテ之ヲ施行シ測量ハ施業上必須ノ官林ニ限リ之ヲ施行スルコトトセリ

官林境界踏査内規(明治二十三年十月農商務省訓令丙林第三七一號)

第一條 官林境界踏査ハ官林ノ境界不分明ナルカ隣接地主ト紛議アルカ若クハ紛議ヲ生スルノ恐レアル場所ニ限リ界線ヲ判別測定スルヲ以テ主旨トス

第二條 境界踏査員ハ判任官ヲ以テ之レニ充ツ

第三條 踏査員一組ノ人員ハ左ノ如シ

判任官 一名 人夫 一名

第三編 國有林野ノ經營

- 第四條 踏査ハ地元市町村吏員並隣接地主又ハ總代人代理人立會ノ上可成證據書類ヲ参照シテ界線ヲ確定スヘシ  
但代理人其立會ヲナストキハ委任狀ヲ徴スヘシ
- 第五條 界標ハ可成隣接地主ノ異ル毎ニ必要ノ界點毎ニ建設シ特ニ必要ナル界標ハ近傍ノ不動物其他顯著ナル物體ト連結セシムヘシ
- 第六條 界標ハ適宜ノ木材ヲ以テ直徑三寸長サ三尺トナシ内側ニ番號(第何號)外側ニ山印左側ハ年月及其項ヘ界線ノ方位ヲ記入シ其三分ノ二ヲ地下ニ埋メ建設スヘシ  
但緊要ナル界點ニハ適宜ノ土塚ヲ築キ其上ニ界標ヲ設クヘシ
- 第七條 踏査ニハ携帶圖板並間繩ヲ用ヒ方位及ヒ距離ヲ測ルヘシ
- 第八條 踏査ノ際ハ野際ヲ携帶シ甲號雜形ニ準シテ記入スヘシ
- 第九條 踏査ヲ終リタルトキハ乙號雜形ニ準シ適宜ノ縮尺ヲ以テ圖面ヲ調製シ之レニ請書ヲ記載セシムヘシ
- 第十條 踏査ノ成績ハ毎半年度末ニ山林局長ニ報告スヘシ  
(雜形略)

官林境界測量內規(明治二十三年十二月農商務省訓令丙林第五〇九號)

第一章 通則

- 第一條 官林ノ境界測量ハ官林ノ境界ヲ判別劃定シ同時ニ其面積ヲ算定スルヲ以テ目的ト爲ス  
但官林境界踏査內規ニ依リ境界ノ測定ヲ終リタル地ハ更ニ測定ヲ要セス
- 第二條 官林境界測量ハ施業上必需ノ官林ニ限リ之ヲ施行スルモノトス
- 第三條 官林ニ道路河川溝渠等隣接スルモ其幅員狹少ナルカ或ハ其位置變シ易キ恐レアルトキハ其道路河川等ヲ隔テタル隣接地主モ亦立會セシムヘシ
- 第四條 數箇ノ官林地盤相接續スル時ハ總テ之ヲ合一シテ一箇ノモノト見做シ測量スルモノトス  
但測量不便ヲ來ストキハ此限ニアラス
- 第五條 境界測量ハ一小林區或ハ一派出所ヲ一區トナシテ之ヲ施行セシム其順序ハ大林區署長ノ定ムル所ニ依ル
- 第六條 測量員ハ貳名ヲ以テ一組トナシ測夫三人ヲ附屬セシム  
第二章 測線及角點ノ固定

- 第七條 界線ヲ測定シタルトキハ主要ノ各角點ニ界標ヲ設クヘシ
- 第八條 界標ニハ便宜木標、岩石、石標、立木或ハ土塚ヲ用ユヘシ

一 木標ニハ可成耐久ノ角杭又ハ丸杭ヲ用ユヘシ角杭ハ方三寸以上丸杭ハ直徑四寸以上長三尺以上ト爲シ墨或ハ黒「ハンキ」ニテ其内側面ニ番號ヲ外側面ニ「山」印ヲ記シテ其二分一ヲ地下ニ埋ムヘシ又主要ノ角點ニ在リテハ尙標頂ニ釘三本ヲ打チ界線ノ方向ヲ顯ハスヘシ  
(第一圖第二圖參觀)



二 岩石ニハ前面ニ「山」印ヲ記シ或ハ刻スヘシ

三 石標ニハ上頭ヲ六寸角ニテ造リタル二尺五寸以上ノ長ヲ有スル石材或ハ高二尺五寸以上ノ天然石ヲ用ヒ其三分ノ二ヲ地下ニ埋ムヘシ又必要ノ場合ニハ尙其外額ニ「山」印ヲ其内額ニ番號ヲ其項ニ界線ノ方「V」ヲ刻スヘシ  
(第三圖第四圖及第五圖參觀)



四 立木ニハ目通ノ高サニ於テ幹部ノ周圍ヲ五寸以上ノ幅ニ外皮ヲ剝除シテ白「ハンキ」ヲ塗ルヘシ

五 土塚ハ便宜ノ大サトナスヘシ

六 將來紛議ヲ生ジ易キ恐レアル場所ニハ豫メ瓦片、木炭等ヲ埋メ其上ニ界標ヲ設クヘシ

第九條 界線ヲ判明ナラシムルカ爲メニ便宜溝ヲ設ケルモ妨ケナシ

第十條 天然ノ境界例ヘハ峯通谷筋絕壁河川湖海等ニシテ容易ニ變スルノ憂ナキ地形ニアリテハ界標ヲ設ケサルモ妨ナシ道路及石垣モ實地ノ狀況ニ依リ亦天然ノ境界ト同視スルコトヲ得

第十一條 界標間ノ測點ニハ便宜小杭(枝條或ハ小材ヲ以テ造ル)ヲ設クヘシ

第十二條 官林ト民林ト相隣接シ界線ヲ見透シ難キトキ立木ヲ伐採(但境界樹ヲ除ク)シテ境界視線ヲ開クヘシ

第三編 國有林野ノ經營

但民有立木ノ伐採ヲ要スルトキハ其所有主ト協議ノ上施行スヘシ

第十三條 界線ヲ顯ハスカ爲必要ノ場合ニハ界標ノ外ニ尙便宜豫備標ヲ設ケヘシ

第十四條 豫備標ノ番號ハ(アラビヤ)數字ニテ記入スヘシ

第十五條 立木ヲ豫備標ト爲ストキハ赤「ハ」ニテ境界樹ノ如ク其周圍ヲ塗ルヘシ

第十六條 前數條ノ手續ヲ爲シ全ク境界ノ査定ヲ了ヘタル後ハ隣接地主ヨリ第一號書式ノ請書ヲ徵收スヘシ

但已ニ官林境界踏査内規ノ手續ヲ以テ請書ヲ徵收セル場合ハ此限リニ在ラス

第三章 界線、角及面積ノ測定

第十七條 二點間ノ距離ハ必ス水平ニ測ルヘシ但シ二點間ノ勾配正齊ナルトキニ限リ先ツ斜面上ノ距離ヲ測リ之ニ傾度ノ餘弦ヲ乘シテ其水平

距離ヲ算出スルモ妨ケナシ

第十八條 距離ハ間ヲ以テ一位トナシ間未滿ノ小數ハ二位(何間何分何厘)ヲ以テ止ムヘシ

第十九條 長ヲ測ルニハ測錐及間尺ヲ用ユヘシ

第二十條 長サノ誤差ハ左ノ歩合ヲ限リ之ヲ許ス

一 平地ニアリテハ千分ノ三

二 山地ニアリテハ千分ノ五

第二十一條 界角ハ「テ」ヲ「ト」ヲ「四」イニチ以上「」ヲ用テ之ヲ測ルヘシ

但二十四條ノ誤差ヲ越ヘサルトキハ他ノ器械ヲ代用スルコトヲ得

第二十二條 細部測量ニハ測板或ハ「シリンドル」「コンパス」等便宜ノ器械ヲ用ユルコトヲ得

第二十三條 參謀本部設置ノ三角點アル場所ニ在リテハ可成之レト連結シ之ニ對スル官林ノ位置ヲ測定スヘシ

第二十四條 界角ノ誤差ハ左ノ歩合ヲ限リ之ヲ許ス

一 三角測法ニ於ケル三角形三角ノ和ノ誤差ハ三分迄

二 多角測法ニ於ケル角形總角ノ和ノ誤差ハ五分迄

第二十五條 界線上隣接町村字ノ界點並隣接地番號ノ界點ハ之ヲ測リ又必要ナル場合ハ是等各互ノ界線ノ角度ヲ測ルヘシ

第二十六條 面積ノ算定ハ經緯距算法ニ依ル可シ

第二十七條 面積ハ町歩ヲ以テ之ヲ顯ハシ歩(坪)未滿ハ四捨五入スヘシ

第四章 境界

第二十八條 境界圖ヲ分チテ全圖及分圖ノ二種トナス全圖トハ周圍ノ全部ヲ畫キタルモノヲ云ヒ分圖トハ周圍ノ一部ヲ畫キタルモノヲ云フ

第二十九條 分圖ハ官林ノ面積廣大ニシテ一紙面ニ其全周ヲ畫グコト能ハサルトキニ當リテ之ヲ製ルモノトス

第三十條 境界圖ハ五千分ノ一ニ縮小シテ之ヲ調製スヘシ

但特ニ精密ヲ要スルトキハ別ニ便宜大ナル尺度ニ畫クヘシ

第三十一條 面積廣大ニシテ數箇ノ分圖ニ分チテ其境界ヲ顯ハストキハ又別ニ之ヲ合一シテ二萬分一ノ全圖(或ハ切圖)ヲ製スヘシ

第三十二條 境界圖ハ力メテ北ヲ正上ト爲シ之ヲ畫クヘシ

第三十三條 境界圖ニ記載スヘキ第三十四條一項ヨリ三項ニ至ル事項ハ左方ヨリ右方ニ水平ニ書スヘシ

第三十四條 境界圖ニ記入スヘキ事項及其畫法ハ左ノ如シ

一 大小林区署名(或ハ派出所名)國郡市町村名及官林並圖ノ名稱(三段ニ書スヘシ)

二 分圖ニ在リテハ其番號(第何片)全圖及切圖ノ第一片ニ在リテハ面積(例ハ「三〇〇〇」ト書ス)

三 縮尺度(五分、十分、二十分)

四 測定セシ界線ハ黑線

五 紛議アル界線ハ點線

六 界線外ノ測線並豫備點ト周圍線トノ連結線ハ細線

七 界點ノ番號及界線上測點ノ記號

八 目標ノ符號

但目標ノ符號ハ其種類ニ依リ左ノ區別ニ從ヒテ記載スヘシ

イ 境界石標ハ洋紅ニテ正方形(□)(一)ノ長サ凡ソ二間ノ縮尺(ナ畫キ其石標ノ位置ヲ示ス所ノ針跡ヲシテ正方形ノ中心ニ在ラシメ且其

正方形ノ邊ヲ圖紙ノ線線ト併行セシムヘシ

ロ 天然ノ境界岩石ハ洋紅ヲ以テ直徑二間許ノ縮尺ニシテ外圍ノ四箇所ニ小點ヲ付シタル圈子(○)ヲ畫キテ顯ハスヘシ

ハ 境界木標ハ洋紅ノ圈子(○)ヲ用ユヘシ

ニ 境界樹ハ墨ニテ上方ニ管錐形ヲ付シタル圈子(⊖)ヲ畫クヘシ

ニ 境界土塚ハ墨ニテ重圈子(⊙)ヲ畫クヘシ

第三編 國有林野ノ經營

- へ 豫備標ノ符號ハ其物體ニヨリ前諸項ノ例ニ依リ畫クヘシ但洋紅ニ朱ヲ代用スヘシ
- ト 三角測點ニハ墨ニテ三角形(△)ヲ畫クヘシ
- 九 民有地ニ隣接スル境界ノ外線ハ幅大約八間ノ縮尺ニテ洋紅線ヲ付シ官有地ニ隣接スル境界ノ外線ニハ同上ノ藤紫色ノ線ヲ付ス但紛議アル境界ニハ外線ヲ付セス
- 十 線ニ内接スル官林ノ字名
- 十一 界線上ノ河川湖沼道路(河川湖沼ハ藍色道路ハ朱)並其名稱
- 十二 隣接郡村ノ界線ハ箭線形(↑)及其名稱並字名
- 十三 隣接地ノ種類(田、畑、林等ノ文字)其界線(細墨線)
- 十四 隣接地ノ番號及其界線(細墨線)
- 十五 方位線

第五章 境界簿

- 第三十五條 境界簿ハ境界圖ト共ニ官林ノ境界ノ永遠ニ證明スルカ爲メニ調製保存シ置クモノトス
- 第三十六條 測量員ハ野帳ヲ製シ實地測量ノ際現場ニ於テ測定觀察ノ事項ヲ記入シ之ニ由テ第三號書式ノ境界簿ヲ調製スヘシ
- 第三十七條 境界簿ハ境界全圖壹枚毎ニ之ヲ調製スルモノトス但官林面積廣大ニシテ數多ノ切圖ヲ作ルトキハ切圖毎ニ一冊ヲ製スルモ妨ナシ
- 第三十八條 境界簿ニ記入スヘキ數字ハ「アラビヤ」數字ヲ用ユヘシ
- 第三十九條 境界簿及境界圖調製ノ上ハ測量員記名捺印シテ隣接地主ニ示シ第三號書式ノ通り之ニ記名捺印セシムヘシ
- 地方官及市町村吏員ノ立會セシ時モ亦同シ
- 第四十條 境界簿ニ二枚以上ノ紙ヲ用ヒタルトキハ其綴目ニ測量員ノ割印ヲ押スヘシ
- 第四十一條 測量員ハ隣接地主連署濟ノ境界圖簿ノ謄本各一葉ヲ製シ其原圖簿ハ大林區署ニ差出シ謄本ハ小林區署或ハ派出所ニ送付スヘシ(書式雜形略ス)

官林ノ境界測量ハ前掲ノ内規ニ由リテ施行シ來リシト雖踏査未濟ノ箇所ニ於テハ境界ノ査定ト同時ニ測量ヲ爲スカ如キ事務ト技術トノ兩業ニ從事スルノ困難ヲ生シ且ツ其ノ方法煩雜ニシテ既往ノ成績ニ微スルモ豫定

ノ面積ヲ測了シ得サル虞アリシヲ以テ明治二十八年三月從來ノ内規ヲ廢シ官林境界實測規程及同細則ヲ制定スルノ議起リシモ之ヲ實施スルニ至ラスシテ止ミ同年六月左記通牒ヲ發シテ査定測量ノ兩業ヲ區別シ各單獨ニ之ヲ行ハシムルコトトセリ

官林境界實測ノ業務ヲ査定及測量ノ二種ニ分割ノ件

本年五月戊第六〇號(熊本ニ限リ六月戊第六八號)ヲ以テ官林境界實測費増額ニ相成候處右ハ別記各項ノ廉々ニ基キ各壹組ニ對スル經費標準相定メラレ候義ニ付右ニ據リ實測施行相成可然尤モ詳細ノ條項ハ官林境界測量内規御改正ノ上日御達可相成答ニ候條御了知相成度此段及御通

- 一 官林境界實測ノ業務ハ境界査定及境界測量ノ二種ニ分ツ事
- 二 境界査定員ハ官林境界ノ査定及境界圖簿ノ調印ニ關スル業務ニ從事スル事
- 三 境界測量員ハ査定員査定済ノ界線ヲ測量シ面積ノ算定及圖簿調製ニ從事スル事
- 四 境界ノ査定ハ隣接地主又ハ其代理人若ハ總代人立會ノ上執行スルモノトス
- 五 境界ハ査定ヲナスト同時ニ其境界及隣接地目地番號等ニ査定杭ヲ建設スル事但査定杭ハ便宜ノ小杭ヲ用ユルモノトス
- 六 査定員ハ査定杭建設及次項ノ刈拂ノ爲メ一人ヲ使用スルコトヲ得
- 七 査定員ハ官林ノ境界ヲ査定スルニ在ルヲ以テ距離ノ測定ヲ要スルト雖モ査定杭ノ變更セラルル憂アルカ又ハ測量ノ際界線ニ錯誤ヲ來スノ憂アル所ハ其周圍若クハ線路ノ刈拂ヲナスモノトス但刈拂ハ幅四尺ヲ超ユヘカラサル事
- 八 査定杭ハ界線ヲ標示スルモノニシテ測點ヲ指定スルモノニ非ス故ニ測量員ハ査定杭ニ拘ハラズ適宜測點ヲ設ケテ測量スヘシト雖モ其測點ハ當初査定済ノ界線ヲ變更シタルニアラサルコトヲ證明スル爲メ隣接地主又ハ其代理人若ハ總代人ノ測量圖簿ニ調印濟迄ハ其査定杭ハ變更スヘカラス但界線建設ノ爲メ變更ノ必要アルトキハ隣接地主又ハ其代理人若クハ總代人、立會ヲ得テ之ヲ爲ス事
- 九 境界査定上境界査定員ト隣接地主ト紛議ヲ生シ地方官ノ立會ヲ請フテ査定スルモ尙ホ紛議調和セサル場合アルトキハ其部分ハ假査定ノ處分ヲナス事
- 十 測線ノ刈拂ハ測量上見透障害ノ草木ヲ刈除スルニ止マルヲ以テ其幅四尺ヲ超ユルヘカラサル事
- 十一 界線ハ界線ノ屈曲甚シキ箇所及從來紛議ヲ生シ易キ箇所ニ限リ建設スルモノニシテ界線間ノ各測點ニハ便宜小杭ヲ建設スル事

- 十二 界標ハ永遠ニ存置スヘキモノナルヲ以テ可成岩石土塚石標若ハ立木ヲ用ユル事
- 十三 石標ハ上頭方四寸以上長サ二尺五寸以上ノモノヲ用ユル事
- 十四 測量人夫ハ二人ニシテ測量ノ外刈拂及小杭ノ製造建設ニ使用スルモノトス但刈拂困難ニシテ非常ノ手數ヲ要スルトキハ臨時一人ヲ増スコトヲ得
- 十五 實地ニ於テ記入シタル野帳ノ記事ハ當日中ニ必ス記入漏等ノ整備ヲナシ之ヲ墨書ニ變更シ湮滅ヲ防ク事
- 十六 左ノ事務ハ出張先ノ内業トシテ可成夜業若ハ雨天ノ日ニ於テ整理スルコト
  - 一、野帳ノ角度方位等ヲ檢校スルコト
  - 二、經過線ノ下圖ヲ調製スルコト
  - 三、測量距離内角方位ヲ經緯距表ニ寫取ルコト
- 十七 左ノ事務ハ出張先ノ内業トシテ一官林ノ測量ヲ了リタルトキ直ニ之ヲ整理スルコト
  - 一、内角ノ總計ヲ出タシ其誤差ヲ訂正スルコト
  - 二、修正方位ヲ算出シテ經緯距ヲ算出スルコト
  - 三、經緯距ヲ比較シテ其誤差ヲ訂正スルコト
- 十八 左ノ事務ハ歸廳ノ後ニ整理スルコト
  - 一、下圖ヲ調製スルコト
  - 二、面積ヲ算出スルコト
  - 三、本圖ヲ調製スルコト
  - 四、境界簿ヲ調製スルコト

該通牒ハ職務ノ方法ヲ指示シ經費ノ標準ヲ定メ且連年施行ノ經驗ニ由リテ其ノ短所ヲ補ヒ長所ヲ發揮セシムルニ力メタルモノニシテ是ヨリ業務漸次進捗シ村落ニ近クシテ經濟上優位ノ林地ハ概ネ調了シ更ニ進ミテ深奥ノ地ニ存スル廣大ノ林地ニ及フニ至レリ

明治三十二年三月法律第八五號ヲ以テ國有林野法ヲ制定セララルルニ及ヒ國有林野ト他ノ所有地トノ境界ヲ查

定スルノ方法ヲ規定セラレタルニ依リ踏査内規改正ノ必要ナリシト從來ノ測量内規ニ於テハ測角測線等ノ方法ニ於テ改正ヲ要スルモノ多クアルト同時ニ三角測量ニ關スル規定ヲ缺キタルカ爲メ之ヲ増補スルノ必要アリトシ明治三十三年九月國有林野測量規程及同内規ヲ制定シ從來ノ内規ヲ廢止セラレタリ

國有林野測量規程(明治三十三年九月農商務省訓令第三三號)

- 第一條 測量ハ森林施業上必要ノ個所ヨリ之ヲ施行スヘシ
- 第二條 測量ヲ爲スニハ先ツ境界ヲ査定シ順次森林三角測量及周圍測量ヲ施行スヘシ但事宜ニ依リ境界査定前ニ森林三角測量ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 周圍測量ハ境界査定ノ後遲滞ナク之ヲ施行シ已ムヲ得サル事由アルトキト雖一箇年ヲ超ユルコトヲ得
- 第四條 林野ノ地盤接續シテ一團地ヲ爲スモノハ一箇所ト見做シ測量ヲ施行スヘシ但周圍測量ハ便宜ニ應ジ分割シテ之ヲ施行スルコトヲ得
- 第五條 境界査定官吏ハ測量官吏目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採セントスルトキハ豫メ其土地若ハ木竹ノ所有者ニ通告シ其承諾ヲ得ヘシ
- 第六條 國有林野内ニ於テ目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採シタルトキハ其種類及員數ヲ小林區署長ニ通知スヘシ
- 第七條 境界査定官吏ハ豫メ地租改正ノ當時及地租改正後土地丈量ノ際調製シタル書類圖面、官林筆帳舊記、舊圖、其他境界判定ノ資料トナルヘキ書類物件ヲ調査シ尙ホ實地ニ就キ境界ノ狀況、附近ノ地形林相等ヲ觀察シテ境界査定ニ著手スヘシ
- 第八條 隣接地所有者若カ代理人ヲ以テ境界査定ニ立會ヲ爲サシムルトキハ境界査定官吏ハ委任狀ヲ徴スヘシ
- 第九條 隣接地所有者ノ法律上代理人若ハ管理人カ立會ヲ爲ス場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ其資格ヲ證明スル書面ヲ徴スヘシ
- 第十條 市町村以上ノ行政區界ニ付テハ當該吏員ノ立會ヲ求メ之ヲ定ムヘシ
- 第十一條 境界査定官吏必要ト認ムルトキハ市町村長、地方廳吏員其他關係人ノ立會ヲ求ムヘシ
- 第十二條 境界査定官吏必要ト認ムル個所及縣、國、郡、市、町、村、大字ヲ異ニシ又ハ鄰地ノ地目地番異ナル毎ニ境界査定標ヲ建設スヘシ
- 第十三條 境界査定官吏一地區ノ境界査定ヲ施行シタルトキハ境界査定圖及境界査定簿ヲ調製シ之ヲ所屬上官ニ差出シ其承認ヲ受クヘシ
- 第十四條 鄰接地所有者境界査定官吏ノ査定ニ不服ヲ唱ヘタルトキ又ハ立會ヲ爲ササルトキハ其始末書及關係書類ヲ、行政區界ノ判明セサルモノニ付テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ前項ノ書類ト共ニ差出スヘシ
- 第十五條 前條ノ承認アリタルトキハ境界査定官吏ハ境界査定標ニ基ツキ必要ノ個所ニ境界標ヲ建設スヘシ但隣接所有者ノ異議ナキモノニ在リ

第三編 國有林野ノ經營



テハ前條ノ承認ヲ受クルニ先タチ境界標ヲ建設スルコトヲ得

第十一條 測量官吏一地區ノ森林三角測量ヲ施行シタルトキハ三角測量成果表及三角網圖ヲ調製シ之ヲ所屬上官ニ差出スヘシ

第十二條 測量官吏周圍測量ヲ施行シタルトキハ周圍測量圖及境界簿ヲ調製シ之ヲ所屬上官ニ差出スヘシ

第十三條 境界査定官吏及測量官吏ハ毎月十日迄ニ前月作業ノ成績及經費ノ報告書ヲ作り之ヲ所屬上官ニ差出スヘシ

第十四條 境界査定圖、境界査定簿、三角測量成果表、三角網圖、周圍測量圖、境界簿、前條報告書ノ様式及測量内規ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第十五條 本規程ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年訓令丙林第五〇九號官林境界測量内規及同年訓令第三七一號官林境界踏査内規ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

國有林野測量内規(明治三十三年九月内訓令第二〇八三號)

第一章 通 則

第一條 國有林野ノ測量ハ境界査定、森林三角測量及周圍測量ニ區別シ國有林野測量規程第一條及第二條ノ順序ニ依リ施行スルモノトス

第二條 所屬上官ハ一地區ニ於ケル境界査定ハ一測量區ニ於ケル測量ノ事業終了シタルトキハ其圖面及簿表ヲ對査シ成績ノ檢閲ヲ爲スヘシ

第三條 所屬上官ハ前條ノ圖面簿表及成績ノ正確ナルヲ認メタルトキハ三角測量成果表及三角網圖ノ副本、境界査定圖、境界査定簿、周圍測量圖及境界簿ノ正本ヲ大林區署ニ送付スヘシ但三角測量成果表及三角網圖ノ正本ハ農商務省ニ保管ス

第四條 大林區署長ハ前條境界査定及周圍測量ノ圖及簿ノ一通ヲ製シテ國有林野所管ノ小林區署ニ送付シ之ヲ保管セシムヘシ但簿本ハ簿水引美濃紙ヲ用フルコトヲ得

第五條 國有林野測量規程第十三條ノ作業成績及經費ノ報告書ハ第一號書式ニ依ル

第二章 境界 査定

第六條 境界査定ハ國有林野ト隣接地トノ境界ヲ判明確定スルカ爲施行スルモノトス

第七條 境界査定官吏ハ國有林野測量規程第五條ニ依リ境界判定ノ資料ヲ蒐集シ査定ニ著手ノ準備ヲヒタルトキハ國有林野施行規則第三條ニ依リ通告書ヲ送付シ隣接地所有者ノ立會ヲ求メテ査定ヲ施行スヘシ但隣接地所有者同則第四條ニ依リ立會期日ノ延期ヲ出願シタルトキハ適宜其期日ヲ定メテ更ニ立會ヲ爲サシムヘシ

第八條 立會ヲ爲スヘキ者ハ概ネ左記各號ニ該當スルヲ要ス

- 一、他ノ官廳又ハ公署ノ主管ニ屬スル土地ハ當該官廳又ハ公署ノ吏員
- 二、府縣郡市町村其他法人ノ所有地ハ其代表者
- 三、團體又ハ數人ノ共有地ハ其管理人
- 四、神社ノ所有地ハ住職又檀徒(檀徒ナキトキハ信徒)總代、佛堂ノ所有地ハ受持僧侶及信徒總代
- 五、一人ノ所有地ハ其所有者
- 六、所有者ノ住所又ハ居所若ハ死亡跡相續人分明ナラサル土地ハ其財產管理人

第九條 境界査定官吏ハ國有林野測量規程第十條境界標ノ建設ヲ終了シタルトキハ大林區署長ニ其ノ旨報告スヘシ

境界査定官吏ハ土地ノ狀況其他ノ事由ニ依リ已ムヲ得サル場合ハ境界標建設ノ幾分ヲ測量官吏ニ依託スルコトヲ得此ノ場合ニハ其旨報告書ニ附記スヘシ

第十條 大林區署長ハ前條ノ報告ニ依リ國有林野法施行規則第五條ノ境界査定終了ノ通告ヲ爲スヘシ國有林野測量規程第九條第二項ノ場合ハ證據書類ヲ審查シ正當ト認ムル所ニ依リ査定處分ヲ施行スヘシ但行政區界ノ判明セサルモノハ所屬上官ノ指揮ヲ受ケタル後其處分ヲ施行スヘシ

第十一條 境界査定標ハ適宜ノ小杭ヲ用ヒ外面ニ番號側面ニ地種目、名稱、地番、地目、年月日、頂面ニハ境界標ノ方向ヲ記入スヘシ但シ必要ナシト認ムルトキハ番號及年月日ノミヲ記載スルニ止ムルコトヲ得

第十二條 境界査定標ハ査定ヲ施行セル一團地ヲ道シテ第一號ヨリ順次番號ヲ付スヘシ

前項第一號ニ充ツヘキ起點ハ境界線中ニ於テ可成行政區界又ハ天然界等ニ依リ最顯著ナル位置ヲ選ヒテ之ヲ設クヘシ

第十三條 境界標ハ海邊ニアリテハ春分秋分最高潮ノ至ル處ニ之ヲ建設スヘシ

第十四條 境界標ノ番號ハ境界査定標ノ番號ト一致スルヲ要ス

第十五條 國有林野測量規程第十四條ノ境界査定圖及境界査定簿ハ第二號様式ニ依ル

第三章 森林 三角 測量

第一節 通 則

第十六條 森林三角測量ハ周圍測量ノ骨格基礎ヲ構成シ國有林野ノ面積ヲ精確ニ算定スルカ爲施行スルモノトス

第十七條 三角點ノ位置ハ直角縱橫線ヲ以テ之ヲ定ム

但シ縱橫線ノ零點ハ測量スヘキ地方ニ從ヒ其測量實施ニ臨ミ之ヲ指定スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第十八條 縱橫線ハ前條零點ヲ通過スル真子午線上ニ其橫線ヲ置キ零點ヨリ北方ニ向ヒタルモノヲ正トシ南方ニ向ヒタルモノヲ負トス縱橫線ハ  
橫軸ニ直交スル線上ニ於テ之ヲ度リ其東方ニ向ヒタルモノヲ正トシ西方ニ向ヒタルモノヲ負トス  
前項ニ依リ成ルセル四個ノ象限ハ左ノ順次ニ並列ス

第一象限ハ北ヨリ東ニ至ル

第二象限ハ東ヨリ南ニ至ル

第三象限ハ南ヨリ西ニ至ル

第四象限ハ西ヨリ北ニ至ル

第十九條 直角縱橫線ノ長ハ米突ヲ以テ單位トシ其以下珊知米突迄差出スヘシ

第二十條 同一ノ縱橫線式内ニ在リテハ同一點ニ對シ數種ノ縱橫線數價ヲ定ムルヲ得ス

第二節 三角組織ノ基礎

第二十一條 森林三角測量ハ陸地測量部ノ三角網組織散在スル地方ニ於テ常ニ之ニ準據シテ施行スヘシ

第二十二條 陸地測量部ノ測點散在セサル地方ニシテ事業ノ急務ヲ要スル場合ニ在リテハ第二十三條ノ範圍内ニ於テ適宜森林三角測量ヲ施行  
スルコトアルヘシ

第三節 三角點ノ種類及距離

第二十三條 三角點ハ其相互間距離ノ遠近ニ由テ主三角點、次三角點及補點ノ三種ニ區別ス

第四節 三角點ノ選擇及測量標

第二十四條 三角點ハ可成國有林野内ニ選擇スヘシ

地形上前項ニ依リ難キ場合ハ其境界上又ハ力メテ之ニ近接シテ選擇スヘシ但已ムテ得サル場合ハ其境界外ニ選擇スルコトヲ得

第二十五條 三角測量ヲ實施セル地區ニ接シテ更ニ三角測量ヲ施行スルトキハ其境界ニ近接シテ散在セル諸點ハ互ニ直接ニ視通並關係ヲ有セ  
シメ恰モ一聯ノ三角網ノ如クナラシムヘシ

第二十六條 主及次三角點並補點ニハ堅實ノ標石(第一圖及第二圖)ヲ埋設シテ其中心ヲ表示スヘシ

第五節 三角點ノ番號及名稱

第二十七條 三角點ニハ番號、第四十三條ノ規程種類及其點ノ名稱ヲ付シテ之ヲ表示スヘシ

第二十八條 番號ハ測量官吏適當ノ測量地區ヲ通シ亞拉比亞數字ヲ用ヒ順次之ヲ配付スヘシ但規程ニ訂付スル標石(第三圖)ハ日本數字ヲ用フ

ルモノトス

第二十九條 測量點ノ番號ニハ測量官吏氏名ノ一字ヲ採リテ之ニ冠セシムヘシ

第三十條 三角點ノ冠字及番號ハ測量ノ際使用スル所ノ諸簿手控及圖面等ニ記入スヘシ

第三十一條 一測量地區内ニ於テ一度番號ヲ附シタル三角點ヲ他ノ測量地區内ニ使用スルモ其番號ヲ改ムルヲ得ス

第三十二條 後年度ニ於テ前年度ニ決定シタル測量點ヲ用フルトキハ其決定年度ヲ亞拉比亞數字ニテ番號ノ右下部ニ記入スヘシ

第三十三條 三角點ニハ附近著名ノ地名ヲ採リテ名稱ヲ付スヘシ

三角點ノ位置確定シタルトキハ測站簿(第三號樣式)ヲ調製スヘシ

第六節 三角點ノ選定法

第三十四條 三角點ヲ選定センニハ豫メ在來ノ地圖ヲ繪圖シテ測量ヲ施行スヘキ全地域ノ地形ヲ察知シ尙實地ヲ巡視シテ三角網組織ノ順序目  
的ヲ豫定スヘシ

第三十五條 三角點ノ設置ニ適當ニシテ他ニ換ヘ難キ位置ナルモ立木等ニ陸蔽セラレ他點トノ瞰望ヲ妨止セラルル場合ニハ之ヲ伐除シ若ハ至  
高ノ測標ヲ建設シテ其互視ヲ自在ナラシムヘシ

第三十六條 三角點ヲ選定シタルトキハ諸方ヨリ視別シ得ルカ爲紅白ノ標旗ヲ其位置若ハ樹頭ニ建設シ其順次ヲ明ニスヘシ

第三十七條 標旗ハ使用ノ目的ニ從ヒ左ノ大小二種ニ區別ス

一、大標旗(第五圖) 主三角點ニ用ヒ上紅下白トス

二、小標旗(第六圖) 次三角點以下ニ用ヒ上白下紅トス

第三十八條 三角點ニ依テ成ル形スル三角形ハ可成等邊形ナラシムヘシ

地形上已ムテ得サル場合ニ於テハ三角形各角ノ制限ヲ約三十度以上百二十度以下トスルコトヲ得但次三角點及補點ニ在リテハ其制限ヲ約二  
十度以上百四十度以下トスルコトヲ得

第三十九條 三角點ハ後來施行スヘキ周圍測量ノ爲可成便宜ナル位置ニ選定スヘシ

第四十條 三角點ヲ選定センニハ第二十三條及第三十八條第一項ノ趣旨ニ基キ豫メ其測量スヘキ地方ヲ經緯度或ハ縱橫線ニ由リ區劃シテ各  
一點ヲ配付スヘキ聚方眼ヲ作リ既定點ノ經緯度若ハ縱橫線ニ由テ其方眼中ニ既定點ノ位置ヲ認識スヘシ

第四十一條 選點圖ハ十萬分一ノ縮尺ヲ用ヒ圖式(第四號樣式)ニ依リ之ヲ調製スヘシ

前項選點圖ハ測板(圖板ノ名稱)ニ圖紙ヲ貼付シテ之ヲ製スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第四十二條 三角點ノ位置ヲ測板上ニ決定センニハ三個以上ノ點ニ依リ前方交會或ハ後方交會ヲ混用スヘシ

第七節 規 標

第四十三條 規標ハ使用ノ目的ニ從ヒ左ノ二種ニ區別ス

一、第一種規標(第七圖) 主及次三角點ニ用フ

二、第二種規標(第八圖) 主トシテ補點ニ用フ但時トシテ次三角點ニ用フルコトアルヘル

第四十四條 規標各部ノ名稱ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、心釘 心柱ノ中心ニ垂直ニ打入セル頂釘ニシテ規標ノ中心ヲ表示スルモノ

二、心柱 心釘ヲ保持シテ垂直スルモノ

三、斜柱 錐體ヲ成形スル隅柱

四、小繫 心柱ノ下端ト斜柱トヲ結合スル十字材

五、覆板 錐體面ヲ成形スル板

六、根柱 斜柱ノ下部ニ釘著スル木片

七、標板 心柱ノ上部四面ヲ成形スル板

八、規板 心柱ニ十字形ニ釘著スル翼板

第四十五條 第一種規標ハ普通左ニ示ス所ノ木材ヲ以テ造ルヘシ

一、心柱ハ方約四寸長四尺乃至六尺ノ角材

二、斜柱ハ末口徑約二寸五分長約三間半ノ丸太

三、覆板及標板ハ幅約一尺厚約六分ノ板

第四十六條 第二種規標ハ普通左ニ示ス所ノ木材ヲ以テ造ルヘシ但心柱ハ錐體ノ内方ニ於テ十字形ノ小繫ヲ二個所ニ付著シテ固定スルモノトス

心柱ハ末口徑約二寸五分長約二間半ノ丸太規板ハ幅約一尺厚約六分ノ板

第四十七條 斜柱ノ下端ニ付著スヘキ根柱ハ徑約三寸長三尺ノ木材ヲ用フヘシ

第四十八條 覆板、標板及規板ハ石灰若ハ燐灰ヲ以テ溶解シ之ニ食鹽(石灰一升ニ付二合ノ割)ヲ混合シタルモノヲ以テ塗色スヘシ

心柱ハ上部ヲ前項ニ依リ下部ヲ「コールドター」ニテ塗色スヘシ

第四十九條 陸地ニシテ至高ノ規標ヲ要シ且器械ヲ高ク設置セサルヘカラサルトキハ第四十三條ノ規標ニ尙器械ヲ架載スヘキ蓋板(木板ト名ツク)並觀測者ノ登ルヘキ測床ヲ適宜附設スルコトヲ得

第八節 角度測定法

第五十條 水平角ハ經緯儀ヲ用ヒ方向觀測法ニ由テ測定スヘシ但水平角觀測ノ際之ト同時ニ各三角點間ノ頂天距離ヲ觀測スルヲ要ス

第五十一條 零方向ニ充ツヘキ點ハ太陽ノ昇降氣象ノ變動ニ際會スルモ其觀視ノ全カラシムヘキ點ヲ求ムルカ爲可成北方ニ近接シ水平線上ニ在リテ他ノ障礙ヲ受ケス且距離ノ遠キニ過キサルモノヲ選用スヘシ

第五十二條 測回(望遠鏡ノ左右兩位置ニ於ケル觀測ヲ云フ)ノ數ハ通常左ニ定ムル所ノ回数ニ依ルヘシ但必要ト認ムル場合ハ更ニ多數ノ回数ヲ觀測スヘシ

一、水平角觀測ハ三測回

二、頂天距離觀測ハ望遠鏡ノ左右兩位置ニ於テ各二回ツ、視準スヘシ但各回ニ於テ得ル讀定數ノ差ハ七秒以內ニアルヲ要ス

第五十三條 水平輪廓ノ分割誤差ヲ消除センカ爲各測回毎ニ輪廓ヲ左ノ度數ニ隨テ旋動スヘシ

三測回ニ在リテハ零度、六十度、百二十度但三測回以上ノ觀測ヲ必要トスル場合ニハ別ニ輪廓ノ旋動度數ヲ定メテ之ヲ示スヘシ

第五十四條 一測回ノ觀測ヲ終リタルトキハ望遠鏡ヲ當初ノ位置ニ轉シ零方向ニ充テタル點ヲ視準シ兩側微鏡ヲ讀定シテ其測回中輪廓ニ移動ナキヤ否ヲ檢定スヘシ但望遠鏡ノ位置ハ當初右方ニ備フルヲ要ス

零方向ニ於ケル兩度ノ讀定ト初定ノ讀定ト一致セサルトキハ其差ハ視準及讀定ノ際免レ難キ細僅ノ誤差以內ニ在ルヲ要ス但其超過シタル場合ハ再測スヘシ

第五十五條 經緯儀ハ之ヲ使用スルニ先テ各測回ニ於テ得ル其中心角ノ誤差限界ヲ檢定スヘシ

第五十六條 規標ハ觀測實施中屢檢査ヲ行ヒ其運動ノ有無ヲ測定スヘシ

第五十七條 規標ノ位置ニ異動ヲ生シタルトキハ其三角點ニ於テ精密ナル測定ヲ施シ規標中心ト標石中心トノ關係ヲ算定シ然後之ヲ改正スヘシ

第九節 觀測手續  
第五十八條 觀測ノ成績ハ野外ニ於テ直ニ觀測手續(第五號樣式)ニ硬鉛筆ヲ以テ登載スヘシ若シ誤記シタルトキハ其上ニ二線ヲ引キ傍ニ正誤ヲ決シテ抹殺スヘカラス但讀定數ノ外ハ悉皆著墨スルモノトス

第五十九條 視準點ト中心點ト一致セサルトキハ外心觀測ヲ爲シタル後中心觀測ニ化センカ爲メ其原子ヲ測定シテ之ヲ觀測手續ニ登載スヘシ

第六十條 三角點ニ於テ之ニ關スル諸角ハ悉皆觀測ヲ遂ケタルカ又ハ單ニ他點ヨリ視準セルニ止マルカ等後來ノ參考ニ供スヘキ諸件ハ總テ觀測手續ニ登載スヘシ

第十節 三角形ノ概定

第六十一條 野外ニ在リテ觀測事業ノ進ムニ從ヒ觀測手續ニ由テ各角ノ中數(第六號樣式)ヲ算定シ之ニ由テ漸次三角(外心及中心觀測ヲ混入ス)ヲ組成シ且既知邊長ヲ用テ新ニ他ノ邊長ヲ計算シ以テ觀測ノ精否ヲ檢スヘシ但新ニ算出スヘキ邊長ハ二回以上同一ノ數價ヲ得ルヲ要ス

第六十二條 三角差及二回以上得タル邊長ノ差ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニ在リテ本項ニ依リ難キトキハ其狀ヲ具シテ所屬上官ノ許可ヲ請フヘシ

- 一 三角點ヲ決定センカ爲組成セル三角差ハ主三角點ニ在リテハ十秒以内、次三角點及補點ニ在リテハ十二秒以内ニ止ムヘシ
- 二 三角點ヲ決定センカ爲組成セル邊長ノ差ハ主三角點ニ在リテハ六位對數ノ小數第五位ニ於テ五以内、次三角點及補點ニ在リテハ六位對數ノ小數第五位ニ於テ八以内ニ止ムヘシ

前項規定以外ニ出テタル三角差及邊長差ヲ得タルトキハ再測スヘシ

第十一節 外心觀測ニ於ケル方向ノ化方

第六十三條 外心觀測ニ依テ得タル方向ヲ中心ニ化スル計算法ハ第七號樣式ニ依ルヘシ

第六十四條 歸心角ハ主及次三角點ノ距離ニ在リテハ其外心距離ニ應ジ左ノ規定ニ依リ之ヲ測定スヘシ

- 一 零米突ヨリ零米突一ニ至ルモノノハ度及十分ニ止ム
- 二 零米突一ヨリ零米突四ニ至ルモノノハ度及分ニ止ム
- 三 零米突四ヨリ一米突ニ至ルモノノハ度及秒ニ止ム

第六十五條 第六十三條ノ樣式及第六十四條ノ規定ハ普通ノ場合ニ用フルモノトス若シ特別ナル原子ノ測定法並其計算法ヲ要スルトキハ其時ニ臨ミ之ヲ指定スヘシ

第六十六條 第六十三條ニ依テ中心方向角(第六號樣式參照)ヲ得タルトキハ之ヲ適用シテ第十節ニ規定セル三角形ノ概定ヲ更正スヘシ

第十二節 三角點ニ於ケル縱橫線及高低差ノ計算

第六十七條 陸地測量部ノ三角點ニ附與シタル輿地學上ノ縱橫線ニ由テ更ニ其直角縱橫線ヲ算出スル方法ハ第八號樣式ニ依ルヘシ

第六十八條 新定三角點ノ直角縱橫線又高低差ノ計算法ハ左ノ樣式ニ依ルヘシ但測量實施上本項ニ依リ難キ場合ハ特ニ其計算法ヲ指定スヘシ

- 一 主三角點ハ第八號樣式及第九號樣式
- 二 次三角點及補點ハ第十號樣式
- 三 三角點高低差ノ計算ハ第十一號樣式及第十二號樣式

第十三節 三角點ノ公差及其決定

第六十九條 前條ノ確實ナル縱橫線ニ由テ算出スル方位角(第十三號樣式第四欄)ト觀測ヲ以テ確實ニ標定セル方位角(第十三號樣式第八欄)トノ偏差ハ左ノ制限ヲ超過スルヲ得ス

- 一 主三角點ニ在リテハ其公差十秒
- 二 次三角點及補點ニ在リテハ其公差十五秒

第七十條 前條ノ公差以内ナルトキハ其計算ノ結果ヲ三角測量成果表(第十三號樣式)ニ登載シ三角點ヲ決定スヘシ但第二十一條ノ既定點ニ屬スル三角點ノ成果ハ第十四號樣式ニ依ル

前條ノ公差以外ナルトキハ再測スヘシ

第十四節 三角網圖

第七十一條 三角網圖ノ計算ヲ完成シタルトキハ其圖式(第四號樣式參照)ニ依リ縱橫線組織ノ方法ヲ用ヒテ全測量地區ニ係ル三角網圖ヲ調製スヘシ

第七十二條 前條ノ三角網圖ハ五萬分一ノ縮尺ヲ用フヘシ

第七十三條 方向線ヲ三角網圖中ニ畫クニハ實線ヲ用ヒテ製圖スヘシ但單ニ其一端ヨリ觀測セシモノニ在リテハ觀測ヲ行ヒタル三角點ニ近キ一半ヲ實線トシ他ノ一半ヲ點線トス

第七十四條 三角網圖ニ用フル彩色ハ左ノ如シ

- 一 陸地測量部ノ三角點ノ記號、番號、名稱及其連續線ハ紅色
- 二 農商務省ニ於テ決定セル主、次三角點及補點ノ記號番號、名稱及其連續線ニ黑色

第十五節 補點

第七十五條 補點ハ主及次三角點ノミニ依リ周圍測量ヲ施行スルコト不便ナル場合ニ三角點ノ不足ヲ補充シ周圍測量ヲ便利正確ニ完成スルカ爲之ヲ設クルモノトス

第七十六條 補點ハ主トシテ多角形ノ角點ニ選定スヘシ

林區署管轄區域ノ境界ニ在リテハ可成其境界ニ選定シ周圍測量ニ便ナラシムヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第七十七條 補點ハ總テ次三角點ニ準ス

第四章 周圍測量 第一節 通則

第七十八條 周圍測量ハ國有林野ノ境界ヲ測定シ其面積ヲ算定スルカ爲メ施行スルモノトス

第七十九條 周圍測量ハ境界査定ノ結果ニ基キ境界線ヲ測定シテ多角形ヲ成形スヘシ

第八十條 森林三角測量ヲ施行セル國有林野ノ周圍測量ハ境界線上若ハ境界線附近ニ在ル三角點間ヲ一測量區トシテ其測定及計算ヲ爲シ順次該國有林野ノ周圍全部ニ及ボスヘシ

面積廣大ナラサル國有林野ハ森林三角測量ヲ省略シ直ニ周圍測量ヲ施行スルコトヲ得但此場合ニハ其施行ニ際シ適宜ノ方法ニ依リ可成簡易ノ三角測量ヲ施行シテ其面積ノ正確ヲ期スルヲ要ス

第八十一條 角度測定ニハ經緯儀ヲ用ヒ距離測定ニハ「スタヂヤ」法又ハ測鏈、間尺、卷尺等ヲ用フヘシ但公差ヲ超過セサル限リハ便宜他ノ測量器械ヲ用フルコトヲ得

第八十二條 兩測量境界ヲ通過スル測線ノ存在スルトキハ之ヲ共通シテ使用スルモノトス

前項ノ測線ニシテ本規程ニ依リ其縱橫線ヲ確定シタル既定測線ナルトキハ其測線及縱橫線ヲ保護シ更ニ測量スヘキ測線ヲシテ之ニ接合セシムヘシ

第八十三條 三角點若クハ補點又ハ既定點ニ接近シテ多角線ヲ通過セシムル場合ハ該三角點若ハ補點又ハ既定點ニ接合セシムヘシ

第八十四條 周圍測量施行ニ際シ境界上ノ狀態ヲ明ニスルカ爲左記各號ノ測定ヲ爲スヘシ

一 隣接スル縣、國、郡、市、町、村大字及官民有ノ地目、地番ノ境界點

二 境界線上ニ在ル道路、河川、湖沼、孕在地等ニシテ其面積ヲ控除スヘキモノノ位置、名稱並市町村以上ノ行政區界但道路河川等ハ境界外ニ亘リテ聯絡セル附近ノ狀況ヲ見取ニテ測定スヘシ

三 國有林野内ニ在ル道路、河川、湖沼、孕在地等ニシテ其面積ヲ控除スヘキモノノ位置、名稱並市町村以上ノ行政區界線但終始兩點ヲ既定ノ測點ト接合セシムルヲ要ス

四 紛議ヲ生シ易キ境界ニシテ特ニ測設シタル證據線ノ指導線又ハ豫備線

五 其他境界線ノ内外ニ存在スル顯著ナル物體ノ位置又ハ地方ノ狀況ニ依リ必要ト認ムル事項

第二節 境界標

第八十五條 境界標ハ境界査定標ニ基キ角度及邊長ノ測定以前ニ於テ設置スヘシ但第八十七條ノ土塚又ハ石塚ハ測定以後ニ於テ之ヲ設置スルモ妨ケナシ

第八十六條 境界標ハ必要ノ程度ニ應ジ其種類ヲ選擇シ主要ノ境界點ニ之ヲ設置スヘシ

第八十七條 境界標ハ左ノ種類ニ區別ス但經久ノ上耐久ノ物質ヲ以テ左記各號ノ境界標ニ代用スルコトヲ得

一 石 標 上頭部四寸角以上長二尺五寸以上ノ堅實ナル石材又ハ略同形ノ天然石ヲ用ヒ其三分ノ二ヲ地中ニ埋メ外面ニハ山印ヲ刻シ頂面ニハ十字ヲ刻シテ中心ヲ表示シ且必要ノ場合ニハ境界線ノ方分ヲ刻スヘシ但必要ノ場合ニハ内面ニ番號ヲ刻スヘシ(第九

圖)

二 固定岩石 上面ヲ適宜平滑ニ削リ又ハ石面ノ平ナル部分ニ十字形ヲ刻シテ中心ヲ表示シ頂面ニ山印ヲ刻スヘシ

三 木 標 耐久ノ木質ニシテ三寸角以上若ハ直徑四寸以上ノ丸材長二尺五寸以上ノモノヲ用ヒ内面ニ番號外面ニ山印ヲ刻シ頂面ニハ中心ヲ表示シ其三分ノ二ヲ地中ニ埋ムヘシ且必要ノ場合ニハ頂面ニ釘ヲ打チテ境界線ノ方向ヲ表示スヘシ

四 土塚又ハ石塚 適宜ノ大サニ設ケ且必要ノ場合ニハ其上ニ木標ヲ建設スヘシ

五 立 木 立木ヲ以テ境界標トナシタル場合ハ目通ノ幹部周圍ヲ約五寸幅ニ剥皮シ白「ペンキ」ヲ塗ルヘシ

第八十八條 將來紛議ヲ生シ易キ場所ニハ瓦片、硝子片、木炭等ノ不朽物ヲ埋メ其上ニ可成石標ヲ用ヒテ境界標ヲ設置スヘシ

第八十九條 測量施行上境界標間ニ測點ヲ設置スル場合ハ便宜小杭ヲ用フヘシ

第九十條 境界點ヲ表示スルニ必要ノ場合ハ便宜豫備標ヲ設置スヘシ

豫備標ハ元標ト互ニ相關係セシメテ其方位、角度及距離ヲ測定スヘシ

第九十一條 立木ヲ豫備標トスルトキハ目通ノ幹部周圍ヲ約五寸幅ニ剥皮シ上白下黒ニ塗り分ツヘシ

第三節 測點番號

第九十二條 測點ハ一國有林野ヲ通シテ第一號ヨリ順次番號ヲ付スヘシ但數個ノ國有林野ヲ一團地トシテ測量スル場合ハ其周圍ニ設置シタル測點ニ依ル

第九十三條 隣接國有林野ノ既定番號ヲ採用スル場合ハ舊番號ノ傍ニ新字ヲ冠シタル番號ヲ併記スヘシ但境界標ニ其番號ヲ併記スルコト困難ナルモノニアリテハ境界標中新番號ヲ對照記入スルニ止ムヘシ

第九十四條 支距ニ依テ定メタル測點ノ番號ハ「イ、ロ、ハ」ヲ用フヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第九十五條 豫備標ノ番號ハ亞拉比亞數字ヲ用フヘシ

第九十六條 測點ハ可成過短ナラサル測線ヲ成シ且可成過長測線ト過短測線トノ會交ヲ避ケテ選定スルヲ要ス但地形上測量ニ便宜ノ爲測點ト

第九十七條 測點ハ可成測量器械ヲ付ニ便宜ナル位置ニシテ測角ノ際測竿ノ下端ヲ視準シ得ル程度ニ於テ選定スルヲ要ス

第九十八條 地形狹長若クハ蜂腰狀ヲ成シタル部分ハ便宜分割シテ測定スヘシ

第九十九條 測量施行上三角點若ハ補點又ハ既定測點ニ接合シタルトキハ其點上ニ於テ其三角形又ハ既定測線ノ一邊ト接合線トノ間角ヲ測定スヘシ

第一百條 多角形ノ邊長ハ前進及ヒ背進ニ於テ二回ノ測定ヲ爲シ其差第百三條ノ公差以內ニ在ルトキハ其中數ヲ採用スヘシ

第一百一條 「スタザア」法ニ依ル距離ハ測角ニ伴隨シテ讀定スヘシ

第一百二條 距離ハ間ヲ以テ單位トシ其以下二位迄ヲ讀定スヘシ

第一百三條 距離測定ノ公差ハ左ノ制限ヲ超過スルヲ得ス但Sハ距離ヲ示ス

一 少許ノ起伏アルモ概シテ平坦ナル地形

二 起伏中等ノ地形

三 起伏甚シキ地形

前項ノ公差ヲ超過シタル場合ハ再測スヘシ

第一百四條 支距ハ十間ヲ超過スヘカラス

第一百五條 測量器械ハ測量者手以前ニ於テ點檢シ之ヲ整正スヘシ

第一百六條 水平角ノ測定ハ方向觀測法ニ依ルヘシ

第一百七條 高低角ハ前視及後視ニ依テ二回ノ測定ヲ爲シ其中數ヲ採用スヘシ

第一百八條 高低アル地形ニアリテハ第百一條第二項但書ニ拘ラス總テ其高低角ヲ測定シ地形測量上ノ材料ニ供スヘシ

第一百九條 角度ノ小數ハ使用器械ノ讀定シ得ヘキ限度ニ依ルヘシ

第一百十條 多角形ニ於ケル角度ノ公差ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

一 少許ノ起伏アルモ概シテ平坦ナル地形

二 起伏中等又ハ甚ダシキ地形

前項ノ公差ヲ超過シタル場合ハ再測スヘシ

第五節 測量手簿

第一百一十一條 測量ノ成績ハ野外ニ於テ直ニ測量手簿(第十五號樣式)ニ硬鉛筆ヲ以テ登載スヘシ若シ誤記シタルトキハ其上ニ二線ヲ引キ傍

正誤シ決シテ抹殺スヘカラス

第一百一十二條 讀定角其他總テ觀測ノ結果竝之ニ關聯スル記事ハ測量手簿ニ登載スヘシ

第一百一十三條 森林三角測量ヲ施行セル國有林ニ於ケル多角點ノ直角縱橫線ノ計算ハ一ノ三角點縱橫線ヲ以テ計算ヲ始メ他ノ三角點縱橫線ヲ以

テ之ヲ終ルヘシ

計算濟確定ノ多角點ニ依ルトキハ其儘橫線ヲ用フルコト亦前項ニ同シ

第一百一十四條 三角點若クハ確定測點間ヲ連結スル多角線ニ依リ多角形ヲ成形シタル場合ハ該線ノ終始二點ニ於ケル確定方位角ト對照シ其誤差

第百十條ノ公差以內ニアルトキハ之ヲ等分シテ其各角ニ配付スヘシ

森林三角測量ヲ省略シ周圍測量ヲ施行シテ成形シタル多角形ノ內角總和ヲ其ノ固有角值ト對照シテ生シタル誤差ハ亦前項ニ依リ配付スヘシ

第百十五條 前條ニ依リ配付修正シタル各角ヲ以テ橫軸ニ對スル方位角ヲ誘求スヘシ

第百十七條 縱橫線閉塞差  $\sqrt{a^2 + b^2}$  ハ左ノ公差ヲ超過スルヲ得ス

一 少許ノ起伏アルモ概シテ平坦ナル地形

二 起伏中等ノ地形

三 起伏甚シキ地形

$0.01\sqrt{a^2(S)} + 0.007\sqrt{b^2(S)}$

前項ノ公差ニ超過シタル場合ハ再測スヘシ

第百十八條 前條公差以内ノ縱橫線誤差ハ距離ニ比例シテ各縱橫線差上ニ分配スヘシ

第百十九條 縱橫線計算ニ用フル對數ハ小數五位ニ止ムヘシ

第百二十條 多角點縱橫線計算ハ第十六號樣式ニ依ルヘシ

第百二十一條 森林三角測量ヲ省略セル地區ニ在リテハ計算ニ要スル爲多角形ノ一角點ニ於テ子午線方向ヲ測定シ之ニ基キテ多角形ノ各角ヲ方位ニ改算スヘシ

第七節 面積ノ計算

第百二十二條 周圍測量ヲ施行セル國有林野ノ面積計算(第十七號樣式)ハ經緯距法(縱橫線距ノ別名)ニ依リ調理スヘシ

第百二十三條 支距面積若クハ第九十八條第二項ノ切離部面積ハ直角、三角形、梯形等ノ求積法ニ依リテ算シ經緯距法ニ依リ算出セル面積ト加減シテ國有林ノ面積ヲ求ムヘシ

第百二十四條 前條ノ計算ハ第十八號樣式ニ依ルヘシ

第百二十五條 面積計算ヲ終リ圖簿ニ登載スヘキ面積ハ町歩ヲ以テ顯シ歩未滿ハ切捨ツヘシ但市街地ノ面積ハ坪數ヲ以テ顯シ寸位ニ止ム

第八節 製圖

第百二十六條 製圖ハ經緯距法(第十七號樣式參照)ニ依リ調理スヘシ但面積狹少ナル切離部等ニ在テハ多角度及邊長ニ依ルモ妨ケナシ

第百二十七條 製圖ノ縮尺ハ五千分一ヲ用フヘシ但境界線短小ニシテ不判明ナル部分ヲ顯ハス場合ハ適宜ノ縮尺ヲ用フルコトヲ得

第百二十八條 圖面ヲ分チテ全圖及分圖ノ二種トス但前條規畫ノ場合ハ圖中ノ一隅ニ放大シテ之ヲ顯ハスヘシ

全圖ハ一國有林野若ハ數個所ヨリ成ル一國地ノ測量地全部ヲ畫クモノトス但附近ニ散在スル飛地ニシテ其位置同一圖面ニ入ルヘキモノハ同圖幅中ニ畫クヲ要ス

分圖ハ面積廣大ニシテ一圖幅ニ全部ヲ畫キ難キ場合ニ調理スルモノトス

第百二十九條 分圖ハ番號(第何片)ヲ付シ別ニ之ヲ合シテ二萬分一ノ全圖ヲ調理スヘシ

第百三十條 圖面ハ長三尺幅二尺一寸六分ノ圖原ヲ標準トシテ製圖スヘシ但製圖上ノ便宜ニ依リ伸縮スルハ此限ニアラス

第百三十一條 圖面ハ森林圖式ニ準據シ尙圖式(第十九號樣式)ニ依リ調理スヘシ

第百三十二條 圖面ニハ第八十四條ニ依リ測定シタル結果ニ基キ左記各號ノ記載ヲ爲スヘシ

一 國有林野所在ノ國、郡、市、町、村、大字、國有林野名

二 面積但分圖ハ其一片ニ記載ス

三 縮尺及方位

四 境界標、測點番號及支距符號

五 境界線及其表示ニ必要ノ附屬測線

六 測量區ニ關係ノ三角點及接合線

七 境界線外ノ測線及準備線

八 境界上ニ在ル道路、河川、湖沼等ノ位置、名稱並市町村以上ノ行政區界線

九 境界線内ニアル道路、河川、湖沼、孕在地等ノ位置、名稱並市町村以上ノ行政區界線

十 隣接地ノ縣、國、郡、市、町、村、大字及官民有地地目地番ノ名稱並其境界線

十一 測量ノ年月日並測量官吏及製圖者ノ官氏名調印

第九節 境界簿

第百三十三條 測量官吏ハ測量手簿、計算簿表及境界査定簿等ニ依リ境界簿(第二十號樣式)ヲ調理シ其末尾ニ年月日並官氏名ヲ記シ調印スヘシ

第百三十四條 境界簿ハ第百二十八條第二項及第百二十九條ノ全圖二枚ニ對スルモノヲ一冊トシテ調理スヘシ

第百三十五條 境界簿ハ硬質紙ヲ用ヒ二枚ノ綴目ニハ測量官吏調印スヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第三百三十六條 境界査定官吏及測量官吏ハ測量ノ器具器械等ノ名稱及員數ヲ帳簿(等二十一號樣式)ニ記載シ常ニ現品ト對査スヘシ  
 消耗品モ帳簿(第二十一號樣式)ヲ備ヘテ其受拂ノ都度記載スヘシ  
 第三百三十七條 境界査定官吏及測量官吏ハ會計簿(第二十二號樣式)ヲ製シ經費受拂ノ都度記載スヘシ  
 第三百三十八條 境界査定官吏及測量官吏ハ官廳若ハ公署又ハ人民トノ往復書類ハ其願末ヲ明ニシ一會計年度間チ一括トシ所屬上官ニ提出スヘシ但一會計年度末ニ至ルモ事業未決ノモノハ完結ノ都度提出スヘシ  
 (樣式略)

是ヨリ先三十二年四月國有林野特別經營事業ヲ創始シ施業案編成ノ業務モ亦同事業ノ一トシテ著々進捗スルニ至リシカ爲之カ基礎タルヘキ國有林野ノ境界査定及實測ハ益急ヲ要スルモノアルニ拘ラス經費及技術員寡少ニシテ其ノ功程意ノ如ク進マズ經營上ノ不便尠カラサリシカハ山林原野調查事業ハ未タ當初豫定ノ年限ニ達セサリシモ明治三十三年度ヲ以テ之ヲ打切り三十四年度以降ハ之ヲ特別經營事業ノ施設ニ委ネテ大ニ事業ノ擴張ヲ計ルニ至レリ今山林原野調查費ヲ以テ施行シタル境界ノ踏査及實測事業ノ成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

山林原野調查事業成績表

大林区署名	踏査	實測	三角測量	備考
青森	17,006町	30,377町		
秋田	3,783	16,977		
宮城	28,444	67,333		
東京	26,132	22,824		
長野	8,127	19,159		
大野	19,391	58,834		
計	118,182	170,471	76	

廣島	32,177	26,670	
高知	35,833	59,399	
熊本	33,039	24,866	
鹿兒島	21,870		76
計	118,182	170,471	76

國有林野特別經營創始ノ際ニ於テハ實況調査ノ成績ニ鑑ミ將來國有トシテ存置ヲ要スヘキモノ二萬九千三百八十二箇所此ノ面積七百七十八萬八千七百五十二町四反七畝十九歩ノ内百三十八萬六千町歩ハ山林原野調査繼續費ヲ以テ三十七年度迄ニ實測ヲ終了スル豫定ナレハ殘餘五百萬町歩餘ニ對シ左記ノ計算ニ由リ實測スルコトトシ査定ニ關スル業務ハ凡テ此ノ實測事業ノ内ニ包含セシメラレタリ

國有林野特別經營事業ニ依ル國有林實測計畫(明治三十二年計畫)

- 實測面積 五百萬町歩
- 繼續年數 明治三十八年度ヨリ同四十七年度迄十ヶ年度間
- 實測組數 三角測量二百五十組 周圍測量二千三百五十二組
- 一組ノ人員 三角測量ハ技師一人 周圍測量ハ技師二人
- 派出日數 一組一ヶ年度派出日數三角測量ハ百八十日周圍測量ハ二百二十一日内實地就業日數三角測量ハ百二十日周圍測量ハ百二十五日
- 功 程 三角測量ハ一組一ヶ年度ニ付面積二十方里測點五十五點周圍測量ハ一組實地就業一日ニ付測線距離平均十町平均一町步當經費 九拾六錢壹厘餘
- 經費總額 四百八拾萬五千八百八拾參圓九拾九錢
- 備考 經費ハ俸給廳費旅費雜給及雜費ノ四項トス但三角測量ニ於テ測量器械ハ三十七年度迄ニ購入備付ノモノ九組ヲ充用シ周圍測量ニ於テ雜器械類ハ在來備付ノモノ四十七組ヲ充用シ其ノ他ハ新規購入スルモノトス



然ルニ前述セル如ク三十七年度迄山林原野調査費ニ依ルモノトセハ功程遅々トシテ施業案編成業務ノ進捗ニ伴ハサルノ虞アリシヲ以テ山林原野調査事業ハ是ヲ三十三年度ニテ打切り同三十四年度以降ハ特別經營事業トシテ施行スルコトトシ計畫ヲ左ノ如ク變更セリ

國有林野特別經營事業ニ依ル國有林野實測計畫（明治三十四年改訂）

年度	三角測量		境界測定		周圍測量	
	面積	組數	延長	組數	延長	組數
三	100	5	10,000	10	10,000	10
三	100	10	20,000	20	20,000	20
三	300	15	30,000	30	30,000	30
三	300	15	40,000	40	40,000	40
三	300	15	50,000	50	50,000	50
三	300	15	60,000	60	60,000	60
三	300	15	70,000	70	70,000	70
三	300	15	80,000	80	80,000	80
三	300	15	90,000	90	90,000	90
三	300	15	100,000	100	100,000	100
三	300	15	110,000	110	110,000	110
三	300	15	120,000	120	120,000	120
三	300	15	130,000	130	130,000	130
三	300	15	140,000	140	140,000	140
三	300	15	150,000	150	150,000	150
三	300	15	160,000	160	160,000	160
三	300	15	170,000	170	170,000	170
三	300	15	180,000	180	180,000	180
三	300	15	190,000	190	190,000	190
三	300	15	200,000	200	200,000	200
三	300	15	210,000	210	210,000	210
三	300	15	220,000	220	220,000	220
三	300	15	230,000	230	230,000	230
三	300	15	240,000	240	240,000	240
三	300	15	250,000	250	250,000	250
三	300	15	260,000	260	260,000	260
三	300	15	270,000	270	270,000	270
三	300	15	280,000	280	280,000	280
三	300	15	290,000	290	290,000	290
三	300	15	300,000	300	300,000	300
三	300	15	310,000	310	310,000	310
三	300	15	320,000	320	320,000	320
三	300	15	330,000	330	330,000	330
三	300	15	340,000	340	340,000	340
三	300	15	350,000	350	350,000	350
三	300	15	360,000	360	360,000	360
三	300	15	370,000	370	370,000	370
三	300	15	380,000	380	380,000	380
三	300	15	390,000	390	390,000	390
三	300	15	400,000	400	400,000	400
三	300	15	410,000	410	410,000	410
三	300	15	420,000	420	420,000	420
三	300	15	430,000	430	430,000	430
三	300	15	440,000	440	440,000	440
三	300	15	450,000	450	450,000	450
三	300	15	460,000	460	460,000	460
三	300	15	470,000	470	470,000	470
三	300	15	480,000	480	480,000	480
三	300	15	490,000	490	490,000	490
三	300	15	500,000	500	500,000	500
三	300	15	510,000	510	510,000	510
三	300	15	520,000	520	520,000	520
三	300	15	530,000	530	530,000	530
三	300	15	540,000	540	540,000	540
三	300	15	550,000	550	550,000	550
三	300	15	560,000	560	560,000	560
三	300	15	570,000	570	570,000	570
三	300	15	580,000	580	580,000	580
三	300	15	590,000	590	590,000	590
三	300	15	600,000	600	600,000	600
三	300	15	610,000	610	610,000	610
三	300	15	620,000	620	620,000	620
三	300	15	630,000	630	630,000	630
三	300	15	640,000	640	640,000	640
三	300	15	650,000	650	650,000	650
三	300	15	660,000	660	660,000	660
三	300	15	670,000	670	670,000	670
三	300	15	680,000	680	680,000	680
三	300	15	690,000	690	690,000	690
三	300	15	700,000	700	700,000	700
三	300	15	710,000	710	710,000	710
三	300	15	720,000	720	720,000	720
三	300	15	730,000	730	730,000	730
三	300	15	740,000	740	740,000	740
三	300	15	750,000	750	750,000	750
三	300	15	760,000	760	760,000	760
三	300	15	770,000	770	770,000	770
三	300	15	780,000	780	780,000	780
三	300	15	790,000	790	790,000	790
三	300	15	800,000	800	800,000	800
三	300	15	810,000	810	810,000	810
三	300	15	820,000	820	820,000	820
三	300	15	830,000	830	830,000	830
三	300	15	840,000	840	840,000	840
三	300	15	850,000	850	850,000	850
三	300	15	860,000	860	860,000	860
三	300	15	870,000	870	870,000	870
三	300	15	880,000	880	880,000	880
三	300	15	890,000	890	890,000	890
三	300	15	900,000	900	900,000	900
三	300	15	910,000	910	910,000	910
三	300	15	920,000	920	920,000	920
三	300	15	930,000	930	930,000	930
三	300	15	940,000	940	940,000	940
三	300	15	950,000	950	950,000	950
三	300	15	960,000	960	960,000	960
三	300	15	970,000	970	970,000	970
三	300	15	980,000	980	980,000	980
三	300	15	990,000	990	990,000	990
三	300	15	1,000,000	1,000	1,000,000	1,000
三	300	15	1,010,000	1,010	1,010,000	1,010
三	300	15	1,020,000	1,020	1,020,000	1,020
三	300	15	1,030,000	1,030	1,030,000	1,030
三	300	15	1,040,000	1,040	1,040,000	1,040
三	300	15	1,050,000	1,050	1,050,000	1,050
三	300	15	1,060,000	1,060	1,060,000	1,060
三	300	15	1,070,000	1,070	1,070,000	1,070
三	300	15	1,080,000	1,080	1,080,000	1,080
三	300	15	1,090,000	1,090	1,090,000	1,090
三	300	15	1,100,000	1,100	1,100,000	1,100
三	300	15	1,110,000	1,110	1,110,000	1,110
三	300	15	1,120,000	1,120	1,120,000	1,120
三	300	15	1,130,000	1,130	1,130,000	1,130
三	300	15	1,140,000	1,140	1,140,000	1,140
三	300	15	1,150,000	1,150	1,150,000	1,150
三	300	15	1,160,000	1,160	1,160,000	1,160
三	300	15	1,170,000	1,170	1,170,000	1,170
三	300	15	1,180,000	1,180	1,180,000	1,180
三	300	15	1,190,000	1,190	1,190,000	1,190
三	300	15	1,200,000	1,200	1,200,000	1,200
三	300	15	1,210,000	1,210	1,210,000	1,210
三	300	15	1,220,000	1,220	1,220,000	1,220
三	300	15	1,230,000	1,230	1,230,000	1,230
三	300	15	1,240,000	1,240	1,240,000	1,240
三	300	15	1,250,000	1,250	1,250,000	1,250
三	300	15	1,260,000	1,260	1,260,000	1,260
三	300	15	1,270,000	1,270	1,270,000	1,270
三	300	15	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280
三	300	15	1,290,000	1,290	1,290,000	1,290
三	300	15	1,300,000	1,300	1,300,000	1,300
三	300	15	1,310,000	1,310	1,310,000	1,310
三	300	15	1,320,000	1,320	1,320,000	1,320
三	300	15	1,330,000	1,330	1,330,000	1,330
三	300	15	1,340,000	1,340	1,340,000	1,340
三	300	15	1,350,000	1,350	1,350,000	1,350
三	300	15	1,360,000	1,360	1,360,000	1,360
三	300	15	1,370,000	1,370	1,370,000	1,370
三	300	15	1,380,000	1,380	1,380,000	1,380
三	300	15	1,390,000	1,390	1,390,000	1,390
三	300	15	1,400,000	1,400	1,400,000	1,400
三	300	15	1,410,000	1,410	1,410,000	1,410
三	300	15	1,420,000	1,420	1,420,000	1,420
三	300	15	1,430,000	1,430	1,430,000	1,430
三	300	15	1,440,000	1,440	1,440,000	1,440
三	300	15	1,450,000	1,450	1,450,000	1,450
三	300	15	1,460,000	1,460	1,460,000	1,460
三	300	15	1,470,000	1,470	1,470,000	1,470
三	300	15	1,480,000	1,480	1,480,000	1,480
三	300	15	1,490,000	1,490	1,490,000	1,490
三	300	15	1,500,000	1,500	1,500,000	1,500
三	300	15	1,510,000	1,510	1,510,000	1,510
三	300	15	1,520,000	1,520	1,520,000	1,520
三	300	15	1,530,000	1,530	1,530,000	1,530
三	300	15	1,540,000	1,540	1,540,000	1,540
三	3					

第八條 境界査定用ノ小杭ハ國有林野内ヨリ採取シテ使用スルコトヲ得

第九條 規程第四條第一項ノ場合ニシテ補償ヲ要スルモノハ豫メ大林區署長ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第十條 境界査定ハ境界ノ豫備調査隣接地所有者ノ立會境界ノ測定、圖面帳簿調製等ノ順序ニ之ヲ施行スヘシ

第二章 豫備調査

第十一條 規程第五條境界判定ノ資料ハ可成汎ク蒐集スルハ勿論沿革、口碑、證言、舊慣、入會、縁故ノ關係等ヲ調査シテ慎重ニ査定シ其正確ヲ期スヘシ

國有林野ニ對シ前項ノ資料ニ供用セシ圖書ノ名稱ハ勿論調査ノ材料ヲ掲記シタル書類ヲ境界査定簿ニ添付スヘシ

第十二條 境界査定官吏ハ前條ニ依リ書類物件ヲ調査シ隣接地所有者立會ニ先ダチ實地ニ就キ境界ノ狀況ヲ明確ニ知了スルヲ要ス但境界明確ノモノハ省略スルコトヲ得

第三章 立會

第十三條 他ノ官廳若クハ公署ノ吏員ノ立會ヲ必要トスル境界査定ヲ施行スル場合ハ於テハ大林區署長ハ豫メ其ノ立會ニ付當該官廳若クハ公署ニ協議シ置クヘシ

第十四條 國有林野法施行規則第三條ノ通告書(第四號様式)ノ領收證若クハ配達證明書及規程第六條ノ委任狀若クハ資格證明書ハ境界査定簿ニ添付スヘシ

第十五條 隣接地所有者立會期日ノ延期ヲ出願シタル場合ニ於テ正當ノ事由アリト認メタル時ハ適宜其ノ期日ヲ定メテ更ニ立會ノ通告ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者境界査定官吏ノ査定ニ不服ヲ唱ヘ又ハ立會ヲ爲ササルトキハ正當ト認ムル所ニ依リ査定ヲ進行シ規程第九條第二項ノ取扱ヲ爲スヘシ但重大ノ關係アルモノハ査定ヲ中止シ大林區署長ノ指揮ヲ受クヘシ

第四章 境界ノ測定

第十七條 境界附近ニ在ル立木、岩石其ノ他顯著ナル物體ニシテ境界證明上必要ナルモノハ其ノ位置ヲ測定シテ圖簿ニ記載スルヲ要ス

第十八條 國有林野内ニ存在スルモ國有林野ノ地籍ニ屬セサル道路、河川等ニ付テハ其屬スル地籍ニ依リ其ノ形狀幅員ヲ定ムヘシ

第十九條 境界線ハ境界點ヲ見透シ得ル度ニ於テ刈開クヘシ

第二十條 境界査定點ハ規程第八條ノ區別ニ依リ並國有林野測量內規(以下略シテ單ニ內規ト稱ス)第八十四條ヲ參照シテ可成測量器械ヲ付

ニ傾ナル位置ヲ選定スヘシ前項ニ背カサル限リハ可成短線ヲ造クルノ主意ヲ以テ之ヲ選定スヘシ

第二十一條 境界線上ニ三角點又ハ顯著ナル岩石其ノ他ノ物體在ルトキハ境界點ニ使用スヘシ

第二十二條 境界點ノ位置不明ナルノ虞アルカ又ハ境界標ヲ設置シ難キトキハ安全ナル位置ヲ選ビ固定岩石、石標又ハ立木等ヲ用ヒテ標識ヲ設クヘシ

第二十三條 境界線ハ携帶圖板、磁針器、間繩等ニ依リ其ノ方位及ヒ距離ヲ測定スヘシ

但方位ハ之ヲ度位ニ止メ距離ハ之ヲ間以下小數一位ニ止ム

第二十四條 境界點ノ位置容易ニ知了シ得ル場合ニシテ且一箇所ニ於テ周圍測量ニ著手中ノトキハ前條ノ測定ヲ省略シ周圍測量官吏ニ委囑スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ境界査定官吏ハ周圍測量官吏ニ於テ測定セル部分ノ成績ヲ受領シ其ノ旨成績報告ニ掲記スヘシ

第五章 境界査定標境界標及番號

第二十五條 境界標ハ規程第十條ニ依リ境界査定簿ニ基キ左記ノ事項ヲ參酌シテ之ヲ建設スヘシ

一 境界標紛失ノ虞アル場合ハ相當保護ノ設備ヲ爲シテ之ヲ建設ス

二 境界線顯著ナル地物ニ依リ容易ニ移動湮滅ノ虞ナキ箇所ヨリ成ル場合ハ其終始點及其ノ中間ハ凡五町ニ付一點ノ割合ヲ以テ建設ス

三 河川、道路等國有林野地籍外ニ屬スルモノニシテ其境界線ヲ橫斷スル場合ハ兩側ニ建設ス但其幅二間以内ノモノハ片側ニ建設ス

第二十六條 重要ナル境界點ニハ石標又ハ固定岩石ヲ使用スヘシ但土地ノ狀況ニ依リ之ヲ得難キトキハ經何ノ上他ノ耐久ノ物質ヲ以テ代用スルコトヲ得

第二十七條 前條ニ依リ石標類ヲ建設スル點ハ概ネ左ノ各號ニ依ル但境界標二十個ヲ建設スル間ニ於テ之ニ該當スルモノナキトキハ特ニ一個ヲ建設スルヲ要ス

一 境界ノ起點

二 境界線上ニ在ル縣、國、郡、市、町、村、大字界

三 境界線上ニ在ル國有林野ノ字界

四 顯著ナル河川、道路、溝渠、分水嶺等ノ終始點

五 境界線ノ甚シキ屈折點

六 紛議ヲ生スル虞アル點但土地ノ事情ニ依リ內規第八十八條ノ設備ヲ爲スヘシ

七 前各號ノ外境界保存上重要ト認ムル點

第三編 國有林野ノ經營

第二十八條 境界標ハ内規第八十七條ノ種類ニ依リ其中心ヲ境界點ニ一致セシメ垂直ニ建設スヘシ  
 第二十九條 番號ハ起點ヲ第一號トシ順次之ヲ付ス但一直線内ニ於テ所有主、地番、地目ノ異リタル場合ニハ(イロハ)ヲ用フ  
 孕在地ハ別ニ番號ヲ設ケテ之ヲ付スヘシ

第六章 製圖及帳簿

第三十條 圖面ハ方位及延長ニ依リ之ヲ畫クモントス但周圍測量官吏ニ於テ測量シタル場合ニ於テハ角度ヲ用フルコトヲ妨ケス  
 第三十一條 製圖ノ縮尺ハ二千五百分ノ一トス但境界線著シク短小ニシテ不判明ナル場合又ハ其ノ著シク長大ニシテ判明ナル場合ハ適宜ノ縮尺ヲ用フルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テ數種ノ縮尺ヲ用ヒテ一枚ノ圖面ヲ製スルコトヲ得ス  
 第三十二條 製圖用紙ハ礬水引美濃紙トス  
 第三十三條 製圖ハ内規第二百二十九條乃至第三百三十二條ヲ準用ス但第三百二十九條ニ萬分一全圖ヲ要セス  
 第三十四條 境界査定簿ハ内規第三百三十三條乃至第三百三十五條ヲ準用ス  
 (様式略)

境界査定及測量官吏心得 (明治三十四年八月發第五一八號通牒)

第一條 査定及測量官吏ハ職務ニ忠實ナルハ勿論其人民ニ接スルニハ威權ヲ濫用セズ最モ謹慎切ナルヲ努ムヘシ  
 第二條 査定及測量ハ各一名ヲ以テ一組トシ一地區ノ事業ヲ擔任スルモノトス但土地ノ狀況ニヨリ數組ヲ以テ分擔セシムルコトアルヘシ  
 測量内規第八十條ノ一測量區又ハ三角點ナキ小面積ノ土地ニ於ケル査定若クハ周圍測量ハ必ス一組ニテ擔任終了スルモノトス  
 第三條 査定及測量ハ指定箇所ノ内ニ於テ最急ヲ要スル一團地又ハ一測地ヨリ著手シ順テ逐テ一地區ヲ終了スルモノトス  
 第四條 指定外ノ箇所ナルモ事業上必要アルヲ認メタルトキ又ハ指定箇所ノ内隔離散在セル小面積ノ地ニシテ將來必要ナジト認メタルトキハ直ニ該位置圖ヲ添ヘ事情詳細上申スヘシ  
 第五條 査定及測量ニ著手シタルトキハ其箇所名及終了見込期限ヲ定メ報告スヘシ  
 第六條 境界判定ノ資料及參考ニ供シタル圖書ニシテ他官衙若クハ公署ノ備付ニ係ルモノナルトキハ其ノ謄本ヲ作り證明ヲ附シ置クヘシ境界判明ニシテ紛議ヲ生スヘキ處ナキモノト認メタルトキハ其ノ證明ヲ省略スルコトヲ得  
 第七條 査定手續第十三條ニ規定セル吏員ノ立會ヲ要スルトキハ其ノ立會ヲ要スル箇所名及立會ノ場所及日時ヲ定メ少クモ一週間以前ニ上申

スヘシ

第八條 國有林野法施行規則第三條但書ニ依リ立會期日ノ通告ハ何日ニテモ立會ナナスヘキ旨ノ請書ヲ附シテ發スヘシ  
 第九條 若シ前條ノ請書ヲ附シテ通告ヲ發シタルトキハ必ス立會ヒタル旨ノ證書ヲ附シテ發スヘシ  
 第十條 査定手續第十五條ニヨリ立會期日ノ延期ヲ許可スル時ハ再延期ヲ許ササル旨ヲ宣告スヘシ  
 第十一條 立會期日ノ延期ハ可成許可セサル方針ヲ採ルヘシ  
 第十二條 査定官吏ハ一地區ノ境界査定ヲ終ラサルモ一團地ノ査定ヲ終了シタルトキハ關係書類ヲ取纏メ便宜査定通告書ヲ調製シ圖簿ト共ニ進達スヘシ  
 第十三條 査定圖簿及測量圖簿ニ記載スヘキ日附ハ外業終了ノ年月日ヲ用フヘシ  
 第十四條 標杭其他物品ノ購入ハ可成就業地附近ニ於テナスヘシ  
 前項購入セントストキハ營業者ノ見積書及資格證明書ヲ添ヘ伺出ツヘシ但標杭代價ハ現場建設費ノ上ノ費用ヲ含ムモノトス  
 第十五條 經費ハ可成的一箇月分ヲ取纏メ支出ノ手續ヲナスヘシ  
 第十六條 測量器械ハ時々檢定ヲ行ヒ常ニ心ヲ用ヒテ使用スヘシ若シ破損又ハ狂ヲ生シタル時ハ直ニ修繕ノ手續ヲナスヘシ  
 第十七條 日々ノ外業ヨリ起ル内業其ノ他事務ノ整理ハ極メテ敏捷丁寧ヲ旨トシ其ノ日ノ出來事ハ其ノ日ニ整理シ決シテ延滞亂雜セシムヘカラス殊ニ成規ノ報告ハ必ス其ノ時期ヲ誤ラサルヲ期スヘシ  
 第十八條 内業ハ可成雨天若クハ夜中ニ於テ之ヲ行ヒ晴天ノ日ハ外業ニ從事スヘシ  
 第十九條 物品會計簿經費會計簿ハ其ノ都度必ス記帳シ取纏メ一時ニ記帳スルヲ許サス  
 第二十條 査定及測量官吏ハ日誌ヲ備置キ日々ノ出來事ハ細大之ヲ記載シ置クヘシ  
 第二十一條 本署其ノ他ノ往復書類及一般公文書ハ必ス原案ヲ起シ之ニ認印シテ保存整理スヘシ  
 第二十二條 左記書類ハ必ス出張先ニ於テ整理スヘシ  
 (一)測量手簿 (二)縱橫距及高低計算簿  
 (三)査定圖簿 (四)日記其他經費ニ關スル書類  
 但査定員ハ都合ニヨリ歸署ノ後査定圖簿ノ整理ヲ爲スコトヲ得  
 第二十三條 査定及測量官吏ハ左ノ分類ニヨリテ圖書ヲ整理スヘシ  
 甲 種書類(査定測量トモ)  
 第三編 國有林野ノ經營

- 一 本署往復綴
- 二 各官衙及人民往復綴
- 三 會計簿
- 四 成績月表綴
- 五 經費月表綴
- 六 結了表綴
- 乙 種圖書
  - 一 隣接地主受書及委任狀綴
  - 二 查立立會通告書綴
  - 三 境界參考圖書綴
  - 四 查定圖簿綴
- 以上查定官吏
- 一 測量手簿
- 二 面積計簿
- 三 查定圖簿
- 以上測量官吏
- 第二十四條 出張シタルトキハ其宿所ヲ届出ツヘシ移轉ノ節モ亦同シ
- 第二十五條 出張期間内ニ於テ歸署ヲ要スル事故ヲ生シタルトキハ其ノ認可ヲ受ケヘシ但緊急事件ノ爲經同ノ邊ナキトキハ歸署ノ上追認ヲ請フコトヲ得
- 第二十六條 出張中病氣ニ罹リタルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ其旨届出ツヘシ
- 第二十七條 事業視察又ハ監督員若クハ會計検査ノ爲出張シタル吏員ヨリ實地ノ案内又ハ書類ノ檢閱若クハ説明ヲ要求セラレタルトキハ直之ニ應スヘシ

查定測量ニ關スル法令大體ニ於テ具備シ定員モ亦漸次増加セルヲ以テ業務著々トシテ進捗セルモ實施上尙取

扱ノ區々ニ互ルカ如キモノアリシヲ以テ事ノ輕重ニ應シテ通牒又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ統一スルニ努メ  
 タリ境界查定ニ際シ地押調査處分ニ依リ民有トナリタル地所中地租改正當時ノ圖簿ニ由リ官林タルノ證憑ア  
 ルモノノ如キハ其ノ查定振一致セサルノ虞アリシヲ以テ三十六年二月通牒ヲ發シテ民有ニ據置クコトト爲セ  
 ル等即チ其ノ一例ナリ

國有林野境界查定方針ノ件 (明治三十六年二月林發第一四七六號内牒)

國有林野境界查定ニ際シテハ國有林野測量規程第五條及同境界查定手續第十一條所定ノ事項ヲ調査參考スヘキハ勿論ニ有之其ノ調査ノ結果ニ  
 據リ據ニ地押調査處分ノ際民有ト認メタル地所ニ對シテハ其官有タル證憑ヲ發見シ再ヒ之ヲ官有ニ查定シ又ハ民有ノ據置クノ方針ヲ以テ御  
 取扱相成居向モ有之取扱上區々ニ涉リ候處該地押調査ノ際相當ノ手續ヲ經テ民有ニ歸シ土地墾及納租等ニ徵證シ爾來正當其所有ヲ公認セラ  
 レタル箇所ニ對シテハ假令從前官有タリシ證憑アルモ之ヲ官有ニ查定スルハ穩當ナラサル儀ニ付今般右等ノ箇所ニ對シテハ官民合意ニ依ル場  
 合ヲ除クノ外其儘民有タルヲ認ムルコトニ内定相成候爾今右ノ方針ヲ以テ可然御處理相成度依命此段及内牒候也

業務實行ノ成績ハ年ヲ逐フテ増加シツツアリシモ明治三十六年七月施業案編成規程ノ一部ヲ改正シテ簡易施  
 業案ヲ編成シ功程ノ進捗ヲ期シタル爲查定及測量モ亦之ニ關聯シテ一層ノ進捗ヲ促サレ三十七年四月林發第  
 一九九號ヲ以テ測量内規及查定手續ノ一部ヲ改正シテ計畫ノ遂行ヲ計ルニ至レリ

林發第一九九號達 (明治三十七年四月)

明治三十四年五月令達國有林野境界查定手續中左ノ通改正ス

明治三十七年四月三十日 大臣

第二十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ方位ハ之ヲ度位ニ止メ距離ハ之ヲ間以下小數一位ニ止ム

第三十一條 製圖ノ縮尺ハ二千五百分ノ一トス但シ境界線著シク短小ニシテ不判明ナル場合又ハ著シク長大ニシテ判明ナル場合ハ適宜ノ縮尺



計畫ノ殘數ヲ完了スルコト頗ル困難ナル状態ナリシヲ以テ三十九年規程手續等ヲ改正シ關係各員ヲ督勵シテ銳意業務ノ進捗ヲ計ルニ最メタリ從テ査定測量ノ業務ニ就テモ亦更ニ實行員督勵ノ必要ヲ感シ三十九年五月林發第一〇三號通牒ヲ發シテ各大林區署長ノ注意ヲ促スニ至レリ

林發第一〇三號山林局長通牒 (明治三十九年五月)

大林區署長

- 境界査定及周圍測量ノ功程進捗ノ儀ニ付テハ是迄直接指示セルノミナラス或ハ文書ヲ以テシ或ハ局員ヲシテ實査協議セシメシコト一再ニ止マラス貴官亦相當ノ規畫措施ヲラルルモノアルモ尙其成績ノ不充分ヲ免カレサルハ遺憾トスル所ニ有之候抑モ此兩者ハ營林上直接關係ノ基礎事業タルハ申ス迄モ無之爾カモ特別經營ノ各種事業中著大ナル計畫ヲ有スルモノノ一ニシテ之カ執行上ノ適否功程ノ舉否ハ其關係スル所極テ重大ニ有之若シ今日迄ノ如クハ當ニ特別經營事業ノ公約年限内ニ完了シ得ラレサル虞アルノミナラス已ニ業ニ施業案編成箇所ニ不足ヲ感スルノ現況ナルハ頻年開ク所ニ有之殊ニ這回同編成規程ノ改正ニヨリ編成業務ハ一層其進捗ヲ見ルヘキ筈ナルカ故ニ遠キテ俟タス編成業務ノ中止ヲ餘儀ナクセラルルノ懸念ナキ能ハス故ニ同後一層ノ精勵ヲ期シ功程ノ進捗ヲ圖リ兼テ從來遲滞ノ成績ヲ回收スルノ覺悟ヲ要スヘキハ勿論ニシテ之ニ付先般署長諮問會ノ節本省大臣御訓示モ十分服膺ノ事ト被存候ニ就テハ今茲ニ本官力反覆スルノ要ナキニ似タリト雖モ少クモ左記各項ノ如キハ功程ヲ進メ且從來ノ遲滞ヲ回收スル手段トモ可相成右ハ從來既ニ夫々貴官ノ指揮セララルルアルチ疑ハスト雖尙ホ爲念申進候條向後一層部下ヲ督勵セラレ好果ヲ得テ以テ營林上前陳ノ悔ナカラントナ期スル様篤ト御留意相成度此段依命及通牒候也
- 一、外業員ヲシテ天候ノ許ス限リ年度開始後十五日以内ニ出張セシムルコト
  - 二、外業員ニシテ可成旅行往復ヲ節セシムル様儀メ分區區域ノ配置ニ注意シ一團ノ林地ヲ了シテ他ノ開地ニ移ル場合ノ如キハ其執業ノ進捗ヲ極メテ機敏ナラシメ且各自分擔區域ノ業務尙終ラサルニ先ダチ特別ノ事情ナキ限リハ中途歸署セシメサルヘキコト
  - 三、天候不良ノ爲野外ニ在リテ到底執業ニ堪ヘ得ヘカラサル場合ノ外晝間ハ外業員ヲシテ必ス外業ニ從事セシムルコト
  - 四、朝夕ノ往復ニ時間ヲ徒費セサル様外業員ヲシテ其宿泊所ヲ事業地内若クハ之カ附近ニ設ケシムヘキコト
  - 五、出張中ノ内業ハ夜分若クハ雨天ノ日ニ之ヲ行ハシムヘキコト
  - 六、成績月表及經費月表ハ外業員ヲ監督スヘキ好材料ナルカ故ニ之カ記載ヲシテ力メテ詳細ナラシムヘキハ勿論ナルモ單ニ右等ニ表止メス監督上尙各種ノ方面ヨリ觀察ヲ遂ケ以テ外業員ヲシテ遺憾ナク精勵セシムヘキコト
  - 七、大林區署ニ於テハ豫メ器具器械ノ整理及ヒ經費ノ配付等ニ注意シ外業員ヲシテ職務上困難ヲ來サシメ又ハ業務關係人ノ召集及爾後人夫ノ使用上手速ヒテ生セシムル等ノ虞ナキナ期スヘキコト
  - 八、事業開始ニ當リ其年度中内外業互ニ權衡ヲ保タシメ彼此過不足ナク以テ時日浪費ノ虞ナカラシメ且必ス當該年度内ニ内外業トモ完了セシムヘキコト
  - 九、境界線ノ刈開キハ其當時ノ執業上支障ナキ程度ニ止メ一定ノ幅ヲ以テ鄰事ニ刈拂チ行フカ如キ勞ヲ避ケシムヘキコト
  - 十、境界線ノ建設方ニ關シテハ境界査定手續第五章ノ規定アルモ能ク境界線ノ實況及交通ノ便否ヲ酌ミ其種類ヲ選擇シ成ルヘク經費ト時日トヲ節約セシムヘキコト
  - 十一、境界査定ノ材料ハ境界査定手續第十一條ノ規定ニ依ルヘシト雖境界線ノ自ラ判明ナルモノニアリテハ徒ニ多數ノ圖書ヲ涉獵スルノ煩ヲ避ケ境界線ノ決定ニ當リ影響ノ大ナラサル利害ニ拘泥スルノ弊ニ陥ラシメサルコト
  - 十二、周圍測量ノ測器ハ地況上已ムテ得サル場合ノ外經緯儀又ハ羅盤ヲ避ケ成ルヘク平板ナ用ヒシムヘキコト
  - 十三、製圖ハ迅速ヲ尙ヒ虛飾ヲ避ケ最モ實用ノマラシムヘキコト
  - 十四、前各號ニ依リ業務功程ノ進捗ヲ圖ルヘキハ勿論ナリト雖同時ニ事業成果ニ課課ヲ生セサル様注意スヘシ
  - 十五、組長ヲシテ前各號ノ趣旨ヲ體シ外業員ノ取締上遺憾ナキナ期セシムヘキコト
  - 十六、前各號ニヨリ執業並監督共ニ勵行ノ結果一組一年ノ功程延長十五百町ニ達シ得ヘキ見込ナルカ故ニ若シ此功程ニ達セサルコトニ割以上ナルモノアルトキハ直ニ當該官吏及組長共其人名並詳細ノ事由ヲ本官迄申出テララルヘキコト

下戻申請箇所ニ對シテハ從來其ノ解決ヲ待チテ境界査定周圍測量施業案編成等ノ業務ニ著手シタルモ此等事業ノ進捗ニ伴ヒ從來ノ方針ヲ墨守スルニ於テハ計畫ノ遂行上尠カラサル障礙ヲ來タシ延イテ豫定ノ年度ニ完了ヲ期シ難キノ虞アルノミナラス三十七八年戰後ノ經營上官民共ニ林業ノ擴張經營ヲ要スルノ事情アリシカ爲國有林トノ境界鑑査ヲ請求スルモノ少カラサル狀況ナリシニ付三十九年十月林發第二九五號通牒ヲ發シテ下戻箇所ト雖事業施行ノ特例ヲ認ムルコトトセリ

林發第二九五號山林局長通牒 (明治三十九年十月)

大林區署長

下戻申請關係地ニ於ケル施業案編成境界査定並周圍測量事業施行方ニ付左記ノ通り會議決定相成候條自今右ニ據リ御取扱相成可然依命此段

及通牒候也

追テ右ニ關シ各府縣へ別紙ノ通り通知致置候條御參照相成度爲念此段申添候也(別紙ハ次項ノ各府縣知事へ)

一、下展申請又ハ行政訴訟中ナルモ特ニ大林區署長ニ於テ事業施行ノ順序上差措キ難キカ若ハ他ニ其ノ施行ノ箇所ナキ爲必要ナリト認メタルトキ

但行政訴訟ノ結果ニ付豫メ充分ナル考慮ヲ拂ヒ他日意外ノ障礙ニ遭遇セサルヘキナ期シ得タル場合ニ限ル  
二、隣接地所有者ノ請求若ハ隣接民有林野ノ造林利用上境界ニ疑ハシキ廉アルヲ認メ施行スルニ必要ナリトスルトキ

同伴ニ關スル山林局長通牒

府縣

國有林野境界査定周圍測量並施業編成ノ事業タル國有林野經營上ノ要務トシテ去明治三十二年度以降大林區署ニ於テ施行シ來リ何レモ一定ノ期間ニ終了ナ期スヘキ計畫ニ候處雖ニ國有土地森林原野下戻法ノ實施以來該法ニ依リ申請セルモノ並右申請ノ結果行政訴訟繫屬中ノモノハ執行ノ順序上極メテ必要ナル林野ト雖務テ事業著手方見合居候得共如上三事業ノ終了期モ最早多ナラサルニ依然執業セサルニ於テハ業務ノ進行上妨カラサル障礙ヲ來シ延テ所定ノ期間ニ結了ナ見ルヲ得サルヤモ難測新クテハ甚遺憾ノ次第ニ有之候ニ付自今右等申請若ハ行政訴訟中ニ係ル箇所ニ對シテモ國有林野經營業務ノ進捗上不得已場合ニハ事業著手候事ニ省議決定相成候條御了知相成度右ハ單リ國有林野經營上必要ナルノミナラス近時民間ニ於テモ林業ニ志スモノ著ク多キヲ加ヘ從テ國有林野ニ接續セル民有林野ノ造林利用上境界査定業務施行方ヲ請求シ來ルモノ有之是等ノ趨勢ヨリ見ルニ前段ノ事實ハ最時宜ニ適シ候條被認官民相互ノ利便計カラサル義ト被存候右業務ヲ進行候トテ申請ノ權利若ハ行政訴訟權ヲ阻害スル如キハ毫末モ無之筋ニ付其ノ邊各關係者ニ於テ疑惑ヲ來ササル儘致度因テ此旨豫メ費管下一般ニ了知セシメラレ候條相當御取計有之度此段依命及通牒候也

以上序述セルカ如ク或ハ法規ノ改正ニ依リ或ハ實地ノ監督ニ依リ功程ノ進捗ヲ計リシ結果四十一年度末ニ於テハ境界査定及周圍測量共ニ大體ヲ終了スルノ好成绩ヲ示スニ至レリ四十四年度以降ニ於テハ査定測量共ニ殆ト殘務ヲ整理スルノ狀況ニシテ單ニ本業務ノミニ付テ觀察スレハ寧ロ是ヲ經常業務ニ移スヘキモノナリシモ造林土木等特別經營事業トシテ施行スヘキモノ尙多々ナリシカ爲明治四十五年特別經營事業全般ノ計畫ヲ改メ同五十二年度迄之ヲ延長スルコトトシ測量査定ニ關スル業務モ亦同期間前記臨時費ヲ以テ支辨スルコトトナリ今日ニ及ヘリ今三十四年度以降大正三年度末迄ニ至ル査定事業ノ成績ヲ舉クレハ次ノ如シ

境界査定成績表

年度	延長町數	經費	一町步當經費
三三	二五、一八七	二六、九四四、七七	一、〇七〇
三四	五九、七〇三	八三、〇九一、七七	一、三三三
三五	八六、八七一	一〇九、九三三、〇九	一、二六六
三六	一一六、八八五	一一五、八三三、三六	一、〇八三
三七	一六三、八三八	一五九、六六六、〇九	〇、九七九
三八	一六六、七三三	一三三、七六八、〇九	〇、七九七
三九	一五七、〇九一	一三九、〇四九、一三	〇、八八六
四〇	一四七、〇五二	一三九、七三三、七〇	〇、九四九
四一	一四一、六六五	一四一、九三三、七三	一、〇〇六
四二	一三三、七三六	一四一、七三三、三三	一、〇六二
四三	一三三、七三六	一三三、七三三、三三	一、〇〇〇
四四	八、七七七	一七、八九九、六三	一、九六九
四五	七、五〇二	一七、〇六六、一三	二、二四九
元	一一、三〇五	九、五三三、〇三	八、三三一
二	三、三三七	八、四五一、九三	二、五二八
三	一、〇八九	六、五三三、九三	六、〇四三
四	四、六六五	七、七三三、七七	一、六五九
五	七、三三三	八、三三三、三三	一、一四〇
計	七三、三三三	八、三三三、三三	一、一四〇

前記實行ノ成績ヲ三十四年改訂計畫ノ延長二百萬町ニ比較スルトキハ著シク減少セルヲ見ルヘシ是レ存置スヘキ國有林ノ面積カ實測ノ結果四百十三萬餘町トナリ計畫ノ五百萬町ニ達セサリシト計畫ニ際シ面積ニ對スル延長ヲ過大ニ見込ミタルトノ結果ニ外ナラス

第三節 面積ノ實測

一 三角測量

大面積ニ亘リテ測量ヲ實施シ其ノ成績ノ正確ヲ期セムト欲セハ先ツ三角測量ヲ施行シテ樞要ナル地點ノ位置ヲ明ニシ是ヲ基礎トシテ細部ノ測定ヲ爲スノ要アルハ自明ノ理ナリ從テ國有林野ノ如キ廣大ナル地域ニ亘レル大面積ヲ實測スルニ當リテハ三角測量ノ實施ハ緊切ナル一業務ナルコト勿論ナルモ前節ニ於テ述ヘタルカ如ク官民有林野ノ境界タモ王政維新後永ク整理ノ緒ニ就カサル狀態ナリシヲ以テ三角測量ノ如キ基礎的事業ニ對シテ容易ニ指ヲ染ムルコト能ハサリシハ寧ロ當然ノコトト謂フヘシ明治二十三年ニ至リ山林原野調査事業ヲ開始スルニ及ヒ境界實測ノ業務モ本事業ノ一項目トシテ十五ヶ年ヲ期シ百二十八萬餘町歩ノ測定ヲ了スルノ計畫ニ依リ著手セラレタルモ未タ進テ三角測量ヲ施行スルノ議ヲ見ルニ至ラサリキ然ルニ境界實測業務ノ進捗ニ伴ヒ交通ノ便良好ニシテ面積モ亦比較的小ナル圍地ハ大概之カ調査ヲ終リ漸次深奥ニ位セル大圍地ノ實測ヲ爲スノ必要ニ逼リ從來ノ如ク唯其ノ周圍ノミヲ測量スルコトトセハ僅少ナル誤差モ次第ニ累積シテ終ニ收拾スヘカラサルノ虞ヲ生スルニ至レリ而シテ我國ニ於ケル三角測量ハ陸地測量部ニ於テ施行シツアアリシモ當時未タ國有林野實測ノ基準トナスヘキ程度ニ進捗セサリシヲ以テ明治三十一年二月終ニ山林原野調

査費ノ一部ヲ支出シ三十一年度乃至三十七年度ノ七ヶ年ニ於テ一千方里ノ三角測量施行ノ計畫ヲ立テ之カ實行ニ著手スルニ至レリ其ノ計畫即チ左ノ如シ

森林三角測量計畫表

年度	面積	組數	一組當經費	全經費	備考
三三	1,000	二	1,369,493	3,488,666	三角測量費トシテ二組分七百圓ヲ加算ス
三三	100	五	1,469,993	2,159,985	三十二年度ヨリ一組ニ付概算費五百圓(六十七年增加ノ積リ)
三三	100	八	1,469,993	1,600,000	三角測量費四組入三十二萬圓(三十分分)
三三	100	八	1,469,993	1,600,000	同器械四套購入三千二百圓(創業費三組分)
三三	100	八	1,469,993	1,600,000	同器械四套購入三千二百圓(創業費三組分)
三三	100	八	1,469,993	1,600,000	同器械四套購入三千二百圓(創業費三組分)
三三	100	八	1,469,993	1,600,000	同器械四套購入三千二百圓(創業費三組分)
三三	100	八	1,469,993	1,600,000	同器械四套購入三千二百圓(創業費三組分)
三三	100	八	1,469,993	1,600,000	同器械四套購入三千二百圓(創業費三組分)
合計	1,000	五	1,369,493	3,488,666	同創業費一組分三百五十圓

尙一方里ハ一、五五五町歩ナレトモ該區域内ニハ民林等ヲ含ムカ故ニ今假ニ官林一、〇〇〇町歩ヲ包含スルモノト見做ス

當時農商務省ニ於テハ三角測量ニ付實地ノ經驗ヲ有スル技術者皆無ナリシヲ以テ陸地測量師ヲシテ農商務技師ヲ兼任セシメ其ノ計畫並實行ニ當ラシメタリ然レトモ事業ニ從事スヘキ技術者ヲ缺キシカ故ニ一面ニ於テハ林學專攻ノ技術者ヲ指導シ他面技術者ノ養成ヲ囑セムカ爲陸軍省ニ協議ヲ重ネタルモ成立セスシテ止ミ僅ニ一二組ヲ以テ測量ニ從事スルノ狀況ナリシカハ三十三年境界ノ査定及實測ト共ニ山林原野調査事業トシテ三角測量ヲ打切り三十四年度ヨリ特別經營事業ノ一部トシテ實施スルニ至ル迄工程ノ進捗極メテ遅々タルヲ免レサリキ今所謂山林原野調査事業トシテ施行セル三角測量ノ成績ヲ舉クレハ左ノ如シ





行上差支ナキ見込ノ場合アリ隨テ經費ヲ節約シ得ルノ便アルニヨルナリ

森林三角測量新舊計畫對照表 (三十四年改訂)

區別	舊計畫	新計畫	差引増(減)	備考
區	本局 至明治三十八年 四十七年	本局 至明治三十四年 四十七年		
施行	主 管 間 管 技 師 一 人 技 手 一 人 日 人 一 人	主 管 間 管 技 師 一 人 技 手 一 人 日 人 一 人		著手年度ヲ繰上ケシニヨリ増
功 派	出 日 人 技 師 一 人 技 手 一 人	出 日 人 技 師 一 人 技 手 一 人		技師ハ總組數ノ略半數トセリ
測 量	監 督 程 數 一 人	監 督 程 數 一 人		事業上差支ナキ個所ニ技手ヲシテ從事
檢 算	掛 表 掛 長 一 人	掛 表 掛 長 一 人		セシムル見込ナルニ由リ新設ス
總 費	一 組 新 設 三、一六四、八九三 一、二九八、八九三 總 額 四、四六三、七八六	一 組 新 設 三、一八九、六九三 一、九〇二、〇九三 總 額 五、〇九一、七八六	(一、六二八、〇〇〇) (一、七二八、〇〇〇) (一、九〇二、〇九三) (三、一六四、八九三) (三、一八九、六九三)	測量監督ヲ置キ業務殊ニ外業監督ニ從 事セシメ事業ノ正確ヲ期シ業務ノ進歩 ヲ圖ル爲メ新設ス 測量ノ正確ヲ期シ併セテ内業ヲ補助ス ル爲メ新設ス

如上ノ計畫タル曾テ施行セル實況調査ノ存廢區分ニ基キ要存置ト決定セシ面積ヲ基本トシテ計算セルモノナ  
ルモ以後歲月ヲ經テ林地ノ實狀ハ多少此ノ調査ニ異動ヲ生シタルヲ以テ三十七年更ニ大林區署ヨリ實際ノ見  
込數ヲ徴シ之ヲ參照シ精査ヲ重ネテ其ノ計畫ヲ左表ノ如ク變更シ以テ本事業ノ完了ヲ爲スニ至レリ

森林三角測量新舊計畫對照表 (三十七年改訂)

區別	舊計畫	新計畫	差引増(減)	備考
區	本局 至明治三十四年 四十七年	本局 至明治三十四年 四十七年		
施行	主 管 間 管 技 師 一 人 技 手 一 人 日 人 一 人	主 管 間 管 技 師 一 人 技 手 一 人 日 人 一 人		舊計畫ニ在リテハ約半數宛技師技手ヲ 用フル計畫ナリシモ新計畫ニ在リテハ 技手ノミヲ使用スルコトトセリ
功 派	出 日 人 技 師 一 人 技 手 一 人	出 日 人 技 師 一 人 技 手 一 人		
測 量	監 督 程 數 一 人	監 督 程 數 一 人		
檢 算	掛 表 掛 長 一 人	掛 表 掛 長 一 人		
總 費	一 組 新 設 一、三三七、〇九三 一、五五〇、〇〇〇 總 額 二、九二七、〇九三	一 組 新 設 一、三三七、〇九三 一、五五〇、〇〇〇 總 額 二、九二七、〇九三	(一、九七三、〇〇〇) (一、三三七、〇九三) (一、五五〇、〇〇〇) (二、九二七、〇九三)	

明治三十一年三角測量事業ヲ開始スルヤ技術並事務ニ關スル事項ヲ規定スルノ必要アルヲ認メ明治三十三年  
九月訓令第三十三號ヲ以テ國有林野測量規程ヲ發布シ同時ニ內調整第二〇八三號ヲ以テ國有林野測量內規ヲ  
制定セララルルニ當リテ三角測量ニ關スル事項ヲモ包含セシムルコトナレリ三十四年本業務ノ特別經營ニ移  
付セラレタル際ニ於テモ敢テ之カ改廢ヲ爲ササリシヲ以テ技術ノ精度及觀測ノ方法等ハ別ニ異ル所ナカリシ

モ同年七月測量官吏心得ヲ定メ組ノ組織及係員ノ權能ヲ示シ兼テ實務ノ取扱方ヲ規定セラレタリ

測量官吏心得

(明治三十四年 林發第四一五二號 山林局長達)

山林局林業課

第一條 國有林野一地區ノ測量ハ一組ヲ以テ分擔セシメ其一組ハ技手一名ヲ以テ之ニ充ツ但土地ノ狀況ニヨリ數組ヲ以テ分擔セシムルコトアルヘシ

數組ニ對シテ監督一名及組長一名ヲ置キ監督ハ技師ヲ以テ之ニ充テ組長ハ技手又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 監督ハ部下ノ官吏ヲ指揮統率シ左ノ事項ヲ監査スヘシ

一、勤務及技能

二、服務ノ狀況

三、業務進行ノ模樣

四、經費使用ノ適否

五、諸器械使用ノ適否

第三條 組長ハ其組員ヲ指揮監督シ事業進捗ノ責ニ任ス

第四條 組員ハ測量ニ從事シ其成績ノ責ニ任ス

第五條 三角測量ノ各監督ハ事業著手ニ先チ受命地區内ニ於ケル縱橫線ノ原點ヲ定ムヘシ

第六條 三角測量ノ組員ニ附屬セシムヘキ測夫ハ主任監督之ヲ指定スヘシ

第七條 監督ハ組長以下ニ對スルニ懇切ヲ旨トシ且嚴正ナルヲ要ス

第八條 規程第十三條内規第三百三十七條ハ組長ニモ適用ス但内規第五條第一號樣式ノ一ニアリテハ延長距離以下標柱迄同ニニアリテハ選點以下觀測迄省略ス

第九條 組長及組員ヨリ差出スヘキ規程第十三條報告書ハ翌月七日限リ山林局長ニ進達スヘシ

第十條 組長ハ測量スヘキ地區ヲ定メテ各組ニ分擔セシムヘシ但内規第八十條ノ一測量區又ハ三角點ナキ小面積ノ周圍測量ヲナスニハ必ス同一組ヲ以テ終業セシムルヲ要ス

第十一條 三角測量ノ組長ハ標石ヲ可成業務地附近ニ於テ調製シ之ヲ所用ニ應ジ其組員ニ配付スヘシ

第十二條 前條ノ石質簡數價格及其製作地ハ別記樣式ニ依リ之ヲ主任監督ニ報告スヘシ

第十三條 測量上林區署員ノ立會ヲ必要ト認ムルトキハ組長ハ其事由ヲ記シ當該林區署長ニ請求スルコトヲ得

第十四條 測量上ニ付縣廳及郡衙等ニ照會セントスル場合ニハ組長ハ當該林區署長ニ依頼スヘシ

第十五條 各組長ハ測量上ニ必要ナル諸簿並諸物品ヲ常ニ整備シ部下組員ノ執務ニ支障ナキヲ期スヘシ

第十六條 他官廳ノ三角點ヲ使用スルノ必要アルトキハ各組長ハ其旨山林局長ニ伺出指揮ヲ受クヘシ

前項ニヨリ該三角點ヲ使用スルノ指揮ヲ得タルトキハ各組長ハ外業著手ニ先チ監督ノ定ムル所ノ原點ニ基キ諸點ノ縱橫線ヲ算定スヘシ

第十七條 三角測量ノ各組長ハ外業著手ニ先チ既定點ノ縱橫線ニヨリ受命地區内ノ三角網一覽圖(十萬分一)ヲ調製シ主任監督ニ差出スヘシ

第十八條 各組員實地觀測ノ模樣及公務ニ關スル圖簿書類ハ主任監督又ハ組長ノ檢査ヲ受クヘシ

前項檢査ヲ受ケタルトキハ圖簿書類ニ認印ヲ受クヘシ

第十九條 各組員左ニ記載スル書類ハ必ス出張地ニ於テ整理完成スヘシ

觀測手簿、日記簿、歸心計算、三角概算簿、高程化數計算簿、高程概算簿點ノ記(以上三角測量) 測量手簿縱橫距及高程計算簿(以上周圍測量) 日記其他經費ニ關スル書類

第二十條 器械其他物品ハ鄭重ニ取扱フヘキハ勿論器械ハ初メテ外業地ニ到着セシトキハ必ス點檢シ尙ホ時々檢定スヘシ但檢正ハ組長ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十一條 三角測量地ノ附近ニ孤立セル國有林野ニハ適宜三角點ヲ設置シテ相互ノ聯絡ヲ取ルヘシ

第二十二條 内規第二十四條第二項ノ但書ノ場合ニ於テハ組長ハ主任監督ニ申報スヘシ

第二十三條 目標設置又ハ支障木竹伐採ノ爲メ補償ヲナスカ如キハ可成之ヲ避クヘシト雖モ不得已之ヲ要スルトキハ其種類數量面積等ヲ取調豫メ組長ヨリ主任監督ニ申報スヘシ

第二十四條 主任監督第二十一條第二十二條ニ據リ組長ノ申報ヲ受ケタルトキハ必ス實地調査ヲ爲シ山林局長ニ伺出ツヘシ

第二十五條 三角點觀測上必要ナル陸地測量部ノ測量標ニ異狀ヲ生シ修理ヲ加ヘサレハ業務ニ支障アル場合ハ組長ハ之ヲ主任監督ニ申報シテ指揮ヲ受クヘシ

第二十六條 各組員ハ三角ノ選點圖ヲ礮水引美濃紙ニ記入シ十日毎ニ組長ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

第二十七條 各組員三角點ノ選點成リタルトキハ直ニ平均計算ノ順序ヲ定メ組長ノ檢査ヲ受クヘシ

前項ノ檢査ヲ經タル平均計算ノ順序ヲ變更スルノ必要アルトキハ其理由ヲ具シ組長ノ指揮ヲ受クヘシ

第三編 國有林野ノ經營

第二十八條 規程第十一條第十二條ノ簿表ハ歸京後遅クモ五ヶ月以内ニ取覽メ之ニ關スル一切ノ圖面ヲ添付シ組長主任監督ノ査閲ヲ經タル後山林局長ニ差出スヘシ

第二十九條 各組員ハ器具器械其他物品及經費ノ請求ハ組長ノ認印ヲ得タル後ニ非サレハ監督又ハ現金前渡官吏ニ提出スルコトヲ得ス

第三十條 出張員ハ其著手國有林野名及宿所ヲ山林局長ニ届出又之ヲ隣接出張員及當該林區署ニ通知スヘシ

第三十一條 出張員出張期間内ニ歸廳ヲ要スル事項生シタルトキハ山林局長ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 出張員歸廳見込日取ニ異動ヲ生シタルトキハ其旨山林局長ニ届出ツヘシ

第三十三條 出張員病氣ニ依リ缺勤一週間ニ及フ時ハ診斷書ヲ添へ其旨農商務大臣ニ届出其以上ニ涉ルトキハ以後二週間毎ニ前段ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 現金前渡官吏ハ現金支出ノ請求ヲ受ケタルトキハ必ス内規第三百七十七條ノ會計簿ニ對照シ其ノ正確ヲ認メタル後支出スヘシ

本心得及國有林野測量規程ニ據リ著々業務ノ進捗ヲ計リ明治三十四年度ニ於テハ林業講習所ニ於テ養成セル技術者八名ヲ得テ八組ヲ組織シ其ノ一半ヲ宮城大林區署管内一半ヲ高知大林區署管内ニ派遣シ同三十五年度ニハ更ニ七名ノ講習所卒業生ヲ得テ青森、宮城、鹿兒島三大林區署管内ニ派遣セリ而シテ其ノ功程ハ漸次進捗ノ度ヲ加フルヲ得タリト雖モ尙未タ標準功程ニ達スルニ至ラサリシヲ以テ同三十六年度ヨリハ周圍測量ノ便否ニ鑑ミ差支ナキ限リ補點ノ設置ヲ省略シ北方ノ森林ヨリ逐次ニ南部ニ及ホスノ方針ヲ立テ同時ニ又林業講習所ヲ卒業セシ八人ノ技術者ヲ加ヘ得ル機會ニ接シタルヲ以テ茲ニ總計二十三組ヲ組織シ一氣呵成的ニ青森、秋田、岩手、宮城ノ四大林區署管内ニ於ケル奥羽ノ大森林ニ著手セシメタリ之カ爲同年度ニ於ケル功程ハ完成廣袤三百八十八方里ノ外未完成ニ屬スルモノ三百七十四方里ノ廣キニ亘リ優ニ標準以上ノ功程ヲ舉クルコトヲ得タリ

明治三十七年特別經營事業ノ計畫ヲ改正セラルルニ當リ本業務ノ計畫モ亦變更セラレタルコト前述ノ如クニ

シテ其ノ計畫人員ハ之ヲ充實スルヲ得組員益技術ニ習熟シテ本業務ハ將ニ庶幾ニ入ラムトスルニ及ヒ偶日露戰役ノ勃發セルニ會シ測量官吏ノ軍籍ニ在ルモノハ悉ク應召シテ戰闘ニ從事スルコトナリ殘ス所ノ十餘人ヲ以テ三十七八兩年度ノ事業ニ從事セシムルノ已ムナキニ至レリ然レトモ殘留セル各員ノ奮勵努力ノ結果殆ト豫定ノ功程ヲ收ムルコトヲ得三十九年度ニ於テモ尙前年度ノ組數ヲ以テ續行シ鹿兒島大林區署管内屋久島國有林ノ測量ヲ以テ最後トシ計畫ノ年數ヲ餘スコト尙四ヶ年ニシテ竟ニ本業務ノ完了ヲ告クルニ至レリ今明治三十四年度ヨリ同三十九年度ニ至ル實行成績ヲ示セハ次表ノ如シ

森林三角測量實行成績表 (特別經營事業)

年度	組數	廣	全	一組當	一組當	考
表	表	經費	經費	經費		
三三	八	八九、〇	三三、三〇、九〇	一、一	二、七八、八六	一組當經費ノ多キハ器具器械ヲ本年度ニ於テ購入セシニヨル
三三	一五	二六三、〇	三三、八五、三五〇	一、八、九	一、五九、〇三	
三三	二五	三八八、五	三七、八五〇、三三三	一、六、九	一、六五、六六	
三三	二七	四八八、〇	二八、三四、六六六	一、〇、七	一、六六、一五七	
三三	三三	三七〇、一	一九、四七、二三	〇、〇	一、六四、七〇	
三三	三三	三三二、〇	三三、四八、九〇	一、〇、〇	一、八四、七四九	
三三	三七	一九〇、六	一五、九七、七二	〇、〇	一、七九、一六五	一組當經費ノ多キハ事業完了ノ結果ニ依
合計	八七					

即山林原野調査時代ニ於テ施行セシモノヲモ通計セハ廣袤二千六方里餘ニ達シ其ノ經費十六萬三千七百九十五圓餘ニ上ルヘシ

二 周圍測量

林野ヲ實測シテ其ノ面積ヲ確定スルハ林業經營上喫緊ノ要務ナルヲ以テ廢藩置縣後國有ニ歸シタル林野ニ就

キテモ官民有境界ノ査定ト共ニ屢之カ實行ヲ企圖セラレタルモ永ク其ノ成績ヲ舉クルコト能ハサリキ明治六年地租改正條例ヲ頒布シ官民有土地ノ區別ヲ爲シ民有耕地地ニ就テハ其ノ面積ノ調査ヲ勵行シタルモ山林原野ノ面積ニ至リテハ容易ニ手ヲ下スコト能ハス殊ニ該調査ハ徵稅ノ基礎ヲ確立セムカ爲施行セラレタルモナレハ國有ノ森林原野等ヲ調査スルハ其ノ目的トスル所ニ在ラサリシヲ以テ明治九年二月官林調査假條例ヲ決議シ所轄官廳タリシ内務省ヨリ官員ヲ派遣シ國有林野ノ所在面積及立木等ヲ調査シ圖面ヲ作りテ官林臺帳ヲ調製シタリ是實ニ相當ノ組織ヲ以テ國有林野ヲ實測セル嚆矢ナルヘシ然レトモ測量ノ方法ハ調査員ノ意ニ任セ面積ハ斜面ノ儘ニ算定シ且廣大絶險ノ山林ニ在リテハ測量ヲ省略シ面積ノ目測ヲ許シタルヲ以テ實地ノ踏査ヲ爲ササルモノ多ク傳來ノ圖書又ハ地元民ノ說ニ依リテ圖面ヲ製シ面積ヲ定メタルカ爲實地ト吻合セサルモノ甚タ多ク若シ之ヲ全般ヨリ觀察スレハ實測ト稱スルヲ得サル程度ノ調査ナリキ殊ニ少額ノ經費ヲ以テ專ラ速成ヲ期シタルカ爲管ニ境界ノ錯雜紛亂ヲ免レサルノミナラス官民所有ノ區別モ亦明確ナラサリシヲ以テ侵墾誤伐等ノ被害頻發シ境界ニ關スル紛爭跡ヲ絶タス從テ林産物ノ處分造林等ニ支障ヲ生シ管理經營上ノ不便不利實ニ謂フヘカラサルモノアリシカハ十四年吏員ヲ實地ニ派遣シテ測量業務ヲ視察セシメ其ノ意見ヲ用キテ翌十五年三月官林境界線實測及製圖順序ヲ定メ十七年十月更ニ官林境界調査心得ヲ達シタルハ前節ニ詳述セルカ如クニシテ當時ニ於ケル實測ハ常ニ査定業務ト同時ニ施行セラレテ未タ獨立ノ事業タルニ至ラス寧ロ境界ノ整頓ヲ以テ調査ノ主目的トナセルカ爲測量ノ如キハ經費ノ寡少、技術ノ未熟等幾多ノ原因ニ依リ常ニ粗雜ニ流レ面積ノ正鵠ヲ期スルニ至ラサリシモ隣接地地主元戸長等ヲ立會セシメ界點ニハ土壘其ノ他ノ標識ヲ設ケタルヲ以テ境界ノ保存上多大ノ效果ヲ收ムルヲ得タリ

明治二十三年山林原野調査事業ヲ開始スルニ及ヒ稍潤澤ナル經費ヲ以テ大規模ニ實測ヲ施行シ得ルニ至リシカハ同年十二月官林境界測量内規ヲ定メ技術ニ關スル事項ヲ詳細ニ規定シ大ニ實測業務ノ進捗ヲ計レリ而シテ當時尙査定ト測量トハ同一ノ吏員ヲシテ之ヲ兼行セシメタリシモ全ク其ノ性質ヲ異ニセル事務ト技術トヲ同一人ニ施行セシムルハ適所ニ適才ヲ使用スル所以ニアラサルノミナラス延テ功程ノ上ニモ不利ヲ招クコト多キニ依リ明治二十八年六月發第一九二號山林局長通牒ヲ發シ始メテ官林境界實測ノ業務ヲ境界査定ト境界測量トノ二種ニ分ツコトナレリ

發第一九二號山林局長通牒 (明治二十八年六月)

大林區署

本年五月戊第六〇號(熊本ニ限リ六月戊第六八號)ヲ以テ官林境界實測費額ニ相成候處右ハ別記各項ノ廉々ニ基キ各一組ニ對スル經費標準相定メラレ候儀ニ付右ニ據リ實測施行相成可然尤モ詳細ノ條項ハ官林境界測量内規御改正ノ上不日御達可相成候儀ニ候條御了知相成度此段及御通牒候也

- 一、官林境界實測ノ業務ハ境界査定及境界測量ノ二種ニ分ツ事
- 二、境界査定員ハ官林境界ノ査定及境界圖簿ノ調印ニ關スル業務ニ從事スル事
- 三、境界測量員ハ査定員査定済ノ境界線ヲ面積ノ算定及圖簿調製ニ從事スル事
- 四、境界ノ査定ハ隣接地主又ハ其代理人若クハ總代人立會ノ上執行スルモノトス
- 五、境界ハ査定チナスト同時ニ其境界及隣接地目地番地等ニ査定杭ヲ建設スル事  
但査定杭ハ便宜ノ小杭ヲ用フルモノトス
- 六、査定員ハ査定杭建設及次項ノ刈拂ノ爲メ夫人一人ヲ使用スルコトヲ得
- 七、査定員ハ官林ノ境界ヲ査定スルニ在ルチ以テ距離ノ測定ヲ要スルト雖査定杭ノ變更セラルル憂アルカ又ハ測量ノ際境界線ニ錯誤ヲ來スノ憂アル所ハ其ノ周圍若クハ線路ノ刈拂チナスモノトス  
但刈拂ハ幅四尺ヲ超エヘカラサル事
- 八、査定杭ハ境界線ヲ標示スルモノニテ測點ヲ指定スルモノニ非ス故ニ測量員ハ査定杭ニ拘ラス適宜測點ヲ設ケテ測量スヘシト雖當初査定

- 九、境界建設ノ爲メ變更ノ必要アルトキハ隣接地主又ハ其代理人若クハ總代人ノ測量圖簿ニ調印済迄ハ其査定杭ハ變更スヘカラス
- 十、測線ノ刈拂ハ測量上見透障害ノ草木ヲ刈除スルニ止マルヲ以テ其幅四尺ヲ超ユヘカラサル事
- 十一、界標ハ界線ノ屈曲甚シキ箇所及ヒ從來紛議ヲ生シ易キ箇所ニ限リ建設スルモノニシテ界標間ノ各測點ニハ便宜小杭ヲ建設スルコト
- 十二、界標ハ永遠ニ存置スヘキモノナルヲ以テ可成岩石、土塚、石標若ハ立木ヲ用フル事
- 十三、石標ハ上頭方四寸以上長サ二尺五寸以上ノモノヲ用フル事
- 十四、測量人夫ハ二人ニシテ測量ノ外刈拂及小杭ノ製造建設ニ使用スルモノトス
- 十五、實地ニ於テ記入シタル野帳ノ記事ハ其當日中ニ必ス記入漏等ノ整備ヲナシ之ヲ墨書ニ變更シ湮滅ヲ防ク事
- 十六、左ノ事務ハ出張先ノ内業トシテ可成夜業若ハ雨天ノ日ニ於テ整理スルコト
- 一、野帳ノ角度方位等ヲ檢校スルコト
- 二、經緯線ノ下圖ヲ調製スルコト
- 三、測點距離内角方位ヲ經緯距表ニ寫取ルコト
- 十七、左ノ事務ハ出張先ノ内業トシテ一官林ノ測量ヲ了リタルトキハ直ニ之ヲ整理スルコト
- 一、内角ノ總計ヲ出タル其誤差ヲ訂正スルコト
- 二、修正方位ヲ算出シテ經緯距ヲ算出スルコト
- 三、經緯距ヲ比較シテ其誤差ヲ訂正スル事
- 四、前各項修正算出シタルモノヲ經緯距表ニ記入スルコト
- 十八、左ノ事務ハ歸廳ノ後ニ整理スルコト
- 一、下圖ヲ調製スル事
- 二、面積ヲ算出スルコト
- 三、本圖ヲ調製スル事
- 四、境界簿ヲ調製スル事

本通牒ハ單ニ査定測量ノ業務ヲ各別ニ行フコトト爲セルノミナラス執務ノ方法ヲ指示シ標準經費ヲ定メテ之ヲ施行セシメ且連年實行ノ經驗ニ依リ其ノ短所ヲ補ヒ長所ヲ發揮セシメシカハ業務漸次進捗シ村落ニ近ク經濟上優位ノ林地ハ概ネ調了セラレ逐次深奥ノ地ニ位スル廣大ナル林地ニ及フニ至リ三角測量ノ必要ヲ認メテ明治三十一年度ヨリ之ヲ實施スルコトナレリ翌三十二年度ニ於テ國有林野特別經營事業ノ創始セララルヤ周圍測量業務ハ査定及三角測量業務ト共ニ山林原野調査事業ノ終了スヘキ三十七年度ニ引續キ三十八年度ヨリ同事業トシテ實施スルノ計畫ナリシモ已ニ述ヘタルカ如ク施業案編成業務トノ連絡ヲ圓滑ナラシムル爲山林原野調査事業ハ之ヲ三十三年度ニ打切り翌三十四年度ヨリハ凡テ之ヲ特別經營事業ニ移付シ大ニ功程ノ進捗ヲ期シタル結果漸次良好ナル成績ヲ擧クルニ至レリ然レトモ一層其ノ速成ヲ期スルノ必要アリタルト一面三角測量施行濟ノ箇所ニ在リテハ已ニ一定ノ基礎ヲ有スルヲ以テ斯ル箇所ニ對シ一律ニ精密ナル測定ヲ爲スノ必要ナシト認メ三十二年三月内訓ヲ發シテ國有林野測量内規ノ一部ヲ改正スルコトトナレリ

内訓林發第五四四號

(明治三十六年三月十九日)

大林區署

明治三十三年九月内訓國有林野測量内規申左ノ通改正ス

年月日

大臣

第八十一條 角度測定ニハ經緯儀ヲ用ユシヘ但施業上支障ナシト認ムル場合ハ羅盤若クハ平板ヲ用ユルコトヲ得

距離測定ニハ「スタザア」法、竹尺、若クハ測鏈ヲ用ユヘシ但支距ノ場合ハ卷尺ヲ用ユルコトヲ得

第一百一條 第二項本文ヲ左ノ通り改ム

竹尺、測繩、卷尺ヲ以テ距離ヲ測定スルニハ水平ニ測ルヘシ  
第百三條 第一項中第一號ヲ

$0.01\sqrt{S^2+0.00075S}$ ニ改メ第二號及第三號ヲ削ル

第百六條 水平角ノ測定ハ正反兩位ノ觀測ニ依リ方向觀測法ヲ用ユヘシ但羅盤測量法ヲ用ユル場合ハ前視及後視ノ兩視準ヲ行ヒ其中數ヲ用ユヘシ

第百八條中「高低アル地形ニ」ノ下「シテ施業上必要ト認ムル場合ニ」ヲ加フ

第百九條 水平角ノ讀定ハ分位ニ其中數ハ分以下小數一位ニ止ム但羅盤測量法ヲ用ユル場合ニ於テ方位角ノ讀定及其中數ハ一度ノ十分ノ一ニ止ム

高低角ノ讀定及其中數ハ分位ニ止ム但羅盤測量法ヲ用ユル場合ハ一度ノ十分ノ一迄トス

第百十條第一項中第一號ヲ $0.01\sqrt{S}$ ニ改メ第二號ヲ削ル

第百十七條第一項中第一號ヲ $0.01\sqrt{S}$ ニ改メ第二號及第三號ヲ削ル

第百十九條 縱橫線計算ニ用ユル三角函數ハ真數ハ小數四位、對數ハ小數五位ニ止ム但此場合ニ於ケル水平角及方位角ハ分位ニ止ム

水平距離改算ノ三角函數ハ真數ハ小數三位、對數ハ小數四位ニ止ム

第百二十二條 國有林野ノ面積ハ左ノ區別ニ依リテ計算スヘシ

一、經緯儀測量法ニ依リテ測量シタルモノハ經緯距法(第十七號樣式)

二、羅盤測量法ニ依リテ測量シタルモノハ經緯距法若クハ「プラニメーター」

三、平板測量法ニ依リテ測量シタルモノハ「プラニメーター」

第百二十三條 「經緯距法ニ算出セル」ヲ「幹部ノ」ニ改ム

第百二十六條 但書ヲ左ノ通り改ム

羅盤測量法ニ依リテ測量シタルモノニシテ經緯距ヲ算出セサル場合及面積狹少ナル切離部等ニ在テハ角度及邊長ニ依ルモ妨ケナシ

第百三十三條 境界簿(第二十號樣式)ハ測量手簿、計算簿表及境界査定簿等ニ依リテ之ヲ調製シ其末尾ニ年月日ヲ記載シ調製者ノ記名調印ヲ要ス

右内規改正ノ結果羅盤測量法ヲ用ユル場合多キニ至リ多大ノ功程ヲ舉クルヲ得タルモ測量結果ノ精密度ヲ減

損セサル範圍ニ於テ勉テ之ヲ簡易ナラシメ以テ一層本事業ノ進捗ヲ計ルコトヲ緊要ナリトシ三十七年四月内訓ヲ發シテ再ヒ測量内規ノ一部ヲ改正セリ

内訓林發第一九九號 (明治三十七年四月三十日)

大林區署

明治三十三年九月内訓國有林野測量内規中左ノ通改正ス

年 月 日

大 臣

第十二條中第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ已ムヲ得サルトキハ一團地ノ境界線ヲ數區ニ別チ之カ各區ニ於テ第一號ヨリ順次番號ヲ付シ、甲、乙、丙等ノ冠字ニ依リテ各區ニ於ケル番號ノ區別ヲ爲スモ妨ケナシ

第九十二條 測點ノ番號ハ境界査定標ノ番號並第九十三條ニ依リ定メタル境界點ノ番號ヲ用ユヘシ但シ測量上便宜ノ爲メ臨時ニ設ケタル測點ノ番號ハabc等ヲ用キ其ノ右ノ腰ニ後方測點ノ番號ヲ附記スヘシ(例ハハ<sup>a15</sup>等)

第九十三條 國有林野ノ境界線中其ノ査定ナキ部分ニ付テハ測量官吏ニ於テ適當ノ境界點ヲ定メ第十二條ノ但書ニ準シテ之ニ番號ヲ附スヘシ

第九十四條ヲ削除ス

第百六條中「水平角ノ測定ハ」ノ下ニ「一遊尺ノ讀定ヲ行ヒ」ノ九字ヲ加ヘ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ羅盤測量ニ在リテハ羅針ノ南北兩端ヲ讀定シ以テ正位ノ觀測ヲ行フモノトス但シ時宜ニ依リ羅針ノ北端ヲ讀定シ正反兩位ノ觀測ヲ行フモ妨ケナシ

第百七條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ轉鏡ヲ爲シ得サル測量器械例ハ「パントメーター」ノ類ヲ使用シテ羅盤測量法ヲ行フ場合ニ於テハ一遊尺ノ讀定ニ依リ前視及後視ノ兩觀測ヲ行ヒ其中數ヲ採用スヘシ

第百十九條 縱橫線計算並水平距離改算ニ用ユル三角函數ハ真數ハ小數三位、對數ハ小數四位ニ止ムヘシ但シ縱橫線計算ノ場合ニ於ケル方位角ハ分位ニ止ム

經緯儀測量法ヲ行フ場合ニ於テ其ノ水平距離改算ハ時宜ニ依リ高低角ヲ一度ノ十分ノ一ニ止ムルコトヲ得

第百二十二條ノ二 經緯距法ニ依リ面積ヲ計算スル場合ニ於テハ市街地並三角測量面積ヲ除クノ外縱橫線ヲ小數一位ニ止ムヘシ

第三編 國有林野ノ經營

此ノ如ク類ニ簡易ノ方法ヲ採リ且林業講習所ニ於テ養成セル専門技術者ヲ以テ所要ノ定員ヲ充實スルヲ得タルカ爲三七、八年戰役ノ結果事業ノ進行ニ小頓挫ヲ來タセル以外ニ殆ト大ナル支障ナク一瀉千里ノ勢ヲ以テ進行シ明治四十三年度ニ於テ其ノ大體ヲ終了スルニ至レリ

是ヨリ先明治四十一年査定及測量業務モ略完了ノ期ニ近キタルヲ以テ此際數大字ニ跨ル國有林野ノ如キハ其境界ヲモ測定セハ營林上諸般ノ便宜少カラサルヲ認メ各大林区署ニ照會シテ其ノ實測ヲ要スル延長、測量員、經費等ヲ調査シ四十二年四月山發第一一四五號山林局長通牒ヲ以テ大字境中實測未済ノ分ハ沖繩列島中西表島ヲ除クノ外四十二年度内ニ全部完了セシムヘキ旨各大林区署ニ達シタリ

明治四十四年度以降今日ニ至ル迄尙特別經營事業ノ一部トシテ年々多少ノ測量ヲ施行シツツアルモ業務ノ性質ヨリ論スレハ寧ロ通常經營事業ニ移付スヘキモノナルヘク唯財政ノ都合ニ依リ從來ノ成行ヲ襲套セルモノト謂フノ外ナカルヘシ今三十四年度以降大正四年度末迄ニ施行セル周圍測量事業ノ成績ヲ舉クレハ次ノ如シ

周圍測量成績表 (特別經營事業)

年度	面積	積	延長町數	經費	一町當經費
三三	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
三四	五、〇〇〇	一、二五〇	一、二五〇	一、二五〇	一、二五〇
三五	六、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
三六	七、〇〇〇	一、七五〇	一、七五〇	一、七五〇	一、七五〇
三七	八、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
三八	九、〇〇〇	二、二五〇	二、二五〇	二、二五〇	二、二五〇
三九	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇

年度	面積	積	延長町數	經費	一町當經費
四〇	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
四一	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
四二	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
四三	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
四四	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
四五	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
計	六〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇

第四節 施業案ノ編成

一、林区署官制々定以前ニ於ケル國有林ノ施業

王政復古當時ハ百般ノ政務悉ク革新ノ時機ニ際會セシヲ以テ比較的整理ノ急ヲ要セサル林政ノ如キハ未タ之ヲ顧ミルノ迫ナク從テ官林ニ對スル施業ヲ云々スルニ至ラサリシハ止ムヲ得サルコトナルヘシ明治三年三月ニ至リ民部省達第二五四號ヲ以テ面積蓄積及搬路等ノ調査ヲ府縣ニ命シタルハ蓋シ官林施業ニ關スル基礎調査ノ濫觴ナルヘシ

民部省達第二五四號 (明治三年三月)

管内御料ノ儀別紙雛形ノ通取調早々指出可申尤伐木ノ儀ハ都テ見込相立何ノ上可取計且風折其外減木等ハ其時々取調可相届事 (別紙)



本紙西ノ内

何國何郡郷林帳

何國何郡

字何々 但(嶺岨平地)

一、御林一ヶ所

此反別何程

但深山嶺岨等ニテ反別不相知個所凡積廣狹 豎何間横何間ト可認事

此木數何本

内何本

此譯

何木何本

内何本

何木何本

雜木何本

外

小苗木何本

(何驛村ヨリ、何驛村ニテ)往還但嶺平地

一、並木兩側一ヶ所

此反別何程

此本數何程

内何本

此譯

何木何本

内何本

何木何本

雜木何本

外

小苗木何本

字何々 但(嶺岨平地)

一、竹御林一ヶ所

此反別何程

此竹數何本

此譯

竹何本

外

小竹何本

御林起立

御林冥加永有無

津出ノ次第

開墾可相成場所無

御林木ノ内御用木可相成有無

右之通御座候也

年 號 月

何府縣 印

明治四年四月三日太政官達第一六五號ヲ以テ東京府品川縣小菅縣所在ノ官民林ニ對シ軍艦用材ノ伐採ヲ禁止シタルハ蓋シ營林監督ニ付具體的ニ手ヲ下シタル嚆矢ナルヘシ(第二編第二章第一節參照)本達ハ同年十一月

第三編 國有林野ノ經營

太政官達第六一七號ニ依リテ緩和セラレ官林ノ外ハ任意ニ伐木シ得ルコトナレリ是ヨリ先同年七月民部省ハ達第二二二號ヲ以テ官林規則ヲ制定シ官林ニ對スル施業方針ヲ具體的ニ定メタリ即チ左ノ如シ

民部省達第二二二號 (明治四年七月)

山林ノ儀追テ相達候品モ有之候得共當分別紙ノ通相心得可申事

(別紙)

官林規則

- 第一 山林樹木疎ナル所ハ種裁シ密ナル所ハ培養シ眼前ノ少算ニヨリテ明リニ斬伐不可爲事
  - 第二 立枯根返風雪折朽腐木往來ヲ妨ケ田圃良木ヲ害スル等ノ類無據斬伐ノ儀ハ本品寸間ヲ改メ價ノ當否ヲ正シ伐採セシメ不爲事
  - 第三 鐵道並船艇製造官舎營繕用水路樋橋堤防等木竹ヲ斬伐スルハ事宜ニ寄其筋ノ官員可差出儀モ可有之候得共官廳ニ於テ取計フ分ハ其掛ノ官員點檢濫伐ヲ可禁事
  - 第四 一、松、杉、檜、樺、楓、樫、栗、樟、山毛櫸、シヨウシ等ノ木材ハ國家必用ノ品ニ付精々培養イタシ私林タリトモ深切愛育ノ意ヲ可加事
  - 第五 一、諸道往還筋並木ハ斬伐スヘカラス入交ノ雜木ハ斬伐苦シカラス跡地松苗木可致植付事  
但往來ヲ妨ケ田圃ヲ害スル分ハ第二條ノ通タルヘシ
  - 第六 一、水源ノ山林良材雜木ニ拘ラス濫伐スヘカラス  
但立枯風雪折朽腐木ハ此限ニアラス
- 本規則ハ濫伐ヲ戒メ撫育増殖ヲ勸メ被害木障害木ノ處分及用材ノ利用ニ關スル注意ヲ指示シ進ミテ特種樹種

ノ培養行道樹ノ保護、水源涵養林ノ取扱ニ迄言及セルモノニシテ所謂法三章ナルモ各方面ニ互リテ注意ノ周密ナルヲ見ルヘシ然レトモ本規則ハ僅ニ森林ノ取扱ニ對スル綱領ヲ指示セルニ止マルヲ以テ實行上幾何ノ效果ヲ收メ得タルヤハ疑ナキ克ハス先ニ述ヘタルカ如ク明治三年民部省ヨリ官林ノ調査ヲ府縣ニ命シタレトモ豫定ノ如ク進捗セサリシモノノ如ク即チ明治五年二月當時ノ所轄省タル大藏省ヨリ左記ノ達ヲ發シテ更ニ之カ提出ヲ命シタリ

大藏省達第一九號 (明治五年二月)

御林帳差出方ノ儀去辛未六月中民部省ヨリ相達候趣モ有之候處未タ不差出縣モ有之更ニ今般別紙雜形ヲ以テ相達候條最前差出候縣々ト雖モ新府縣ヨリ一纏ニ致シ早々差出候儘可致事  
但山林取調方急速不行屆場所ハ取調出來候分丈度々ニ差出不爲事

(別紙雜形)

某國某郡

某村

- 一、凡反別幾許 木數幾許
- 但松、杉、檜林數雜木數
- 一、運送便宜敷不敷
- 一、平地敷嶮嶮
- 右之通場所限可認出事

斯ノ如ク施業ノ基礎タルヘキ調査ニ努力セシモ官民有ノ境界モ未タ判明セス面積モ測定セラレサリシ際ナレハ確的ナル蓄積ヲ知り得ルノ理ナク只漠タル見込ニ依リ調査ヲ遂ケタルコト勿論ニシテ所謂施業計畫ヲ立ツルカ如キ域ニ達セサルハ言ヲ須ヒサルヘシ既ニシテ樹木濫伐ノ弊漸ク顯著ナルニ至リシカハ六年五月行道樹

ノ保護増殖ニ關シテ布達シ七月更ニ社寺境内ニ於ケル樹木ノ濫伐ヲ戒メタリ

太政官布達第一四六號 (明治五年五月)

府縣

諸道路並船運並木ノ穢ハ風雨寒暑ノ節行客ヲ防禦スルヲ以テ限リニ不可伐取候ニ付自今伐木願出候節ハ實況馬下逐檢査田畑ノ障礙ニ相成分  
ハ大藏省へ申立許可ノ上所分可致尤障害ニ相成候下枝伐透シ或ハ立枯根倒レ風折等ノ損木有之節ハ付々出頭次第逐檢査ニ付限リ伐木差許木  
品入札拂下ノ上代命阿省へ上納致シ跡地苗木植付等ノ儀ハ從前仕來ノ通相心得難決儀モ有之候ハ、阿省へ可伺出事

太政官布達第二三五號 (明治五年七月)

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候モ限リ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ其地方廳へ願出許可可受事

尙同年五月陸軍省達ヲ以テ火藥製造用ノ爲水楊木ノ濫伐ヲ禁止シ七月更ニ其ノ増殖法ヲ達セルハ當時ニ於ケ  
ル特種樹種保護ノ一端ヲ示セルモノナリ

陸軍省達第一九一號 (明治五年五月)

埼玉縣へ

其縣管下村落ニ水楊木多分有之趣有ハ當省遣兵司火藥製造ノ爲メ入用候條已ニ先般官員巡回ノ節設置候通限ニ伐取候儀無之様可致此旨相達候  
事

陸軍省達第二四〇號 (明治五年七月)

當省遣兵司ニ於テ水楊木必要ノ儀有之候ニ付其府縣管内別紙地名ノ内障礙無之シテ後來繁殖ノ目的有之土地ハ總テ挿付取計可申候爲其別紙方  
法並ニ買揚ケ定價書ヲ以テ相達候條此旨可相心得事

(別紙)

水楊木挿付之方法

一、水楊木ハ其性必水邊濕潤ノ地ニ蕃茂スルヲ以テ河堤ノ脚内外急水抜ノ淵際及ヒ小川筋ニ於テハ其間三尺ヲ隔テ一株ツツ堤内ノ地或ハ沼澤  
等ハ六尺ヲ隔テ一株ツツ挿付スヘシ  
但地所便宜ニ依リ増減アルヘシ

一、杆木ハ五六寸圍リ以下一寸圍リ以上ノ者ヲ長サ一尺ニ鋸斷シ其地ニ挿入スヘキ本日ノ部ハ慎重ニ保護シ外皮ノ剥脫セザルヲ要ス而シテ地  
ヲ穿ソコト五寸許ニシテ其穴ニ挿入ノ後根際ヲ周密ニ固定スヘシ

一、其生長ハ地ノ肥瘠ニ因リ差別アリト雖モ概ネ四ヶ年若クハ五六年ニシテ必ス用材トナルヘシ尤モ一度用材トナリシ後ハ三四ヶ年毎ニ順次  
伐取スヘキモノトス

一、挿付ハ必スシモ時節ニ拘ラスト雖モ梅雨中ヲ善トス

同伐取ノ方法

一、水楊木伐取ノ時節ハ三月中旬ヲ期トス蓋シ木皮ヲ剥去ルニ易ク且ツ一時ニ取纏メ運輸スルノ便アレハナリ

一、伐取ノ上ハ皮ヲ去リ幹ヲ乾シ長二尺ニ刻リ木口直徑一寸五分以下末口五分以上ノ者ヲ細繩ニ周圍三尺ヲ度トシ三箇所ヲ縛シ一束トスヘシ  
但長二尺ノ間屈曲甚シク錯節等多キハ脂油アリテ用ニ堪ヘス但些少ノ屈曲ハ妨ナシ屈曲ナク美質ナレハ一株ニシテ三四材ヲ得ヘシ惡質ハ  
僅ニ一二材ヲ得ルニ過キス一束ノ材數大小平均凡ソ五十本許ノ目的トス

同代價ノ事

一、一束ノ定價金拾錢

但右定價ハ挿付伐取其他一切勞費ヲ包括ス

明治七年一月内務省ニ地理寮ヲ置キテ植伐ノ業務ヲ同寮ノ主管ニ移スヤ森林ノ保護蕃殖ニ付テモ大ニ意ヲ注  
キ三月ニハ火入取締ニ關シテ府縣ニ布達シ六月ニハ太政官達ヲ以テ各省用山ヲ廢止シ以テ林政ノ統一ヲ企テ  
タリ

内務省達乙第四六號 (明治七年七月)

府縣

今般各省用山ノ名義廢セラレ候ニ付テハ以後各省寮ヨリ官有山林ノ樹石需用ノ儀申問候共總テ當省へ具狀ノ上取計可申候此旨爲心得相達候事  
從來官營ヲ以テ河川及道路ノ修築ヲ爲ス場合ニアリテハ官林ノ竹木ヲ無代ニテ使用シ來レルモノ多カリシカ  
斯クテハ管掌セル各事業經營ノ分界ヲ明ニスルコト能ハストシ二月内務省乙第一六號ヲ以テ官營ノ場合ト雖  
相當ノ代價ヲ大藏省國債寮へ納付スヘキコトトセリ

內務省達乙第一六號 (明治七年二月)

府縣

從來治水修路共官營ノ砌從前仕例ヲ以官林ノ竹木無代ニテ遺拂致來候向モ有之經營統計ノ實ヲ失シ不都合ニ付自今木品尺シメ等詳細取札相當ノ代價ヲ付シ前以地理寮へ申立候上役木致シ其工事一同ノ入費へ組合追テ仕上精算ノ末土木寮ヨリ經費金請取右代價大藏省國債寮へ上納可致此旨相達候事

但木品明細書ハ別紙難形ノ通可認出事 (別紙省略)

行道樹ノ保護ニ付テハ從來ヨリ注意セル所ナルモ八月ニ至リ左ノ達ヲ發セラレタルニ見レハ當時尙樹幹ヲ削リテ脂ヲ採取スル者アルヲ證スヘシ

內務省達乙第五二號 (明治七年八月)

府縣

道路並木ノ儀ハ昨明治六年太政官第四百四十六號公布ノ趣モ有之候處旨趣一般ニ徹底不致哉往々其根ヲ掘リ其皮ヲ剥キ其幹ヲ削リ其心ヲ燃シ或ハ松脂ヲ採テ我生業ヲ營候者有之夫カタメニ根倒レ風折レ等出來候趣ニ相聞右並木ハ兼テ相達候通風雨寒暑ノ節行客ヲ保護致シ候儀ニ付人民相互ヒニ是ヲ培養可致苦ノ處却テ右等ノ所爲ニ及候ハ不都合ノ至ニ候條厚ク人民へ説諭ヲ加ヘ區戶長ニ於テ精々取締方注意爲致今後心得違右等ノ所業イタシ候者有之候ハ、嚴密ニ探索及ヒ相當ノ處分取計可申此旨相達候事

內務省達乙第六〇號 (明治七年九月)

府縣

諸街道並木保護ノ儀ハ昨六年百四十六號公布且今年當省乙第五十二號ヲ以相達置候次第モ候處古來並木有之箇所モ遂々枯木根倒レ等ニテ間斷イタシ並木ノ詮無之箇所モ不少右等ノ場所ハ植足ノ積リニ相心得木數入費詳細取調尤是迄並木無之場所モ遂々植付候積見込相立可伺出此旨相達候事

消極的保護ノミヲ主トセル林政ハ一般農業ト共ニ漸次積極的ニ經營スルノ氣運ニ向ヒ八年三月府縣ニ令シテ技術家ヲ調査セシメ六月ニ至リ運搬便利ナル個所ニ對シ造林計畫ヲ命シ且樹種ノ選定ニ付テモ第一ニ槻、楠、檜、小檜檜ノ類ヲ指示シタルヲ見レハ國家ノ直接ニ需要スヘキ製艦用材ノ缺乏ヲ防止スルニ力メタル跡ヲ窺フヘシ

內務省達乙第二八號 (明治八年三月)

府縣

各管内ニ於テ現業練熟且老實ナル農學家精選之上樹藝養蠶本草三科之内ニテ別紙難形之通特秀之者一兩名取調至急可申立此旨相達候事 (別紙)

何國何郡何村町

何族

苗字名

年 齡

一、何科

一、先師又昔祖先之著書目

一、本人著書目

一、本人現今之見込書

內務省達乙第七八號 (明治八年六月)

府縣

各管下官林之樹木諸般用材ノ爲追々伐出シ後來需用之材可及缺乏候條官林伐木跡地或ハ官有地ニテ後來官林ニ相成候テモ差支無之運輸便利ノ場所ヲ選ミ地味適當之樹木植付之積ヲ以テ差向本年ヨリ其地最寄ニ於テ苗木仕立方見込相立植付箇所苗木ノ種類員數並四五十ヶ年ノ後植付費用トモ取調本年十月三十一日迄ニ當省へ可伺出此旨相達候事

但管下植付ノ地所悉皆取調候ニハ時日モ可相掛ニ付差向分リ居候箇所ヨリ致著手追年漸次植付之積リ相心得且又從來製艦用材必需之事ニ付第一槻檜檜小檜之類次ニ檜杉檜等モ地質ニ應ジ植付ノ積ヲ以苗木仕立之見込取調可申事

斯ノ如ク森林ノ増殖ニ努メタリト雖其ノ規模ノ極メテ小ナリシハ當時ノ財政上止ムヲ得サルコトナルヘシ而シテ當時獨リ苗木ノ植栽ノミナラス一般官林ノ保護ニ付テモ之カ方法ヲ講シ又公共ノ利害ニ關スルコト大ナル官林ノ如キハ地元人民ヲシテ保護ノ任ニ當ラシムルノ策ヲ執リシハ次ノ各達ニ依リテ明カナルヘシ

內務省丙第八號 (明治九年二月二十四日)

官林苗木立植付ノ儀ニ付昨八年六月當省乙第七十八號ヲ以テ相違置候處今般地理寮官員令出張實地著手候條仕立植付入費七百圓以內ノ目途ヲ以テ先般達ノ通詳細取調置出張官員へ可達協議候此旨相違候事

內務省達內第一〇號 (明治九年三月五日)

今般官林苗木立植付ノ儀ニ付丙第八號ヲ以テ相違置候處當省官員出張候ニ付テハ當今苗木植付ヲ要スル箇所ハ勿論一般官林ノ儀モ一々精査ノ上山林保護方法取調爲致候條出張官員ヨリ協議次第右調査助手トシテ士族平民ノ内數名一時雇揚給料ノ儀ハ追テ請取方地理寮へ申出候權取計可申此旨相違候事

內務省達內第五號 (明治九年十一月一日)

- |     |     |     |
|-----|-----|-----|
| 宮崎縣 | 足柄縣 | 岡山縣 |
| 千葉縣 | 廣島縣 | 茨城縣 |
| 香川縣 | 熊谷縣 | 愛媛縣 |
| 岐阜縣 | 愛知縣 | 宮城縣 |
| 濱松縣 | 磐井縣 | 靜岡縣 |
| 岩手縣 | 廣島縣 | 大分縣 |
| 愛知縣 | 栃木縣 | 愛媛縣 |
| 茨城縣 | 靜岡縣 | 熊本縣 |
| 三重縣 |     |     |

其縣管下一等官林之儀ハ監守人配置可致見込ニ付テハ右配置並人員給料共實際相當見込相立至急可申出候尤町步狹少又ハ格別良材無之場所歟或ハ水源涵養土砂扞止等ニテ該地公同ノ利害ニ關スルモノノ如キハ別段監守人ヲ不置可成區戶長又ハ該村內ニ於テ便宜取調候相心得見込取調可申出此旨相違候事

但町步狹少又ハ水源涵養等ノ類タリトモ實地ノ都合ニ依リ他ノ良材森茂ノ場所ト併テ便宜業務爲致候儀ハ勿論不苦候儀ト可相心得事

又官林ニ關スル調査ハ明治三年民政部省ヨリ府縣ニ命シ同五年大藏省達ヲ以テ其ノ調査ノ提出方ニ付督促ヲ發シタルコト既ニ述ヘタルカ如クナルモ斯ル調査ハ單ニ官林ノ所在、面積、蓄積、木材搬出ノ便否、開墾適地ノ有無及用材ノ多少等ヲ羅列セルニ止マリ且調査ノ方針モ一定セサリシヲ以テ森林施業上ヨリ觀察スレハ僅ニ豫備業務ノ一端ニ指ヲ染メタルニ過キス依テ更ニ進ミテ經營ニ關スル諸事項ヲ規定スルノ必要ニ迫ラレ明治九年三月五日內務卿ノ決議ヲ經テ官林調査假條例ヲ發布シ山林中保護培養ヲ要ヘルモノノ種類、圖面、帳簿ノ調製方法、林區番號ノ命名方法、監守人ノ配置方官林ノ等級及齡級ノ分類、國土保安ノ爲禁伐ト爲スヘキ森林ノ種類及測量造林斫伐ノ方法等ニ至ル迄之ヲ規定シ調査ハ一小區ツツ取纏メテ進達セシムルコトトセリ

官林調査假條例 (明治九年三月五日(內務卿)決議)

第一條 山林ヲ調査スルニハ第二條以下ノ條例ニ據リ力メテ詳細密ナルヲ要スヘシ

第二條 山林ノ保護培養ヲ要スルモノ左ノ如シ

- 一、水源涵養
- 一、土砂扞止並積雪止
- 一、風潮除
- 一、土地ノ風致ヲ裝飾スルモノ
- 一、魚附場
- 一、廻船ノ目標トナルモノ
- 一、名所舊跡アルモノ
- 一、國郡村市ノ境界ヲ表スモノ
- 一、道路並木ノ代用ヲナスモノ
- 一、用材
- 一、堤防橋梁ノ用材ニ備フルモノ

第三編 國有林野ノ經營



以內ノ年季ヲ付シ實地相當ノ代料ニ改正ノ積取調縣官ヨリ伺出ヘク協議ヲ遂クヘシ

第二十一條 薪炭山取扱ノ儀ハ各地各種ノ慣法モ之アルヘシト雖モ到底一定ノ規則ヲ立テサレハ濫伐ノ弊害モ少カラス故ニ實地相當ノ區劃ヲ設ケ年々順次輪伐ノ法ヲ施シ永ク資用ニ差支サル儘見込相立取調フヘシ右ハ迫テ改定ノ見込ヲ以テ始ク前條ニ照シ十ヶ年以內ノ年季ヲ以テ實際相當ノ拜借料上納ノ積取調縣官ヨリ伺出ル様協議ヲ遂クヘシ

第二十二條 從前人民ニ於テ苗木ヲ植付又ハ其他ノ緣故ニ因リ官民ノ割合ヲ定メタル山林ハ先ツ此迄ノ通據置官民ノ割合並ニ伐採ノ年度等ヲ取調之ヲ官林帳ニ登錄スヘシ若シ多少ノ弊害有之方法更正ヲ要スヘキ者ハ實際適宜ノ見込相立地方官ハ協議ヲ遂ケ其事情方法ヲ上申スヘシ

第二十三條 竹林ハ十ヶ年以內ノ年季ヲ定メ相當ノ拜借料ヲ收メ人民ニ貸渡スヘシ尤貸渡ノトキハ立竹ノ周圍員數ヲ記シ置キ滿期返上ノ時ニ至リ立竹ノ原數ニ減スヘカラサル旨ヲ約スヘシ之ヲ人民ニ貸渡ササル場所ハ毎三年以上ノ立竹ヲ伐採リ入札ヲ以テ賣拂ノ積取調縣官ハ協議ヲ遂ケテ取調フヘシ

第二十四條 林相ニ依リ伐採スヘキモノ又ハ手入スヘキモノ其他ノ木ヲ植付ヘキ見込ノ場所ハ其譯帳簿ニ相記シ向來順次著手ノ目途ヲ立ツヘシ

第二十五條 野火延燒ノ恐レアル地ハ其風向方位ヲ察シ年々叢生ノ草ヲ伐採シ防火線路ヲ開ク等豫防ノ方法入費ヲ調査スヘシ

第二十六條 各地ノ河流ハ水流ノ便否里程ヲ調査シ港灣ハ船積ノ便否東大阪及ヒ都會ノ地ヘ運送ノ里程船賃等ヲ調査スヘシ

第二十七條 柚木挽並日雇人足賃並材木山元直段地方實買相場其他材木伐出受負入費等概略取調フヘシ

第二十八條 動物ノ內山林ノ利害ニ關係スルモノハ實地ニ就キ取調フヘシ

第二十九條 山林關係ノ書類他日ノ參考ニ供スヘキモノハ力メテ搜集之ヲ贈寫スヘシ

第三十條 調査ノ砌リハ固ヨリ前項條件手續ヲ以テ取調フヘシト雖モ自然實際低價ノ義之アルトキハ實地ノ景況ヲ報告シ稟議ヲ經ヘシ

第三十一條 山林取調出來スレハ一小區ツツ取調メ追次郵便ニ付シ進呈スヘシ

製表凡例

一、表面樹種ヲ記載スル際格テ上下二段ニ分チ針葉樹ヲ上段ニ記シ闊葉樹ヲ下段ニ記ス  
但樹種多クシテ全ク載セ得サルトキハ針葉樹下段ニ闊葉樹上段ニ記スコトモアルヘシ

一、反別木數未タ實測シ得サルモノハ凡テ凡字ヲ冠ス

一、樹木ノ間尺ヲ記スル太サハ目通ノ合圍ヲトリ長サハ平均其中ヲ取ル假令ハ長三間ヨリ四間マテナルトキハ折中シテ三間半ト記スルカ如シ

一、地形ハ左ノ四類ヲ以テ其險夷ヲ分ツ

- 平坦 傾斜 險阻 絶險
- 一、地質ハ大別シテ左ノ八類トス  
壤土 埴土 亞土 砂土 礫土 塗泥 礫礫 岩石
- 一、地質ノ良否ヲ狀スルニ左ノ形容詞ヲ以テス  
肥 瘠 燥 濕 厚 薄 荒 漠 等

一、季候ハ寒暑ナリ季候ハ寒暑ノ度ヲ記ス若シ該地ニ驗溫器ノ備ヘナキトキハ比隣ノ比較ヲ取テ適宜斟酌シテ之ヲ記ス

明治十年十月拂下木ノ搬出ニ付テハ一定ノ期限ヲ付スヘキヲ命シ同月種々ノ用途ニ供スヘキ有用樹種ヲ一括シテ雜木ト稱シ處分スルノ弊ヲ指摘シタルカ如キハ利用ニ關シテ遠ク四十年前ヨリ既ニ多大ノ注意ヲ拂ヒシコトヲ知ルヘク今尙之ニ均シキ注意ヲ促スノ必要アルヲ見ルハ寔ニ先覺者ニ對シテ忸怩タラサルヲ得ス

内務省達乙第八九號 (明治十年十月四日) 府縣

從來拂下ノ砌伐採期限無之ヨリ夫カ爲往々許多ノ弊害モ有之哉ニ相聞不都合ニ候條自今伐木出願ノ節ハ實地著手ヨリ山元拂出シ卒業迄ノ日數期限見込詳細申出サセ其旨上申面ヘ記載可伺出此旨相達候事

但既ニ許可相濟方今伐採中ノ分ト雖モ本文ニ準シ詳細取調至急可届出候事

内務省達乙第九五號 (明治十年十月十七日) 府縣

從來官林樹木撥下伺出之節雜木ト唱候内ニハ船艇其他種々ノ功有用之モノ不詳候ニ付右種類功利用ノ得失等漸次檢究ノ上可相達儀モ有之候條自今立木拂下等伺出之節ハ假令矮少ノ雜木ト雖モ可成木名記載可致尤右之内各地ノ方言ニ懸リ候モノノ如キハ木名ヘ添假名ヲ附シ詳細登記ノ上開申候儀ト可相心得此旨相達候事

以上述ヘタルカ如ク森林產物ニ對シテ利用ノ集約ナラムコトヲ期スルト共ニ無立木地ノ植栽ヲ督勵シ土地生産力ノ増加ニ勗メタルモ國費多端ノ當時ニ於テ利害ノ影響比較的遲緩ナル林業ノ如キモノニ對シテ巨額ノ造林費ヲ支出スルカ如キハ蓋シ不可能ノ事ナリシナルヘシ由是國費ニ依ラスシテ速ニ植林ノ實ヲ舉クルノ方案

ヲ考究セシ結果今日ノ所謂部分林制度ヲ採リ人民ヲシテ官林ニ植栽セシムルヲ捷徑ト認メ十一年三月十四日  
内務省達ヲ以テ部分木仕付條例ヲ發布シ之ニ關スル要項ヲ規定シ同十五日府縣ニ令シテ普ク管下ノ人民ニ其  
ノ趣旨ヲ告諭セシメタリ然レトモ政府ニ財力ノ餘裕ナカリシト同時ニ民間ニ於テモ未タ資金缺乏セルカ上ニ  
林業思想發達セサルヲ以テ其ノ成績豫期ノ如ク舉ラサリシハ當時ノ事情ニ想到セハ實ニ已ムヲ得サルコトナ  
ルヘシ

明治十二年五月内務省中ニ山林局ヲ創設シテ森林經營ニ關スル一切ノ業務ヲ管掌スルニ及ヒ國有林ノ施業モ  
亦稍進展セルノ觀アリシモ當時國有林野ノ面積尙未タ詳カナラサルノミナラス官民所有ノ境界ヲモ明カニス  
ルコト能ハサリシ際ニシテ殊ニ實務ニ膺リシ官吏ノ如キハ舉ケテ専門的知識ヲ缺ケルハ勿論中央官廳ニ於ケ  
ル主腦官吏モ亦僅ニ林業ニ關スル觀念ヲ有スルニ過キサリシ時代ナレハ未タ森林經營ノ基礎タルヘキ施業案  
ヲ編成スルノ氣運ニ達セス漸クニシテ既往ニ於ケル濫伐、野火ノ災ヲ防止シ產物ノ利用ヲ圓滑ナラシムルニ  
力ムルカ如キ程度ニ過キス

内務省達乙第四九號 (明治十三年十二月三日)

府縣

今般太政官ヨリ被相達候旨モ有之山林ノ儀ハ水陸生産ノ殖スル所國家經濟上最忽セニスヘカラサル所ニシテ一タヒ其制ヲ忽レハ寒暑ノ序ヲ失  
ヒ水旱ノ禍ヲ招キ之ヲ大ニシテハ全國殖産ノ道ヲ妨ケ之ヲ小ニシテハ一家需用ノ缺乏ヲ來スハ必然ノ儀ニ付全國山林官民有ノ別ナク在來ノ材  
料ヲ愛惜シ濫伐野燒ノ憂ヲ防クハ勿論漸次閑地ニ於テ樹木植栽等ニ著手シ山林保護ノ道相立候儀此際一層注意シ管下人民ヘ懇ロニ相諭シ山林  
ノ荒蕪夢現同候儀取計可申旨相達候事

明治十四年四月産業ニ關スル萬般ノ事項ヲ管理スルカ爲農商務省ノ設置セララルニ及ヒ山林局ハ其ノ所屬ニ  
移サレタリ當時ニ於ケル國有林野ノ管理組織ヲ見ルニ從來地方廳ヲシテ司掌セシメタルモノヲ逐次山林局ノ

直轄トシ山林局出張所(十年九月山林事務所ト改ム)ヲシテ管理セシメツツアル時代ナリシヲ以テ各般ノ事務統一ヲ缺キ從テ  
組織的經營ヲ企圖スルコト能ハサル状態ナリキ

二、林區署官制々定以後國有林野特別經營事業

開始以前ニ於ケル國有林ノ施業

明治十九年ニ至リ國有林野管理ノ移轉略完了セルヲ以テ同年四月大小林區署官制ヲ定メラレ茲ニ始メテ林區  
署組織ニ依リテ之ヲ管理經營スルニ至レリ本官制中ニ長期施業案編成ヲ大林區署ノ掌ルヘキ事務ノ一トシテ  
明示セルハ蓋シ法令中ニ施業案ナル文字ノ現ハレタル權輿ナルヘシ是ニ於テ各大林區署ハ施業案編成ヲ爲ス  
ノ必要ニ迫リシト雖各署長ヲ始メ部下ノ職員ニ至ルマテ未タ之ニ關スル知識ヲ有セサリシヲ以テ同年五月大  
林區署長ノ諮問會ニ方リ山林局長武井守正ハ諸表及左記ノ説明書ヲ歐洲式施業案ノ模範トシテ配付シ之ニ倣  
ヒテ編成セシムルコトトセリ

施業諸表案説明書

面積表

本表ハ一小林區ニ屬スル林地ノ面積、生産地不生産地及成林ノ種類等ヲ詳ニシテ今後設制施行スヘキ方法ヲ考究規定スルノ基礎ニシテ一小林  
區ヲ通シテ調製スル者トス其記載式左ノ如シ

第一項 區劃名稱 本項ヲ分テ左ノ六欄トス

- 一 郡 本欄ニハ其林地所在ノ郡名ヲ記入スヘシ
- 二 町村 本欄ニハ其林地所在ノ町村名ヲ記入スヘシ
- 三 分擔區 各小林區ニ於テ林政上ノ關係ヨリ定メタル吏員ノ分擔區域ヲ云フ者ニシテ本欄ニハ其林地所在ノ分擔區番號ヲ記入スヘシ
- 四 林班 凡ソ廣大ナル森林ハ伐材ノ順序ヲ正シ或ハ保護上及測量上ノ便利ヲ計ル等ノ爲メニ之レヲ峰、谷、川、道或ハ人工區劃線ニ

第三編 國有林野ノ經營



由リテ適當ノ大サニ區別スヘシ此區域ヲ名ケテ林班ト云フ  
林班ノ形ハ地勢ニ據リテ之ヲ異ニスヘシト雖可成長力形トナスヲ良トス是伐採面ヲ長方形トナスノ便ト運搬ヲ容易ナラシムルノ便アルニ因ル

點散スル小町歩ノ森林ハ之ヲ一個ノ林班ト爲ス本案林班ノ欄ニハ一小林區ヲ通シ亞刺比亞數字ヲ以テ各林班ノ番號ヲ記入スヘシ  
但番號ノ順序ハ小林區ノ東北端ヨリ西北端ニ及ホシ併行ニ附スヘシ

一 小林區中林班ノ數々十百トナル場合ニハ分擔區毎ニ林班ノ番號ヲ改ムヘシ本例ハ林班ノ數許多ナラスト雖特ニ分擔區毎ニ是ヲ改メテ其實例トナセリ

五 小班 一林班内林相ノ異ナル毎ニ區別シテ之ヲ小班ト名ケ小班ハ一林班毎ニ片假名「イロハ」ノ號ヲ附シテ之ヲ顯ハスヘシ

六 摘要 ニハ其林班並ニ小班ノ所在位置ヲ明ニスルカ爲ニ其字並ニ小班ヲ詳記スルナリ

第二項 林地 本項ヲ分テ左ノ二欄トナス

一 立木地 本欄ニハ現在樹木ノ生立スル面積ヲ小班毎ニ順記スヘシ

二 未立木地 本欄ニハ現在立木ナキモ將來樹木ヲ生立セシムヘキ面積ヲ區別毎ニ記載スヘシ

第三項 除地 本項ニ於テハ將來樹木ヲ植栽スル能ハサル燒燬不毛地其他道路河川等總テ林地ニアラサル地ノ面積ヲ區別毎ニ記載スヘシ

第四項 備考 本項ニハ立木地ニ在テハ林種樹種未立木地ニ在テハ未立木地トナリタル理由、除地ニ在リテハ其種類等ヲ詳記スヘシ

調査簿

本簿ハ又一小林區ノ全部ヲ通シテ調製スルモノナリ(例簿ニハ區別名稱ノ順序ニ從ヒ記載シタルモ若シ本簿調製前既ニ施業級ノ分チ方確定シアルトキハ區別名稱ノ順序ニ從ハス施業級毎ニ順テ逐フテ記載スルモ妨ケナシ)既ニ面積ノ調査ヲ終リ面積表ノ調製ナリタルトキハ區別毎ニ森林現在ノ有様ヲ調査シテ本簿ヲ作り以テ施業級編製ノ原料ニ供スルモノナリ故ニ本簿ニシテ正確ナラサルトキハ施業ノ方策亦決シテ正當ヲ得サルナリ是レ此簿必要ニシテ且正確ノ調査ヲ要スル所以ナリ今本簿ヲ別チテ三項トナス

第一項 林籍

本項ヲ別テ區別名稱並ニ面積ノ二目トナス

第一 區別名稱 ハ面積表ノ區別名稱ト同一ニシテ五欄ニ分チリ其記載スヘキ事實ハ林班ノ外圍ノ面積表ト異ナルコトナシ故ニ茲ニ之ヲ略ス夫レ林班ニ於テ面積表ト異ナル記載ヲ要スルハ全ク事業上ニ關係アルモノ例ヘハ其境界、地勢、地味等ヲ林班毎ニ掲グルニアリ此實例ハ本簿並ニ附屬基本圖ニ就テ參照スヘシ

第二 面積 ノ欄ニハ森林トシテ供用セラルル處ノ各小班面積ヲ順記スヘシ

第二項 現在ノ林況

本項ヲ分テ左ノ九目トナス

第一 林種樹種 本欄ノ左方ニハ林種ヲ顯ハシ(例ヘハ喬木ナレハ喬、矮林ナレハ矮ノ一字ヲ、雜級林ナレハ雜級ノ二字ヲ記ス)又右方ニハ樹種ヲ顯ハスヘシ  
但混種林ニ在リテハ多ク存在スルモノヨリ始メテ順次ニ其名ヲ列記スヘシ若シ各樹種ノ割合ノ明ナルトキハ尙樹名ノ右方ニ數字ヲ以テ其割合ヲ示スヲ良トス例ヘハ杉、花柏、扁柏ノ混種林ニシテ杉ハ十分ノ五、花柏ハ十分ノ三、扁柏ハ十分ノ二アルトキハ五分ノ二ノ記スルカ如シ(第一分擔區分林班「ハ」小班參觀)

第二 疎密 立木疎密ノ度ヲ疎、中、密ノ三ニ分チテ本欄ニ記入スヘシ

第三 林齡 全林ノ樹木並ニ同時ノ栽植ニ係リタルトキハ其ノ樹齡ハ即チ林齡ト同一ナリト雖其ノ一部分ノ樹木ハ七十年生他ノ一部分ノ樹木ハ十年生ナルトキハ其林齡ハ七十年ニモアラソ十年ニモアラソ又七十年ト十年トト合シテ平均シタル四十年ニモアラソ例ヘハ七十年生ノ樹木在ル地積ヲ二十町歩十年生ノ樹木在ル地積ヲ百町歩トナストキハ二十町歩ニ七十年ヲ乘シタルモノニ百町歩ニ十年ヲ乘シタルモノヲ加ヘ之ヲ百町歩ニ二十町歩ヲ加ヘタル百二十町歩ニテ除シ得ル所ノ二十年  $(30 \times 70) + (100 \times 10) = 3000 + 1000 = 4000$  カ即チ林齡ナリ又雜級林各種ノ年度級各互混種セルモノノ云ニシテ例ヘハ或町歩中ニ生立スル總樹木ノ尺ノ三千トナシ今其中ニ就テ各尺ノ年齡ヲ數フルニ十年生一千尺ノ四十年生二百尺ノ十五年生百尺ノ十六年生二百尺ノ二十年生五百尺ノ二十五年生五十尺ノ二十六年生五百尺ノ三十年生五百尺ノ四十年生三百尺ノアルト假定スルトキハ其林齡ハ左式ノ如シ

$$\frac{1000+200}{1000} + \frac{100}{1000} + \frac{200}{1000} + \frac{500}{1000} + \frac{50}{1000} + \frac{150}{1000} + \frac{500}{1000} + \frac{300}{1000} = \frac{3000}{1000} = 3.000$$
$$\frac{100}{1000} + \frac{200}{1000} + \frac{500}{1000} + \frac{50}{1000} + \frac{150}{1000} + \frac{500}{1000} + \frac{300}{1000} = \frac{1900}{1000} = 1.900$$
$$\frac{10}{10} + \frac{14}{10} + \frac{15}{10} + \frac{16}{10} + \frac{20}{10} + \frac{25}{10} + \frac{25}{10} + \frac{30}{10} + \frac{40}{10} = 15.75$$

即チ四捨五入シテ十六年トナルカ如シ數樹種混種ノ雜級林ニアリテハ正確ノ林齡ヲ算出スル能ハサル者ナリ故ニ前二法ニ據リ各樹種ニ就キテ其平均齡ヲ算シテ之ヲ列記スヘシ(第一分擔區第五林班「ハ」小班參觀スヘシ)又本例ノ一分擔區ニ林班「イ」小班ノ如キ雜級林ニ在リテ上木ト下木ト二段ヲ爲ストキハ個別ニ伐採セサルヘカラサルニ依リテ上木ト下木トノ年度ヲ平均スルコト能ハサルナリ故ニ上木ハ樹種毎ニ平均シ下木ハ下木ノミニテ平均シ之ヲ並記シ置クナリ而シテ上部ニ記セルハ上木、下部ニ記シ括弧ヲ附セルハ下木ノ年度ト知ルヘシ

第四 單位ノ名稱 材積ハ總テ尺ノ以テ顯ハスヘシト雖モ燃料等ニシテ尺ノ割合明カナラサル地方ニ限リ本欄ヲ設ケ各地慣行ノ狀、京、

本等ヲ以テ顯ハスヘシ

第五 總材量 各小班ニ現在スル總材量ヲ掲グヘシ

但混清林ニアリテハ各樹種ニ就キテ其分量ヲ記スヘシ(第一分擔區ハ林班「ハ」小班參觀)下木ノ材量ハ必ス上木ト別ニ之ヲ記シ括弧ヲ附スヘシ若シ深山ノ雜級林等ニアリテ其總材量ヲ評定シ難キトキハ其行ニ横線ヲ引クヘシ

第六 每町材量 各小班ノ面積ヲ以テ其總材量ヲ除シ以テ每町ノ材量ヲ得之ヲ掲グ

第七 平均生長量 ノ欄ニハ各小班每一町歩ノ生長量ヲ顯ハスモノナリ

平均生長量トハ現時每一町歩ノ有スル材量ヲ林齡ニテ除シタルモノヲ云フ混清林ニ在リテハ各樹種ニ就キテ算出スヘシ

第八 施業分期 本欄ニハ各林種ニ就キ其ノ事業ヲ施スヘキ時期即チ伐採スルトキノ分期ヲ記載スヘシ而シテ其一分期ノ年數ハ喬林ナレハ二十年輪伐年度三十年以下ノ喬林及矮林ハ十年ト定メ現在年度ヨリ起算シ其伐採年度ニ達スル所ノ時期ヲ記載スルモノナリ例ハ本例ニ於テ第一分擔區第一林班「イ」小班ハ松ノ喬林ニシテ現在年度ハ二十四年ナリ而シテ六十年ヲ輪伐年度ト定メタルカ故ニ今後三十六年目ニ伐採シ得ル者ナレハ施業分期ハIIトナルカ如シ又同林班「ロ」小班ハ混清矮林ニシテ現在年度ハ八年輪伐年度ハ三十年ナルヲ以テ今後二十二年目ニ伐採ニ達スルカ故ニ施業分期ハIIIナルカ如シ故ニ本欄ニ記載スル分期ハ唯實際ノ有様ニ從テ算出シタル者ニシテ施業上ノ都合ニヨリテハ種々變換セラルルナリ是レ此分期ハ施業基案ニ顯ハルル所ノ分期ト異ナル所以ナリ(概算表ニテ變換セラル)又雜級林ハ其林ノ全體中ヨリ年々選伐スル者ナレハ元ヨリ一定ノ分期ヲ定ムルコト能ハス又竹林ハ四年生トナルモノチ年々全林中ヨリ選伐スル者ナルカ故ニ又共ニ分期ヲ定ムルコト能ハス是レ共ニ本欄中ニ其分期ヲ記載セサル所以ナリ

第九 植伐摘要 本欄ニハ各小班ノ實況ニ就キ伐採又ハ植栽ノ摘要ヲ記載スルモノナリ例ハ甲小班ハ第一期ニ於テ間伐ヲ要シ乙小班ハ何期主伐後直ニ苗植ヲ要シ丙小班ハ著ク蟲害ニ罹リタルニ依リテ直ニ伐採シテ新植ヲ必要トナス等ノ如シ(本例參觀)

第三項 備考

本項中ニハ第二項中ニ於テ顯ハシタル事項ニ就キ說明ヲ要シ又ハ參考トナルヘキ事由ヲ記入スヘシ

本簿ニハ其終尾ニ於テ各林種面積ノ合計並ニ其施業級編製ノ實況結果又ハ林種ノ變換或ハ他ノ施業級ニ編入スルノ目的例ハ「喬林ヲ矮林施業級ニ編入スルカ如キ或ハ未立木地ヲ適宜ニ各施業級ニ編入スル等ノ事項理由ヲ記載シタル說明書ヲ副フヘシ

概算表

本表ハ施業基案ヲ編製スルニ當リ各施業分期ニ伐採スヘキ面積ト材量トヲ計シテ大差ナカクシメカ爲メ現在林況即チ調査簿ノ成績ニ基キ取捨計算ヲ爲スモノニシテ施業基案原稿ニ過キサルナリ

本表ヲ別テ甲乙ノ二表トナシ甲表ニ於テハ面積ヲ平等ニ分配シ乙表ニ於テハ材量ノ平等分配ヲ爲スモノナリ此甲乙兩簿ノ概算表ヲ使用スルハ唯喬林施業ノミナリトス矮林ニハ只一表ヲ要スルノミ

喬林概算表(甲號)

第一 林籍 本項ノ記載法ハ前二表ニ異ナラサレハ宜シク參照スヘシ

第二 林齡 本欄ニハ各小班ノ林齡ヲ調査簿ヨリ轉載スヘシ

第三 年度級 喬林ノ年度ハ自一年至二十年ヲ第一級、自二十一年至四十年ヲ第二級、自四十一年至六十年ヲ第三級、自六十一年至八十年ヲ第四級、自八十一年至百年ヲ第五級トナシ、以上モ亦之ニ準ス(但シ輪伐年度三十年以下ノ喬林ハ矮林ト同様毎十年チ一年度級トナス)而シテ本表各年度級ノ欄内ニハ各小班ニ對スル所ノ面積ヲ記入スヘシ

本案ハ輪伐年度六十年ナルカ故ニ年度級ノ欄ヲ再ヒI級II級及III級以上ノ三欄ニ細分スト雖若輪伐年度百年ナルトキハ五欄ニ細分スルヲ要スルナリ

又輪伐年度甚高キトキハ便利ノ爲メ各欄ニ二級ツツ(即I及II III及III A及VI等)ヲ記入スルモ妨ナシ

第四 未立木地 本欄ニハ現在立木ナクシテ後來造林スヘキ見込アル地域ハタトヒ多少ノ立木アルモ點々孤立スルカ若シクハ少許ツツ成群存存スル等ノ地ノ面積ヲ記載スヘシ

第五 面積平分 面積平分ハ施業級ノ全林地ヲ可成各期平等ニ分配スルヲ以テ目的トス故ニ年度級欄内ニ記入セル林地ヲ林業上諸般ノ關係例ヘハ地勢或ハ被害ノ多少如何等ヲ鑑ミ可成正當ノ輪伐年度ニ近クキタル者ヲ伐採スル標ニ面積ヲ平分シテ(即チ本例ニ在リテハ一施業級全面積ノ三分一チ)各施業分期内ニ記入スヘシ此分配ヲ施スノ際ニハ一小班ノ全面積或ハ其幾部分ヲ上下ノ施業分期中ニ轉入スルコトアルヘシ然ルトキハ其元位置ニ記載シタル數ヲ赤色ノ細線ニテ引キ消スヘシ例ハ第一分擔區I林班「イ」小班ノ實際施業分期ハIIナリト雖面積平分ノ爲ニ之ヲIニ繰リ上ケIIノ欄下ニ記載シタル數ハ赤線ニシテ引消シアルカ如シ

本項内ノ細別欄數ハ輪伐年度チ一期間ノ年數ニテ除シタル者ナレハ輪伐年度ノ長スルニ從テ亦増加スヘシ例ハ本例ニ示ス所ノ喬林ハ輪伐年度六十年ト假定シタルニ依リテ一期間ノ年數二十年ニテ除シ其數三ヲ得タルモ百年ナレハ五トナルカ如シ而シテ其第一期ハ又之ヲ前後兩半期ノ二欄ニ細別スヘシ(本例參觀)

第六 備考 各小班ノ面積ヲ各施業分期中ニ平等分配シタルノ多少及理由等ノ說明又ハ參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

以上陳述シタルカ如ク一施業級ヲ通シテ順記シ終リタルトキハ最終ニ至リテ總計ヲ顯ハササルヘカラス面積平分ノ欄ニアリテハ各小班力實際適合シタル分期ニ從ヒ其儘之ヲ顯ハシ而シテ其下部ニ平分シタル面積ヲ更ニ記載シ其原數ハ赤線ニテ引キ消スヘシ

奇林概算表(乙號)

- 第一 林籍 本項ニハ第一、II兩期間ニ主伐スヘキ林籍ヲ甲號表ヨリ又第一期間ニ間伐スヘキ林籍ヲ調査簿ヨリ林班番號ノ順序ニ轉載スヘシ但間伐面積ニハ括弧ヲ付スヘシ
- 第二 林齡 甲號表及調査簿ヨリ轉載スヘシ
- 第三 每町現在材量 調査簿ヨリ轉載スヘシ
- 第四 每町生長量 調査簿ヨリ轉載スヘシ
- 第五 伐採種類 本欄ニハ伐採ノ種類即チ主伐間伐等ヲ記入スヘシ
- 第六 施業分期 本欄ニハ林籍ヲ記入スルト同時ニ第一、II兩施業期間ニ主伐スヘキモノト第一期間伐スヘキモノトノ分期記號(即チI、II)ヲ甲號表ト調査簿ニ據テ記入スヘシ
- 第七 平均伐採林齡 トハ概算表編製ノ當時(施業基案編製ニ從事セル時ヲ云フ)ニ於ケル現在林齡ニ面積平分ニ依リテ編入セラレタル各當該施業分期中ハニ至ル迄ノ年數ヲ加ヘタル者ナリ例ヘハ本表第一分擔區I林班「イ」小班ノ現在林齡ハ二十四年ニシテ第二施業分期ニ編入セラレタルカ故ニ第一期ノ二十年及第二施業分期ノ前年十年トト合セ其合數三十年ヲ現在林齡二十四年ニ加ヘ平均伐採林齡五十四年ヲ得ルカ如シ故ニ奇林ニ於テハ平均伐採林齡ヲ得ルカ爲メニ現在ノ林齡ニ加フヘキ年數ハ左ノ如シ

I <sub>1</sub> ナレハ	五年
I <sub>2</sub> ナレハ	十五年
IIナレハ	三十年
IIIナレハ	五十年
IVナレハ	七十年
Vナレハ	九十年

以上之ニ依リ

第八 每町伐採材量 本欄ニハ主伐ト間伐トヲ間ハス其伐採スル時ニ獲ラレヘキ豫定ノ每町材量ヲ顯ハスモノニシテ之ヲ算出スルニハ現在材量ニ其伐採スル時迄ノ生長量ヲ加ヘタルモノナリ例ヘハ本欄ニ於テI林班「イ」小班ノ間伐ニ於テ現在材量ハ二六七尺ノ現在年度ハ二十四年ナリ又其生長量ハ一一、一二尺ノニシテ間伐年度ハ二十九年ナリ故ニ伐採ハ五年ノ後ニアルナリ以テ生長量一一、一二尺ノニ五ヲ乘シ現在量二六七尺ノチ加ヘ伐採材量三二二、六〇尺ヲ得ルカ如シ

第九 材量平分 甲號表ニ於テ平分シタル最近ノ二期間ニ伐採スヘキ面積ニ從ヒ各該當ノ收穫材量ヲ平分シテ算出スルチ目トス而シテ第一期ナリI<sub>1</sub>ノ二欄ニ分チ又之ヲ主伐間伐ニ細別ス第二期即チIIニハ單ニ主伐ヲ計算シ間伐ノ豫定ヲ要セス

倍其收穫材量ハ主伐間伐ヲ間ハス各小班ノ面積ニ專業上定メラレタル伐採林齡ニ相當スル伐採材量ヲ乘シテ之ヲ當該ノ施業分期欄内ニ記入スルナリ而シテ本欄ニ在テハ間伐材量ハ全材量ノ十分一伐採スル見込ト假定シタルニ依リテ之ヲ十二ニ除シ始メテ當該ノ欄内ニ記入セリ例ヘハ第一林班「イ」小班ニ於テハ其面積一七、七二五町歩毎町伐採材量ハ三二二、六〇尺ノナルニ依リ互ニ相乘シ之ヲ十分シテ五七、一八五尺ヲ得ルナリ

以上陳述シタルカ如ク之ヲ計算シ順記シ終リタルトキハ各分期毎ニ合計シ其結果ヲ互ニ比較シI<sub>1</sub>トハ殆ント同一ニシテ又I<sub>1</sub>トハ合シタルモノトIIト大差ナキトキハ材量ハ既ニ平分ヲ得タル者ニシテ概算上充分ノ好結果ナリ然レトモ實際此ノ如キ場合ハ頗ル稀ナルニ由リテ通常ハ面積ヲ平分シタルト同様其材量ヲ各施業分期ニ上下シテ平分セサルヘカラス既ニ其平分ヲ行フカ爲メニ上下シタルトキハ面積平分ノ時ト同シク原位置ノ數ハ赤色ノ細線ヲ以テ引キ消スヘシ而シテ此場合ニハ分期變換セラルルニ由リテ伐採年度モ異變チ生ジ從テ伐採材量等ニモ差異ヲ來スヲ以テ之ヲ改算シテ更ニ記入セサルヘカラス而シテ其原數ハ赤線ヲ以テ引キ消スコト面積平分ノ時ノ如クスヘシ又其合計モ同様ノ手續ヲナスヘシ(本例參觀)

第十 備考 本欄中ニハ間伐ノ歩合及平等分配ニ關スル説明事由ヲ記載スヘシ  
右記載方法ニ由リ概算表甲乙整頓シタルトキハ初メテ施業基案ノ調製ニ着手ス

奇林施業基案

林業ヲ確實ニシ林利ヲ永遠ニ保持センニハ據テ以テ經營スルノ基礎ナカラサル可カラズ本案則チ是レナリ既ニ説明シタル面積表調査簿及概算表ノ如キハ皆本案調製ノ材料タルニ過キサルモノナリ

本案ノ例ニハ松、杉ニ林ヲ合シテ一施業級トナシ調製セリ此松、杉ノ二林ハ共ニ面積狹隘ニシテ各自ニ獨立ノ事業ヲ施スニ足ラス且ツ正當ノ輪伐年度ニ大ナル差異ナキヲ以テ相合シテ一施業級トナセル者ナリ正當ノ輪伐年度ハ松五十年杉ハ七十年ナリ故ニ此松杉林ニ同一ノ施業ヲ施ス輪伐年度ハ左ノ數式ニテ顯ハセルカ如ク五十六年ナルヲ以テ今事業ノ便宜上ヨリ之ヲ六十年ト定メタルナリ

$$\frac{65,72 \times 70 + 140,40 \times 50}{65,72 + 140,40} = 56,4$$

本案ノ全體ヲ大別シテ二大部トナス第一部ハ林籍並現在ノ林況ヲ顯ハシ第二部ハ第一部ヲ基礎トシ今後施業ノ方法順序ヲ設計豫定シタルモノ

ナリ

第一部 林籍及現在林況

第一項 林籍

本項中ノ區別記載法等ハ盡ク前諸表ニ於テ明瞭ナルニ由リ之ヲ略ス

第二項 現在ノ林況

此項ニハ本案調製ノ基礎トナルヘキ現在樹林ノ有様ヲ盡ク顯ハスニモノシテ別テ樹種、林齡、材量、平均生長量、年度級及未立木地ノ六目トナス而シテ皆概算表ヨリ轉載スルモノニシテ其掲載ノ有様等ハ宜シク同表ヲ參照ス可シ

第二部 施業豫定

此部ニハ概算表ニ基キ明年度ヨリ施スヘキ事業ノ順序伐採面積收穫材量並ニ造林面積等ノ豫定ヲ顯ハスモノニシテ之レヲ別テ五目トナス即チ平均伐採林齡、第一期伐採(I)第二期伐採(II)第三期以下伐採面積及前中期(I)造林面積是レナリ今之ヲ細別シ其記入スル所ノ面積並ニ材量等ハ皆概算表ヨリ轉載シタルモノナリ面積欄中特ニ括弧ヲ附シタルモノハ間伐ノ面積タルコトヲ顯ハシタルモノナリ

第五目前中期(I)

備考

此部ニハ前欄中ニ於テ顯ハシタル事項ニ付説明ヲ要シ又ハ參考ス可キ事由ヲ記入スルモノニシテ間伐並ニ保存林地ニ係ル伐採ノ事項等ヲモ詳記ス可シ

此基案調製終リタルトキハ其按(I)ノ豫算額ヲ確實ナラシムル爲メニ施業分期合案ヲ調製シ又年々ノ施業順序等ヲ精密ナラシムルカ爲ニ研

伐案ヲ調製セサル可カラス

矮林 概算表

矮林ニハ喬林ノ如ク二種ノ概算表ヲ要セスシテ只一樣ヲ要ス面積ヲ平分スルヲ得タルトキハ其材量ハ平分スルニ及ハサルナリ即チ矮林概算表ハ一期及ヒ年度級ノ年數各十年ナルノ外喬林概算表甲號ト更ニ異ナル所ナキニ依テ説明セス

矮林 施業基案

本案モ亦一期及ヒ年度級ノ年數十年ナルノ外喬林施業基案ト更ニ異ナル所ナキニ依テ説明セス宜シク推考ス可シ

雜級林 施業基案

雜級林トハ年度不同ナル一種若クハ多種樹木混生セル林ヲ云フ此雜級林ノ施業ハ本案ニ據ルヘシ

第一 林籍 ハ調査簿ヨリ轉載スヘシ

第二 樹種及平均樹齡 本欄ニハ各樹種ノ名稱ト其平均年齡トヲ記スヘシ若シ平均年齡ヲ知り難キトキハ樹齡ノ界限ヲ記シ頭書中平均ノ二字ヲ消除スヘシ例ヘハ三十年乃至七十年ハ30-70トスルカ如シ

第三 各樹種ノ輪伐年度 ヲ豫定シテ之ヲ記入ス

社寺上地林及保存林ニアリテハ輪伐年度ヲ高クスヘシ又伐採後直ニ再植セサルモノハ天然下種ノ年間或ハ再植迄ノ年數ヲ合算シテ之ヲ定ムルヲ要スルハ論ヲ俟タス

下木ノ輪伐年度ニハ括弧ヲ付スヘシ

第四 回歸年 一林班或ハ數林班ノ一點ヨリ漸次選伐進行シ終ニ全林ヲ通シテ其終點ニ達シ然後再ヒ始點ニ回歸スル年數ヲ名ケテ回歸年ト云フ

回歸年ヲ確定スルハ本案中最要ノ點ナリトス

回歸年ハ林種及林況ノ如何ニ由リテ之ヲ異ニスヘシト雖必ス主要ナル樹種ノ輪伐年度ノ分數トナスヘシ通例ハ之ヲ輪伐年度ノ二分ノ一、三分ノ一或ハ四分ノ一トナスヲ適度トス本案ノ例ハ扁柏及花柏ノ輪伐年度百二十年ノ三分ノ一即チ四十年トナシタルモノナリ故ニ若シ此選伐林地ニ樹木自生セス又再植セサルモノト假定スレハ毎回現在材量ノ三分ノ一ヲ選伐シ三回歸即チ百二十年ノ後ニ至レハ全林ヲ伐リ盡ス譯ナリ施業面ノ區域ヲ大ナラシムルニハ回歸年ヲ小ニスヘシ又區域ヲ小ナラシメント欲スルトキハ之ニ反ス

第五 面積 回歸年數ニテ總面積ヲ除シ之レニ10ヲ乘シ以テ向フ十箇年間ニ選伐スヘキ面積ヲ豫定シ(即チ本例ニ在リテハ  $\frac{722,325}{40} \times 10 = 180,581$ ) 施業順序ノ便利ニシテ最モ輪伐年度ニ近キ樹木ノ存スル林班中ヨリ前ノ豫定面積ヲ選定スヘシ

本例ニ在リテハ第五林班「ハ」小班ニハ輪伐師ノ杉多ク第七林班「イ」小班ハ輪伐師ニ近キ花柏アリ兩班ノ面積合シテ百八十二町ナルヲ以テ之ヲ向フ十ヶ年ノ施業面トス

第六 材量 此欄ヨハ前欄ニ選定シタル施業面ノ現在材量ヲ記入スヘシ下木等薪炭用ニシテ駄ヲ以テ評量スルモノハ括弧ヲ付スヘシ

第七 伐採材量 此項ニハ向フ十年間ニ伐採スル材量ヲ針葉樹及闊葉樹ニ分記シ其量ハ左ノ法ニ由リテ定ムヘシ

今各樹ヲ皆輪伐年度ニ近キ者ト假定セハ向フ十年間ニ主要樹ヲ伐採スル量ハ回歸年數ニテ主要樹ノ輪伐年度ヲ除シ其得數ヲ以テ主要樹ノ現在材量ヲ除シタルモノ即チ  $\frac{\text{主要樹ノ現在材量}}{\text{回歸年}} - \text{主要樹ノ輪伐年度}$  尺ニテ越エシムヘカナス他ノ樹種ヲ伐採スルノ量ハ前ノ如ク回歸年ニテ主要樹ノ輪伐年度ヲ除

其得數ヲ以テ該樹ノ現在材量ヲ除シタルモノ即チ  $\frac{\text{該樹ノ現在材量}}{\text{主要樹ノ輪伐年度}} \times \text{主要樹ノ輪伐年度}$  之ニ該樹ノ輪伐年度ニテ主要樹ノ輪伐年度ヲ除シ得ル所ノ數ヲ乘

シタルモノ即チ  $\frac{\text{該樹ノ現在材量}}{\text{主要樹ノ輪伐年度}} \times \text{該樹ノ輪伐年度}$  同前年

甲乙兩樹種ノ合量ノ一定分即チ  $\frac{\text{甲種ノ現在材量} + \text{乙種ノ現在材量}}{\text{甲種ノ輪伐年度} + \text{乙種ノ輪伐年度}} \times \text{甲種ノ輪伐年度}$  同前年

本例ハ扁柏及花柏ヲ主要種トシ其輪伐年度ヲ百二十年トスルカ故ニ各樹皆輪伐年度ニ達シタルモノトセハ扁柏及花柏ノ向フ十箇年間ノ伐採材量ハ前欄現在材量ノ  $\frac{1}{30} = \frac{1}{3}$  ニ該ハシメス杉ノ輪伐年度80ノ向フ十年間ノ伐採量ハ現在ノ  $\frac{1}{40} = \frac{1}{4}$  乃至  $\frac{1}{80} = \frac{1}{8}$  ナラシムハ

キナリ然レトモ第5林班ハ「小班ノ扁柏ハ未タ幼ナルカ故ニ之ヲ伐採セスシテ杉扁柏ノ現在ノ合量即チ  $108060 + 25205 = 133265 \text{R}$  ノ大略  $\frac{1}{3}$  即チ45000Rハチ杉ノミヨリ伐採シ第7林班「イ」小班ノ花柏ハ現在材量33184Rハ  $\frac{1}{3}$  即チ7700Rハチ伐採スルナリ又雜木ハ下木ニシ

テ30年ノ輪伐年度ナレハ百二十年間ニ四回マテ伐採スルヲ得ル故ニ此下木ノミハ施業面外ノ小班ニ於テモ亦伐採スルヲ要スルコトアリ然ル

トキハ樹名及材量ニ角形ノ括弧〔〕ヲ付ケテ之ヲ現スヘシII分擔區第3林班「ロ」小班中ノ雜木ノ如シ

第九 備考 說明及事由ヲ記スヘシ

分期合案 本案ハ施業基案ニ基ツキ今後十箇年間(喬林ハ前半期間、矮林ニアリテハ一期間)ニ執行ス可キ植伐ノ方法種類及順序等ヲ明瞭ニスルモノナリ

而シテ此十箇年間ノ前五箇年ニ屬スル分ハ一層精密ニ之ヲ顯ハス其記載ノ方法ハ左ノ如シ

第一 區劃ノ名稱 本項ニハ皆前ノ諸表ヨリ轉載ス可シ本案ニ至リ新ニ設ケタル施業級ノ欄ニハ小林區ヲ通シテ定メタル各施業級ノ番號ヲ記載ス可シ

第二 面積 施業基案ヨリ轉載ス可シ

第三 林種 各小班ノ林種ヲ前表ヨリ轉載ス可シ

第四 前五箇年間 本項ヲ別テ四トナシ各之ヲ二欄ニ細分ス

一、面積 ノ欄ニハ前五箇年間ニ伐採スル所ノ各小班ノ面積ヲ主伐ト間伐トニ區別シテ記載ス可シ

二、主伐 本欄ヲ別テ用材燃料トナシ前五年間ニ主伐スル材量ヲ用材ト燃料トニ區別シテ記載ス可シ而シテ其材量ハ基案ヨリ轉載ス可シ燃料ハ各地慣用ノ容積ヲ用ユト雖モ成ルヘク畫一ニシ種々ナカラサラシム可シ本案ノ例ニハ全材量ノ五分ノ四ヲ用材又五分ノ一ヲ燃料ト

假定シテ算出シ燃料容積ノ駄ヲ以テ顯ハセルモノハ括弧ヲ付セリ而シテ二駄半チ一尺ノトナス

三、間伐 本欄主伐ト同シク用材燃料トニ區別シテ記載スルコト前欄ト異ナルコトナシ

四、小計 ノ欄モ亦同シク用材燃料トニ二分シ主伐間伐ノ合計ヲ顯ス可シ

第五 後五箇年 本項ノ記載ハ前項ニ異ナラス

一、面積ハ前項ト同シク後五箇年ニ伐採スヘキ面積ヲ主伐間伐トニ區別シテ記載ス可シ

二、後五箇年間ノ主伐面積ヨリ得ヘキ材量ヲ顯ハス可シ

三、同上間伐ニ由リテ得ル材量ヲ記載スヘシ

四、前二欄ノ合計ヲ顯ハス可シ

右ニ示ス如ク本按ニ於テハ施業基案ニ規定シタル今後十箇年ノ事業ヲ前五箇年後五箇年ニ區別シテ記載スルカ故ニ喬林ナレハ施業基案ノ面積材量ヲ更ニ區別スルヲ要スト雖モ矮林ノ前半期(1)後半期(2)ノ年數ハ本按ノ前五箇年ト後五箇年ト相當スルヲ以テ直ニ基案ノ數ヲ此ニ轉記スルニ過キサルナリ

又雜級林ハ其材量ノ均一ヲ得ンカ爲メニ前半期(1)間ニ伐採スヘキ量ヲ折半シテ前後五ヶ年ニ分配ス可シ

第六 造林面積 本欄ニハ前五ヶ年間ニ新ニ造林シ又ハ補植等ヲナスヘキ面積ヲ記載スヘシ

第七 備考 本項ニハ前諸項中ニ記スル事項ニ付說明ヲ要シ又ハ參考ス可キ事由ヲ記入ス可シ

斫伐案 本案ハ分期合案ヲ基礎トシ次年間ニ伐採スヘキ面積ト其材量ヲ種別シタル事業ノ豫算案ニ過キサルモノナリ

第一 林種 次年伐採スヘキ場所ノ區劃名稱並ニ面積ヲ記入スヘシ

第二 摘要 分期合案ニ豫定シタル材量ニ對シ増減アル、理由其他斫伐ニ關スル種々ノ要項ヲ記入スヘシ

第三 樹種 伐採スル樹種ヲ記入スヘシ

- 第四 伐採面積 次年ニ間伐又ハ主伐ヲ行フヘキ各小班ノ面積ヲ記入スヘシ
  - 第五 收穫材量 本項ヲ別テ主伐間伐及合計ノ三欄トナシ尙之ヲ左ノ如ク細別ス
    - 一 主伐 本欄ヲ三分シテ針葉、闊葉、小計トナシ又之ヲ用材及燃料ノ二欄ニ細別ス而シテ分期合案ニ基キ増減規定シタル次年ノ材量ヲ其樹種ト材種ニ從テ各當該ノ欄内ニ記入スヘシ
    - 二 間伐 本欄ハ唯間伐ノ材量ヲ記入スルモノニシテ其區別記載法等ハ盡ク前欄ニ異ナラス
    - 三 合計 本欄ハ別テ針葉、闊葉ノ二トナシ又之ヲ用材及燃料ノ二欄トス而シテ毎小班伐採量ノ合計ヲ茲ニ記入ス
  - 第六 事業並賣却法 本項ニハ官行伐木公賣特賣又ハ立木ノ儘公賣特賣等ノ見込ヲ區別記入スヘシ
  - 第七 監督員ノ意見 小林署區長ノ調製シタル斫伐案ハ監督員ノ檢閲ヲ受ケサルヘカラス監督員ニ於テ適當ト認ムルトキハ之ヲ證シ若シ否ヲスシテ修正シタル場合ニハ其修正シタル理由ヲ本欄ニ記載スヘシ
  - 第八 備考 前項ニ記載シタルモノノ説明理由並其參考トナルヘキ諸件ヲ記載スヘシ即チ増伐減伐等ノ理由ノ如キ其一ナリ
- 本例ニ示セルカ如ク一施業級毎ニ其合計ヲ顯ハシ各施業級ヲ盡ク記載シタル後ニ初メテ其總計ヲ顯ハスヘシ
- 又施業基案中第一施業期ニ編入セル林木ヨリ生スル所ノ枯損木ノ材量ハ之ヲ主伐ノ部ニ組入スヘシ
- 前述ノ諸表ハ進歩セル外國ノ施業案諸表ヲ其ノ儘翻譯セルモノニシテ實地ニ適セサルノミナラス説明モ單ニ簿表ノ記載方ヲ指示スルニ過キサリシヲ以テ未タ施業案ノ何物タルヲ知ラサル當時ノ官吏力其ノ趣旨ヲ理解シ能ハサリシハ推察スルニ餘アリ而シテ是等ノ諸表ハ實際ニ應用スルコト能ハサリシモ我國ニ於テ實地ニ應用セムト試ミラレタル歐洲式施業案ノ最初ノモノナレハ森林施業ノ歷史上重要ナル價值ヲ有スルコト言ヲ待タス既ニシテ明治二十三年ニ至リ當局者ハ最完備セル施業案ヲ編成セムト企テシカ容易ニ其ノ目的ヲ達セサルヲ認メ左記ノ達及通牒ヲ發シテ假施業案ヲ編成セシメ以テ森林ノ財産ヲ明確ナラシメ施業ニ關スル大本ヲ定メムコトヲ期セリ

二十三年四月内第一三一號達

各大林區署

森林ノ財産ヲ明確ナラシメ之レカ經濟ノ基礎ヲ立テサルハ言ヲ俟タサル儀ニシテ且緊急ノ要務ニ有之候處一般ニ正確ナル施業案ヲ編製センハ數多ノ年月ト多額ノ經費ヲ要シ容易ノ事業ニ非ラサレハ之カ編製ハ漸チ以テシ差向キ別紙雜形ニ據リ管内普ク假施業案ヲ編製シ來七月十一日限差出ス可シ

(別紙雜形略ス)

二十三年四月内第一三一號山林局長通牒

各大林區署

本日丙林第一三一號ヲ以テ假施業案編製方之儀ニ付達セラレ候處既ニ施業案調製御差出ノ向モ候得共是トテ實測等精密ノ調査ヲ爲シタルニ非ラサルノミナラス僅々タル箇所ニシテ一般ヲ見ルニ由ナク然ルニ此際一層丁重ノ取調ヲ要スル義有之普ク本施業案編製迄ハ難差延ニ付遺憾云云達セラレタル義ニ候條右假施業案編製方ノ義ハ現今備付ノ官林憲報若クハ既製ノ施業案ニ因テ可ナルモノハ之ニ因リ然ラサルモノハ實地ヲ踏査シ可成實際ニ齟齬セサル様御取調相成度而シテ該案ニ於ケル毎年ノ斫伐材量並日御認可相成タル二十三年度斫伐案並ニ先般御差出ノ二十四年度斫伐概算調ト比較ノ上若シ差違ヲ生シ之カ訂正ヲ要セサルヲ得サル場合モ有之候ハハ事由ヲ詳悉シ御上申相成度

假施業案ハ僅ニ三ヶ月弱ノ日數ヲ與ヘテ常務執行ノ傍編成セシメシモノナレハ其ノ大部分ハ机上ノ推定ニ依リタルモノナルコト勿論ニシテ之カ實際上ノ價值比較ノ少カリシハ當然ノ結果ナルヘシ

明治二十四年四月農商務省訓令第十七號ヲ以テ森林施業ニ要スル諸案簿表施業案編成心得及製圖式ヲ定メ二十六年度ヨリ實施スヘキ旨ヲ布達セリ是ヨリ先政府ハ明治二十三年度ヨリ同三十七年度ニ至ル十五ヶ年間ノ繼續費八五五、八五一圓二八四ヲ支出シ官有林野實況調査、部分林調査及官有林野境界調査ノ三事業ヲ施行スルコトナレルヲ以テ施業案編成ノ基礎トナルヘキ國有林野ノ境界及面積モ逐年明瞭トナルヘキヲ豫想シ本訓令ヲ發シテ著々施業案編成業務ノ進捗ヲ企圖セルモノナルヘシ

農商務省訓令第十七號 (明治二十)

四年四月)

各大林區署

今般森林施業ニ要スル諸案簿表附錄別冊ノ通り相定メ來二十六年度ヨリ實施ス(諸表及施業案簿表說明附記載何略之)

但施業案編製心得及製圖式ハ山林局ヨリ送付ス

施業案編製心得

第一章 總 則

第一條 森林ヲ保護シ之ヲ永遠ニ保續セシムルニ左ノ三項ニ注意スヘシ

一 常ニ完全ノ林相ヲ維持シ力メテ將來最多ノ材積ヲ產出セシムルコト

二 適宜ナル植伐法ヲ施行シ力メテ風火災及蟲害ヲ豫防スルコト

三 前項ノ被害若クハ其他ノ關係ニ據ル收額ノ減少ヲ豫想シ之レカ豫備ヲナスコト

第二條 施業案ヲ調製スルニ當テハ左ノ業務ヲ執行スヘシ

一 林地ヲ實測シ若クハ既成ノ境界圖ヲ寫用シテ基本圖ヲ製スルコト

二 施業ノ便否及ヒ實地ノ狀況ヲ參酌シテ林地ヲ(小林區保護區林班小班ニ)區別スルコト

三 前項ノ各區域ハ之ヲ實測シ林相圖及面積簿ヲ製スルコト

四 各小班ニ付材積ノ測定及地位林位ノ檢定ヲナシ林況簿ヲ製スルコト

第三條 前條ノ調査ヲ終レハ各小班ニ於ケル將來施業ノ方法ヲ按テ作業級ヲ定ムヘシ

第四條 施業期ハ喬林ヲ二十年矮林ヲ五年トス

第五條 施業案ハ林種作業ノ種類及輪伐齡ノ異ナル毎ニ即作業級毎ニ一小林區ヲ通シテ調製スヘシ

第二章 林地區別及製圖

第六條 林地ノ區別ハ地形及施業ノ便否ヲ斟酌シ一林班ノ面積ハ十町歩以上五十町歩以内ニ於テ之ヲ選定スヘシ

但實地ノ地形ニ據リ此制限ニ據ルヘカラサルトキハ此限ニアラス

第七條 既ニ官林境界圖測量内規ニ據リ實測ヲ了ヘタル場所ハ直ニ其境界圖ヲ寫用シテ基本圖及林相圖ヲ製スヘシ

第八條 基本圖及林相圖ノ記載例ハ總テ製圖式心得ニ準據スヘシ

第九條 點々散在スル處ノ少町歩ノ森林ハ之ヲ一個ノ林班トナスモ妨ケナシ

第十條 林班ハ天然石クハ人造ノ區域ヲ以テ區別シ其番號ハ一小林區ヲ通シテ付スヘシ但番號ノ數百ニ到ルモノハ便宜ニ保護區或ハ郡村毎ニ之ヲ改ムルモ妨ケナシ

第十一條 天然ノ區別ハ峰谷或ハ山ノ向背其他在來ノ水流溝渠堤防及道路ニ據ルヘシ

第十二條 林班ハ可成長方形トナル標區別スルヲ良トス

第十三條 一林班中林相相異ニスルモノアレハ一々之ヲ區分シ其面積ヲ實測スヘシ之ヲ小班トス

但大森林ニ在テハ五反歩以下ノ林班ハ之ヲ區別スルニ及ハス

第十四條 林班ノ界線タル主線ハ五間以内支線ハ二間以内ヲ度トシテ之ヲ設ケヘシ

但地勢ノ難易其他ノ事情ヲ參酌シテ之ヲ伸縮スルハ此限ニアラス

第三章 林況調査

第十五條 既ニ前條ノ業務ヲ了ルトキハ各小班ニ付樹種年齡地位林位ヲ查定シ及其材積ヲ測定シテ林況簿ヲ調製スヘシ

第十六條 地位ヲ檢定スルニハ各小班ノ位置土性氣候其他ノ關係ニ據リ之ヲ十等ニ別テテ1,0ヲ最上位0,1ヲ最下位トシ適宜等級ヲ定ムヘシ

第十七條 林位ハ各小班毎町歩ノ材積ヲ算出シ同樹種同年度ノ林相中適當材積ヲ有スルモノヲ1,0トシ最下位ヲ0,1トシ地位ト同シク之ヲ十等ニ區別スヘシ

第十八條 材積ヲ測算スルニハ同一林相中疎密相平均セル場所ニ於テ一反歩以上ノ標準地ヲ選ビ其内ヨリ平均木即チ標準木ヲ選出シ其材積ヲ測定シテ全林ノ材積ヲ推算スヘシ

但疎密適度ノ場所ヲ發見セサルトキハ二三ヶ所ニ標準地ヲ設ケ又適當ノ標準木ナキトキハ大中小數本ニ就キ之ヲ平均シテ算出スルモ妨ケナシ

第十九條 一小林區内ノ各小班ニ就キ悉ク以上ノ調査ヲ了ルトキハ林況簿ニ記載スヘキ材料ヲ蒐集シ得ルカ故ニ是ニ於テ將來施業ノ方案ヲ立テ當該欄内ヘ其要記ヲ記シ以テ施業案編製ノ業務ニ移ルヘシ

第二十條 將來施業上ノ都合若クハ其他ノ事情ニ據リ現在ノ林種ヲ變換スルノ目的ヲ以テ喬林ヲ矮林ニ編入シ又ハ矮林ヲ喬林ニ編入スルモ妨ケナシ

第四章 施業案調製

第二十一條 前章ノ調査ヲ了ヘテ林況簿ヲ製シ將來施業ノ要略ヲ記入シ之ヲ蒐集シテ各作業級ニ編入スヘキ小班ヲ定ムルトキハ各作業級毎ニ面積平分簿ヲ製シテ面積ノ平分ヲナスヘシ

第二十二條 一作業級ハ必スシモ相連續スル一森林タルヲ要セス數個ノ森林或ハ其一小部分ヨリ組立ツルコトヲ得

第二十三條 他ニ同一林相ナキ特別ノ一林相アルモ面積僅少ニシテ一作業等級トナスヘカラサルトキハ一タヒ伐採スルノ後ハ之ヲ變換スルノ目的ヲ以テ適當ノ作業級ニ編入シ若クハ類似ノ作業級ニ合併施業スルコトヲ得ヘシ

第二十四條 既ニ面積ノ平分ヲ了レハ材積平分簿ヲ製シ材積ノ平分ヲナスヘシ

但矮林及ヒ擇伐作業ヲ施ス喬林ニアツテハ之ヲ要セス

第二十五條 一作業級ハカメテ連年作業ヲ施シ得ヘキ面積ヲ以テ組立スヘシ

第二十六條 各作業級共ニ生長ヲ増大スルヲ主旨トシ年度級ノ配置ヲ正シクシテ法正ノ材量ヲ豫備スルヲ力ムヘシ

第二十七條 既ニ前各條ノ面積及ヒ材積ノ平分ヲ了レハ之ニ據テ生スル所ノ面積材積ノ得數ヲ移載シテ施業案ヲ調製スヘシ

第二十八條 施業案ハ之ヲ別テ喬林施業案及矮林施業案ノ二種トシ各作業級ニ分ツヘシ

第二十九條 混合林ニシテ其各樹ノ正當ノ輪伐齡相異ナルニ於テハ彼是折衷ノ輪伐齡ヲ以テ該林ノ輪伐齡トナスヘシ

但貴重ノ樹種極テ少數ナルカ爲メ他樹伐採ノ後之ヲ存置シテ大材トナス場合ハ此限ニアラス

第三十條 水源涵養林・土砂防止林・及風致林其他國土ノ保安ニ關シ皆伐作業ヲ施ス能ハサル場所ニ於テハ總テ擇伐作業ヲ施シ其他ノ森林ハ可成皆伐作業ヲ施スヘシ

第三十一條 材積ハ總テ尺<sup>3</sup>(十二立方尺)ヲ單位トシテ之ヲ揭クヘシ

第三十二條 喬林並矮林施業案ニハ第二期ニ至ル迄材積ヲ顯シ第三期以下ハ只伐採面積ヲ記載スヘシ但シ擇伐作業ニ在テハ第一期前中期(十箇年間)ノ面積及材積ヲ記載スルヲ以テ足レリトス

第三十三條 喬林施業案ニ在テハ第一期材積ノ欄内ニ間伐ノ欄ヲ設ケテ其材積ヲ記載スヘシ但其材積ハ當該林相ノ疎密ニ據リ適宜之ヲ定ムヘシ

第五 章 附 則

第三十四條 本心得ニ要スル所ノ諸案簿表ノ記載例ハ別冊施業諸案簿表說明書ニ據ルヘシ

第三十五條 面積簿同異動記載簿林況簿面積平分簿材積平分簿及各施業案ハ十ヶ年間目毎ニ之ヲ更製スヘシ

第三十六條 面積簿林況簿及各施業案一通ハ之ヲ本省ヘ差出スヘシ

森林圖式

繪畫ノ部

第一、2及4圖ノ色綠ノ色ハ淡薄ニ過キタリ較々之ヨリ濃クスルヲ良トス

第十九圖ノ國道ノ兩線ノ二重線間ニ著色アルハ誤リニテ空白ニ存置スルモノトス

第二十四圖ノ濃紅曲線ノ殊ニ外方ニ接近ノ部ハ更ニ地面ノ色ヨリ較々濃キ洋紅液ヲ以テ塗り其陰影ヲ明瞭ナラシムヘシ

第二十六圖中陰影内ニ微ニ線ノ顯レタルハ誤リニテ陰影ハ「ボカス」ヘシ

第一 第61及62圖ノ第五級及第六級ハ最濃色ニ塗り第六級ノミハ更ニ「アラビヤゴム」液ヲ塗ルモノトス第五級ニ「アラビヤゴム」液ヲ塗ルヘシ

第31圖ノ下ニ陰影ヲ附シタルハ誤ナリ

第38及39圖ノ北針ノ羽箭形ヲ顯ハス左方ノ線ハ細ク右方ノ線ハ太クスヘシ

第41圖ノ橋ヲ顯ハス弧線間ニ藍線ヲ引キ延ハシタルハ誤リナリ

第45圖ノ藍色ハ一面ノ「ボカシ」ト爲スヘシ點記ス可カラス

第46圖ノ川ハ一面ニ藍色ニ塗りテ上方ニ陰影ヲ附スヘシ

第59 60 61 及 62 圖ノ第五級及第六級ハ最濃色ニ塗り第六級ノミハ更ニ「アラビヤゴム」液ヲ塗ルモノトス第五級ニ「アラビヤゴム」液ヲ塗ルヘシ

第64及69圖中ノ小樹形ノ卵圓點ノ右邊ニハ明瞭ニ黑線ヲ引キテ陰影ヲ示スヘシ

注 意

凡ソ圖畫ノ著色濃淡ノ適度ハ我邦ノ如ク末々印刷術ノ發達セサルニ在リテ著色版ニ之ヲ顯ハスハ極メテ難ク一々自在ニ之ヲ畫クニ非サレハ到底其當ヲ得ル能ハスト雖本圖ハ夥多之ヲ要スルニヨリ已ムヲ得ス色摺ト爲セリ依テ畫者ハ宜シク注意アルヘシ

森林圖式總則

第一條 森林圖ハ左ノ二種トス

一、基 本 圖

二、林 相 圖

第二條 森林圖ノ渲彩ノ爲メニ使用スヘキ彩料ハ左ノ十三種トス

一 墨

二 洋 紅

三 青 藍

四 紫 藍

五 黃 藍

六 青 藍

七 青 藍

八 綠 青

九 綠 青

十 綠 青

十一 綠 青

十二 綠 青

十三 綠 青

十四 綠 青

十五 綠 青

十六 綠 青

十七 綠 青

十八 綠 青

十九 綠 青

二十 綠 青

二十一 綠 青

二十二 綠 青

二十三 綠 青

二十四 綠 青

二十五 綠 青

二十六 綠 青

二十七 綠 青

二十八 綠 青

二十九 綠 青

三十 綠 青

三十一 綠 青

三十二 綠 青

三十三 綠 青

三十四 綠 青

三十五 綠 青

三十六 綠 青

三十七 綠 青



九草 緑

十茶 褐

十一樺

十二胡 粉

十三赤 「インキ」

第三條 製圖用紙ハ縦二尺五寸横三尺ノ圖紙ヲ用ユヘシ

第四條 森林圖ハ常に北上ニ向ケテ午線ノ方向ハ圖廓ト平行セシムルヲ通則トス北針ハカメヲ凡例ノ位置ニ反對シテ上方ニ之ヲ畫クヘシ

第一編 基本圖

第一章 通則

第五條 基本圖ハ縮尺五千分ノ一ニ製シ最數學的ニ精密ナルヲ要ス故ニ之ヲ畫クニハ極メテ注意シ諸線及物體ノ長短位置等ヲ計測シタルモノト毫厘ノ差異ナカラシムヘシ

第六條 基本圖ハ後來寫圖ノ原料ナルヲ以テ特別ノ因由アルニアラサレハ之ヲ改ムルコトナシ且林區内 變更沿革ヲ永遠ニ證明スヘキモノナルカ故ニ圖上ノ一點タリトモ塗抹改竄スヘカラス

但止ムヲ得サル場合(例ヘハ不明瞭或ハ疑惑ヲ生スル等)ニ在リテハ只其部分ニ線ヲ引キテ其記號トナスヘシ

第七條 基本圖ハ十年毎ニ之ヲ修正スルモノトス

第二章 基本圖中ニ記入スヘキ諸物

第一款 境界標、豫備標及三角點

第八條 境界石及豫備石 境界石ヲ顯ハスニハ洋紅ノ正方形ヲ畫キ豫備石ヲ顯ハスニハ朱ノ正方形ヲ畫キ各々石ノ位置ヲ示ス所ノ計跡ヲシテ其正方形ノ中心ニアラシメ正方形ノ一邊ノ長サハ三米突(圖中ニ記載スヘキ物體ノ尺度ハ總テ縮尺ヲ以テ測リタル量ニ之ヲ掲ク)トナスヘシ且境界石ニ在リテハ正方形ノ邊ノ向キヲシテ圖廓ノ向キト平行セシメ豫備石ニ在リテハ邊ノ向キヲシテ道ノ向キト平行セシムヘシ(第一圖參照)

第九條 天然ノ境界石及豫備石 天然ノ境界石ハ洋紅ヲ用ヒ天然ノ豫備石ハ朱ヲ用ヒテ直徑三米突ノ圓ヲ畫キ尙墨ニテ外圍四處ニ小點ヲ附シテ之ヲ顯ハス但小點ハ他線ト一致セシムヘカラス(第二圖)

第十條 境界木標ハ洋紅ニテ直徑四米突ノ圓ヲ畫キテ之ヲ顯ハス(第三圖)

第十一條 境界土壘ハ墨ニテ直徑五米突ノ圓ヲ畫キ之ヲ顯ハス土壘ノ中央ニ尙木標ヲ建設スルトキハ墨圓内ニ洋紅ノ小點ヲ畫クヘシ(第四圖)

第十二條 境界樹ハ墨ニテ直徑四米突ノ小圓上ニ箭鏃形ヲ附シタルモノヲ畫キテ之ヲ顯ハス(第五圖)

第十三條 參謀本部陸地測量部ニ於テ設置シタル三角測量點ヲ顯ハスニハ墨ニテ正三角形ヲ畫クヘシ且其三角形ノ一邊ノ長サハ一等三角點ハ十米突二等三角點ハ五米突三等以下ノ點ハ三米突ト爲スヘシ

但三角形ノ底邊ヲシテ圖紙ノ橫界ト平行セシムヘシ

第二款 境界線

第十四條 境界線ハ一米突乃至一、五米突ノ幅ヲ有スル墨線ヲ以テ之ヲ顯ハス

第十五條 境界溝ハ墨ニテ直線ヲ引キ三米突ツツヲ隔テテ其線ノ各點ニ向ケ線ノ左右ヨリ長サ四米突ノ平行線數條ヲ銳角ノ向キニ引キテ之ヲ顯ハス(第六圖)

第十六條 境界塙壁ハ一米突乃至五米突ノ幅ヲ有スル濃キ洋紅線ヲ以テ之ヲ顯ハス(第七圖)

第十七條 爭論アル境界ハ墨ニテ點線ヲ引クヘシ(第八圖)

第三款 行政區界

第十八條 府縣界ハ幅五米突長サ七、五米突ノ線ヲ七、五米突ツツ隔テテ引キ其虛部ニ直徑二米突ノ一圓點ヲ添加シテ之ヲ示ス(第九圖)

第十九條 國界ハ幅一、五米突長サ七、五米突虛部一、五米突ナル點線ヲ以テ示ス(第十圖)

第二十條 郡界及市界ハ幅一、五米突長サ五米突ノ線ヲ十米突ツツ隔テテ引キ其虛部ニ直徑一、五米突ナル二圓點ヲ添加シテ之ヲ示ス(第十一圖)

第二十一條 町村界ハ幅零、五米突長サ七、五米突ノ線ヲ七、五米突ツツ隔テテ引キ其ノ虛部ニ直徑零、五米突ナル圓點ヲ加入スルモノヲ以テ示ス(第十二圖)

第二十二條 字界ハ幅四分ノ一米突ノ點線ヲ以テ示ス

第四款 境界色

第二十三條 境界線ニハ外部ニ接シテ幅十五米突ノ色線ヲ附スルモノトス

第二十四條 色線ヲ畫クニハ左ノ染料ヲ用ユ

一 民有地トノ境界ニハ洋紅ノ稀薄液ニ赤「インキ」二三滴ヲ加ヘタルモノヲ用ユ(第一圖第二圖第四圖)

二 官有地トノ境界ニハ藤紫色液ヲ用ユ(第三圖)

第二十五條 色ヲ異ニスル境界線ノ互ニ相接スル場所ニハ細墨線ヲ畫キテ林區外ノ官民有地ノ境ノ向キヲ示シ又林區外ノ町村界ハ綠色ノ同不

第三編 國有林野ノ經營

同三關セス第1圖ヲ以テ之ヲ示ス

第五款 除地

第二十六條 基本圖ニ在リテハ苗圃及區劃主線ヲ除クノ外除地ノ面ハ悉ク著色シ林地面ハ空白ニ存置スルモノトス  
 第二十七條 森林圖ニ在リテハ光線ハ圖面ノ左方ノ上隅ヨリ來ルモノト想定スルヲ法トス故ニ地面ヨリ低キモノ例ハ沼、河、堀等ニ在リテハ其陰影ヲ左方ノ上部ニ畫キ地面ヨリ高キモノ例ハ家居等ニ在リテハ其陰影ヲ右方ノ下部ニ畫クヘシ  
 第二十八條 除地ノ種類ハ概テ左ノ如シ

- 一 耕地ハ總テ淡黄色ニ塗り尙境界線ノ内線ニ幅二、五米突ノ濃黄色ヲ引クヘシ(第9圖)且田、桑畑、茶畑、三稜畑、葡萄畑ハ各内部ニ其記號ヲ排置スヘシ(自第10圖至第14圖)
- 二 原野ハ淡綠色ニ塗り尙境界線ノ内線ニ幅二、五米突ノ濃綠線ヲ引クヘシ(第9圖)
- 三 牧場ハ原野ト同一ニ塗り内部ニ其記號ヲ排置スヘシ(第15圖)
- 四 池、複線ニ顯ハスヘキ河川、溝及堀ハ淡藍色ニ塗り較々濃キ藍色ニテ陰影ヲ附シ尙其境界線ノ左方ノ上縁ハ淡濃厚藍色ニ引キ其右方ノ下縁ハ較々淡キ藍色ニ爲スヘシ(第16圖及第17圖)
- 五 流水ニ在リテハ長サ三十米突乃至五十米突ノ箭形ヲ墨ニテ處々ニ記載シ其向キヲ示スヘシ又舟或ハ筏ヲ通スヘキ河川ニ在リテハ墨ニテ中央ニ其符號ヲ畫クヘシ(第16圖)
- 六 沼ハ淡藍色ニ塗り其内部ニ濃藍ノ記號ヲ排置シ且墨線ニテ其境界ヲ顯ハスヘシ(第18圖)
- 七 道路、國道ハ二重朱線ヲ以テ各線ヲ畫キ各線ニ於ケル二重線間ハ空白ニ存置シ内方ニ線間ハ淡結黄色ニ塗ルヘシ(第19圖)縣道ハ朱ノ單線ヲ引キ内部ハ國道ト同一ニ演彩ス(第20圖)面積ヲ掲クヘキ廣キ林道及廣キ里道(達路)ハ朱線ニテ平均ノ幅ニ畫キ内部ハ黄色ニ塗ルヘシ道路ノ側邊ニ當リ除地ニ算入スヘキ急斜面地ハ黄色ニ塗り墨線ニテ林地トノ境ヲ引キ且内部ハ三米突乃至四米突毎ニ濃綠ニ對シ直角ノ向キニ平行線ヲ引キ且其線ノ低キニ就クニ從ヒ次第ニ幅ヲ廣クシテ其斜面ハ道面ヨリ上騰スルカ或ハ下降スルカヲ明瞭ナラシム街道(國道及縣道)竝ニ複線ノ顯ハスヘキ里道及林道ニシテ荷車ノ通セサル部ハ下方或ハ右方ノ縁ヲ九十米突毎ニ五米突ヲ間斷シテ之ヲ示ス(第22圖)
- 八 聚場及權道ノ除地ニ屬スルモノハ墨線ニテ其境ヲ引キ黄色ニ塗ルヘシ(第23圖)
- 九 岩石砂礫類ノ廣マリタル不毛ノ地面ハ洋紅及赤、インキノ淡キ色ニテ内部ヲ塗り墨線ニテ其境ヲ畫キ且岩石ニ在リテハ濃キ洋紅ニテ其

記號ヲ一方ニ集メ畫キ(第24圖)砂礫ニ在リテハ其記號ヲ全部ニ排置シ畫クヘシ(第25圖)

十 絕壁ハ洋紅及赤、インキニテ淡ク塗り墨線ニテ圍ミ内部ニ濃キ洋紅點ヲ散記スヘシ(第26圖)

十一 採礦場ハ前項ト同様ニ塗り墨ニテ小鑿形ヲ×狀ニ畫クヘシ(第27圖)

十二 砂坑ハ洋紅ノ細線ヲ以テ圍ミ其内部ハ淡黄ニ塗り洋紅ノ小點ヲ散記ス

十三 礫坑ハ砂坑ト同様ニ著色シ且内部ノ洋紅點ヲ大小混合セシメテ前者ト區別ス(第30圖)

十四 土坑ハ褐黄色ニテ淡ク塗り尙其濃液ニテ湖ト同様ナル陰影ヲ畫キ濃褐色ノ線ヲ以テ湖ト同様ニ其縁ヲ造ルヘシ(第31圖)

十五 炭燒場ハ墨ニテ淡ク塗り墨線ニテ圍ミ内部ニ墨ニテ直徑十米突許ノ橢圓形ヲ畫クヘシ(第32圖)

十六 葦類製造場ハ前項ノ如ク塗りテ内部ニ墨ニテ葦形(⊙)ヲ畫クヘシ

十七 苗圃ハ内部ニ綠青ニテ小樹形ヲ列記シ而シテ其墨キ周圍線ニ許多ノ短キ斜線ヲ畫キテ柵ヲ示ス

十八 小樹形ハ長サ三米突幅二米突トナシ右方ニ細キ墨線ヲ引キ又根際ニ稍長キ點ヲ附シ此點ヨリ右方ニ長サ五米突ノ水平線ヲ引キテ其陰影ヲ附ス(第33圖)

但除地ニ屬セザル苗圃ハ只綠點ヲ列記スルニ止ム

十九 公園ハ原野ト同様ノ内部ヲ塗り綠青ニテ前項ト同様ノ小樹形ヲ數個ツツ處々ニ聚メテ畫クヘシ而シテ其周圍ニ柵等ヲキトキハ單一ノ墨線ヲ以テ之ヲ圍ミ柵等アルトキハ其物體ニ對スル記號ヲ畫クヘシ(第34圖)

二十 庭園ハ前項ト同様ニ塗り小樹形ヲ列記スヘシ

二十一 邸宅ハ官有ト民有トニ之ヲ別チ官有ハ洋紅ニ赤、インキヲ加ヘタル者ニテ淡ク塗り且稍濃キ色ニテ右方ノ下部ニ陰影ヲ附シ濃キ洋

紅線ニテ其縁ヲ畫キ且其縁ハ右方及下方ヲ強大トナス民有ハ洋紅ニ換用スルニ墨ヲ以テスヘシ

又大小林區署及小林區吏官舎ハ上部ニ墨ニテ鹿角形ヲ畫クヘシ但鹿角ハ大小林區署ニ在リテハ四枝ヲ具ヘシメ官舎ニ在リテハ三枝ヲ具ヘシム(第35及36圖)

二十二 區劃主線ハ廣ク伐リ開キタル場合ニハ除地ト爲ス其畫法ハ第七款ニ説明ス

第六款 別種ノ物體

第二十九條 前條ニ掲ケル諸物ノ外尙基本圖中ニ記入スヘキ者ハ左ノ如シ

一 岩 不毛ノ除地ニ算入セサル小面積ノ岩ハ洋紅及赤、インキノ淡色ニ塗り濃キ同色ノ陰影ヲ附スヘシ(第40圖)

二 橋 石橋ハ洋紅木橋ハ墨ニテ一雙ノ弧線ヲ畫キ之ヲ顯ハス(第41圖)

三 柵 板柵、竹柵ハ長サ三米突乃至四米突ノ斜行線ノ陰影ヲ附シタル墨線ニテ顯ハス(第42圖)

四 生籬ハ小環ヲ連記シテ之ヲ顯ハス(第43圖)

五 牆壁ハ幅一米突ノ濃キ洋紅線ヲ以テ之ヲ顯ハス(第44圖)

六 堤ハ五二三米突許ヲ距リタル墨線ヲ基底ニ直角ノ向キニ列記シ其線ノ長短ハ堤ノ幅ニ適セシメ且其線ハ低キニ就クニ從ヒ漸次ニ太クスヘシ(第45圖)

七 堰 石造ハ洋紅木造ハ墨ニテ其記號ヲ畫クヘシ(第46圖)

八 網場ニハ墨ニテ一條ノ繩狀線ヲ畫クヘシ(第46圖)

九 除地ニ算入セサル炭燒場及茸類製造場ハ墨ニテ第二十八條第十五項及第十六項ノ符號ノミヲ畫クヘシ

第七款 區劃主線及區劃副線

第三十條 區劃主線並ニ區劃副線ニシテ廣ク伐リ開キタルモノハ其實際ノ幅ニ畫クヘシ

第三十一條 二個ノ區劃線ノ互ニ相接合スル場合ニハ其接點ヲ離開スヘシ(第37圖)

第三十二條 岩石多キ傾斜地等ニシテ截リ開カサル區劃線ハ其中央ノ位置ニ單線ヲ引キ第四十二條ノ法ニ由リテ其區劃線タルコトヲ判明スナシムヘシ(第37圖)

第三十三條 區劃線ハ其兩端接近ノ位置ニ當リ線ノ中央ヲ距ルコト十米突ノ點ヲ中心ト爲シ三十米突ノ半徑ヲ有スル圓線ヲ其上緣ニ畫キ尙主線ニ在リテハ名稱(A、B、C)副線ニ在リテハ其番號(アラビヤ)數字)ヲ弧線内ニ失書スヘシ(第37圖)

第八款 單路

第三十四條 面積ヲ算入セサル道路即單路ハ幅半米突乃至一米突ノ線ニテ顯ハス其種別ハ左ノ如シ

一 單道ハ單線ト點線トヲ列ヘ畫キテ之ヲ顯ハス但單線ヲ以テ常ニ道ノ中央ヲ示スヘシ(第47圖)

二 尋常ノ林道ハ單線ヲ以テ之ヲ顯ハス(第48圖)

三 小徑ハ點線ヲ以テ之ヲ顯ハス(第49圖)

第九款 單路

第三十五條 複線ニ畫クコト能ハサル川即單川及堀ノ青藍ト胡粉トヲ混シタルモノニテ單路ト同一ノ幅ノ線ニ顯ハシ尙水流ノ方向ヲ示シキ爲メニ墨ニテ長サ三十米突乃至五十米突ノ箭ヲ測方ニ畫クヘシ(第50圖)

第十款 小班境界

第三十六條 小班境界ハ濃キ墨ニテ半米突乃至一米突ノ線ヲ引キテ之ヲ顯ハス

第三十七條 小班境界ハ角點ヲ明瞭ナラシムルカ爲メ其界線ヲシテ角點ヲ距ルコト二米突ノ位置ニ止ムヘシ(第37圖)

第十一款 伐木區域

第三十八條 施業案ニ既定スル新施業前期十ヶ年ノ間ニ伐木スヘキ區域ハ鉛筆ニテ小×形ヲ連結シタル記號ヲ畫キテ之ヲ示ス(第37圖)

第三十九條 將來一ヶ年間ニ伐木スヘキ區域ハ鉛筆ニテ線ヲ引キテ之ヲ示ス

第十二款 附載

第四十條 森林ノ境界外ニシテ境界ヲ距ルコト一百米突以内ニ存在スル所ノ主要ノ物體ハ皆之ヲ基本圖中ニ記入スルヲ法トス道路、河川ノ類並ニ隣接森林ノ區劃線モ亦境界線外一百米突迄ヲ掲クヘシ

第四十一條 境界外ニ存在シ特ニ之カ附載ヲ要スルモノハ概ネ左ノ如シ

一 町村界 林區ニ接續スル町村各互ノ境界線ノ向キハ墨ニテ長サ一百米突許ノ箭形ヲ畫キ之ヲ顯ハス(第1圖)

二 隣接地ノ種類(森林、原野、田、畑等)ヲ分ツニハ墨ノ點數ヲ用ユヘシ

三 鐵道ハ青藍ニ墨ヲ混シタルモノノ淡液ヲ以テ線路ノ廣サニ塗り同色ノ濃キモノニシテ兩邊ノ界線ヲ引クヘシ(第51圖)

四 神祠及佛宇ハ第二十七條第二十項ニ於ケルカ如ク著色シ尙神祠ハ内部ニ卍形ヲ記シ佛宇ハ卍形ヲ記スヘシ(第52圖及第53圖)

五 墳墓ハ形並ニ以テ顯ハス(第54圖)

第十三款 林班ノ境界符號及切圖ノ境界符號

第四十二條 林班ノ境界ヲ顯ハスニハ五十米突乃至八十米突ツツヲ隔テ墨ノ圓點ヲ連記スヘシ但境界線力單線ナルトキハ其線上ニ記シ複線(複線ニ顯ハス道路、河川及區劃線)ナルトキハ中間ニ記スヘシ

又切圖ノ接續部ニ在リテハ四個ノ點ヲ十字形ニ記スヘシ但其接續部カ區劃主線、複線ノ道路、河川等ニ中ルトキハ其除地ヲ面積中ニ算入セサル圖片ニ於テ其除地ノ內線ニ記シ又複線ノ公道ニ在リテハ中間ニ記スヘシ(第37圖)

第十四款 高曲線

第三編 國有林野ノ經營

第四十三條 基本圖中ニハ便宜高曲線ヲ畫クヘシ

第四十四條 高曲線ハ墨線ヲ以テ高サ十米突毎ニ之ヲ顯ハシ且其線ハ五十米突毎ニ稍太クスヘシ

第十五款 縱 橫 界

第四十五條 縱橫界トハ直角縱橫ノ線系ニシテ其一區劃ノ面積ハ縮尺一「ヘクタール」或ハ一町步ヲラシムヘシ

第四十六條 縱橫界ハ赤「インキ」ニテ引クヘシ

第十六款 北 針

第四十七條 北針ハ墨ニテ七百米突ノ長サニ畫キ其下端ヲ較々太クシ上端ヲ去ル五百五十米突ノ點ヨリ起リテ一百米突ノ距離ニ至ルマテハ二

三米突毎ニ北針ニ對シテ四十五度ノ傾ヲ存スル十米突ノ直線數條ヲ左右ニ引キ且其ノ左方ノ線ハ較々細ク右方ノ線ハ較々太クシテ羽箭ノ形

ヲ作ルヘシ又線ノ上端ヨリ五十米突ヲ距テ長サ十米突ニシテ四十五度ニ傾キ稍彎曲シタル線ヲ左右ニ引キ其線端ヲ尖ラシテ巖形ヲ作ルヘシ

(第38圖)

第十七款 尺 度

第四十八條 尺度ハ直立ノ向キニ畫キ長サヲ三百米突(或ハ三百間)トナシ之ヲ三等分シ更ニ其最上ノ百米突(或ハ百間)ヲ十分分スヘシ而シテ

此尺度ヲ畫クニハ先ツ三米突(或ハ三間)ヲ隔テテ大小(右方ヲ大トシ左方ヲ小トシ)二條ノ直線ヲ引キ上端ノ一水平線ハ左方ニ三十米突

(或ハ三十間)右方ニ十米突(或ハ十間)ヲ突出シ又每百米突(或ハ百間)ノ分線ハ長サヲ三十米突(或ハ三十間)トナシ每十米突(或ハ十間)ノ

分線ハ長サヲ十五米突(或ハ十五間)トナシ各直線ノ左方ニ引クヘシ(第55圖及第57圖)

第三章 基本圖繪寫ノ順序

第四十九條 基本圖ヲ繪寫スルニハ左ノ順序ニ據ルヘシ

基本圖ヲ繪寫スヘキ圖紙ヲ取り之ニ原圖ヲ重テ留針ヲ以テ之ヲ圖引板ノ上ニ張リ針ヲ以テ原圖中ノ要點ヲ刺シ下紙ニ針跡ヲ附シテ之ヲ寫ス

ナ常トス其刺跡ハ大中小ノ三種ヲ具フヘシ(殊ニ最小ノモノヲ多ク具フヘシ)是レ使用ノ際容易ニ折レルノ患アレハナリ)針跡ヲ附スルノ順序

ハ初メニ大針ヲ以テ境界標及豫備標ノ中點ヲ刺シ次ニ中針ヲ以テ林地境界線ノ各點ヲ刺シ終ニ小針ヲ以テ道路、河川及其他ノ物體ノ周圍點

ヲ刺スナ定則トス

針跡ヲ附スルノ前ニハ豫メ原圖紙ノ厚サヲ計リ針跡ノ深淺ニ過不及ナキ様注意スヘシ又針ヲ刺スニ境界標及豫備標ハ番號ノ順ニ從ヒ林相境

界線ノ角點及他ノ物體ハ一碎部毎ニ順ヲ追フ等ノ方法ヲ用ヒ決シテ一點ヲ遺ササル様注意スヘシ既ニ諸點ヲ記シテ餘スコトナシト確信セ

ハ原圖ヲ取り除キ第一ニ境界標及豫備標ヲ畫クヘシ(此點ハ大ナル針跡ヲ有スルヲ以テ容易ニ之ヲ認ムルヲ得ルナリ)已ニ之ヲ畫キ終ラハ墨

池、沼、河、石切場等ノ陰影ハ其著色ヲ終ヘタルトキ直ニ之ヲ畫クヲ便トス

總テ森林圖ヲ製スルニハ成ルヘク分業ノ原則ニ從ヒ一種類ヲ畫キ終テ後テ他ノ種類ヲ畫キ以テ同時ニ數多ノ彩料ヲ使用スルコトヲ省クヲ要

ス

早路、單川ハ最初ニ鉛筆ヲ以テ引キ然ル後朱ヲ以テ此早路ヲ畫キ次ニ複道ノ線ヲ引クヘシ

朱ノ使用ヲ終レハ單川ヲ畫キ次ニ縱橫界ヲ引クヘシ是レ錯雜ノ部分ニ在リテハ縱橫界ニ由リ林相境界線ノ位置ヲ容易ニ知リ得ルノ益アレハ

ナリ

混雜ノ部分ハ誤寫等ノ患ナカラシメンカ爲メ林相ノ境界線ヲ墨ニテ引クノ前ニ豫メ鉛筆ニテ細線ヲ引キ置クヲ良トス

既ニ林相ノ境界線其内部細別ノ點線、附載、水流ノ方向及町村境界ノ羽箭ヲ畫キ終レハ林班並ニ切圖ノ境界記號ヲ畫キ次ニ區劃線上ノ弧線

ヲ畫クヘシ此針及尺度ハ最終ニ之ヲ畫クモノトス但此二者ハ決シテ針ニテ刺シ寫スナ許サス毎回新ニ之ヲ畫クヲ要ス

第五十條 基本圖中ニ記入スヘキ文字ハ左ノ如シ

一、切圖ノ番號ニハ羅馬數字ヲ用ヒ區劃主線ノ記號ニハ平假名或ハ羅馬文字A、B、Cヲ用ヒ區劃副線、林班境界標、豫備標ノ番號ニハ亞

刺比亞數字ヲ用ヒ小班及除地ノ記號ニハ片假名或ハ羅馬文字a、b、cヲ用ユ

但除地ノ番號ハ赤「インキ」ヲ以テ書シ區劃線ノ記號ハ朱ヲ以テ書スルノ外總テ他ノ文字ハ墨ヲ以テ書スルモノトス

二、基本圖ノ標題ハ右ノ如ク記載スヘシ

何大林区何小林區	國名郡名村名	林 官 圖 片	町	何 年 何 月	測定姓名名官
	何	基 本 第 何	面積		

第二章 林相圖ノ畫法

第一章 通則

第五十一條 林相圖ハ基本圖ニ因リ其尺度ヲ四分一即チ實際ノ二萬分ノ一ノ尺度ニ縮少シテ之ヲ製スルモノトス

但面積小ナル森林ノ林相圖ハ便宜五千分之一之ヲ製スヘシ

第五十二條 林相圖ハ基本圖ノ如ク數學上極メテ精密ナル時期スル能ハスト雖モ基本圖中ニ畫ケル諸物ハ皆正當ノ位置ニ記入シ殊ニ周圍及

區劃線ノ如キハ精密ニ畫カサルヘカラス又林相圖ニハ基本圖ニ畫ケル諸物ノ外ニ尙林木ノ種類其配置、作業種類及年度級ヲ掲ケルモノトス

第二章 林相圖中ニ記入スヘキ諸物ノ畫法

第五十三條 基本圖上ニ存スル諸物

一 境界標及豫備標ハ林相圖中ニ記入セス

二 外圍ノ境界線ハ零、五米突乃至零、七五米突ノ幅ニ畫キ林相境界線ハ稍之ヨリ細クスヘシ

三 境界ノ色線ハ幅十米突ノ淡色線トナシ尙其内方ニ幅三米突ノ濃色線ヲ附ス

四 複線ノ道路又ハ河川カ境界ヲ爲ストキハ其森林地ニ屬スルト否トニ關セス其外線ニ色線ヲ設クヘシ又道路、河川ノ幅カ殆ソニ色線ノ幅ト同大ナルトキハ色線ヲ附セス

五 區劃線、複線ノ道路及河川ハ其複線ヲ明瞭ニ視得ルノ程度ニ畫クヘシ

六 公道ト私道トハ之ヲ分ツテ要セス兩道共ニ赭黃色ニ塗ルヘシ街道ハ他ノ複線道ノ如ク綠線ヲ單一ト爲ス

七 家屋及石橋ノ著色ハ洋紅ニ代ユルニ朱ヲ以テス

八 林相境界線ノ屈折スル場所ハ其境界線ヲ角點マテ引クヘシ

九 林班ノ符號點ハ三十米突乃至四十米突ツツヲ隔テテ記入スヘシ

十 區劃線ニ附スル弧線ハ上線ヲ距ル五米突ノ點ヲ中心トナシ十米突ノ半徑ニ畫クヘシ

十一 鐵道ハ凡ソ幅五、二米突ノ鋼青色(青藍ト墨トヲ混シテ製ス)ノ單線ヲ以テ之ヲ顯ハスヘシ

十二 塋及生籬ハ圖中ニ掲ケルヲ要セス

十三 北針ハ長サ五百米突ニ畫キ尙其中央ヲ截斷シテ之ト同長ノ子午線ヲ引キ以テ磁針ノ偏倚度ヲ顯ハスヘシ(第59圖)

十四 尺度ハ基本圖ニ在リテハ其長サ三百米突或ハ三百間ナルニ由リ此四倍即チ二百米突或ハ二百間ノ長サニ畫クヘシ(第59圖及第60圖)

十五 縱横距ノ基本圖ト同シク赤「インキ」ニテ縮尺一「メ」クニ「ル」或ハ一町歩ノ正方形ニ畫クヘシ

第二款 作業種類、樹種及年度級ノ區別

第五十四條 喬林ハ年度級ヲ六級ニ分チ每級ヲ二十年ト爲ス即チ一年ヨリ二十年マテ第一級二十年ヨリ四十年マテ第二級四十年ヨリ六十年マテ第三級六十年ヨリ八十年マテ第四級八十年ヨリ百年マテ第五級百一年以上ヲ第六級ト爲ス

第五十五條 年度級ハ著色ノ濃淡ニ由リテ之ヲ區別ス其法ハ最淡キ色ヲ以テ最若キ級トナス依テ第五級及第六級ハ最濃ク著色シ且第六級(即

百一年以上)ハ著色ノ上ニ尙(アラビヤヤム)液ヲ塗ルヘシ

第五十六條 針葉樹林ハ墨ニテ塗抹シ(第59圖)闊葉樹林ハ草綠色(第62圖)ニテ塗抹スルヲ法トス但針葉樹林ヲ尙其樹種ニ由リテ區別スルニハ左ノ色ヲ用ユヘシ

- 一 松ハ墨(第59圖)
- 二 杉ハ茶褐(第60圖)
- 三 ヒノキ、サロヲ、アスナロ、ハ樺(第61圖)

第五十七條 更新級(若干ノ母樹ヲ存置シ天然下種ニ由リテ更新スル場所ヲ云フ)ハ其色ヲ第一年度級ノ濃サニ塗リ尙墨ニテ點線ヲ附ス(第59

60圖ノ右端)

第五十八條 矮林ハ每五年ナ一級トナシ四級ニ分チテ綠青色ニ塗ルヘシ且第四級(十六年以上)ハ豫メ墨ニテ淡ク地ヲ塗り其上ヲ綠青ニシテ塗

ルヘシ(第63圖)

第五十九條 中林ハ下木ノ年度ニ由リテ矮林ト同様ノ年度級ニ分チ且矮林ト同様ニ著色シ尙小樹形ノ符號ヲ處々ニ點散記入シテ以テ矮林ト區別ス(第64圖)

第六十條 擇伐林ハ魯精ノ濃液ニテ塗ルヘシ(第65圖)

第六十一條 竹林ハ紫ニ少シク胡粉ヲ混シタル色ニ塗ルヘシ(第66圖)

第六十二條 散生地(樹木ノ點散存生スル地ヲ云フ)及未立木地ハ共ニ空白ニ存シ只前者ハ散生セル樹種及其混生等ノ現狀ニ從ヒ小ナル樹形ノ符號ヲ記入スヘシ(第69圖)

第六十三條 歩分林ヲ尋常林ト區分スルニハ胡粉ニ「X」形ノ記號ヲ畫クヘシ尙其官民分收ノ歩合ヲ顯ハスニハ其數ヲ上下ニ記スヘシ例ヘハ「X」ハ

二官八民ヲ示スカ如シ(第67圖)

第六十四條 保存林ヲ供用林ト區分スルニハ胡粉ニテ小正三角形ヲ畫クヘシ(第68圖)

第三款 暗色上ノ小班界線并林班界及區劃線ノ符號  
 第六十五條 喬林ニ於ケル第五級ト第六級トノ界線ハ胡粉線ニシテ顯ハスヘシ  
 第六十六條 暗色上ノ林班ノ符號及區劃線ノ符號ハ胡粉ニテ畫クヘシ

第四款 林木ノ混淆

第六十七條 林況調査簿上ニ記載スル樹木ノ種類ハ林相圖上ニ其名稱ヲ記シ或ハ小樹形ノ符號ヲ畫キテ之ヲ顯ハスモノトス  
 第六十八條 特ニ主樹ノ名稱ヲ顯ハスニ要スルトキハ林班若クハ小班ノ記號ノ右下ニ片假名ニテ樹名ヲ朱書スヘシ  
 第六十九條 副樹及混淆ノ樹木ノ名稱ヲ顯ハスニハ主樹名ヨリ較々小ニ之ヲ書シ且針葉樹林中ニ混淆セル闊葉樹名ハ綠色ニ書シ闊葉樹林中ニ混淆セル針葉樹名ハ墨ニテ書スヘシ

但數種ノ樹木ノ混淆シテ其主樹ノ針葉樹ナルトキハ唯闊葉樹名ノミ書シ其主樹ノ闊葉樹ナルトキハ唯針葉樹名ノミ書スルヲ常トス  
 第七十條 小樹形ノ符號ヲ以テ混淆樹ノ種類ヲ顯ハスニハ左ノ法ニ據ルヘシ闊葉樹ニ在リテハ長サ三米突幅二米突許ノ卵圓形ノ綠色點ヲ記シ墨線ヲ其右邊ニ引キテ陰影ヲ示シ尙其線ノ下底ニ小墨點ヲ記シ其下點ヨリ右方ニ長サ五米突許ノ水平線ヲ引キテ立樹ノ陰影ト爲スモノヲ畫キテ其符號ト爲シ針葉樹ニ在リテハ墨ニテ(茶)ノ如キ小樹形ヲ畫キテ其符號ト爲ス又小樹形ノ符號ヲ用ヒテ特ニ樹名ヲ顯ハスニハ左ノ色ヲ以テ之ヲ畫クヘシ(第69圖)

ナ	ラ	雌	黃	グ	リ	茶	褐	ク	キ	岱	緒
カ	シ	樺	洋	紅	マ	ツ	墨	ス	キ	茶	褐
グ	ス	洋	紅	マ	ツ	墨	ス	キ	茶	褐	

第七十一條 樹木ノ符號ハ圖紙ノ下縁ニ直立セシメテ之ヲ畫クヘシ  
 第七十二條 樹木ノ混淆ノ歩合ハ其符號ノ多寡ニ因リ之ヲ略示スルコト左ノ如シ  
 點々星散スルモノ 一個ノ符號ヲ畫ク  
 唯一叢又一列ナルモノ 一個ノ符號ヲ畫ク  
 處々ニ叢生スルモノ 二個ノ符號ヲ畫ク  
 一處ニ群生スルモノ 二個ノ符號ヲ畫ク  
 數列ヲ爲スモノ 二個ノ符號ヲ畫ク

處々ニ群生スルモノ 三個ノ符號ヲ畫ク  
 處々ニ列ヲナスモノ 三個ノ符號ヲ畫ク  
 群生列生相混スルモノ 三個ノ符號ヲ畫ク

第七十三條 萌芽樹及下木ハ混淆樹ノ部類ニ編入セス  
 第七十四條 數樹混淆ノ面積廣闊ナルトキハ小樹形ヲ處々ニ畫クヘシ(是レ圖面ヲシテ鮮美ノ觀ヲ呈セシメンカ爲メナリ然レトモ小樹形ノ簡數ハ餘リ夥ナルヲ厭フヘシ寧過少ナルヲ良トス)又面積甚々狹隘ナルトキハ全ク之ヲ省キ以テ圖面ノ不明瞭トナルノ患ヲ防クヘシ

第五款 伐木區域

第七十五條 向フ十ヶ年間ニ伐木スヘキ區域ヲ林相圖中ニ顯ハスニハ四米突乃至五米突宛ノ距離ニ胡粉ヲ以テ數線ヲ平行ニ引キ且其線ヲ以テ同時ニ伐木ノ方向ヲ示スヘシ即該線ハ必ス伐木方向ト直角ヲ爲スノ向キニ引クヘシ但伐木區域ノ幅員狹隘ナルトキ例ハハ離開伐周圍伐ニ在リテハ其線ヲ階梯狀ニ畫クヘシ

第七十六條 皆伐スヘキ區域ニ在リテハ前條ノ線ヲ連線ト爲シ前更作業林ニシテ現在施業期中ニ林木ノ一部分ノミヲ伐採スル區域竝ニ擇伐林ノ擇伐區域ハ點線ト爲ス又前更林ニ於テ現在施業期中ニ畫ク其林木ヲ伐採スルノ區域ハ連線ト點線トヲ交ヘ引クヘシ  
 喬林ニ變更スル中林及矮林ノ伐木スヘキ區域ハ連線ヲ平行ニ引クヘシ  
 普通中林及矮林ノ伐木スヘキ區域ハ小班記號ノ下位ニ胡粉ノ小長方形ヲ畫キテ之ヲ顯ハス

第六款 圖解 凡例

第七十七條 林相圖中諸物ノ解説ノ凡例ヲ掲グル場合ニハ圖紙ノ下縁ニ平行シ之ヲ距ル二三百米突乃至三百米突ノ間ニ一區劃ヲ設ケ更ニ之ヲ小部ニ分テ其中ニ之ヲ畫クヲ定則トス而シテ其解説ノ順序ハ左ノ法ニ據ルヘシ  
 一 小區劃ハ長サ百米突幅三十米突トス  
 但掲載スヘキ場所狹小ナルトキハ便宜其尺度ヲ異ナラシメ又解説スヘキ物體ノ個數多クシテ一行ニ掲ケ盡クスコト能ハサル場合ニハ二行トナスヘシ  
 二 林地ハ常ニ除地ノ前ニ掲クヘシ  
 三 喬林ハ中林及矮林ノ前ニ掲クヘシ  
 四 成林ノ樹種ハ其廣狹ノ順ニ從ヒ之ヲ掲ク即面積ノ大ナルモノヲ前ニシ小ナル者ヲ後ニス  
 五 年度級ハ現在スル級ノミヲ掲ク

- 六 更新級ハ其樹種ノ最劣年度級ノ次割ニ掲ク
- 七 各樹ノ種別ノ次ニ散生地ヲ掲ケ其次ニ未立木地ヲ掲ク
- 八 次ノ區割ニハ伐木區域ノ解説ヲ掲ケヘシ
- 九 次ニ林木ノ混淆ヲ示スヘシ
- 十 次ニ面積ノ廣狹ニ從ヒ除地ヲ掲ク
- 十一 前各項ノ外總テ物體ノ圖解ハ最尾ニ掲ク其順序ハ畫者ノ隨意トス

第三章 林相圖ヲ畫クノ順序

第七十八條 林相圖ヲ畫クニハ左ノ順序ニ據ルヘシ  
 林相圖ヲ畫クニハ先ツ基本圖ノ各片ヲ合一縮小スル所ノ下圖ヲ製セサルヘカラス而シテ其下圖ハ縱橫界上ニ畫クヲ常トス故ニ下圖ヲ製スルニハ縱橫界ヲ畫クヲ第一著トス  
 縱橫界ハ新ニ之ヲ畫キ又ハ基本圖ノ界ヲ刺シ寫シテ之ヲ四分スヘシ  
 林相圖ノ下圖ヲ本紙ニ謄寫シ且之ヲ精製スルニハ第四十九條ノ法ニ準スヘシ  
 小班界線ハ針跡ヲ附シタル後直ニ墨線ヲ以テ之ヲ連絡スヘシト雖モ他ノ諸物ハ豫メ鉛筆ヲ引テ假線ヲ引テ而後著色スルヲ要ス  
 著色ノ順序ハ先ツ境界線ヲ塗抹シ次ニ著色スヘキ除地面ヲ塗り空白ニ存置スヘキ場所ハ假リニ鉛筆線ヲ引クカ或ハ適宜ノ方法ヲ用ヒテ他ノ著色スヘキ部分ト之ヲ區別シ易カラシム  
 林相ノ著色ハ針葉林面ヲ前ニシ潤葉樹林面ヲ後ニスヘシ且其著色ノ順序ハ第一級ヨリ始メテ漸次高級ニ移ルヘシ  
 第五級ト第六級トノ小班ノ界線及高級中ニ記スヘキ林班境界ノ符合點ハ胡粉ニテ畫クヘシ  
 伐木區域ハ施業案并ニ基本圖ニ依リテ其符號ヲ畫クヘシ

第四章 林相圖中文字ノ畫法

第七十九條 林相圖中ニ記入スヘキ文字ハ基本圖ト異ナルコトナシ唯第四年度級以上ノ喬林ノ林相中ニ林班及小班ノ記號ヲ畫スルニハ墨ニ換用スルニ朱ヲ以テスルノ別アルノミナリ  
 第八十條 林相圖ノ標題ハ左ノ如ク記載スヘシ  
 但數多ノ森林ナ一圖上ニ掲グルノ場合ニハ官林名ヲ除クヘシ

(圖式略ス)  
 何大林区何小林区  
 何 官 林  
 林 相 圖  
 面積：……町  
 何 年 何 月  
 官名姓名 高 測 定  
 或ハ

本訓令ハ明治二十七年一月其ノ一部ヲ改正セラレ同時ニ記載例及整理方法ヲ定メテ山林局長ヨリ各大林区署長ニ通牒シ銳意施業案ノ編成ニ力メタリト雖經費ノ不足ナルト適當ナル技術者ヲ缺キシトニ由リ容易ニ其ノ成績ヲ擧クルコト能ハス明治三十二年特別經營事業ノ開始セラル迄ニ本施業案ヲ編成セシハ僅ニ數千町歩ニ過キササル狀況ナリキ

三 國有林野特別經營事業開始以後ニ於ケル國有林ノ施業

明治二十三年以降著手セル官有林野實況調査ハ二十六、七年ノ交ニ於テ大體終了シタレトモ該調査ハ未タ正鵠ヲ得タルモノト言ヒ難ク且時機ノ熟セサルモノアリテ當時之ヲ決定スルニ至ラスシテ數年ヲ經過セリ然レトモ國有トシテ經營スヘキ林野ニ對シテ一定ノ施業計畫ヲ立ツルト共ニ國ノ管理經營ニ適セサルモノハ之ヲ民有ニ移シテ各適切ナル利用ヲ圖リ生産増殖ノ方法ヲ講スルハ國家經濟上喫緊ノ事ナルヲ以テ明治三十一年山林局ハ實況調査ニ於ケル存廢區別ノ概數ニ基キ現在國有林野七百九十二萬三千二百二十八町歩ノ内不要存置林野七十四萬五千七百七十六町歩ヲ賣拂ヒ其ノ收入二千三百二萬二千五百三十三圓ヲ得之ヲ森林資金ニ充當シ要存置林ニ對シテ施業ノ基礎タルヘキ一切ノ業務ヲ明治三十二年度ヨリ十六年ケ年間繼續施行シ以テ國有林野ヲ合

理的ニ經營シ國家ノ一大財源ト爲スノ方案ヲ樹テテ之ヲ閣議ニ提出シ翌三十二年二月内閣ノ裁可ヲ得タリ是レ所謂特別經營事業ニシテ該事業ノ成立ハ寔ニ國有林野ノ經營ニ對シ一新紀元ヲ開キシモノト謂フヘシ而シテ施業案編成ノ業務モ亦本事業ノ一トシテ三十二年度ヨリ實行ヲ見ルニ至レリ

(イ) 施業案編成ノ計畫

特別經營事業開始當時ニ於テハ森林資金ニ一定ノ限アルカ爲各種事業トノ按排上要存置國有林野ノ全部ニ對シテ施業案編成ノ計畫ヲ企テ難キ事情アリシニ由リ三十二年度ヨリ著手シ四十二年度迄十箇年間ニ經費二百三十五萬五千七百七十五圓ヲ以テ經濟上最優位ノ箇所二百一十一萬二千町歩ノ編成ヲ終了スルコトトセリ尙其ノ詳細ハ次ノ如シ

施業案編成計畫表

年度	編成面積	編成員數	編成經費	摘要
三三	八,000町	一六	五六,九八〇・一〇〇	一組ノ人員 技師一人 技手三人
三二	九六,000	三三	一〇九,八六四・三〇〇	派出日數 二百日內實地就業日數百二十三日
三一	一五〇,000	四六	一六二,七四八・六〇〇	功程 實地就業一日ニ付面積二十四町三反九畝少
三〇	一五〇,000	四六	一五八,六五二・四〇〇	平均一町當經費 壹圓拾壹錢五厘餘
二九	一九〇,000	六〇	二二五,三三三・六〇〇	
二八	二八〇,000	九六	三三三,四六六・九六〇	
二七	一九〇,000	六〇	二二五,三三三・六〇〇	
二六	二八〇,000	九六	三三三,四六六・九六〇	
二五	一九〇,000	六〇	二二五,三三三・六〇〇	
二四	二八〇,000	九六	三三三,四六六・九六〇	
二三	一九〇,000	六〇	二二五,三三三・六〇〇	
二二	二八〇,000	九六	三三三,四六六・九六〇	
二一	一九〇,000	六〇	二二五,三三三・六〇〇	
計	一,111,000	一,111	一,111,000	

以上ノ計畫ニ依リ著手シタレトモ實行上多少ノ修正ヲ必要トスルニ至リ同年七月他ノ諸事業ニ對スル計畫ト共ニ一部ノ變更ヲ試ムルニ及ヘリ其ノ内容及新舊兩計畫ノ比較次ノ如シ

舊計畫ト變更計畫トノ對照表

種別	舊計畫	新計畫	差引	増(減)
繼續年數	明治三十二年度ヨリ同四十一年マテ十ヶ年間	明治三十二年度ヨリ同四十一年マテ十ヶ年間		
編成面積	一,111,000町	一,111,000町		
經費	一,111,000,000円	一,111,000,000円		
編成員數	一,111,000名	一,111,000名		
一組ノ人員	技師一人 技手三人	技師一人 技手二人 雇員一人		技手(一) 雇員 一人
派出日數	一組一ヶ年度 派出日數二百日內實地就業日數百二十三日	一組一ヶ年度 派出日數二百日內實地就業日數百二十三日		
功程	一組實地就業一日ニ付二四町三九〇〇	一組實地就業一日ニ付二四町三九〇〇		
平均一町歩當經費	一,111,000,000 / 1,111,000 = 1,000円	一,111,000,000 / 1,111,000 = 1,000円		

即チ變更ノ要旨ハ一組ノ人員中技手三人ヲ二人ニ減シ雇員一人ヲ加ヘタルコトニシテ之カ爲特ニ功程ニ影響セシテ經費三十二萬圓餘ヲ節約シ得ル豫定トナレリ

施業案編成業務實行ノ成績ハ容易ニ計畫ト一致スルノ域ニ達セザリシモ其ノ後敢テ漫ニ計畫ノ變更ヲ試ミサリシカ年度ノ進ムニ從ヒ經營スヘキ各種ノ事業中既ニ計畫ノ數量ヲ完成シテ而モ尙施設ノ要急ヲ認ムルモノ





尙新舊兩計畫ノ比較ヲ示セハ次ノ如シ

種別	舊計畫		變更計畫		差引	増(減)
	自明治三十二年同四十年	自明治三十二年同四十年	自明治三十二年同四十年	自明治三十二年同四十年		
繼續年度	11,111,000	11,111,000	11,111,000	11,111,000		三ヶ年
編成面積	11,111,000	11,111,000	11,111,000	11,111,000		
編成組數	11,111,000	11,111,000	11,111,000	11,111,000		
平均一町歩經費	0.633	0.633	0.633	0.633		

即チ三十六年度マテ五ヶ年ヲ費シ編成ヲ了シタルモ僅ニ十八萬餘町歩ニ過キスシテ當初計畫ノ四十一年度マテニ殘餘ノ百九十三萬餘町歩ヲ調了スルコトノ困難ナルヲ認メ期間ヲ四十三年度マテ延長セルモノニシテ一方ニ簡易施業案編成ノ規程ヲ設ケテ功程ノ進捗ニ力メタル結果明治四十二年度マテニ二百十六萬町歩餘ノ編成ヲ了シ既ニ計畫ノ全數ヲ超過スルニ至リタルモ時勢ノ進運ニ伴ヒ經濟上不優位ナルノ理由ヲ以テ當初計畫ノ外ニ置キタル森林ニ對シテモ適當ナル施業案ヲ要求スルニ至リ其ノ他ノ事業ニ付テモ亦種々ナル事由ニ依リ共ニ計畫ヲ改ムルノ已ムヲ得サルニ至レリ由テ變更計畫ノ閣議ヲ仰クニ決シタルモ偶大浦農商務大臣ノ

歐洲視察ノ途ニ上ラムトスルニ會セシヲ以テ左ノ議案ヲ起シテ四十二年三月十九日豫メ大臣ノ決裁ヲ經タリ

國有林野特別經營事業計畫ニ關スル件

國有林野特別經營事業ハ明治三十二年度ヨリ明治四十七年度マテ十六ヶ年度ニ涉リ施行ノコトニ雖ニ閣議ヲ得テ夫々實行シ來ル四十三年度マテニ各種事業共豫定以上ノ數量ヲ終了スル都合ナルモ未立木地ノ植栽ヲ要スルモノ尙多數殘存シ加之不要存置林野ノ賣拂ヲ要スヘキモノ夥多ナルカ故ニ明治四十七年度マテニ右等ヲ完成センコト到底不可能事タリトス尤當初閣議ヲ得タル資金貳千參百貳萬貳千五百拾參圓ハ明治四十三年度ニ於テ殆ント支出シ盡スニ至ルヘキヲ以テ四十四年度豫算調製前ニハ右資金額以上ニ昇ル儀ニ付テハ早晚閣議ヲ得ル必要アリト信スルヲ以テ旁同時ニ明治五十二年度マテ引續キ本業施行方法稟請相成以テ林政上忽ニスヘカラサル序上ノ事業費及之ニ附帶スル諸費ヲ計上セントス尤資金トシテ收入スヘキ金額ハ當初ノ豫定額ニ比シ殆ント倍額ニ達スヘキ見込ナルニ付經費支出ノ上ニ何等ノ支障ナク就テ御不在中ト雖時宜ニ從ヒ以上ノ要旨ニ基キ閣議提出ノ手續相運ヒ可然哉

右豫メ御決裁ヲ請フ

而シテ本變更案ニ依ル施業案編成ノ計畫次ノ如シ

種別	期 間	面 積	經 費
計 畫	自三十二年同四十年	三、五三六、四三町	一、八六四、五七二円
既 済	自三十二年同四十年	二、七八八、六一	一、〇九六、二〇九
殘 存	自四十四年度ニケ年	八〇、八二三	二、八八三、三三

即チ三十七年ニ於ケル計畫ニ比シテ期間ヲ延長スルコト一ヶ年、面積ヲ増加スルコト一、四二四、四二二町歩經費ヲ減スルコト六六三、一〇七圓ナリシモ本計畫ハ閣議ニ附スルノ必要ナキモノト決シ之ヲ提出スルニ至ラスシテ止ミタリ明治四十五年ニ至リ特別經營事業施行ノ期間タル四十七年度迄ニハ餘ス所僅ニ二ヶ年ニ過キサルニ不要存置林野ノ賣拂ヲ爲スヘキモノ尙二十八萬餘町歩ニ上リ到底豫定ノ年限ヲ以テ處分シ能ハサ



當セサル限リハ給與ノ繼續ヲ要シ其ノ結果豫定ノ經費ヲ以テ豫定ノ人員ヲ養成スルコト能ハサルヲ以テ三十  
六年九月十四日左ノ一條ヲ追加シテ之ヲ東京帝國大學總長ニ通知シ各給費生ニ傳達方ヲ依頼セリ

第五條ノ一 給費ヲ受クル學生生徒ニシテ學年試驗ニ合格セサルトキハ其給費ヲ停止スヘシ  
前項ニ依リ給費ヲ停止セラレタル者次期ノ學年試驗ニ合格シタルトキハ其給費ヲ停止スヘシ

是ヨリ先同年六月學生養成ノ最終年度タル明治二十七年迄ニテハ尙必要ナル專門技術者ヲ得ルコト能ハサル  
ヲ認メ三十六年度以降三ヶ年間給費學生ノ募集ヲ繼續スルノ議ヲ決シタレトモ當時林學ニ志スモノ漸ク多ク  
敢テ給費ノ方法ニ依ラサルモ續々多數ノ卒業生ヲ出スニ至リシヲ以テ當初計畫ノ如ク三十七年度ヲ以テ終結  
スルコトトセリ今其ノ年度別養成員數ヲ舉クレハ左ノ如シ

年度	給費學生數	同上卒業生數	給費生徒數	同上卒業生數	經費	摘要
三三	七		七		一、八〇六、〇〇〇	
三四	一一		一七		四、二七〇、四四五	
三五	一六	六	二七	四	五、四一七、六六〇	
三六	一四	五	二三	一〇	五、三三九、四一三	
三七	一四	四	三一	一〇	五、四一〇、一五四	
計	六三	一五	一一五	二四	二二、二四三、六七二	

是ヨリ先政府ハ農科大學卒業生及實科卒業生ヲ採用シテ實務ニ當ラシメムトシタレトモ俄ニ多數ノ員數ヲ得  
ルコト能ハサルヲ以テ之ヲ補フ爲主トシテ中學卒業生又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノヲ講習生トシ  
測量、森林經理其ノ他林業ニ關スル學理及實務ヲ練習セシムルノ計畫ヲ立テ明治三十三年十月十二日ヨリ講

習ヲ開始スルニ至リ三十七年度迄ニ林業科ノ卒業生百七十一名ヲ得始メテ豫定業務ノ實行上支障ヲ見サルニ  
至レリ

(ハ) 施業案編成ニ關スル法規

施業案編成ニ關スル業務ハ從來明治二十四年農商務省訓令等十七號ニ依ル施業案編成心得及圖簿様式ニ從ヒ  
實行シ來リタルモ同三十二年特別經營事業ノ開始ト共ニ適當ナル技術者ヲシテ專ラ本業務ニ從事セシムルヲ  
得ルコトトナリタルヲ以テ更ニ精細ナル規程ヲ設ケテ完全ナル圖簿ヲ調製スルヲ必要トシ同三十二年九月九  
日農商務省訓令第四十二號ヲ以テ國有林施業案編成規程ヲ發布セリ本規程ハ施業案編成ノ目的及順序ヲ始メ  
トシ森林區劃、森林調査、收穫豫定、造林豫定施業案說明書ノ調製及附屬諸表ノ調製並進達ノ手續等ヲ定メ  
タルモノニシテ當時ニ於ケル國有林ノ實況ニ照シテ考フレハ寧ロ精細ニ過キタル觀ナクンハアラス而シテ二  
十四年ノ訓令ニ依リ編成シタル施業案ト本規程トノ連絡ニ關シテ同年九月林野整理局長及山林局長ヨリ各整  
理支局長及各大林區署長ニ對シテ左記通牒ヲ發シ以テ本業務ノ圓滑ナル進捗ヲ圖レリ

國有林施業案編成規程 (明治三十二年九月九日訓令第四十二號) 林區署 林野整理支局

第一章

- 第一條 國有林ノ施業案ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ編成スヘシ但保安林施業案ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二條 施業案トハ森林施業ノ方式トナルヘキ各種ノ案、簿及表ヲ謂フ
- 第三條 施業案ハ森林ヲ法正ナル狀態ニ導キ其ノ利用ノ永遠ニ保續スルノ目的ヲ以テ編成スヘシ
- 第四條 施業案ハ境界測量ヲ完了シ施業上必要ノ箇所ニシテ獨立ノ事業區ヲ設クルニ足ルヘキモノニ付キ編成スヘシ
- 第五條 施業案ノ編成ハ左ノ順序ニ依ル
- 一 森林區劃